

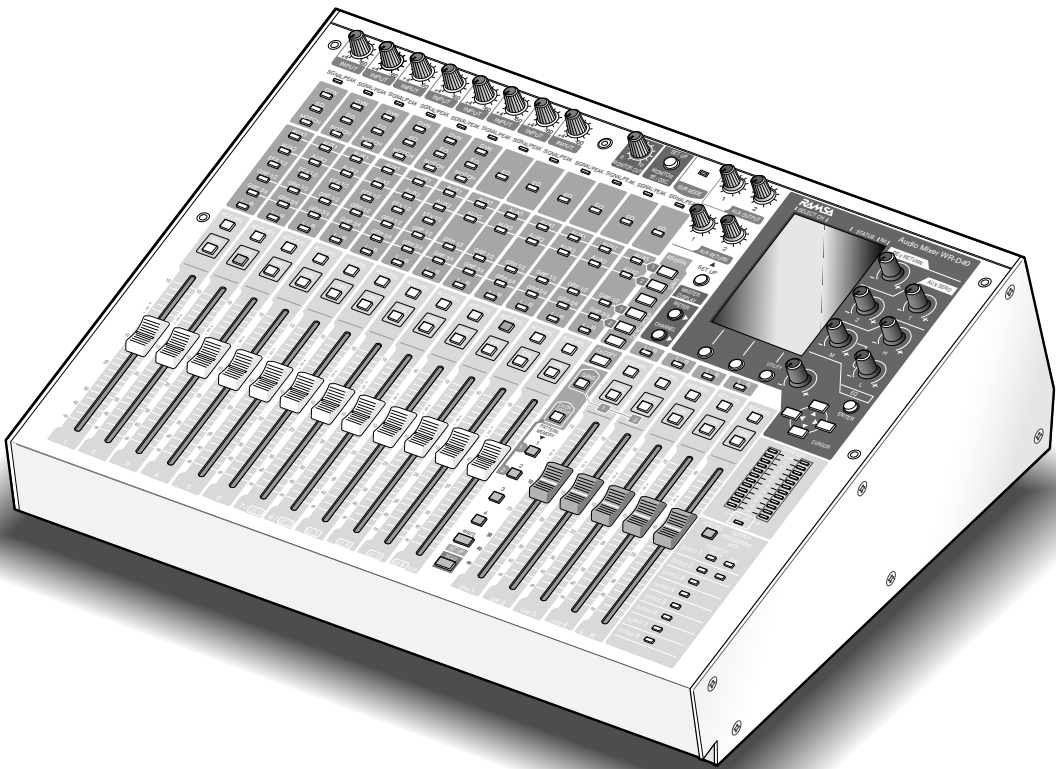
取扱説明書

工事説明付き

オーディオミキサー

品番 **WR-D01**

RAMSA



上手に使って上手に節電

保証書別添付

- このたびは、オーディオミキサーをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」(8~9ページ)はご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。お読みになったあとは保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
 - 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

はじめに

商品概要

本機はミキサーに各種エフェクターやアウトプロセッサーを1台に集約した、20入力・11バス・8出力のデジタルミキシングコンソールです。
リモートコントロール機能も充実させており、宴会場やプレゼンテーションルームなど幅広い用途に対応できます。

主な特長

入力

- モノラル／ステレオ・デュアルモジュールを2チャンネル装備し、システム構成に応じて6モノラル+6ステレオ構成と8モノラル+4ステレオ構成を選択できます。
- ハウリングを自動抑制するダイナミックノッチを4基搭載し、MONO1～6の任意のチャンネルで使用できます。
- MONO5、6の2チャンネルにオートマイクレベルコントローラーを搭載。
話者の違いや話者からマイクまでの距離の変化による音量差を自動的に補正し、明瞭度の高いスピーチ拡声を実現します。
- DVDプレーヤーやデジタルTVなどの5.1チャンネルサラウンド音声入力に対応。
入力した5.1チャンネルサラウンド音声は、1本のフェーダーで操作することができます。
- ステレオAUXリターンを2系統搭載。
インプットチャンネルをつぶすことなく外部エフェクターからのリターンが可能です。

バス

- GRPバス×4、AUXバス×2、EFXバス×1、LRバス、ステレオPFL／AFLバスの11バス構成。
GRPバスはAUXバスに切り換え可能で、「8バスダイレクトマトリクスミキサー」として最大8ゾーン拡声に対応できます。また、EFXバスには、デジタルリバーブを1系統内蔵しています。

出力

- 全出力チャンネルに、ディレイ・3バンドパラメトリックイコライザー・5バンドプリノッチを搭載。
プリノッチはパラメトリックイコライザーに変更でき、8バンドのパラメトリックイコライザーとして使用することもできます。また、メイン出力には、過大出力からスピーカーを保護するゼロアタックのデジタルコンプレッサーを搭載しています。
- 各種設定や入力系統をパターンメモリーで切り換えることで、間仕切り変更・ステージ変更などの運営をスムーズにサポートします。

使いやすいパネルレイアウト・便利な機能

- 直感的な操作が可能な無階層フェーダーと、機能・信号系統が一目でわかるパネルレイアウト。
- 複数のフェーダーを1つのフェーダーでまとめて操作できるフェーダーギャングマスター機能を2系統搭載。さらに2ミュートグループ、8パターンメモリー機能も搭載。

外部インターフェース

- 無電圧メーク接点制御方式の入力8系統・出力7系統、電圧制御入力の4系統を備えたリモートI/O端子を搭載。パターンメモリーの変更や音量制御をはじめとする各種制御を、本機から離れたところで行うことができます。
- RS-422準拠のシリアル制御インターフェースを搭載し、タッチパネルからのコントロールや、本機を複数リンクさせての運用に対応します。

付属品をご確認ください

取扱説明書（本書）.....	1冊
保証書.....	1式
ACケーブル.....	1本
接続機器表示ラベル.....	1枚

商標および登録商標

- Microsoft、Windows、Windows NTは、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- その他、本文中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

本書について

本機の動作モードは、ユーザーモードとアドミニストレーターモードがあります。工場出荷時はアドミニストレーターモードに設定されています。動作モードの切り換え方法については127ページをお読みください。アドミニストレーターモードで操作する必要がある機能には以下のマークを付けて表示しています。

動作モード
ADMIN

免責について

弊社は、いかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。

- ① 本製品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
- ② お客様の故意や誤使用、不注意による損害、または本製品や本製品に接続された機器の損傷等
- ③ お客様による本製品の分解・修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかに関わらず発生した一切の故障または不具合
- ④ 本製品の故障・不具合を含むの何らかの理由または原因により、本製品が使用できないまたはできないことによる不便または損害
- ⑤ 第三者の機器等と組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害

もくじ

はじめに

商品概要	2
主な特長	2
付属品をお確かめください	3
商標および登録商標	3
本書について	3
免責について	3
安全上のご注意.....	8
取り扱い上のお願い.....	10
各部の名前とはたらき	11
前面（操作パネル）	11
誤操作防止用カバー固定ねじ	11
インプット部	12
ASSIGN部	13
出力フェーダー部	14
OUTPUT PROCESSOR部	14
EQ/SEND/REV操作部	15
MONITOR/TB/OSC部	15
AUX部	16
液晶画面/操作キー	16
後面	17
電源部	17
音声入力部	18
音声出力部	19
制御端子部	20
スロット部	20
画面	21
画面遷移	21
本機で使用する画面一覧	23
画面の基本構成	26

基本的な使いかた	27
電源の入れかた	28
電源の切りかた	28
画面の基本操作	29
目的の画面を表示する	29
カーソルの移動	29
ボタンについて	30
数値の変更	30
操作の流れ	31
入力レベルを調節する	31
バスに信号を送出する	32
音を出す	33
本機の入出力に関する操作	34
サラウンド入力を使う	34
補助入出力、エフェクト出力を使う (AUX、EFX)	35
AUXバスから音声を出力する	36
EFXバスから音声を出力する	37
エフェクターからの戻りを処理する	38
拡張カード入出力を使う (SLOT)	38
トークバックマイクを使う (TB)	39
オシレーター信号を出力する (OSC)	41
REC信号を出力する (REC OUT)	42
音声信号を確認する	43
レベルメーターでレベルを確認する (METER)	43
実際に音を出して確認する (MONITOR)	45
音を加工する	47
イコライザーを使う (EQ)	47
ダイナミクスを使う (DYN)	48
ハウリングを抑制する (NOTCH)	50
リバーブを使う (REVERB、REV)	51
アウトプットプロセッサを使う	52
その他の機能	54
ギャンググループを使う (GANG)	54

ミュートグループを使う (MUTE GROUP)	57
設定情報を他のチャンネルにコピーする (CH COPY)	59
パターンメモリーを活用する (PATTERN MEMORY、PTN)	60
ライブラリを活用する (EQ LIB、DYN LIB)	61
本機を外部から制御する	62
RS-422を使用した外部制御	62
REMOTE端子を使用した外部制御	63

画面説明

画面説明	65
METER画面	65
METER-INPUT画面	65
METER-BUS画面	66
METER-OUT/SLOT画面	67
CHANNEL画面	68
CHANNEL-MONO IN画面	69
CHANNEL-ST IN画面	71
CHANNEL-SUR IN画面	74
CHANNEL-LR画面	75
CHANNEL-GRP画面	76
CHANNEL-OUTPUT画面	77
EQ画面	80
DYN画面	83
NOTCH画面	86
D-NOTCH画面	86
P-NOTCH画面	88
REVERB画面	91
MONITOR画面	93
AUX/EFX画面	96
PTN R/W画面	97
EQ LIB画面	101
DYN LIB画面	102
UTILITY画面	103

工事

設置上のお願い	120
ケーブルについて	121
接続例	122
会議室／講堂で使用する場合（基本接続例）	122
AVホールで使用する場合（サラウンド入力例）	123
宴会場で使用する場合（間仕切り変更に対応した複数台使用の場合）.....	124
カードの増設について	125
設置のしかた	126
取り付け時の注意事項	126
ラック取付金具について	126
ラックについて	126
機器の内部設定	127
ユーザーモードとアドミニストレーターモード	127
ステレオ1・2／モノラル7・8のチャンネル切り換え	128
ステレオ6／サラウンドのチャンネル切り換え	129
設定データのバックアップ	130
設置後の確認	131
接続機器ラベルについて	131

その他

メッセージ一覧	132
用語集	133
故障かな?!	140
索引	142
仕様	150
工場出荷時設定一覧	150
系統図	155
ブロックダイヤグラム	156
RS-422端子の仕様	157
REMOTE端子の仕様	158
製品仕様	158
外観図	162
保証とアフターサービス	167

安全上のご注意

必ずお守りください

はじめに

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です。）



この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

警告

工事は販売店に依頼する



工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因になります。

- 必ず販売店にご依頼ください。

異常があるときは、すぐ使用をやめる



煙が出る、臭いがするなど、そのまま使用すると火災の原因になります。

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

分解しない、改造しない



火災や感電の原因になります。

分解禁止

- 修理や点検は、販売店にご依頼ください。

機器の上に水などの入った容器を置かない



水などが中に入った場合、火災や感電の原因になります。

水ぬれ禁止

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

異物を入れない



禁止

水や金属が内部に入ると、火災や感電の原因になります。

不安定な場所に置かない



禁止

落下によるけがの原因になります。

雷のときは工事・配線をしない



禁止

火災や感電の原因になります。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない



ぬれ手禁止

感電の原因になります。

⚠ 警告

電源コード・電源プラグを破損するよう なことはしない

傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたりしない



禁止

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

- コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

- 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないでください。

アースを確実に取り付ける



本機の電源プラグはアース端子付き2芯プラグです。アースは確実に行ってご使用ください。アースを取り付けないと、故障や漏電のときに、感電するおそれがあります。

- アース工事は販売店にご相談ください。(アース工事費は、本製品の価格には含まれていません)

電源プラグのほこりなどは定期的にとる



プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

コンセントや配線器具の定格を超える使 い方や、交流100 V以外での使用はし ない



禁止

たこ足配線などで、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

⚠ 注意

通風孔をふさがない



禁止

内部に熱がこもり、火災や故障の原因になります。

振動や強い衝撃を与えない



禁止

火災や感電、故障の原因になります。

湿気やほこりの多い場所に 設置しない



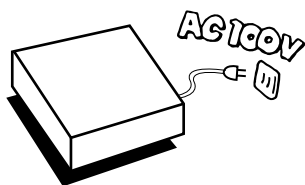
禁止

火災や感電、故障の原因になります。

取り扱い上のお願ひ

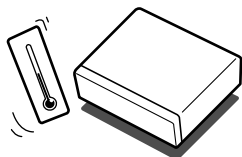
使用電源は

AC100 Vです。
消費電力の大きな機器（コピー機、空調機器など）と同じコンセントから電源をとらないでください。



使用温度範囲は

0℃～+40℃です。
この温度範囲以外で使用すると内部の部品に悪影響を与えたり、誤動作の原因となることがあります。



直射日光の当たる場所や高温下では使用しないでください

本機は屋内専用です

屋外での使用や水のかかる場所では使用しないでください。

電源スイッチについて

電源スイッチを「OFF」にしても、電源からは遮断されません。電源を遮断する場合、ACコンセントから本機の電源プラグを抜くか、電源制御ユニット使用時は電源制御ユニットの電源を切ってください。

電源について

電源コードは、必ず遮断装置を介した次のいずれかの方法で接続してください。

- (1) 電源制御ユニットを介して接続する。
- (2) 電源コンセントの近くに設置し、遮断装置（電源プラグ）を介して接続する。
- (3) 3.0 mm以上の接点距離を有する分電盤のブレーカーに接続する。ブレーカーは、保護アース導体を除く主電源のすべての極が遮断できるものを使用すること。

電源スイッチをON/OFFするときは

- アンプの電源を切ってから行ってください。クリックノイズが発生し、スピーカーを破損する恐れがあります。

フェーダー、チャンネルスイッチを入れたまま、コネクターの抜き差しをしない

- クリックノイズが発生し、スピーカーの破損が生じる場合があります。抜き差しは、必ずフェーダー、チャンネルスイッチまたはアンプを切ってから行ってください。

+48 Vスイッチ（ファンタム電源）について

- CDプレーヤー、エフェクト機器などのマイク以外の機器やアンバランスタイプのマイクを使用する場合は、必ず+48 Vスイッチを切ってください。故障の原因となるおそれがあります。
- 外部電源使用のコンデンサマイクの抜き差しは、フェーダーを下げ、ONキーと+48 Vスイッチを切り、1分以上経過してから行ってください。マイク、ミキサーに破損や故障の生じるおそれがあります。
- +48 Vスイッチの操作時や操作後に、ノイズが発生する場合があります。必ず、フェーダーを下げ、ONキーを切った上で+48 Vスイッチを操作してください。また+48 Vスイッチの操作後、1分間はフェーダー、ONキーを操作しないでください。

端子の極性について

本機背面にあるXLR端子は、IEC60268規格に基づいています。ピン配置は以下のとおりです。

1：GND、2：HOT、3：COLD

ご使用の際は

トランシーバー、トランス、調光器、CRTモニターなどからできるだけ離してご使用ください。誘導ノイズを受ける恐れがあります。

ていねいにお取り扱いください

落下させたり、強い衝撃や振動を与えたりすると、故障や事故の原因になります。

アースについて

必ずアース端子から大地にアースをとってください。アースをしないと発振したり、故障の原因となる場合があります。

お手入れについて

電源を切り、乾いた柔らかい布でふいてください。ほこりが取れにくいときは、水で薄めた台所用洗剤を柔らかい布にしみこませ、固く絞ってから軽くふいてください。そのあと、乾いた柔らかい布で、洗剤成分を完全にふき取ってください。シンナーやベンジンなど、揮発性のものは使用しないでください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

長期間使用しない場合は

機能に支障をきたす場合がありますので、ときどき電源を入れて動作させてください。

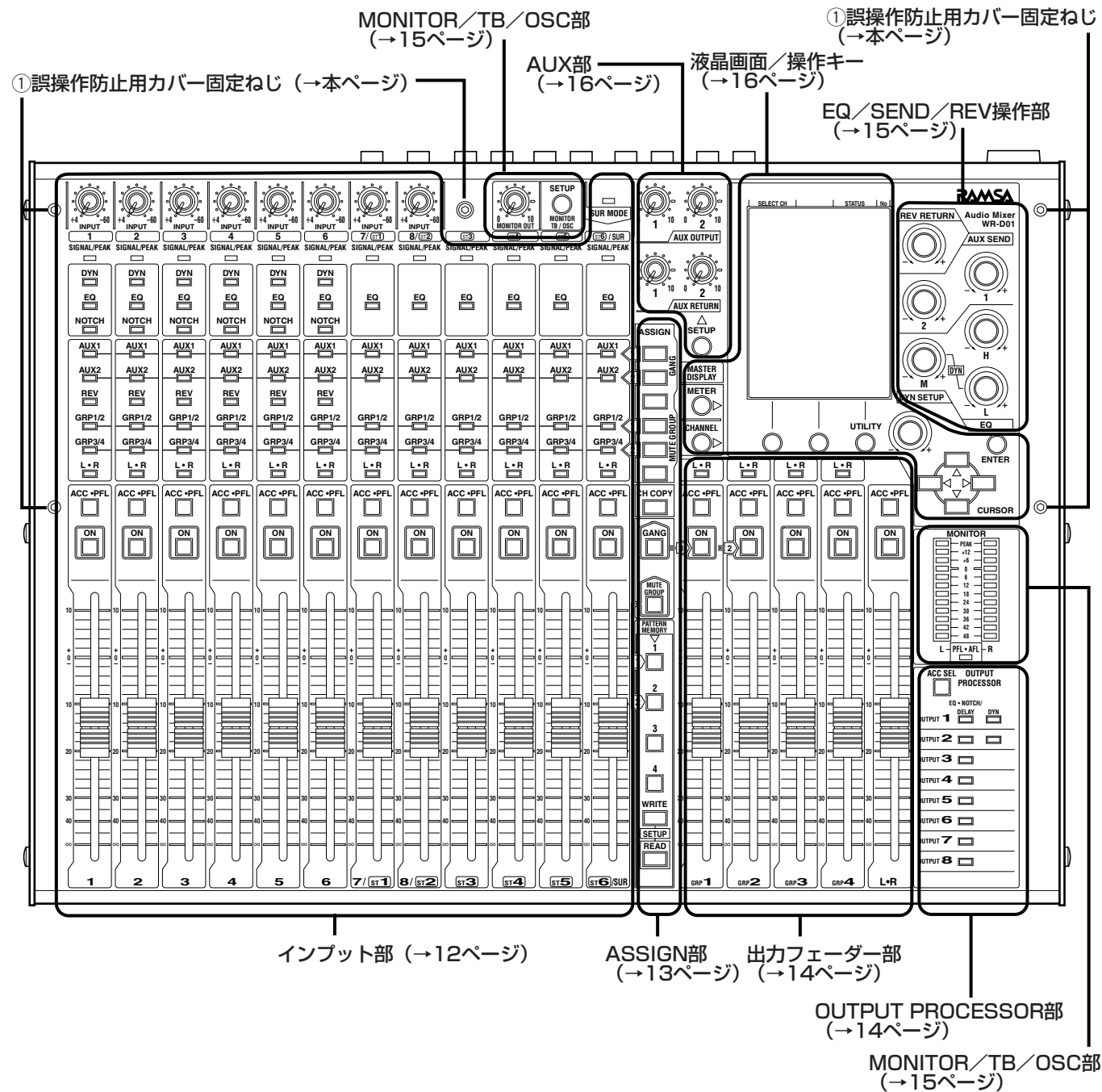
表示について

本機の識別および電源、その他の表示は機器後面の記載をお読みください。

各部の名前とはたらき

前面（操作パネル）

※ランプの明るさをUTILITY画面で調節できます。(UTILITY画面No.102→117ページ)



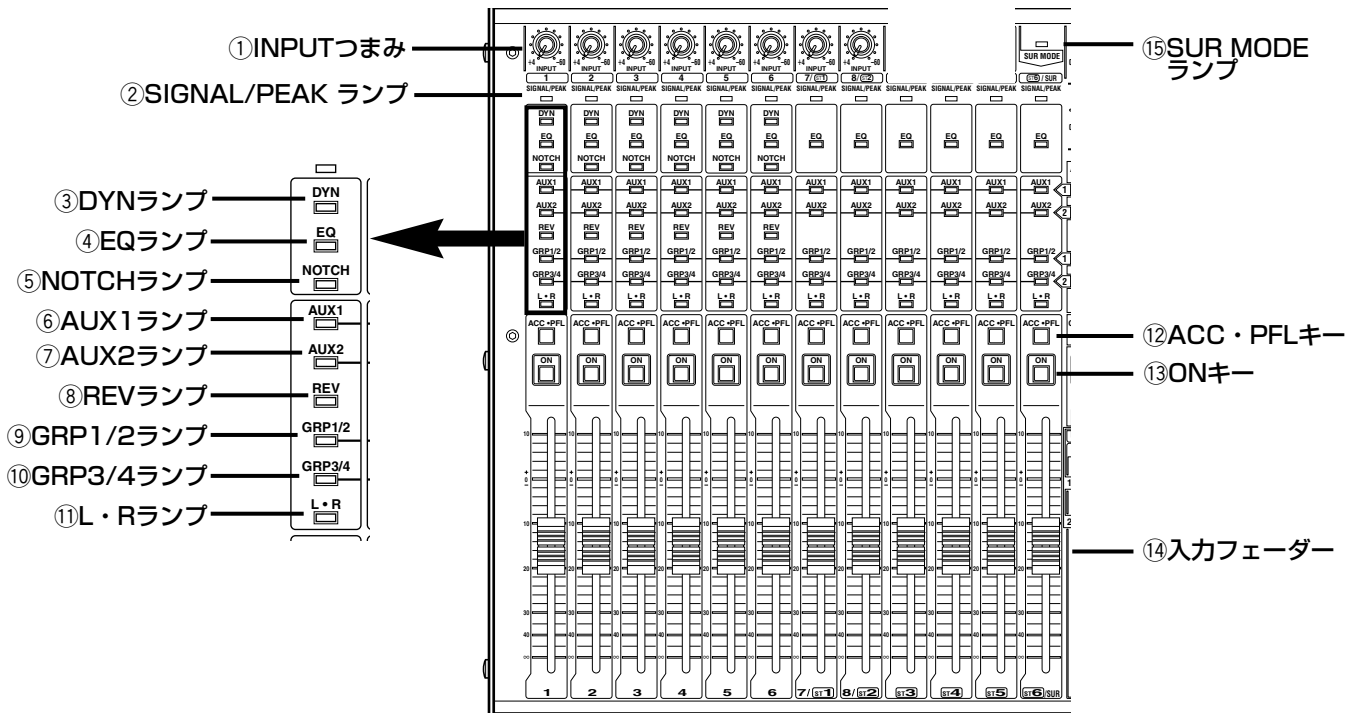
①誤操作防止用カバー固定ねじ

入力レベルや各種調整の完了後、誤操作防止用パネル（本機には付属していません）を取り付けるときに使います。

ねじは合計で5か所あります。位置は、上図を参照してください。

各部の名前とはたらき (つづき)

インプット部



①INPUTつまみ

入力レベルを調節します。(調節範囲: +4 dBu~-60 dBu)

補足

MON07/ST1とMON08/ST2のインプットつまみは、モノラル入力として使用する場合があります。

②SIGNAL/PEAKランプ

音声の入力レベルをランプの色で表示します。

消灯: 入力なし、 緑・橙: 定格入力、 赤: 過大入力

③DYNランプ

ダイナミクス状態を表示します。ダイナミクスが設定されているときは緑、かつ動作中は赤に点灯します。

ダイナミクスの使いかた→48ページ

④EQランプ

イコライザーが設定されているとき点灯します。

イコライザーの使いかた→47ページ

⑤NOTCHランプ

ダイナミックノッチが設定されているとき点灯します。

ダイナミックノッチの使いかた→50ページ

⑥AUX1ランプ、⑦AUX2ランプ

AUXバス(AUX 1またはAUX 2バス)へ送出されているとき点灯します。GANGキーが点滅しているときは、ギャンググループへの登録状態を表示します(点滅:登録)。

バスへの送出方法→32ページ
ギャンググループの使いかた→54ページ

⑧REVランプ

リバーブが設定されているとき点灯します。

リバーブの使いかた→51ページ

⑨GRP1/2ランプ

グループバス1~4への送出状態を表示します。

消灯: 未送出、

緑: 奇数チャンネルへ送出、

赤: 偶数チャンネルへ送出、

橙: 両チャンネルへ送出

MUTE GROUPランプが点滅しているときはミュートグループへの登録状態を表示します(点滅:登録)。

バスへの送出方法→32ページ
ミュートグループの使いかた→57ページ

⑩L・Rランプ

メインLRバスへ送出されているとき点灯します。

バスへの送出方法→32ページ

⑫ACC・PFLキー

操作するチャンネルを選択します。このキーが点灯(選択)しているチャンネルに対し、各種操作を行うことができます。

長めに押す(0.5秒以上)とキーが点滅し、そのチャンネルのPFL音声をモニターできます。

モニターの使いかた→45ページ

⑬ONキー

入力チャンネルの音声出力をON(点灯)またはOFF(消灯)にします。

点滅している場合はフェーダー操作が無効状態を示しています。「故障かな!?'の「ONキーが点滅している」(→141ページ)をお読みください。

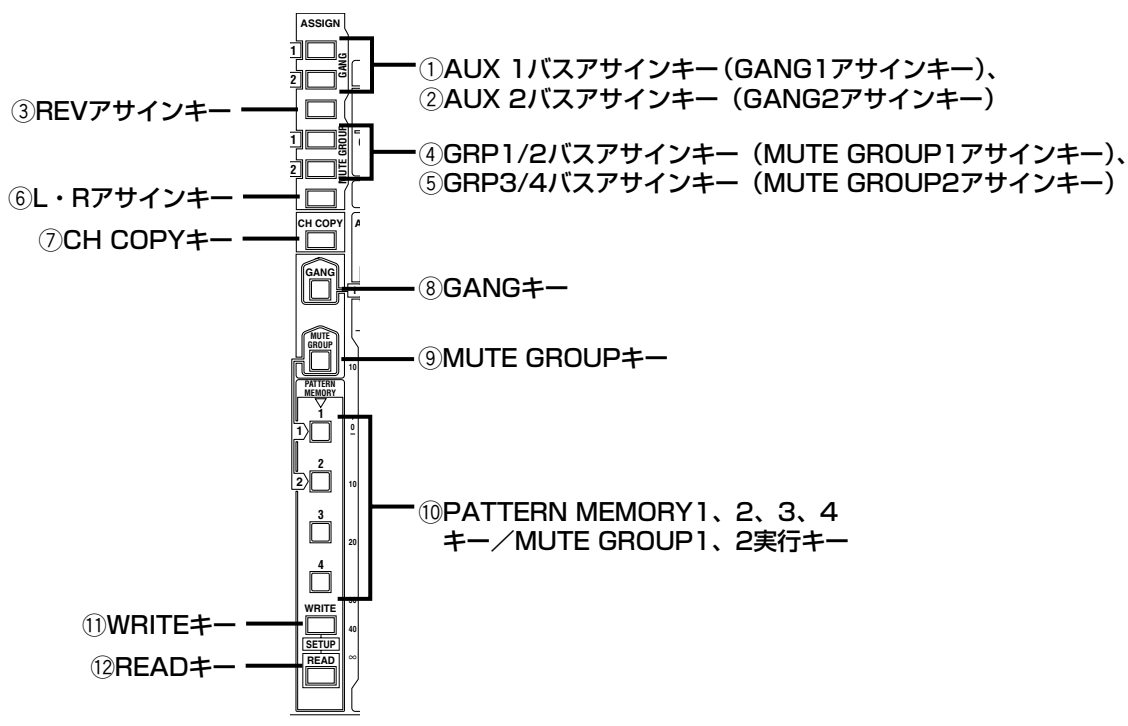
⑭入力フェーダー

チャンネルの主音量を調整します。調節範囲: -∞、-90 dB~+10 dB

⑮SUR MODEランプ

サラウンド入力に設定されているとき点灯します。

サラウンド入力の設定方法→34ページ



ASSIGN部

①AUX1バスアサインキー (GANG1アサインキー)

②AUX2バスアサインキー (GANG2アサインキー)

選択した入力チャンネルの音声をAUXバスに送出するとき、またはそのチャンネルをギャンググループに登録するときに使います。AUXバスへの送出方法→36ページ
ギャンググループの使いかた→54ページ

③REVアサインキー

選択したモノラル入力チャンネル(7、8を除く)の音声を内蔵リバーブに送出するときに使います。リバーブの使いかた→51ページ

④GRP1/2バスアサインキー (MUTE GROUP1アサインキー)

⑤GRP3/4バスアサインキー (MUTE GROUP2アサインキー)

選択した入力チャンネルの音声をグループバスに送出するとき、またはミュートグループに登録するときに使います。バスへの送出方法→32ページ

ミュートグループの使いかた→57ページ

⑥L・Rアサインキー

選択した入力チャンネル、グループバスの音声をLRバスに送出するときに使います。バスへの送出方法→32ページ

⑦CH COPYキー

チャンネルの設定(バスへの送出状況やイコライザーの設定など)を他のチャンネルにコピーするときに使います。チャンネルのコピーのしかた→59ページ

⑧GANGキー

ギャンググループの実行や登録/解除を行うときに使います。ギャンググループ実行中はこのキーが点灯し、登録中は点滅します。ギャンググループの使いかた→54ページ

⑨MUTE GROUPキー

ミュートグループの実行や登録/解除を行うときに使います。ミュートグループ実行中はこのキーが点灯し、登録中は点滅します。

ミュートグループの使いかた→57ページ

⑩PATTERN MEMORY1、2、3、4キー/MUTE GROUP1、2実行キー

パターンメモリーへの登録、呼び出しを行うときに使います。登録、呼び出しが完了すると本キーが点灯します。MUTE GROUPキーが点灯しているときは、ミュートグループの実行に使います。点灯しているミュートグループがミュート動作中です。

パターンメモリーの使いかた→60ページ

ミュートグループの使いかた→57ページ

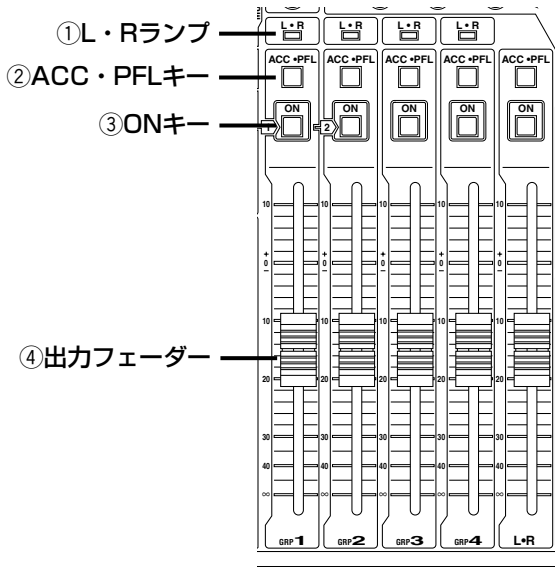
⑪WRITEキー

現在の設定をパターンメモリーに登録するときに使います。パターンメモリーの使いかた→60ページ

⑫READキー

登録したパターンメモリーを呼び出すときに使います。パターンメモリーの使いかた→60ページ

各部の名前とはたらき (つづき)



出力フェーダー部

① L・Rランプ

グループ1~4バスからLRバスへ送出されているとき点灯します。
バスへの送出方法→32ページ

② ACC・PFLキー

操作するチャンネルを選択します。このキーが点灯（選択）しているチャンネルに対し、各種操作を行うことができます。
長めに押す（0.5秒以上）とキーが点滅し、そのチャンネルのPFL音声をモニターできます。
モニターの使いかた→45ページ

③ ONキー

出力チャンネルの音声出力をON（点灯）またはOFF（消灯）にします。

GANGキーと組み合わせてギャンググループ（1または2）のONスイッチとしても使用します。

ギャンググループの使いかた→54ページ

点滅している場合はフェーダー操作が無効状態を示しています。

「故障かな!?’の「ONキーが点滅している」(→141ページ)をお読みください。

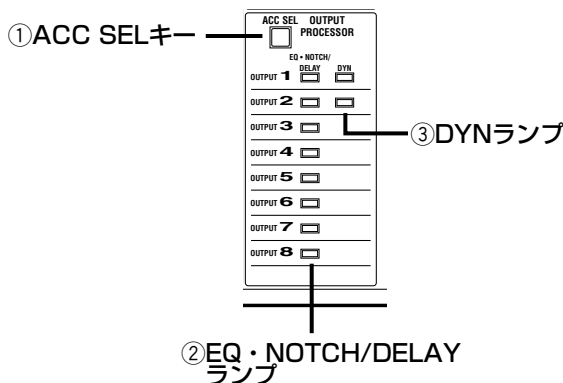
④ 出力フェーダー

チャンネルの主音量を調整します。(-∞、-90 dB~+10 dB)

GANGキーが点灯しているときはギャンググループ（1または2）のマスターフェーダーとして使用します。

ギャンググループの使いかた→54ページ

OUTPUT PROCESSOR部



① ACC SELキー

アウトプットプロセッサのチャンネルを選択します。このキーが点灯しているときは、OUTPUT1~8のいずれかのチャンネルが選択され、操作可能な状態になっています。

アウトプットプロセッサの設定→52ページ

② EQ・NOTCH/DELAYランプ

イコライザー／プリノッチとディレイの設定状態を表示します。

消灯：共に未設定、 緑：イコライザー／プリノッチを設定、 赤：ディレイを設定、 橙：両方を設定

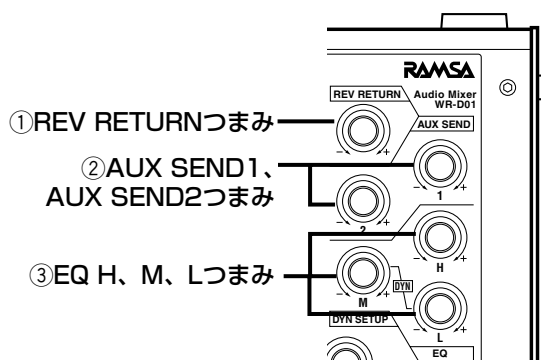
アウトプットプロセッサの設定→52ページ

③ DYNランプ

アウトプットプロセッサ1chおよび2chに搭載されているダイナミクス（コンプレッサー）の状態を表示します。ダイナミクスが設定されているときは緑に、かつ動作中は赤に点灯します。

ダイナミクスの使いかた→48ページ

EQ/SEND/REV操作部



①REV RETURNつまみ

内蔵リバーブの効果の深さを調節します。

調節範囲： $-\infty$ 、 -90 dB \sim $+10$ dB

リバーブの使いかた→51ページ

②AUX SEND1、AUX SEND2つまみ

AUXバス（1または2）に音声を送出するときのレベルを調節します。

調節範囲： $-\infty$ 、 -90 dB \sim $+10$ dB

AUXバスの使用方法→35ページ

③EQ H、M、Lつまみ

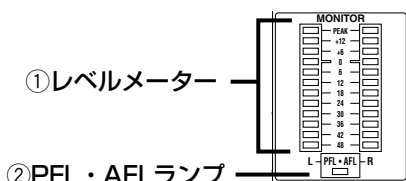
選択したチャンネルのH（高域）、M（中域）、L（低域）の音量を調節します。押しながら回すと、各つまみで調節する周波数帯を調節できます。

イコライザーの使いかた→47ページ

補足

対象となるチャンネルや液晶の状態により調節できる機能が変わります。詳しくは各機能の解説をお読みください。

MONITOR/TB/OSC部



①レベルメーター

①レベルメーター

現在モニター中の音声のレベルが表示されます。

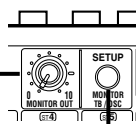
②PFL・AFLランプ

②PFL・AFLランプ

PFL（AFL）の音声をモニターしている場合、点滅します。

モニターの使いかた→45ページ

③MONITOR OUTつまみ



③MONITOR OUTつまみ

MONITOR OUT端子およびPHONES端子から出力されている音声の出力レベルを調節します。

調節範囲： $-\infty$ 、 -90 dB \sim $+10$ dB

モニターの使いかた→45ページ

④SETUPキー

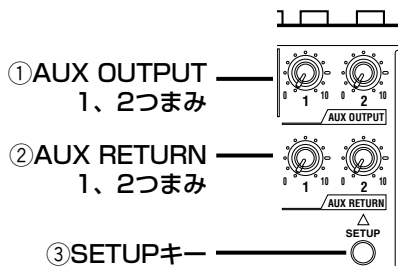
④SETUPキー

液晶にMONITOR画面を表示します。MONITOR画面で、モニターするチャンネルの選択や、トークバック、オシレーターに関する設定を行うことができます。

MONITOR画面の詳細→93ページ

各部の名前とはたらき (つづき)

AUX部



①AUX OUTPUT 1、2つまみ

AUX1/2バスの出力レベルを調節します。

調節範囲：-∞、-90 dB～+10 dB

AUX OUTPUTの使用方法→36ページ

②AUX RETURN 1、2つまみ

AUX RETURN1/2端子からの入力レベルを調節します。

調節範囲：-∞、-90 dB～+10 dB

AUX RETURNの使用方法→38ページ

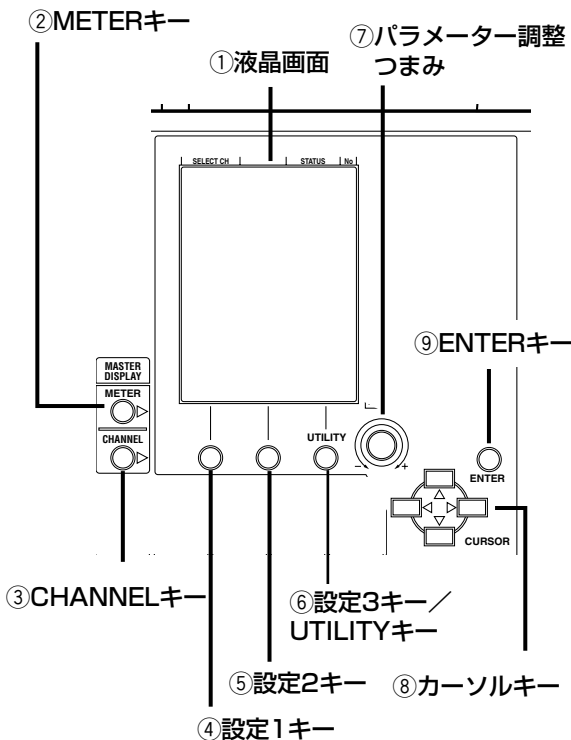
③SETUPキー

このキーを押すと、液晶にAUX/EFX画面が表示されます。

AUX/EFX画面で、AUXバス、EFXバス、AUX RETURNに関する設定を行うことができます。

AUX/EFX画面の詳細→96ページ

液晶画面/操作キー



①液晶画面

各キーを操作することによってレベルメーターや各種設定画面を表示できます。コントラストやバックライトの明るさを調節可能です。(UTILITY画面No.102→117ページ)

②METERキー

このキーを押すと、液晶にMETER画面が表示されます。

METER画面の詳細→65ページ

③CHANNELキー

このキーを押すと、液晶にACC・PFLキーで選択したチャンネルの設定画面 (CHANNEL画面) が表示されます。

CHANNEL画面の詳細→68ページ

④設定1キー、⑤設定2キー

液晶に表示される各種設定画面のパラメーターを変更するときに使います。

⑥設定3キー/UTILITYキー

設定1キー、設定2キーと同様に、液晶に表示される各種設定画面のパラメーターを変更するときに使います。

2秒以上押し続けるとUTILITY画面が表示されます。

UTILITY画面の詳細→103ページ

⑦パラメーター調整つまみ

各種設定画面のパラメーターを変更するときに使います。

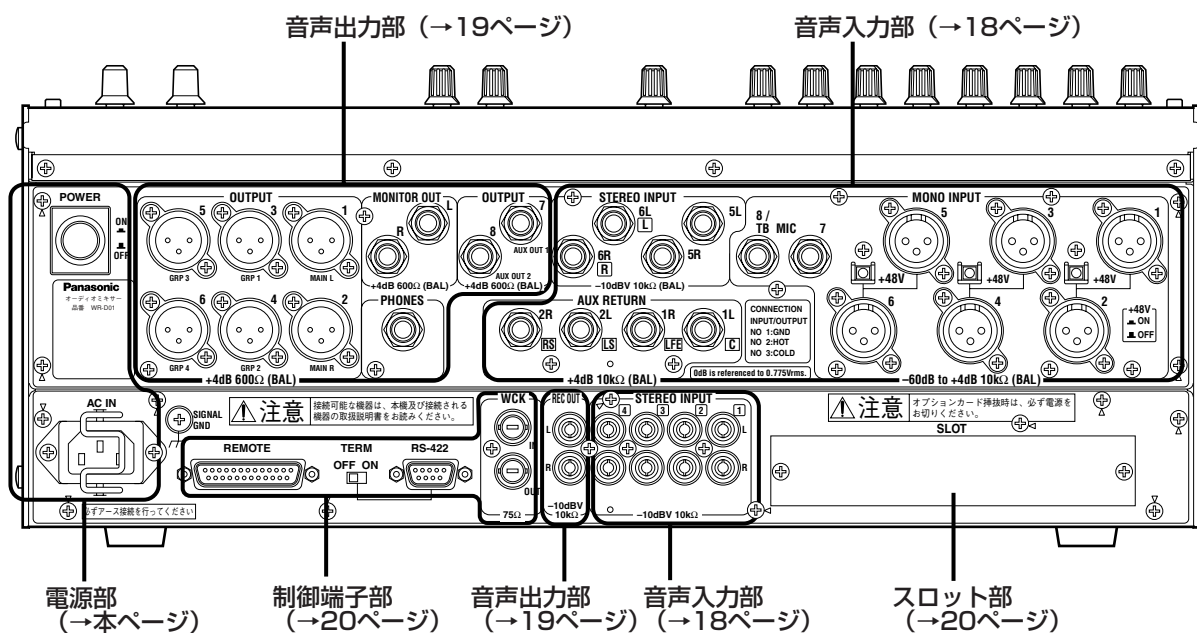
⑧カーソルキー (上、下、左、右)

各種設定画面でカーソルを移動するときに使います。

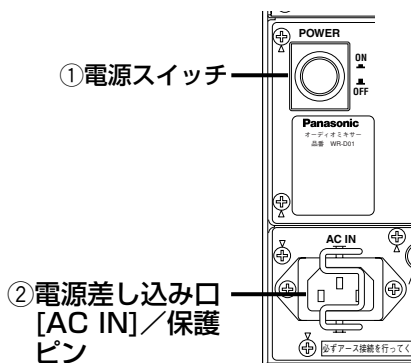
⑨ENTERキー

各種設定画面で設定項目を確定するときに使います。

後面



電源部



①電源スイッチ[POWER ON/OFF]

本機の電源をON/OFFします。
電源スイッチを「OFF」にしても、電源からは遮断されません。
電源を遮断する場合、ACコンセントから本機の電源プラグを抜くか、電源制御ユニット使用時は電源制御ユニットの電源を切ってください。
電源の入れかた、切りかた→28ページ

②電源差し込み口[AC IN]/保護ピン

付属の電源コードを差し込みます。差し込んだら、コードが外れないように保護ピンで固定してください。
電源コードの電源プラグはAC100 V 50 Hz/60 Hzの電源コンセントに差し込んでください。

警告！

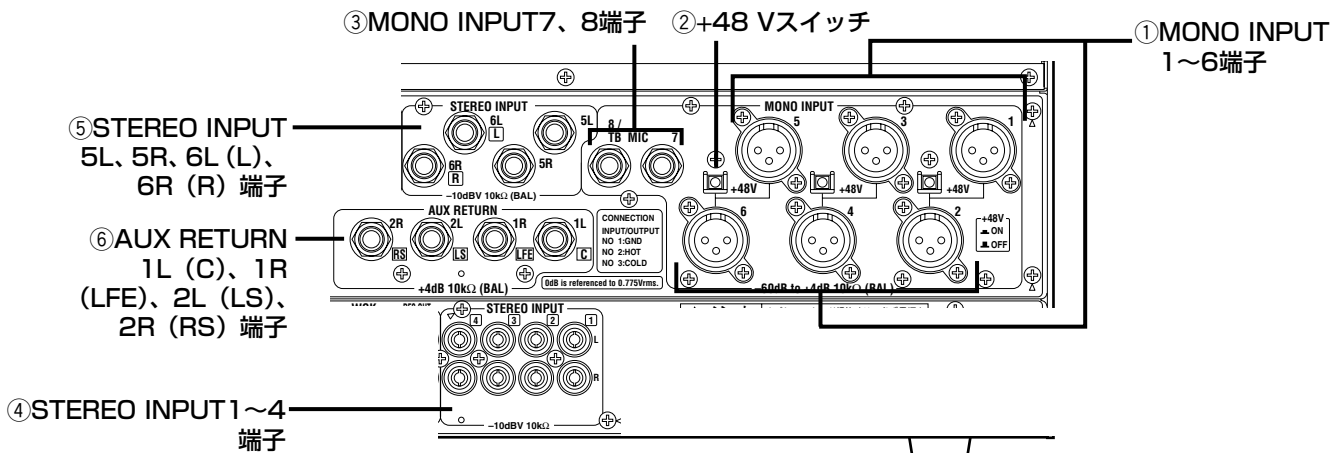
火災・感電の原因となりますので、付属の電源コード以外は使用しないでください。

- 電源コードは、必ず遮断装置を介した次のいずれかの方法で接続してください。

- (1) 電源制御ユニットを介して接続する。
- (2) 電源コンセントの近くに設置し、遮断装置（電源プラグ）を介して接続する。
- (3) 3.0 mm以上の接点距離を有する分電盤のブレーカーに接続する。ブレーカーは、保護アース導体を除く主電源のすべての極が遮断できるものを使用すること。

各部の名前とはたらき (つづき)

音声入力部



①MONO INPUT 1~6端子 (-60 dBu~+4 dBu、XLR-3端子、平衡)

モノラル音声の入力用端子です。

②+48 Vスイッチ

接続した機器に+48 Vのファンタム電源を供給できます。

重要

- CDプレーヤー、エフェクト機器などのマイク以外の機器やアンバランスタイプのマイクを使用する場合は、必ず+48 Vスイッチを切ってください。故障の原因となるおそれがあります。
- 外部電源使用のコンデンサマイクの抜き差しは、フェーダーを下げ、ONキーと+48 Vスイッチを切り、1分以上経過してから行ってください。マイク、ミキサーに破損や故障の生じるおそれがあります。
- +48 Vスイッチの操作時や操作後に、ノイズが発生する場合があります。必ず、フェーダーを下げ、ONキーを切った上で1分以上経過してから+48 Vスイッチを操作してください。また+48 Vスイッチの操作後、1分間はフェーダー、ONキーを操作しないでください。
- ファンタム電源は、+48 Vスイッチの上下2つの端子(奇数と偶数)に対して同時に供給されます。各ペアのどちらか1つだけにファンタム電源を供給することはできません。例えば、MONO INPUT 1端子にファンタム電源で動作するコンデンサマイクを接続し、MONO INPUT 2にCDプレーヤーなどのライン機器を接続しているときに+48 VスイッチをONにすると、ライン機器が故障する可能性がありますので注意してください。

③MONO INPUT 7, 8端子 (-60 dBu~+4 dBu、大型複式ジャック、平衡)

モノラル音声の入力端子です。UTILITY画面でMONO 7~8チャンネルを使う設定にした場合のみ使用可能です。MONO INPUT 8端子は、TB(トークバック)マイク入力としても使用できます。トークバックマイクの使いかた→39ページ
MONO 7~8チャンネルへの切り換え→128ページ

④STEREO INPUT 1~4端子 (-10 dBV、RCAピンジャック、不平衡)

カセットデッキやCDプレーヤーなどのライン機器を接続します。

⑤STEREO INPUT 5L, 5R, 6L (L), 6R (R) 端子 (+4 dBu (PAD ON) / -10 dBV (PAD OFF)、大型複式ジャック、平衡)

平衡入力のステレオ入力端子です。PADの設定により、入力定格を変更できます(+4 dBu、-10 dBV)。サラウンドモードの設定の場合、STEREO INPUT 6L/R端子は、フロントのL/R用になります。フロント以外のサラウンド信号は、AUX RETURN端子を使用します。

サラウンド入力の使用方法→34ページ

サラウンド使用時の接続例→123ページ

PADの設定→119ページ (UTILITY画面No.106)

⑥AUX RETURN 1L (C)、1R (LFE)、2L (LS)、2R (RS) 端子 (+4 dBu (PAD ON) / -10 dBV (PAD OFF)、大型複式ジャック、平衡)

OUTPUT 7, 8端子等から出力した信号をエフェクター等を経由して入力したり、補助的な入力として使用します。PADの設定により、入力定格を変更できません(+4 dBu、-10 dBV)。

サラウンドモードの設定のときはサラウンド入力として使用します。フロント (L、R) の信号はSTEREO INPUT6Lと6Rに入力します。

AUX RETURN2R端子はトークバック使用時には使用できません。L側のみモノラルとして使用してください。

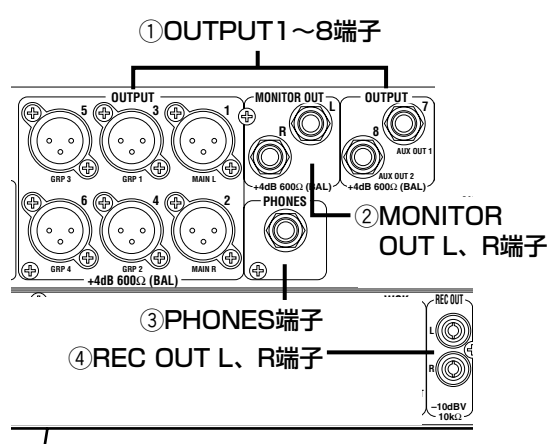
外部エフェクターを使う→35ページ

サラウンド入力の使用方法→34ページ

トークバックの使いかた→39ページ

PADの設定→119ページ (UTILITY画面No.106)

音声出力部



①OUTPUT1～8端子

ミキシングされた音声出力される端子です。各端子の定格・形状・工場出荷時の出力音声を下表に示します。

出力端子	定格	端子形状	出力音声
OUTPUT1	+4 dBu	XLR端子、平衡	MAIN Lバス
OUTPUT2	+4 dBu	XLR端子、平衡	MAIN Rバス
OUTPUT3	+4 dBu	XLR端子、平衡	GRP1バス
OUTPUT4	+4 dBu	XLR端子、平衡	GRP2バス
OUTPUT5	+4 dBu	XLR端子、平衡	GRP3バス
OUTPUT6	+4 dBu	XLR端子、平衡	GRP4バス
OUTPUT7	+4 dBu	大型複式ジャック、 平衡	AUX1バス
OUTPUT8	+4 dBu	大型複式ジャック、 平衡	AUX2バス

各端子に出力する音声はアウトプットプロセッサの設定で変更できます。

アウトプットプロセッサの設定→52ページ

②MONITOR OUT L、R端子 (+4 dBu、大型複式ジャック、平衡)

モニター用スピーカーを接続し、個々の入力信号やミキシングした音を確認するときに使います。

モニターの使いかた→49ページ

③PHONES端子 (150 mW (50 Ω)、大型複式ジャック、不平衡)

個々の入力信号やミキシングした音をヘッドフォンで確認するときに使います。

モニターの使いかた→49ページ

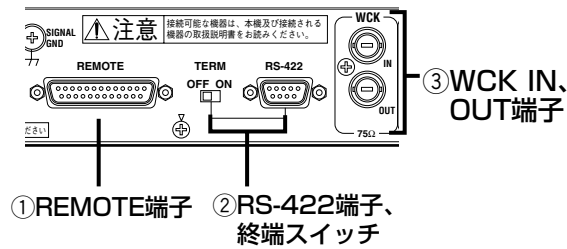
④REC OUT L、R端子 (-10 dBV、RCAピン、不平衡)

カセットテープレコーダーなどの録音機器を接続します。通常はメインLRバスの音声出力されます。この端子から出力する音声は設定画面で変更できます。

REC OUT出力の設定→42ページ

各部の名前とはたらき（つづき）

制御端子部



①REMOTE端子 (D-SUB 25ピン メス)

本機を外部のスイッチやフェーダーでリモートコントロールするときに使います。詳しくは63ページ (REMOTE端子を使用した外部制御) をお読みください。

②RS-422端子 (D-SUB 9ピン メス)、終端スイッチ (TERM ON/OFF)

パソコン等の周辺機器と接続し、シリアル通信を行うための端子です。詳しくは62ページ (RS-422を使用した外部制御) をお読みください。

本機が通信機器の終端に接続される場合、終端スイッチをON側に設定してください。

重要

電源ONの状態では終端スイッチを切り換えると、シリアル通信が正常に行えなくなる場合があります。終端スイッチの切り換えは、必ず電源OFFの状態で行ってください。

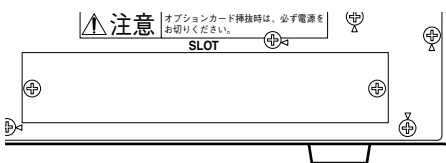
③WCK IN、OUT端子

本機を他の周辺機器と同期させる場合、WCK IN端子にワードクロック信号を入力します。また、本機のワードクロック信号で他の周辺機器を同期させる場合、WCK OUT端子から出力される信号を使用します。

定格：TTL2.5 V以上/75 Ω

クロックの切り換え→105ページ (UTILITY画面No.001)

スロット部



下記別売のアクセサリカードをここに接続することができます。

- 8ch AD/DAカード (WR-ADDAV)
- 8ch AES/EBU用入出力カード (WR-AESC)

このカード入力を、各バスへの外部機器のインサージョンや各バスへのサブインプットとして使用することができます。また、各バスの音声をカードへ出力することができます。

拡張カード入出力の使いかた→38ページ

警告！

感電、本機またはアクセサリカードの破損・故障の原因となりますので、アクセサリカードの装着は必ず販売店に依頼してください。

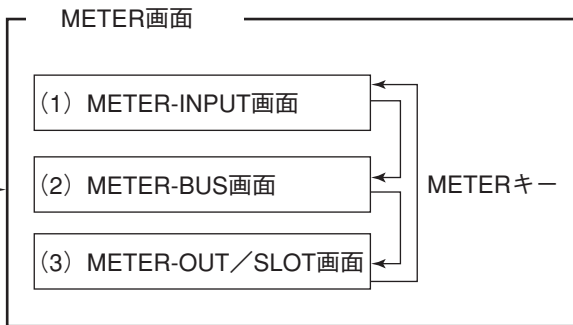
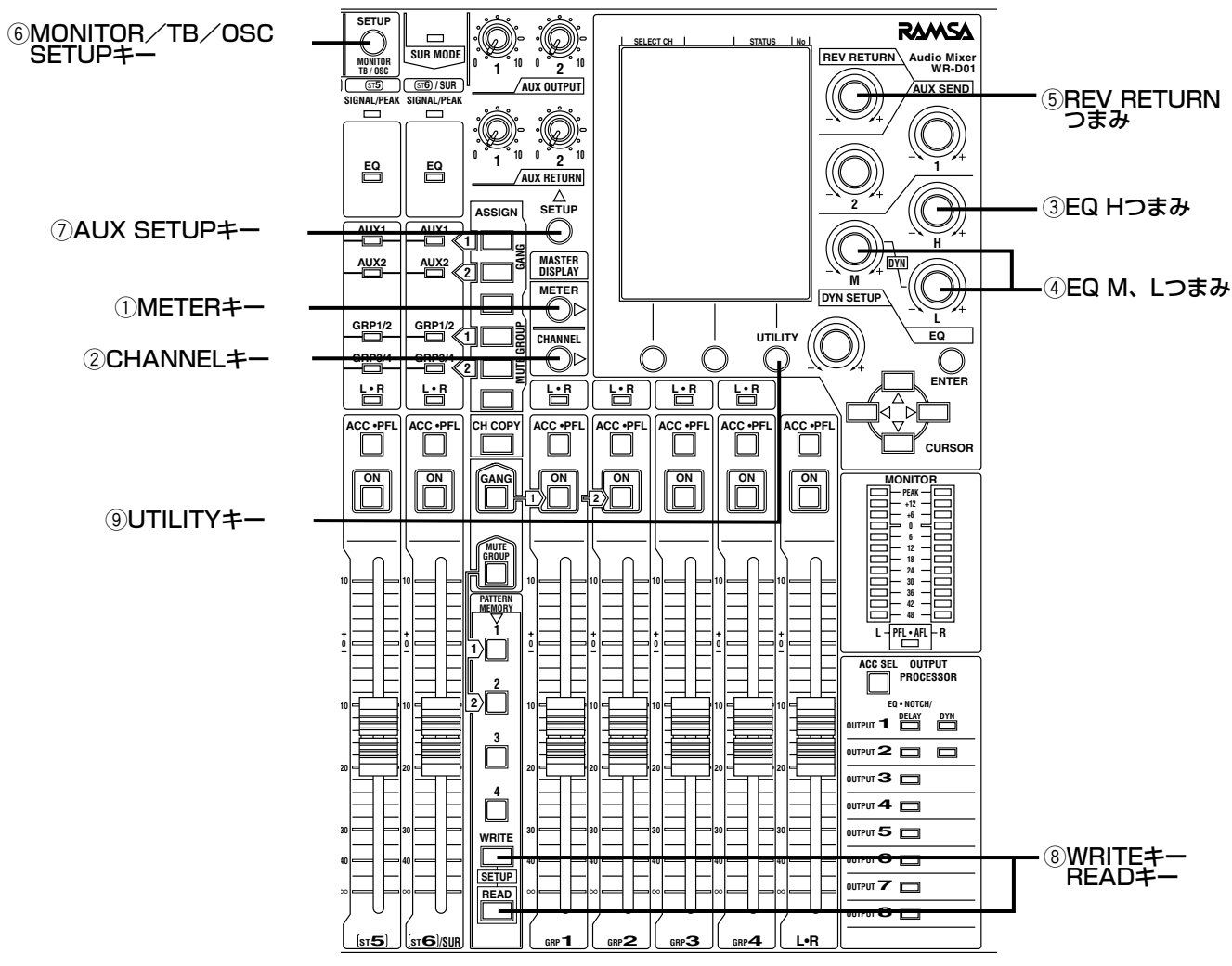
画面

本機では、液晶に画面を表示して、詳細な設定状態を確認したり、設定を変更したりすることができます。

画面遷移

画面を表示するために使用するキーと表示される画面の対応関係を示します。

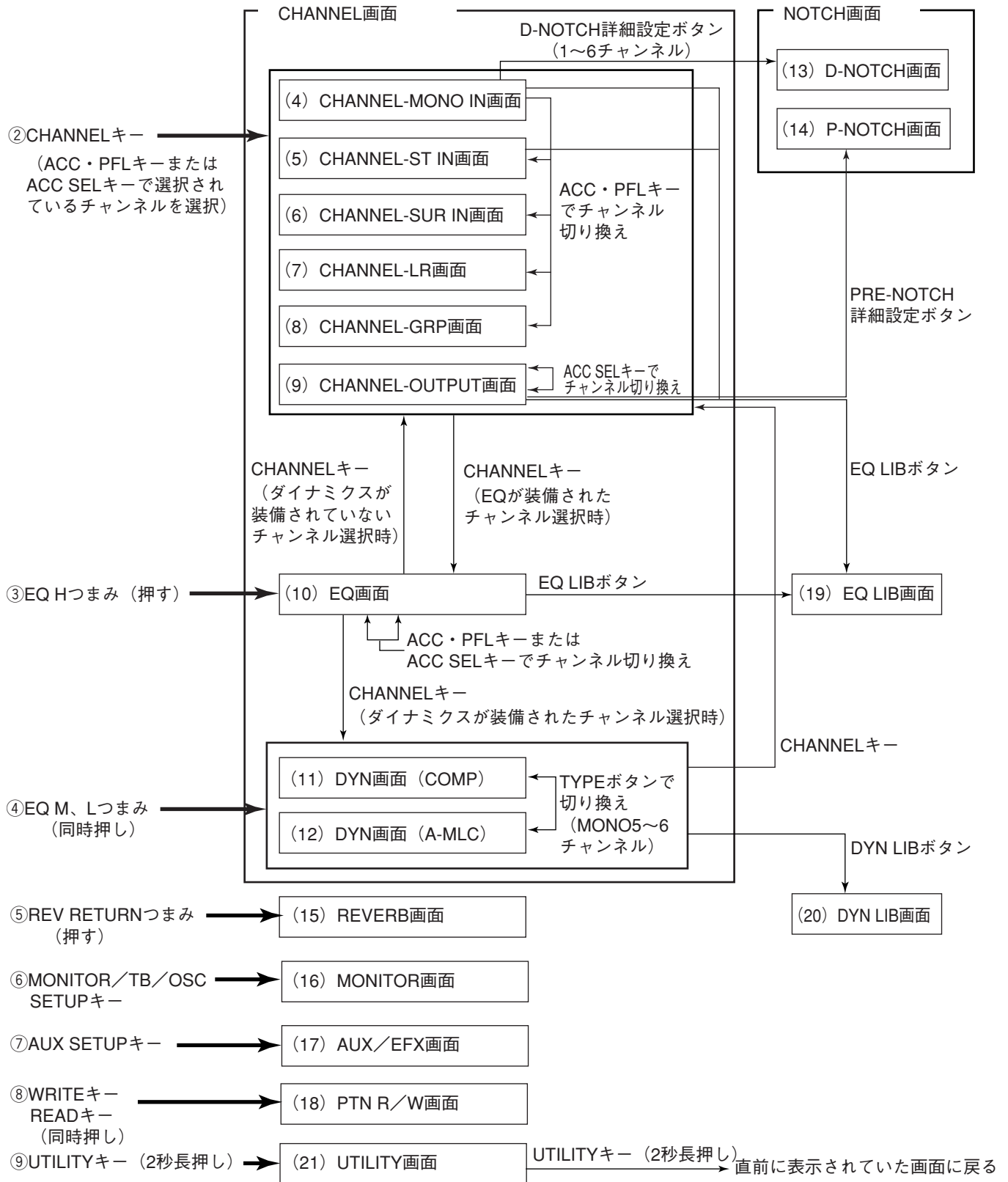
各画面の内容については、23～25ページにある対応する番号の画面を参照してください。



①METERキー
(前回表示していた画面を表示)

各部の名前とはたらき (つづき)

はじめに



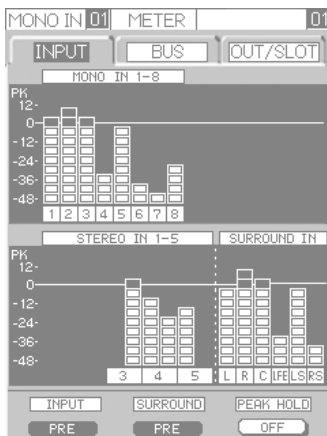
補足

- 電源ON直後は、前回の電源OFF時に表示されていた画面が表示されます。
- フェーダーを操作したとき、そのフェーダーのCHANNEL画面を表示するように設定することもできます。(UTILITY画面No.101→116ページ)
- 一定時間操作を行わなかったとき、自動的にMETER画面またはCHANNEL画面を表示するように設定できます。(UTILITY画面No.101→116ページ)

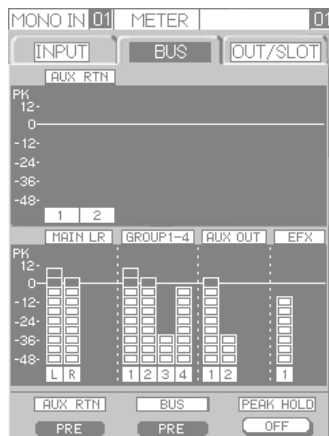
本機で使用する画面一覧

METER画面

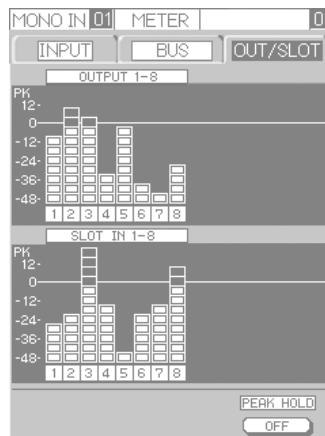
(1) METER-INPUT画面
(→65ページ)



(2) METER-BUS画面
(→66ページ)

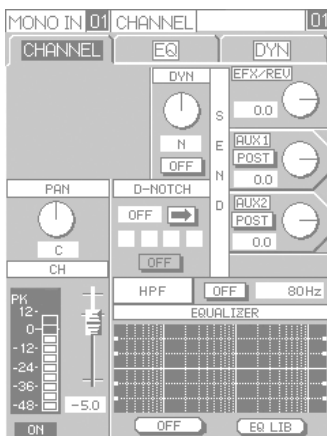


(3) METER-OUT/SLOT画面
(→67ページ)

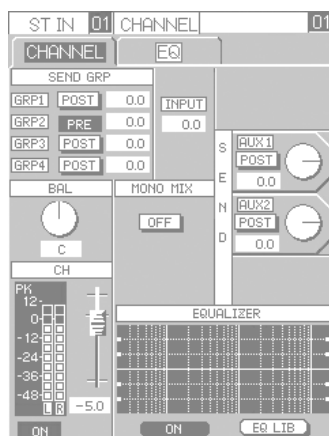


CHANNEL画面

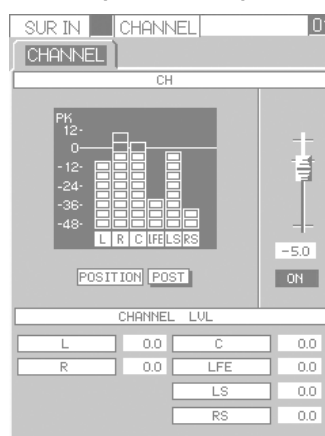
(4) CHANNEL-MONO IN画面
(→69ページ)



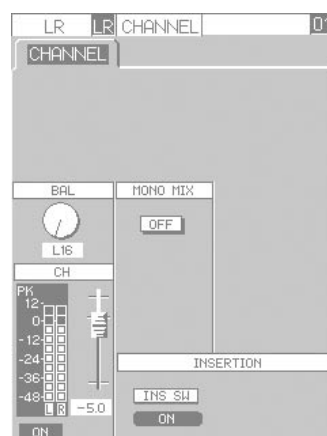
(5) CHANNEL-ST IN画面
(→71ページ)



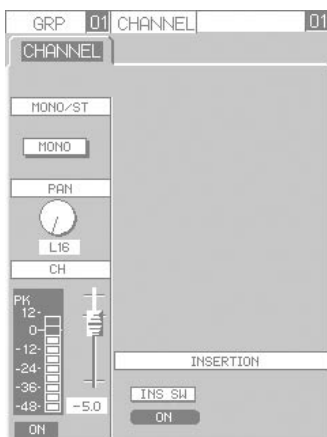
(6) CHANNEL-SUR IN画面
(→74ページ)



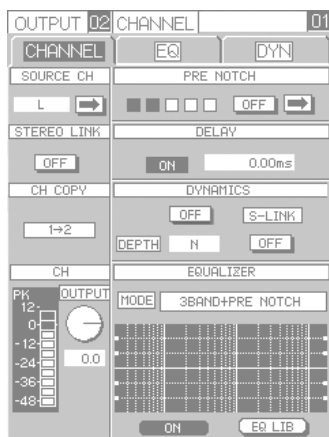
(7) CHANNEL-LR画面
(→75ページ)



(8) CHANNEL-GRP画面
(→76ページ)



(9) CHANNEL-OUTPUT画面
(→77ページ)

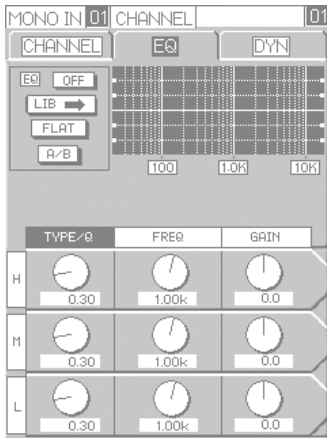


各部の名前とはたらき (つづき)

はじめに

(10) EQ画面 (→80ページ)

動作モード
ADMIN

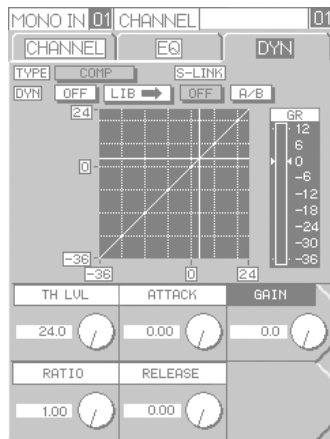
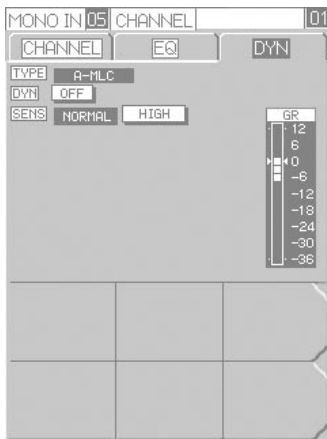


DYN画面 (→83ページ)

動作モード
ADMIN

(11) TYPE : A-MLC

(12) TYPE : COMP

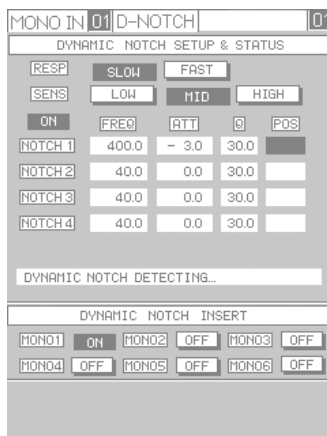


NOTCH画面

動作モード
ADMIN

(13) D-NOTCH画面 (→86ページ)

(14) P-NOTCH画面 (→88ページ)



(15) REVERB画面
(→91ページ)動作モード
ADMIN

MONO IN 01 REVERB 01

REVERB RETURN

REV RTN TOTAL LVL 0.0

ASSIGN

LR

GRP1 GRP3

GRP2 GRP4

ASSIGN

AUX1 AUX2 AUX LVL 0.0

REVERB PARAMETER SET

REVERB SW OFF

REVERB TYPE ECHO1

(16) MONITOR画面
(→93ページ)動作モード
ADMIN

MONO IN 01 MONITOR 01

MONITOR OUT

SOURCE SEL MAIN LR DIM OFF

PFL LVL -10.0 MONO MIX OFF

PFL/AFL SELECT

OUTPUT 1 2 3 4 5 6 7 8

SLOT IN 1 2 3 4 5 6 7 8

AUX RTN 1 2

AUX OUT 1 2 EFX 1 CLR

AUX OUT1 PFL EFX PFL

AUX OUT2 PFL

OSC ASSIGN

MAIN L R GRP 1 2 3 4

AUX OUT 1 2 EFX 1

LVL -0 ALL SEL CLR

TB/OSC SEL OSC SW OSC SOURCE

OSC OFF PINK

(17) AUX/EFX画面
(→96ページ)動作モード
ADMIN

MONO IN 03 AUX/EFX 01

EFX OUT

CH ON ON

LEVEL 0.0

AUX1

CH ON ON

INSERTION SW OFF

AUX2

CH ON ON

INSERTION SW OFF

AUX RTN1

CH ON OFF

ASSIGN

MAIN LR

GRP 1 2 3 4

AUX RTN2

CH ON OFF

ASSIGN

MAIN LR

GRP 1 2 3 4

(18) PTN R/W画面
(→97ページ)動作モード
ADMIN

MONO IN 03 PTNR/W 01

NO.	PTN MEM NAME	PROTECT
06:		ON
07:		ON
08:		ON
01:		OFF
02:		OFF
03:		OFF
04:		OFF
05:		OFF

READ WRITE NAME PROTECT

(19) EQ LIB画面
(→101ページ)動作モード
ADMIN

MONO IN 03 EQ LIB 01

NO.	EQ LIBRARY NAME	PROTECT
06:		ON
07:		ON
08:		ON
01:		OFF
02:		OFF
03:		OFF
04:		OFF
05:		OFF

READ WRITE NAME PROTECT

NAME EDITOR

OK CANCEL

アイウエオ カキクケコ
 サシスセソ タチツテト
 ナニヌネノ ハヒフヘホ
 マミムモ ヤヨ
 ラリルレロ ワヲン

SPACE ← → INS DEL BS

CAPS SMALL KANA1

(20) DYN LIB画面
(→102ページ)動作モード
ADMIN

MONO IN 03 DYN LIB 01

NO.	DYN LIBRARY NAME	PROTECT
06:		ON
07:		ON
08:		ON
01:		OFF
02:		OFF
03:		OFF
04:		OFF
05:		OFF

READ WRITE NAME PROTECT

NAME EDITOR

OK CANCEL

+ - * / = () & ? !
 a b c d e f g h i j
 k l m n o p q r s t
 u v w x y z # \$ % ^

SPACE ← → INS DEL BS

CAPS SMALL KANA1

(21) UTILITY画面 (→103ページ)

MONO IN 03 UTILITY 01

UTILITY HELP

No.	FUNCTION	PARAM	DATA
#001	I/O SET	CLK SEL	WCK IN
#002	PFL/AFL	MODE	MIX
#003	OUTPUT SEL	OUT CH1	MAIN L
#004	SLOT MODE	---	INS
#005	SLOT SUBIN	---	OFF
#006	ST IN SEL	ST3 IN	ST3
#007	SLOT8 SEL	SOURCE	AUX2
#008	SURROUND	MODE	ON

#001 : CLOCK SELECT
PUSH ENTER TO SET "DATA"!

STATUS

Fs 48k UNLOCK SLOT IN NONE

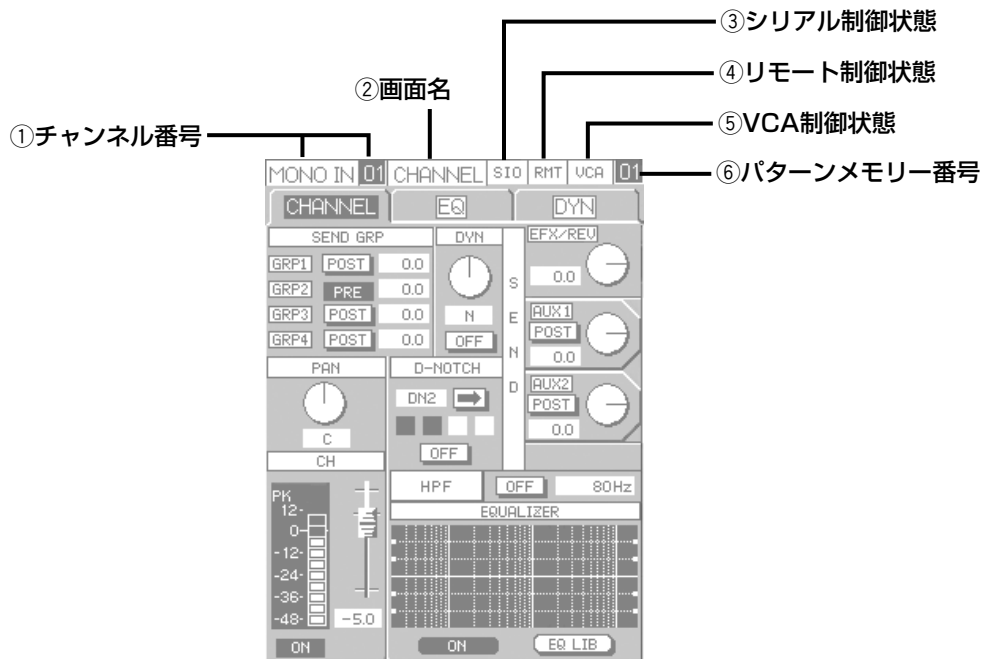
UTILITY MEMORY

WRITE READ

PREV NEXT HELP

各部の名前とはたらき (つづき)

画面の基本構成



①チャンネル番号

選択している入出力の種類およびチャンネルの番号を表示します。

- MONO IN：モノラル入力
- ST IN：ステレオ入力
- SUR IN：サラウンド入力
- GRP：グループバス
- LR：メインLRバス
- OUTPUT：出力チャンネル

②画面名

画面の名前を表示します。

③シリアル制御状態 (SIO)

シリアル通信が可能な設定になっている場合、ここに「SIO」と表示されます。通信中はSIOの文字がブリンクします。

シリアル通信の設定→110ページ、111ページ
(UTILITY画面No.009、010)

④リモート制御状態 (RMT)

REMOTE端子を使用した外部制御が可能な設定になっている場合、ここに「RMT」と表示されます(⑤のVCA1~4端子による制御を除く)。外部制御が行われている場合はRMTの文字がブリンクします。

REMOTE端子を使用した外部制御→63ページ

⑤VCA制御状態 (VCA)

REMOTE端子 (VCA1~4) からのボリューム制御が可能な設定になっている場合、ここに「VCA」と表示されます。外部からのボリューム制御が実際に行われているときはVCAの文字がブリンクします。

VCA1~4端子によるボリューム制御→63ページ

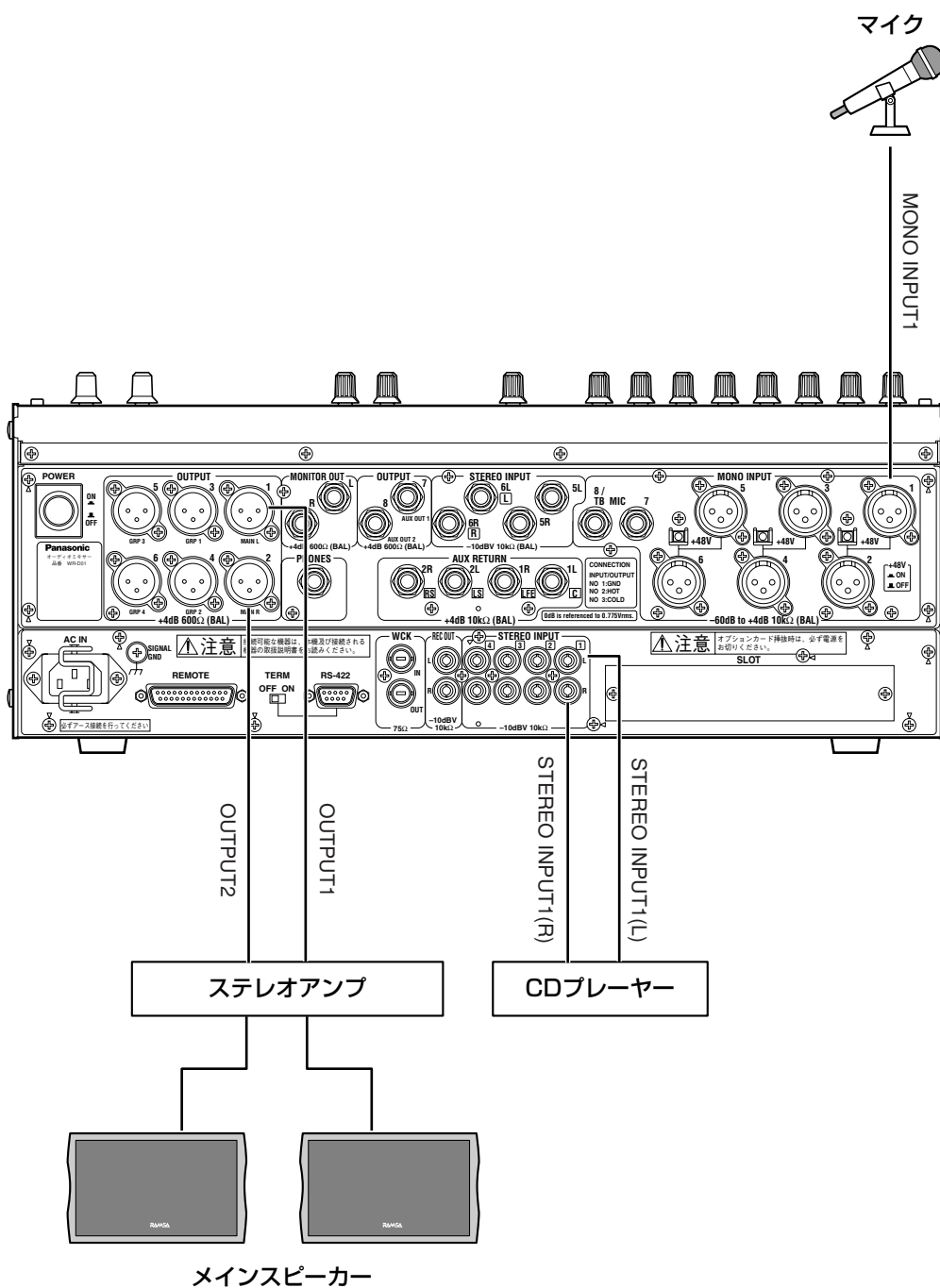
⑥パターンメモリー番号

最後に呼び出したパターンメモリー (→60ページ) の番号が表示されます。

基本的な使いかた

ここでは、下図の接続例を元に、音を出すまでの基本的な操作のしかたについて説明します。

- マイク1本
- CDプレーヤー1台
- ステレオアンプ1台
- スピーカー2台（メインL・R用）



基本的な使いかた（つづき）

電源の入れかた

電源は、入力機器側から順に入れてください。

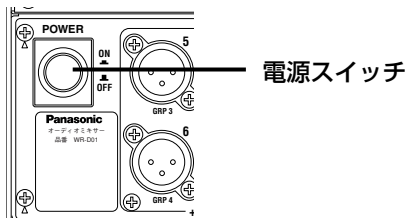
警告！

過負荷によるスピーカーの破損や、突然大きな音が出て耳を痛めるなどのけがを防止するために、下記の手順を必ずお守りください。

1 入力機器（CDプレーヤー、マイク）の電源をONにする



2 本機の電源をONにする



3 アンプの電源をONにする

本機購入後、初めて電源を入れるとき

全フェーダーが最小位置（一番下）にあることを確認してから、本機の電源をONにしてください。フェーダーが最小位置から動いていると、ONランプが点滅します（故障ではありません）。

ONランプが点滅しているときは、点滅しているチャンネルのフェーダーを最小位置にすると点滅状態が解除されます。

電源ON時の動作（通常時）

電源をONしたとき、前回電源をOFFにしたときの設定が復元されます。この設定にはフェーダーの位置も含まれています。電源をOFFにしたときとフェーダーの位置が異なる場合、そのチャンネルのONランプが点滅します。ONランプが点滅する場合→56ページ

電源の切りかた

電源を入れたときと逆の手順で切ります。

1 アンプの電源をOFFにする



2 本機の電源をOFFにする



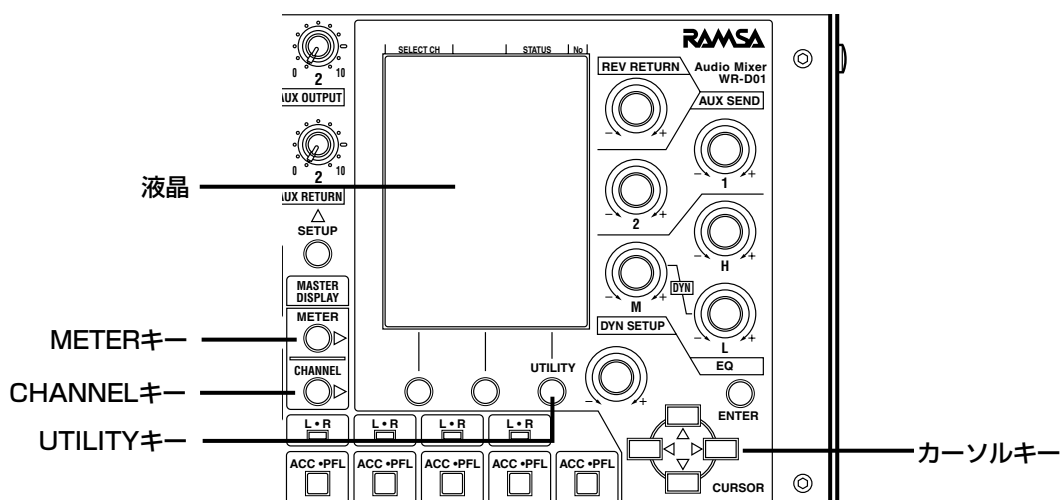
3 入力機器の電源をOFFにする

画面の基本操作

ここでは、液晶に表示される各種画面の基本操作について説明します。画面を使えば、操作パネルより細かい設定が可能となります。

目的の画面を表示する

主な画面を表示するためのキーは下表のとおりです。



画面名	キー名称	概要	参照ページ
METER画面	METERキー	各入出力やバスのレベルを確認できます。	65
CHANNEL画面	CHANNELキー	ACC・PFLキーで選択しているチャンネルの各種設定を行います。	68
UTILITY画面	UTILITYキー (2秒以上押し続ける)	サラウンド入力やモノラル/ステレオの設定など、本機の動作に関する設定を変更できます。	103

補足

本機にはこの他にも各種機能に応じた多数の画面があります。詳しくは23ページを参照してください。

カーソルの移動

カーソルキーでカーソルを移動します。

長方形の点線の枠が点滅している箇所が現在のカーソル位置です。

基本的な使いかた（つづき）

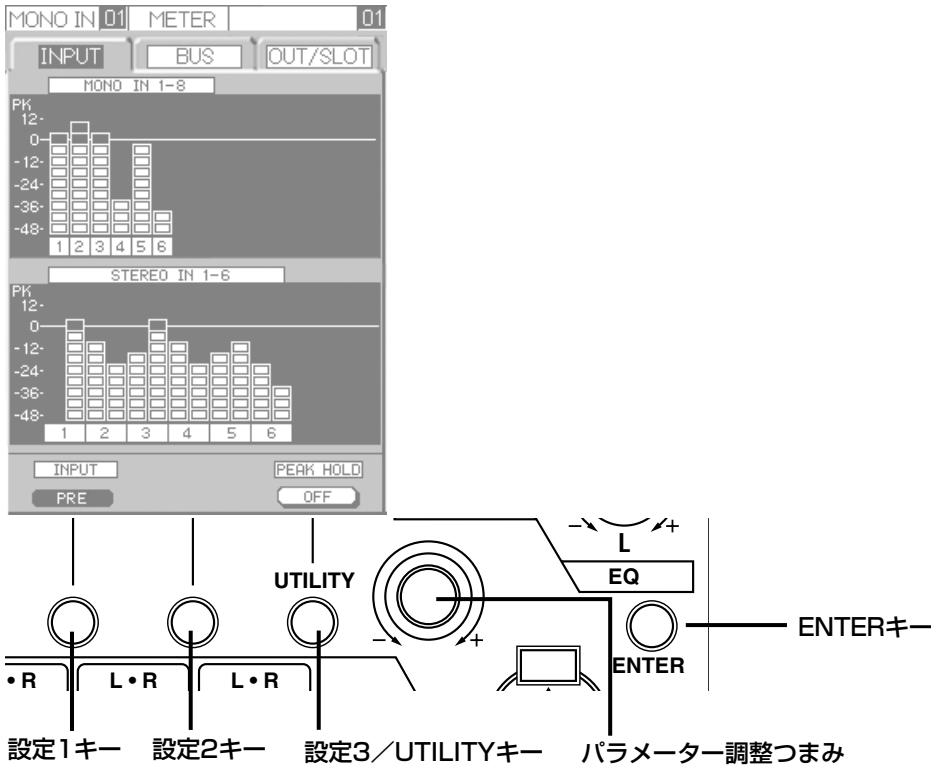
ボタンについて

画面上のボタンは、ENTERキーでON/OFFを切り換えます。画面の下にある角丸四角で表示されているボタンは、設定1キー、設定2キー、設定3/UTILITYキーでON/OFFを切り換えることができます。

OFF（または無効）の場合 ：影付きの状態を表示します。

ON（または有効）の場合 ：反転表示（白文字）で表示します。

操作



数値の変更

画面に表示されている数値は、パラメーター調整つまみで変更できます。

補足

REV RETRUNつまみ、AUX SEND1/2つまみ、EQ H、M、Lつまみで変更できる項目もあります。詳しくは、各画面の画面説明をお読みください。

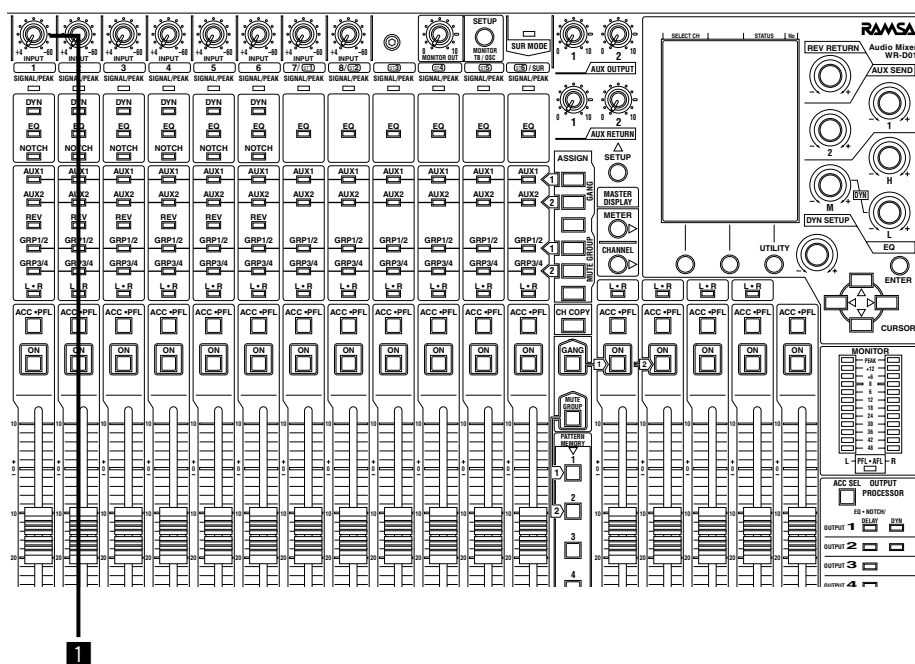
操作の流れ

ここでは、接続例（27ページ）の構成で、実際に音を出すまでの操作について説明します。28ページの手順で各機器の電源を入れてください。

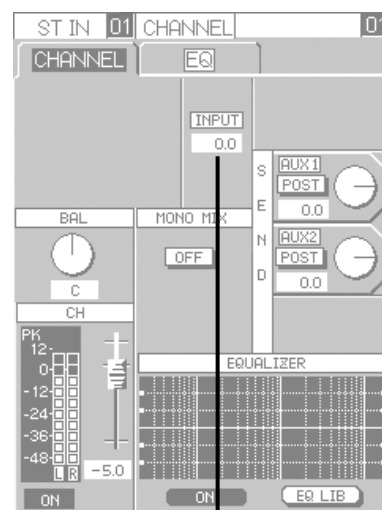
補足

工場出荷状態では、入力レベルの調節とフェーダー操作のみでOUTPUT1、2端子へ出力される設定になっています。ただし、設定状態は刻々変化しますので、確認操作を含めた下記の手順を必ず守って操作してください。

入力レベルを調節する



CHANNEL-ST IN画面



INPUTゲイン

- 1 マイクで発声しながら、MONO1チャンネルのINPUTつまみで入力レベルを調節する。
調節の目安：INPUTつまみを回して、SIGNAL/PEAKランプが通常緑色で時々橙色に点灯し、かつ赤色に点灯しないように調節してください（SIGNAL/PEAKランプが赤色に変わる直前のレベルに調節してください）。

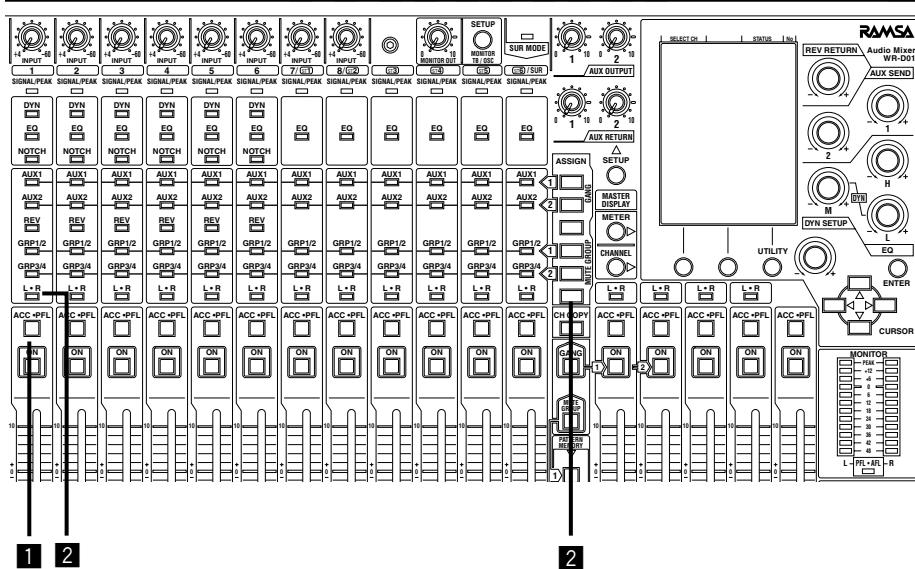
補足

- ステレオの各チャンネルで入力レベルの調節を行う場合は、以下の手順で行います。
 1. 調節したいチャンネルのACC・PFLキーを押します。METER画面など、CHANNEL画面以外の画面が表示されたときは、CHANNEL画面が表示されるまでCHANNELキーを押してください。
→そのチャンネルが選択され、液晶にCHANNEL画面が表示されます。
 2. カーソルキーで画面のINPUTゲインにカーソルを移動します。
 3. パラメーター調整つまみを回します。右へ回すと、入力レベルが上がり、左へ回すと下がります。
- STEREO5～6チャンネルの各端子はPADの設定により定格を変更することができます(+4 dBu、-10 dBV)。PADの設定→119ページ（UTILITY画面No.106）

基本的な使いかた（つづき）

バスに信号を送出する

操作



- 1 MONO1チャンネルのACC・PFLキーを押す。
→MONO1チャンネルが操作の対象として選択され、液晶にMONO1チャンネルの現在の設定が表示されます。
- 2 MONO1チャンネルのL・Rランプが点灯しているか確認する。点灯していない場合は、L・Rアサインキーを押す。
→MONO1チャンネルのL・Rランプが点灯し、メインL・Rバスに送出されます。
同様の手順で、STEREO1チャンネルをメインLRバスに送出させます。

補足

●他のバスに送出するには

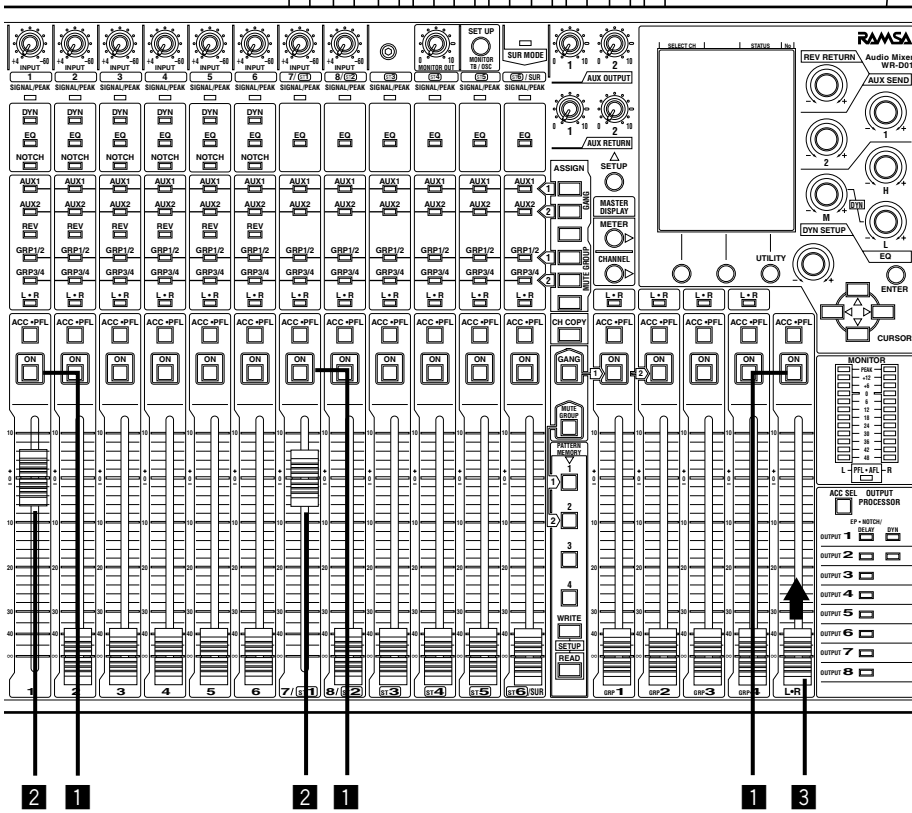
本機には、メインLRバスの他に出力用のバスとして、グループ1～4、AUX1～2、EFXの各バスがあります。グループ1～4バスの音声は、出力用としてだけでなく、メインLRバスへ送出することもできます。EFXバスへは、モノラル入力チャンネル（MONO7、8チャンネルを除く）のみ送出することができます。グループバスに送出するときは、GRP1/2バスアサインキー、GRP3/4バスアサインキーを使います。GRP1/2（または3/4）バスアサインキーを押すたびに、GRP1/2（またはGRP3/4）ランプが消灯→緑→赤→橙の順に点灯します。

送出先とランプの色の関係は以下のとおりです。

送出先	GRP1/2 (GRP3/4) ランプ
グループ1 (3) バスにもグループ2 (4) バスにも送出しない	消灯
グループ1 (3) バスに送出	緑
グループ2 (4) バスに送出	赤
グループ1 (3) バスとグループ2 (4) バスの両方に送出	橙

- AUXバスへの送出方法については36ページを、EFXバスへの送出方法については37ページをお読みください。
- STEREO1～6チャンネルをグループバスやAUXバスに送出させた場合、LとRをミックスした音声を送られます（設定により、グループ1とグループ2、またはグループ3とグループ4をペアにしてステレオ送出させることもできます。CHANNEL-ST IN画面の (5) MONO MIX (ON/OFF) ボタン（→72ページ）参照）。メインLRバスへはステレオのまま送出されます。

音を出す



- 1 MONO1、ST1およびL・RチャンネルのONキーが点灯していることを確認する。
点灯していないときは、ONキーを押してランプを点灯させてください。
- 2 MONO1とST1チャンネルのフェーダーを上げる。
まずは0 dB付近まで上げてください。これらのフェーダーは音量バランスの調節に使います。
- 3 音量を確認しながらL・Rチャンネルのフェーダーを少しずつ上げる。
→スピーカーからミキシングされた音声が出力されます。フェーダーを上げると、スピーカーの音量が上がります。マイクとCDの音量バランスが悪い場合は、MONO1・ST1チャンネルのフェーダーを操作してください。

補足

- GRP1～4バスを使用する場合も、上記同様にONキーを押してからフェーダーを操作します。
- AUX1～2バスを使用する場合については、上記のほかにも必要な操作があります。
(補助入出力、エフェクト出力を使う→35ページ)

本機の入出力に関する操作

本機には「基本的な使いかた (27ページ)」で説明したMONO INPUT、STEREO INPUT、OUTPUTの他に以下のような入力、出力があります。ここでは、以下の入出力の使いかたについて説明します。

- サラウンド入力 (SURROUND IN、SUR) →本ページ
- 補助入出力、エフェクト出力 (AUX OUT、AUX RETURN (AUX RTN)、EFX OUT) →35ページ
- 拡張カード入出力→38ページ
- トークバックマイク入力 (TB) →39ページ
- オシレーター (OSC) →41ページ
- REC出力 (REC OUT) →42ページ

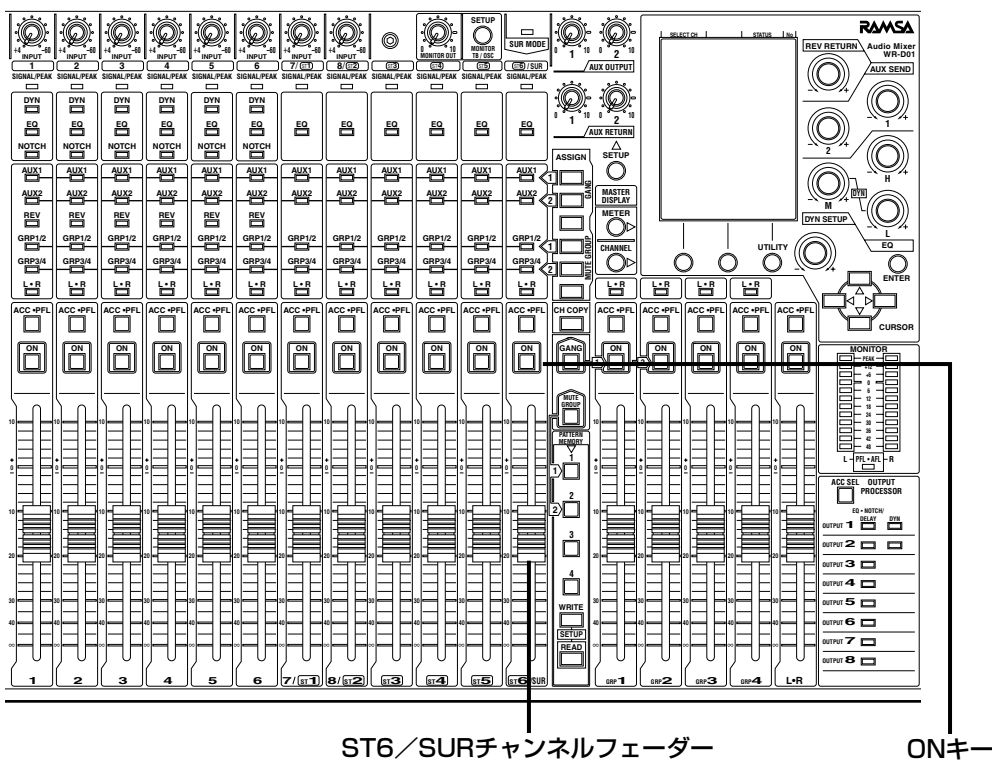
操作

サラウンド入力を使う

本機をサラウンドモードの設定にすると、5.1チャンネルサラウンド音声を1本のフェーダーで操作することができます。サラウンド音声のレベル調節や音声出力のON/OFFは、ST6/SURチャンネルのフェーダーとONキーで行います。

サラウンド音声は以下の端子に入力します。括弧内が5.1チャンネルサラウンドのチャンネル名称です。

- STEREO INPUT6L (L)、6R (R)
- AUX RETURN1L (C)、1R (LFE)、2L (LS)、2R (RS)



補足

- サラウンドモードで使用するためには設定が必要です (→129ページ)。サラウンドモードにすると、SUR MODEランプが点灯します。
- サラウンド音声はメインLR (L、R)、グループ1~4 (C、LFE、LS、RS) の各バスに強制的に送出されます。GRP1~4およびL・Rのフェーダーを操作するとバランスが変わりますので注意してください。
- サラウンドの各チャンネル間のバランスはCHANNEL-SUR IN画面 (→74ページ) で調節できます。
- サラウンドモードでは、AUX RETURN1および2端子はサラウンド入力専用となります。他の用途に使用することはできません。
- サラウンドモードでトークバック (→39ページ) を使用するとRSチャンネルの出力が止まります。サラウンド入力使用時は、トークバックを使用しないでください。

補助入出力、エフェクト出力を使う (AUX、EFX)

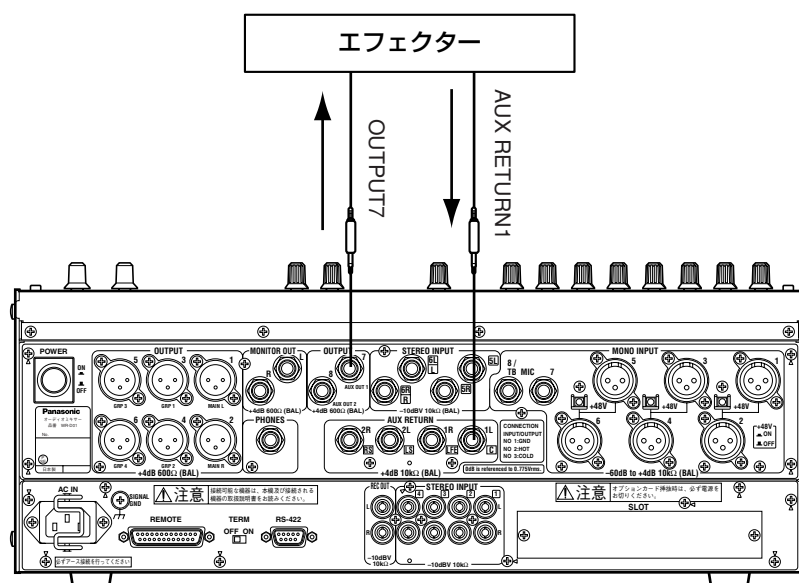
動作モード

ADMIN

AUXバスの信号を出力し、外部エフェクターなどへの入力として使用できます。また、外部エフェクターからの戻りを再度本機に入力することもできます。

工場出荷時、AUX1バスの信号はOUTPUT7端子へ、AUX2バスの信号はOUTPUT8端子に出力するように設定されています。またEFXバスの信号は設定により、スロットに接続された拡張カードの8チャンネルから出力させることができます。エフェクターからの戻りは、AUX RETURN1端子またはAUX RETURN2端子に接続します。(拡張カードの設定→UTILITY画面No.007、109ページ)

操作



例：OUTPUT7端子を使用する場合

補足

- OUTPUT7および8端子を通常の出力端子として使用することもできます。また、AUX RETURN1および2端子を補助的な入力端子として使用することもできます。
- EFXバスには、MONO7および8を除くモノラル入力の音声を送出できます。
- AUX RETURN1、2の各端子は、PADの設定により定格を変更することができます (+4 dBu、-10 dBV)。(PADの設定→UTILITY画面No.106、119ページ)

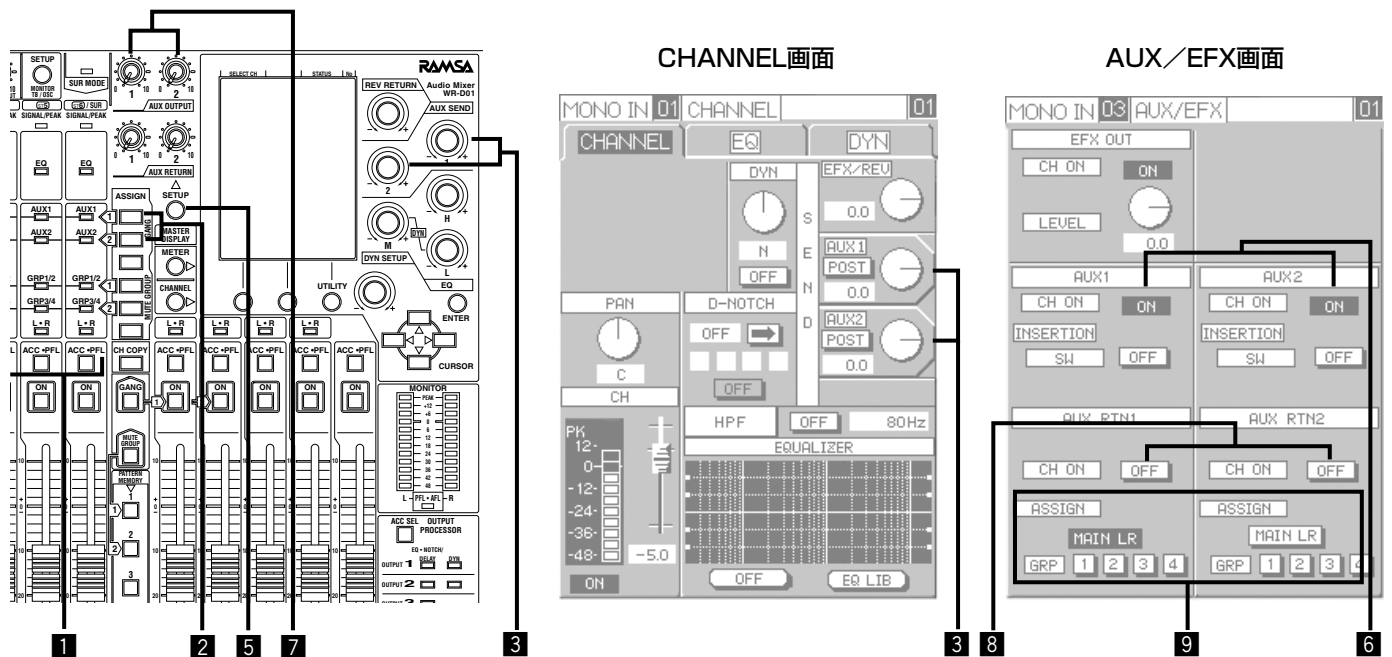
重要

- トークバックを使う場合、AUX RETURN 2R端子は使用できません (トークバックを行っている間、AUX RETRUN 2Rに入力した音声が出力されなくなります)。トークバックを使うときはAUX RETURN1端子を使用するか、モノラル入力としてAUX RETURN 2Lのみを使用してください。
- EFXバスは内蔵リバーブへの送出用バス (これをREVバスと呼びます) と共用です。内蔵リバーブを使用する場合は、EFXバスを使用しないでください。(リバーブの使いかた→51ページ)

本機の入出力に関する操作（つづき）

AUXバスから音声を出力する

操作



- 1 外部エフェクターに送りたい入力チャンネルのACC・PFLキーを押して選択する。
→液晶にCHANNEL画面が表示されます。
METER画面など、CHANNEL画面以外の画面が表示されたときは、CHANNEL画面が表示されるまでCHANNELキーを押してください。
- 2 AUX1およびAUX2バスアサインキーで送出するAUXバスを選択する。
押すたびにそのチャンネルのAUX1/AUX2ランプの点灯/消灯が切り換わります。点灯しているバスに音声を送出されます。
- 3 画面に表示される送レベルを確認しながら、送出レベルを調整する。
AUX SEND1または2つまみを回すと、液晶のAUX1または2送レベルつまみとAUX1または2送レベル値が連動して変化します。
- 4 その他のチャンネルを送出したいときは、手順1～3の操作を繰り返してください。

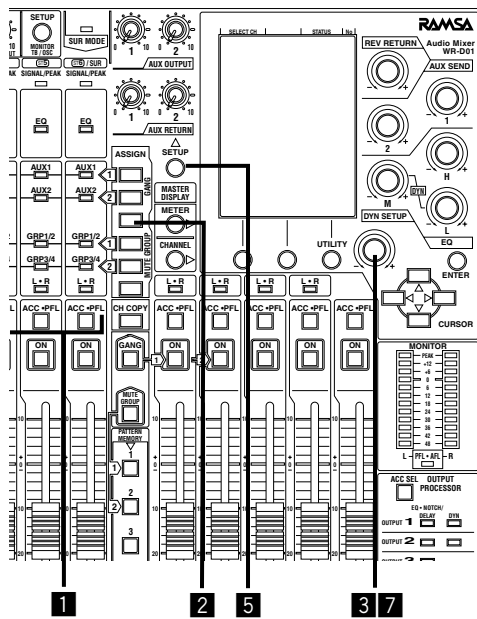
- 5 AUX SETUPキーを押す。
→液晶にAUX/EFX画面が表示されます。

補足

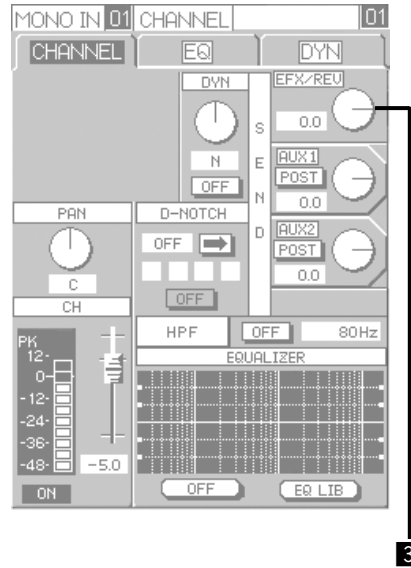
本機がユーザーモードで動作しているとき、AUX/EFX画面は操作できません。操作を行う場合は、アドミニストレーターモードに切り換えてください。（→127ページ）

- 6 使用するAUXバスの出力をONにする。
AUX1ボックスまたはAUX2ボックスのCH ONにカーソルを合わせ、ENTERキーを押します。ENTERキーを押すたびにON/OFFが切り換わります。ONにすると、OUTPUT7または8端子から音声が出力されます。
- 7 AUX OUTPUT1または2つまみを回して、全体の出力レベルを調整する。
必要に応じて、手順7と手順3を繰り返して全体のレベルとチャンネル間のバランスを調節してください。

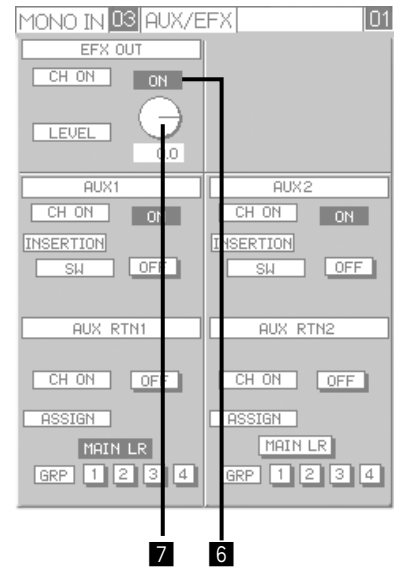
EFXバスから音声を出力する



CHANNEL画面



AUX/EFX画面



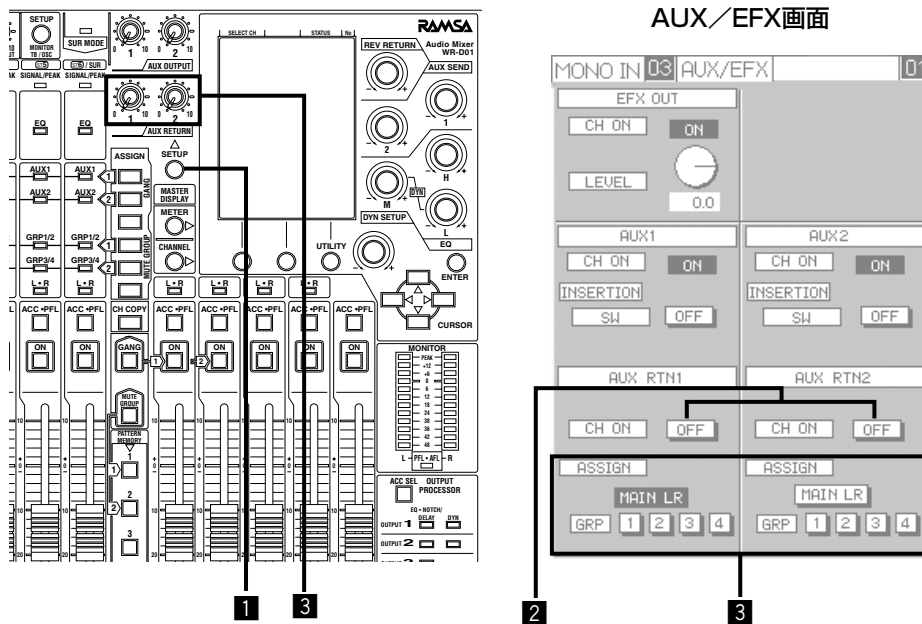
操作

- 1 外部エフェクターに送りたい入力チャンネルのACC・PFLキーを押して選択する。
→液晶にCHANNEL画面が表示されます。
METER画面など、CHANNEL画面以外の画面が表示されたときは、CHANNEL画面が表示されるまでCHANNELキーを押してください。
 - 2 REVアサインキーでEFXバスへの送を選択する。
REVアサインキーを押すたびに、選択した入力チャンネルのREVランプの点灯/消灯が切り換わります。EFXバスに送出する場合は点灯状態にします。
 - 3 画面に表示されるSENDレベルを確認しながら、送出レベルを調節する。
CHANNEL画面のSENDボックスにあるEFX/REVノブにカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回します。
 - 4 その他のチャンネルを送出したいときは、手順1～3の操作を繰り返してください。
 - 5 AUX SETUPキーを押す。
→液晶にAUX/EFX画面が表示されます。
-
- 補足**
本機がユーザーモードで動作しているとき、AUX/EFXの画面は操作できません。操作を行う場合は、アドミニストレーターモードに切り換えてください。(→127ページ)
-
- 6 使用するEFXバスの出力をONにする。
EFX OUTボックスのCH ONにカーソルを合わせ、ENTERキーを押します。ENTERキーを押すたびにON/OFFが切り換わります。拡張カードからEFXバスを出力する設定の場合、ONにすると、拡張カードの8チャンネルから音声が出力されます。
 - 7 全体の出力レベルを調整する。
LEVELノブにカーソルを合わせ、パラメーター調整つまみを回します。必要に応じて、手順7と手順3を繰り返して全体のレベルとチャンネル間のバランスを調節してください。

本機の入出力に関する操作（つづき）

エフェクターからの戻りを処理する

操作



- 1 AUX SETUPキーを押す。
→液晶にAUX/EFX画面が表示されます。
- 2 AUX RETURN入力の設定を行う。
AUX/EFX画面のAUX RTN1（または2）ボックスで、エフェクターの戻りを入力したチャンネルのCH ONボタンをONにします。
- 3 AUX RETURN端子に入力した音声を送出するバスを設定する。
入力した音声を送出するバス（MAIN LR、GRP1～4）をONにします。
入力信号のレベルはAUX RETURNつまみで調節してください。

拡張カード入出力を使う（SLOT）

重要

故障の原因となりますので、カードの装着は販売店に必ず依頼してください。

拡張カード（WR-AESCまたはWR-ADDAV）を使用すると、以下のような音声の入出力を行うことができます。

- 拡張カードからの入力をバスへ送出的る（→125ページ）
- 拡張カードへバス信号を出力する（→125ページ）
- 拡張カードからの入力をステレオ3～6チャンネルやサラウンドの入力として使用する
- 拡張カードからの入出力を利用してインサクションを行う

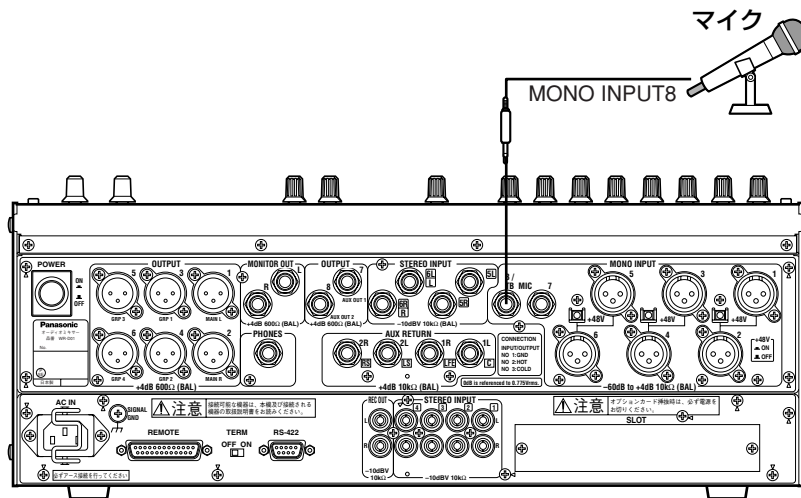
これらの入出力を行うためには、UTILITY画面での設定が必要です（NO.004、005、006、007→108ページ～）。また、拡張カードから入力されたデジタル信号が本機のクロックと同期していないと、音が出なかったりノイズが乗ったりする場合があります。UTILITY画面で必ずクロックの設定を行ってください。（No.001→105ページ）

トークバックマイクを使う (TB)

動作モード

ADMIN

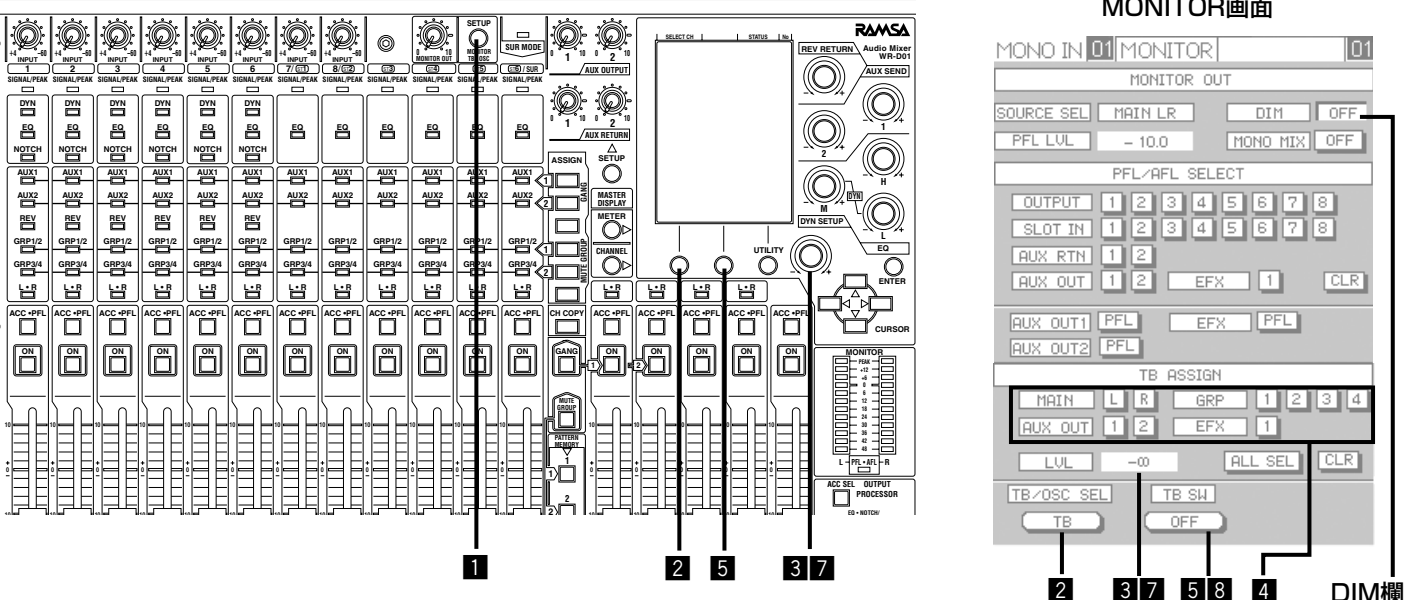
トークバックマイク (TBマイク) を使用し、オペレーターからステージなどに音声を送り、指示することができます。TBマイクはMONO INPUT8端子に接続します。マイクの定格に合わせ、事前にMONO8のINPUTつまみを調節してください。



操作

重要

- トークバックはMONO8チャンネルとの切り換えになります。UTILITY画面のNO.001 I/O SETのMONO8/TB (→106ページ) をTBに設定してください。なお、この設定の場合、モノラル8チャンネルは使用できません (モノラル8チャンネルはステレオ2チャンネルと切り換えて使用します。なお、ステレオ2チャンネルはトークバック使用時も使用可能です)。
- トークバックを使う場合、AUX RETURN 2R端子は使用できません (トークバックを行っている間、AUX RETURN 2Rに入力した音声が出力されなくなります)。トークバックを使うときはAUX RETURN 1端子を使用するか、モノラル入力としてAUX RETURN 2Lのみを使用してください。
- AUX RETURN 2R端子と兼用のサラウンドRSチャンネルもトークバック使用時は出力されません。サラウンド入力使用時は、トークバックは使用しないでください。



本機の入出力に関する操作（つづき）

- 1 SETUP (MONITOR TB/OSC) キーを押す。
→液晶にMONITOR画面が表示されます。

補足

本機がユーザーモードで動作しているとき、上記画面は操作できません。操作を行う場合は、アドミニストレーターモードに切り換えてください。(→127ページ)

- 2 設定1キーを押して、TB/OSC SELボタンをTBにする。
押すたびにTB/OSC SELボタンの表示がTBまたはOSCに切り換わります。

補足

オシレーター使用中に、TB/OSC SELボタンをTBにすると、オシレーターの出力はOFFになります。

- 3 TBレベルを最小にする。
カーソルをLVL欄に移動し、パラメーター調整つまみを左側に回します。

重要

突然大きな音が出て耳を痛めないよう、操作する前には必ず音量を最小にしてください。

- 4 TB ASSIGNボックスで送出するバスを設定する。
送出するバスにカーソルを合わせ、ENTERキーを押して反転表示にします。反転表示にしたバスにトークバックマイクの音声送出されます。
- 5 設定2キーを押し、TB SWボタンをONにする。
押すたびにTB SWボタンの表示がONまたはOFFに切り換わります。
- 6 送出先バス、出力部のボリュームを調節する。
手順4で送出先に設定したバスのフェーダーまたはボリューム、および出力部のボリュームが適正なレベルになるよう調節します。
メインLRバス、GRPバスのレベル調節→33ページ
AUXバスのレベル調節→36ページ
EFXバスのレベル調節→37ページ
出力部のレベル調節→52ページ
- 7 TBレベルを調節する。
カーソルをLVL欄に移動し、パラメーター調整つまみを右側にゆっくりと回します。適正なレベルになるよう調節してください。また、必要に応じてバスや出力部の音量を調節してください。

補足

トークバックマイクの音声出力中は、ハウリング防止のためモニタースピーカー、ヘッドホンの出力レベルが下がります（これをTBディーマーと言います）。TBディーマー動作中はDIM欄がONになります。

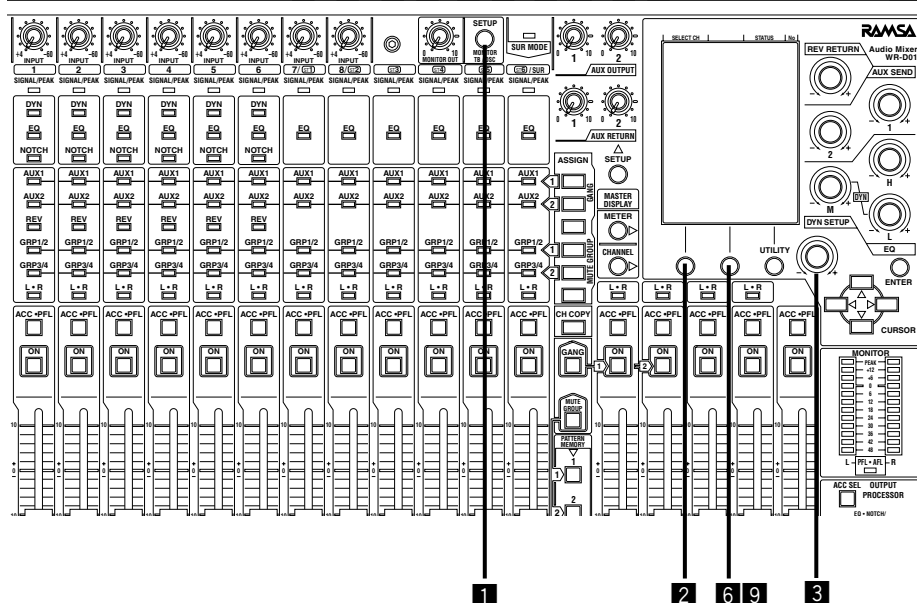
- 8 トークバックマイクの使用を終了するときは、設定2キーを押し、TB SWボタンをOFFにする。

オシレーター信号を出力する (OSC)

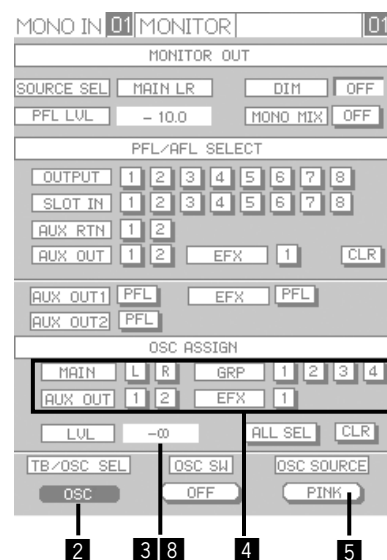
動作モード

ADMIN

本機は出力チェック用として1 kHz正弦波とピンクノイズのオシレーターを内蔵しています。オシレーター信号を出力するときは、以下の手順で操作します。



MONITOR画面



操作

- 1 MONITOR TB / OSC SETUPキーを押す。
→液晶にMONITOR画面が表示されます。
- 4 OSC ASSIGNボックスで送出するバスを設定する。

補足

本機がユーザーモードで動作しているとき、上記画面は操作できません。操作を行う場合は、アドミニストレーターモードに切り換えてください。(→127ページ)

- 2 設定1キーを押して、TB / OSC SELボタンをOSCにする。
押すたびにTB / OSC SELボタンの表示がTB・OSCと切り換わります。
- 5 設定3キーを押して信号の種類を選択する。
押すたびに1 kHzまたはPINKが表示が切り換わります。1 kHzが表示されている場合には1 kHz正弦波が、PINKが表示されている場合にはピンクノイズが送出されます。

補足

トークバック使用中にTB / OSC SELボタンをOSCにすると、トークバックの出力はOFFになります。

- 3 OSCレベルを最小にする。
カーソルをLVL欄に移動し、パラメーター調整つまみを左側に回します。
- 6 設定2キーを押し、OSC SWボタンをONにする。
押すたびにOSC SWボタンの表示がONまたはOFFに切り換わります。

重要

突然大きな音が出て耳やスピーカーを痛めないよう、操作する前には必ず音量を最小にしてください。

- 7 送出先バス、出力部のボリュームを調節する。
手順4で送出先に設定したバスのフェーダーまたはボリューム、および出力部のボリュームが適正なレベルになるよう調節します。
メインLRバス、GRPバスのレベル調節→33ページ
AUXバスのレベル調節→36ページ
EFXバスのレベル調節→37ページ
出力部のレベル調節→52ページ

本機の入出力に関する操作（つづき）

- 8 OSCレベルを調節する。
カーソルをLVL欄に移動し、パラメーター調整つまみを右側にゆっくりと回します。適正なレベルになるよう調節してください。また、必要に応じてバスや出力部の音量を調節してください。
- 9 設定2キーを押し、OSC SWボタンをOFFにする。

重要

OSC SWボタンの表示がONの間は、手順4で設定したバスにオシレーター信号が送出され続けます。出力チェックが完了したら忘れずにOSC SWボタンをOFFにしてください。

REC信号を出力する（REC OUT）

REC OUT端子から、録音用の信号を出力させることができます。

出力信号の選択はUTILITY画面（No.001→105ページ）で行います。AUX2バス、MAIN LRバスのPRE信号、MAIN LRバスのPOST信号から選択できます。

音声信号を確認する

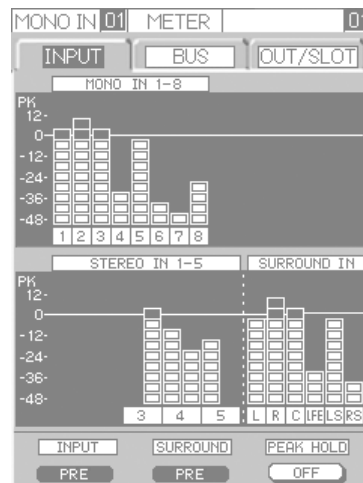
音声正しいレベルで入力、出力されているか確認できます。レベルメーターを見て確認する方法と、実際に入力（出力）されている音声を聞いて確認する方法があります。

レベルメーターでレベルを確認する（METER）

液晶にレベルメーターの画面を表示することができます。レベルメーターの画面は以下の3種類があります。METERキーで表示するレベルメーターを切り換えることができます。

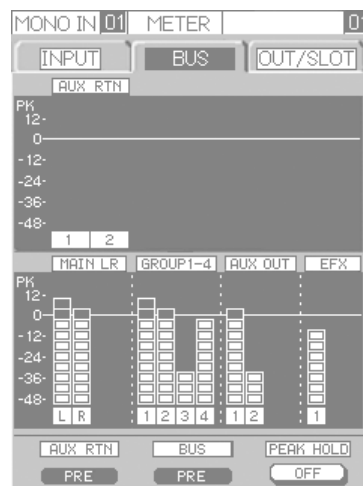
● METER-INPUT画面

モノラルおよびステレオ全入力チャンネルのレベルを表示します。サラウンドモードで使用している場合、サラウンドの各チャンネルのレベルも表示されます。（サラウンド入力を使う→34ページ）



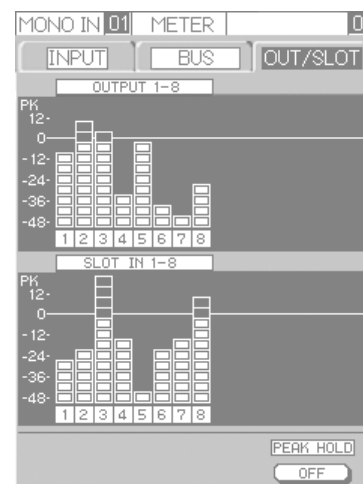
● METER-BUS画面

メインLRバス、グループバス、AUXバス、EFXバスの信号レベル、AUX RETURN端子からの入力レベルを表示します。（メインLRバス、グループバス→32ページ）
（AUXバス、EFXバス、AUX RETURN→35ページ）

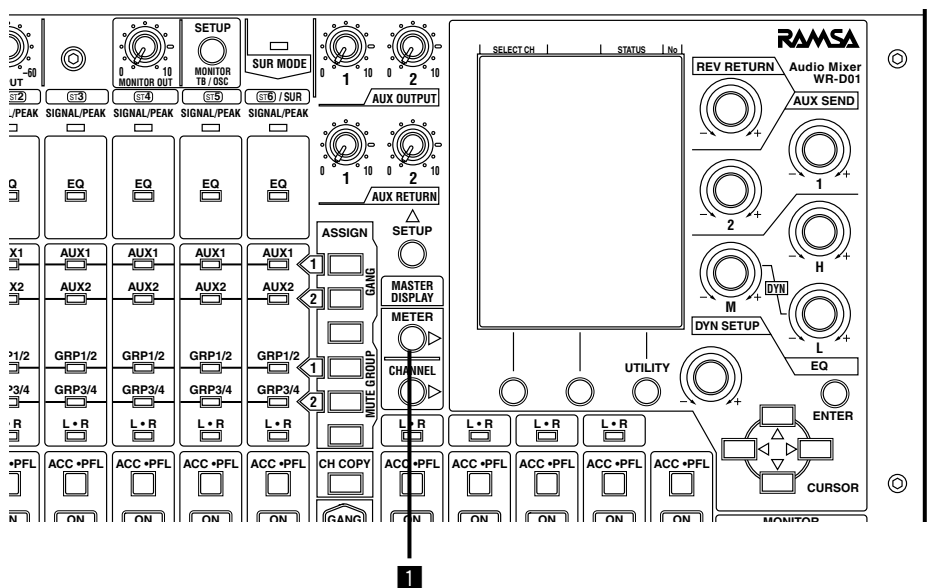


● METER-OUT/SLOT画面

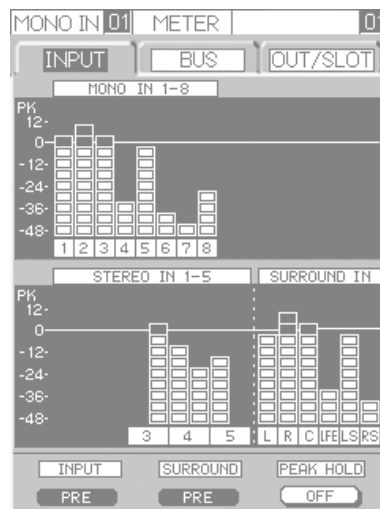
OUTPUTチャンネルの出力レベルと拡張カードからの入力レベルを表示します。（拡張カード入出力→38ページ）



音声信号を確認する（つづき）



METER-INPUT画面



- METERキーを押す。
→液晶に前回表示したMETER画面が表示されます。
METERキーを押すたびにINPUT → BUS → OUT/SLOT → INPUT → . . . の順に画面が切り換わります。

補足

設定1～3キーで以下の操作を行うことができます。

● 設定1キーまたは設定2キー

これらのキーでメーターに表示する信号の位置（PRE/POST）を切り換えることができます。

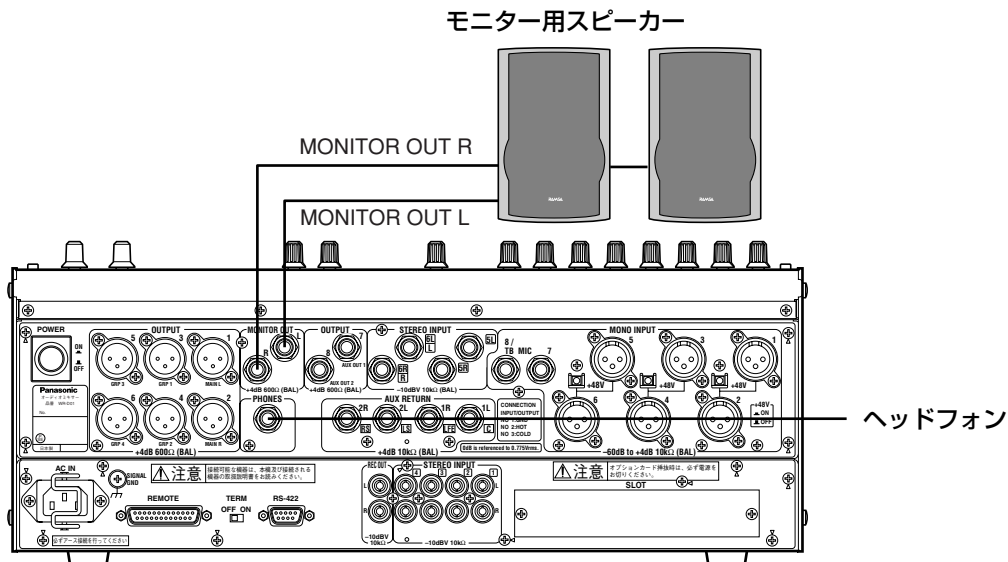
METER-INPUT画面	設定1キー	モノラル、ステレオ各チャンネルの信号位置を切り換え
	設定2キー	サラウンド入力の信号位置を切り換え
METER-BUS画面	設定1キー	AUX RETURN各チャンネルの信号位置を切り換え
	設定2キー	メインLR、GRP、AUX、EFX各バスの信号位置を切り換え
METER-OUT/SLOT画面	—	切り換えできません。OUTPUTはPOST信号、SLOT INは拡張カードからの入力レベルが表示されます。

● 設定3キー

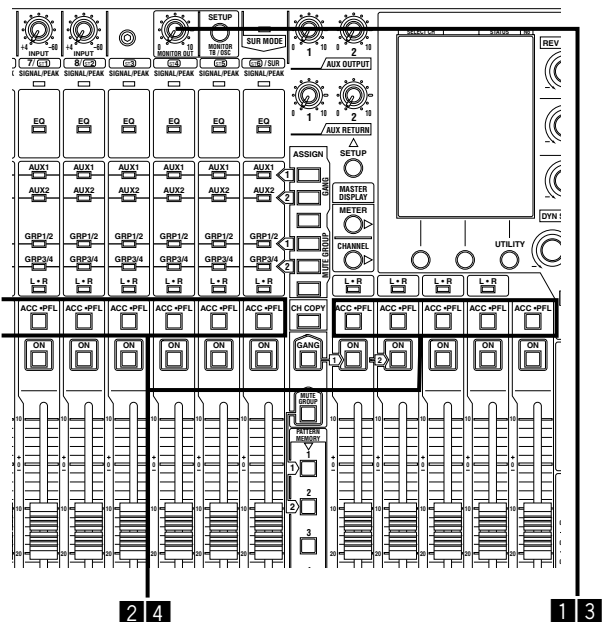
メーターのPEAK HOLDのON/OFFを切り換えることができます。ONにすると、各チャンネルのピーク値が一定時間保持されます。ピークホールド時間は2秒・無限大のいずれかに設定できます。
(UTILITY画面No.102→117ページ)

実際に音を出して確認する (MONITOR)

入力チャンネルやバス、出力の各信号をモニター用スピーカーやヘッドフォンで確認 (モニター) することができます。モニターする場合は、MONITOR OUT端子にモニター用スピーカーを接続するか、PHONES端子にヘッドフォンを接続してください。



ここでは、入力チャンネルおよびGRP1~4、L・Rチャンネルの信号をモニターする手順を説明します。



- 1 MONITOR OUTつまみを左に回して音量を最小にする。

重要

突然大きな音が出て耳を痛めないよう、操作する前には必ず MONITOR OUTつまみで音量を最小にしてください。

- 2 モニターしたい入力チャンネル、または出力チャンネルのACC・PFLキーを長めに押す (0.5秒以上)。→ACC・PFLキーが点滅し、選択したチャンネルの音声 (PFL) をモニターできます。
- 3 MONITOR OUTつまみを少しずつ右に回す。指定したチャンネルの音声モニター用スピーカー (ヘッドフォン) から聞こえてきます。適正なレベルになるよう調節してください。
- 4 ACC・PFLキーを点滅が止まるまで押し続ける。→ACC・PFLキーが消灯し、モニター音声の出力が止まります。

音声信号を確認する（つづき）

補足

- MONITOR OUTつまみを回すと、モニター用スピーカーとヘッドフォンの両方の出力レベルが変化します。
- この操作ではプリフェーダーの信号がモニター出力されます。
- MONITOR画面の設定で、AUXバスや出力部の音声などもモニターできます。モニター信号の取り出し位置は選択したチャンネルやバスによって異なります。詳細は93ページ（MONITOR画面）をお読みください。
- 工場出荷時は1つのチャンネルのみモニターするSOLOモードに設定されています。MIXモードに設定すると、複数のチャンネルをミックスしてモニターすることができます。詳細は107ページ（UTILITY画面No.002）をお読みください。
- ギャンググループ（→54ページ）実行中にGRP1またはGRP2チャンネルに対して上記操作を行うと、ギャンググループに属する全チャンネルのACC・PFLキーが点滅し、全チャンネルがミックスされた音声をモニターできます。このときモニターされる信号の位置は、ギャングマスターフェーダーによる調節を含め、各チャンネルのフェーダーに対してポストフェーダー／ポストパンになります。

音を加工する

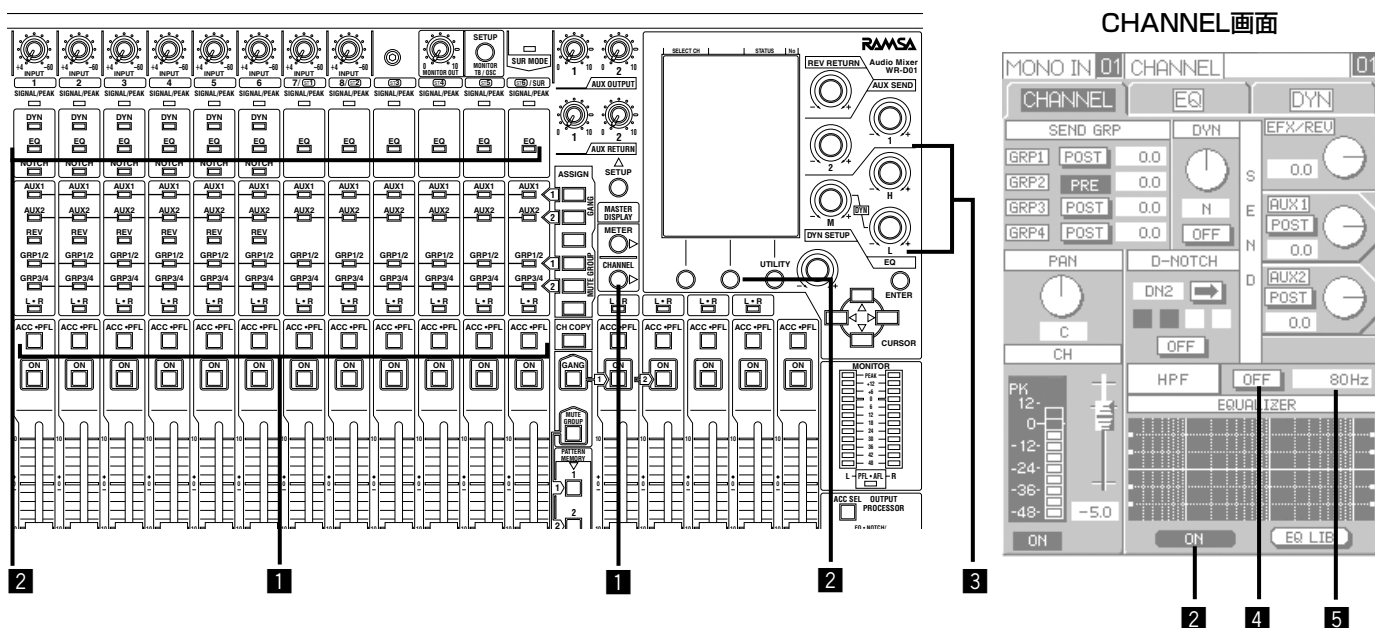
本機の入力部にはイコライザー（EQ）、ダイナミクス（DYN）、オートノッチ（NOTCH）の各種エフェクターが内蔵されています。また、デジタルリバーブ（REVERB）も本機に内蔵されており、カラオケエコーのような残響効果を与えることができます。出力部には8チャンネルのアウトプットプロセッサ（OUTPUT PROCESSOR）が装備されており、入力部と同様に各種エフェクト処理を行うことができます。

イコライザーを使う（EQ）

ここでは、モノラル・ステレオ各入力チャンネルのPEQ（パラメトリックイコライザー）とHPF（ハイパスフィルター）を調節する方法について説明します。

補足

- HPFはMONO7~8を除くモノラル入力に設定できます。
- イコライザーは出力チャンネルにも設定できます。（CHANNEL-OUTPUT画面→77ページ）



- 1** 音色を調節したいチャンネルのACC・PFLキーを押して選択する。
→液晶にそのチャンネルのCHANNEL画面が表示されます。METER画面などCHANNEL画面以外が表示されている場合は、CHANNELキーを押してCHANNEL画面に切り換えてください。

補足

動作モードがADMINの場合、CHANNELキーはCHANNEL画面、EQ画面、DYN画面の切り換えにも使われます。CHANNEL画面が表示されていない場合は、液晶左下のCHANNELキーをさらに数回押してください。

- 2** 設定2キーを押して、EQ ON/OFFボタンをONにする。
押すたびに、ボタンの表示がON/OFFに切り換わります。イコライザーを使用するときはONにします。ONにすると、選択したチャンネルのEQランプが点灯し、イコライザーで音色の調節が可能となります。
- 3** 音色を調節する。
EQ H/M/Lつまみを操作して音色を調節します。それぞれ高音/中音/低音の音量が右へ回すほど大きくなります。また、つまみを押しながら回すと、各つまみで制御する音域を変更することができます。つまみの操作に連動して、画面の周波数特性グラフが変化します。グラフを確認しながら調節してください。

音を加工する（つづき）

補足

- STEREO入力チャンネルおよびMONO7～8チャンネルは、EQ Mのつまみを操作しても音色は変化しません。HとLのつまみを使用してください。
- EQ画面を使用して、数値により詳細に周波数特性を調整することができます。80ページをお読みください。

- 4 HPF ON/OFFボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押す。
ENTERキーを押すたびに、ボタンの表示がONまたはOFFに切り換わります。HPFを使用するときはONにします。
- 5 HPF FREQ欄にカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回す。
フィルターのカットオフ周波数が右に回すほど高域に、左に回すほど低域になります。つまみの操作に連動して、周波数特性グラフが変化します。

ダイナミクスを使う（DYN）

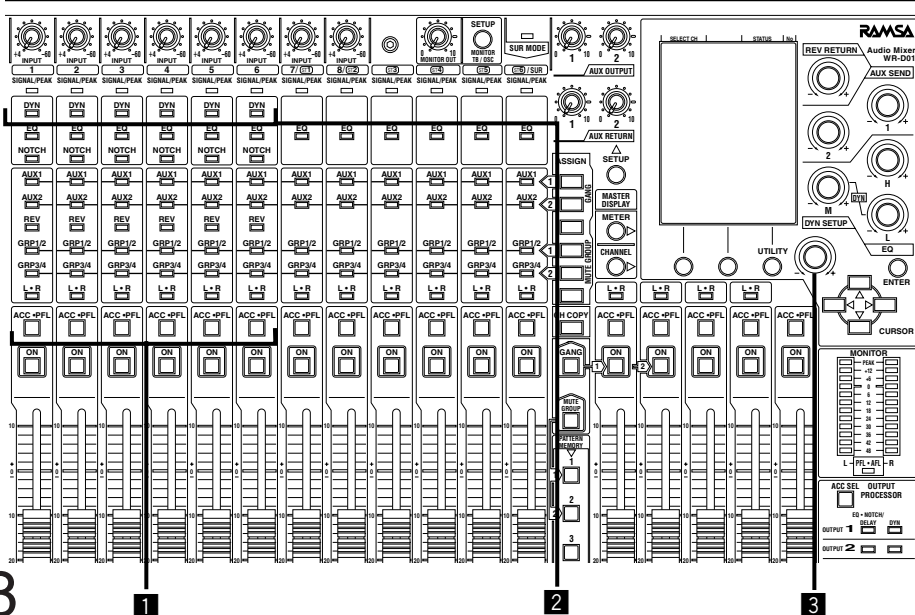
本機は、ダイナミクス機能としてコンプレッサーとオートマイクレベルコントローラーを搭載しています。コンプレッサーは大きなレベルの音を小さめに、小さなレベルの音を大きめに变化させることで、ダイナミックレンジを圧縮する機能です。音量変化を緩やかにして滑らかな音にしたり、突然の大音量入力時に機器を保護するなどの用途で使用します。コンプレッサーはMONO7～8を除くモノラル入力と、OUTPUT1～2チャンネルで使用することができます。

オートマイクレベルコントローラーは話者の違いやマイクまでの距離の変化による音量差を自動的に補正し、適切な拡声レベルを保つ機能です。声の大きな人と小さな人が交互にマイクを持ち替えて話をする場合などに、つど、フェーダー操作でレベルを調整したのと同じ効果が得られます。また、リミッタ（一定レベル以上の信号を抑え込む）機能も内蔵していますので、マイクをぶつけたときなどの突然の大音量入力にも対応します。オートマイクレベルコントローラーはMONO5～6チャンネル（DYNランプのDYNの文字が黄色のチャンネル）で使用することができます。

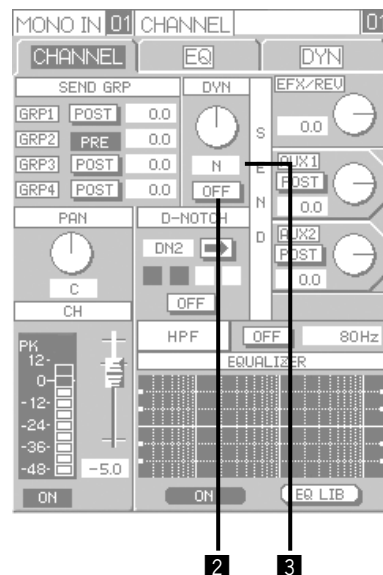
ここでは、入力側にダイナミクスを設定する方法について説明します。出力側に設定する場合は、CHANNEL-OUTPUT画面（→77ページ）をお読みください。

補足

- 本機のオートマイクレベルコントローラーはナレーション等の音声を主用途として調整されています。
- MONO5～6チャンネルのダイナミクスは、工場出荷状態ではオートマイクレベルコントローラーが選択されています。DYN画面（→83ページ）でコンプレッサーに切り換えることができます。
- コンプレッサーとオートマイクレベルコントローラーの併用はできません。



CHANNEL画面



- 1 ダイナミクスを設定したいチャンネルのACC・PFLキーを押して選択する。
→液晶にそのチャンネルのCHANNEL画面が表示されます。METER画面などCHANNEL画面以外が表示されている場合は、CHANNELキーを押してCHANNEL画面に切り換えてください。

補足

動作モードがADMINの場合、CHANNELキーはCHANNEL画面、EQ画面、DYN画面の切り換えにも使われます。CHANNEL画面が表示されていない場合は、液晶左下のCHANNELキーをさらに数回押してください。

- 2 カーソルをDYNボックスのON/OFFボタンに合わせ、ENTERキーを押す。
押すたびに、ボタンの表示がONまたはOFFに切り換わります。ダイナミクスを使用するときはONにします。ONにすると、選択したチャンネルのDYNランプが点灯（緑）し、ダイナミクスが設定されます。
- 3 カーソルをDYN DEPTHノブに合わせ、パラメーター調整つまみを回す。
コンプレッサーでは、右に回すとダイナミクスのかかり具合がハードに、左に回すとかかり具合がソフトになります。
オートマイクレベルコントローラーでは、右に回すと感度が上がり（HIGH）、左に回すと感度が下がります（NORM）。通常はNORMで使用し、効果が不足する場合にHIGHに設定してください。

補足

- ダイナミクスが動作しているときはDYNランプが緑から赤に変わります。DYNランプの状態を確認しながら効果のかかり具合を調節してください。
- コンプレッサーのDEPTHは標準設定N（ニュートラル）を中心にハードなH1～H10（右に回す）とソフトなS1～S10（左に回す）の21段階から選択することができます。また、INPUTチャンネルでは、各値は下表のような音源を想定して調整されており、それぞれハードタイプとソフトタイプを選択できます。

DEPTH値	推奨音源
N	標準的な設定です。どんな音源でも無難に使用できます。
S1 H1	ピアノ、オルガン、シンセサイザー等の鍵盤楽器に適した設定です。
S2 H2	アコースティックギター、エレキギターなどに適した設定です。
S3 H3	ナレーションに適した設定です。
S4 H4	カラオケなどのボーカルに適した設定です。
S5 H5	バスドラムやベースなど、低音楽器に適した設定です。
S6 H6	ドラムに適した設定です。シンバル、スネアドラムなどに個々にかけるよりは、ドラムセット全体としてかけたほうが効果的です。
S7 H7	パーカッション類の楽器に適した設定です。
S8 H8	オーケストラ、ブラスバンド、カラオケの伴奏などに適した設定です。
S9 H9	銃声や爆発音などの効果音（SE）に適した設定です。
S10 H10	子供の声など、抑揚の大きな声に適した設定です。

OUTPUTチャンネルでは特に音源は想定せず、全体としての効果のかかり具合で各値が調整されています。

- コンプレッサーのダイナミクス特性は、DYN画面で数値により詳細に調整することもできます。83ページをお読みください。

ハウリングを抑制する (NOTCH)

本機はハウリングを抑制する機能として、ダイナミックノッチとプリノッチの2種類のオートノッチを装備しています。

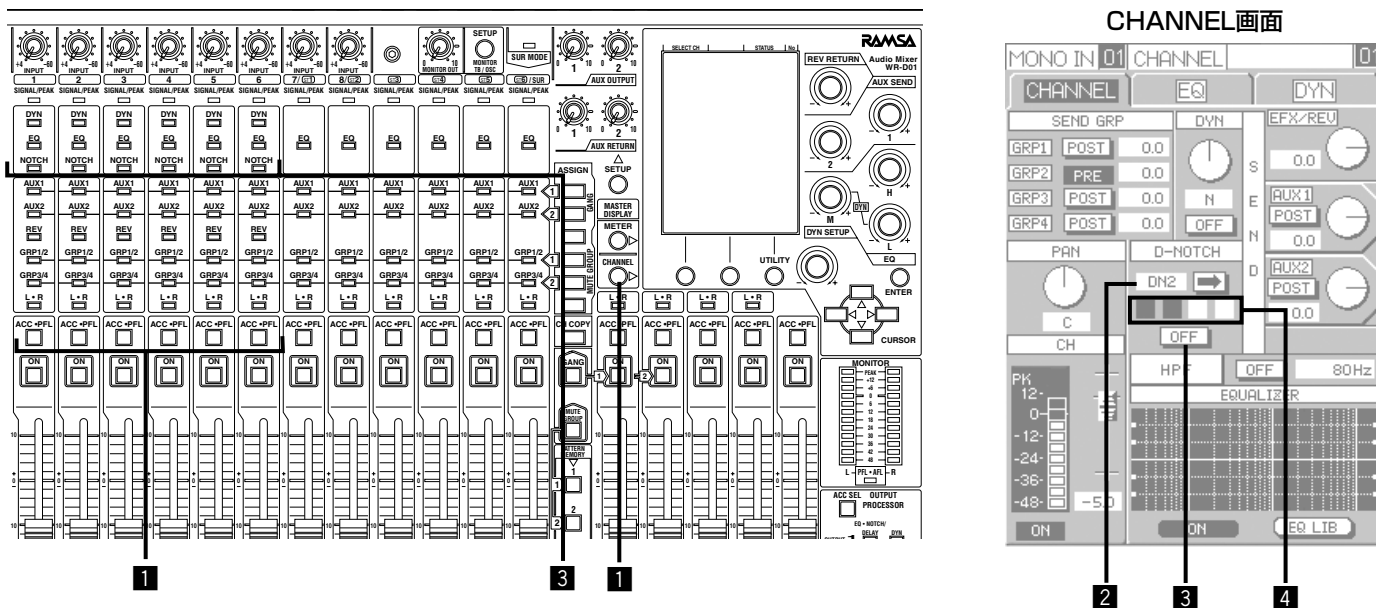
ダイナミックノッチは運用中リアルタイムにハウリング周波数の検出を行い、その周波数にノッチフィルターをかけてハウリングを抑制する機能です。ハンドマイクなど環境が刻々変化する機器に対して有効です。ダイナミックノッチはMONO1~6チャンネルの中から最大4チャンネルに設定できます。

プリノッチは、事前にハウリング検出を行ってフィルター特性を決定します。運用時はあらかじめ設定されたフィルターで動作するため、安定したハウリング抑制効果が得られます。建物の構造や室内環境など、静的な要因に起因するハウリングを抑制するときには有効です。プリノッチはOUTPUTの各チャンネルに設定できます。

補足

ダイナミックノッチでは4ポイント、プリノッチでは5ポイントのハウリング周波数に対応します。ただし、極端な条件下ではハウリングを完全に除去することはできません。

ここでは、MONO1~6のいずれかのチャンネルにダイナミックノッチを設定する手順について説明します。プリノッチについてはCHANNEL-OUTPUT画面 (→77ページ) およびP-NOTCH画面 (→88ページ) をお読みください。



- 1 ダイナミックノッチを設定したいチャンネル (MONO1~6) のACC · PFLキーを押して選択する。
→液晶にそのチャンネルのCHANNEL画面が表示されます。METER画面などCHANNEL画面以外が表示されている場合は、CHANNELキーを押してCHANNEL画面に切り換えてください。

補足

動作モードがADMINの場合、CHANNELキーはCHANNEL画面、EQ画面、DYN画面の切り換えにも使われます。CHANNEL画面が表示されていない場合は、液晶左下のCHANNELキーをさらに数回押してください。

- 2 D-NOTCHアサイン表示欄にDN1~4のいずれかが表示されていることを確認する。
ダイナミックノッチを使用できないチャンネルを選択すると、DN1~4は表示されません。この場合、別途設定が必要です (CHANNEL MONO-IN画面→69ページ)。

- 3 カーソルをD-NOTCHボックスのON/OFFボタンに合わせ、ENTERキーを押す。
ENTERキーを押すたびに、ボタンの表示がONまたはOFFに切り換わります。ダイナミックノッチを使用するときはONにします。ONにすると、選択したチャンネルのNOTCHランプが点灯します。
- 4 ハウリング周波数の検出状況を確認する。
D-NOTCH検出ポイント表示部の4個のボックスで現在のダイナミックノッチの動作状態を確認できます。黒はハウリング周波数検出済み、点滅は現在検出中を示します。白いボックスの数だけ新たにハウリング周波数を検出できます。

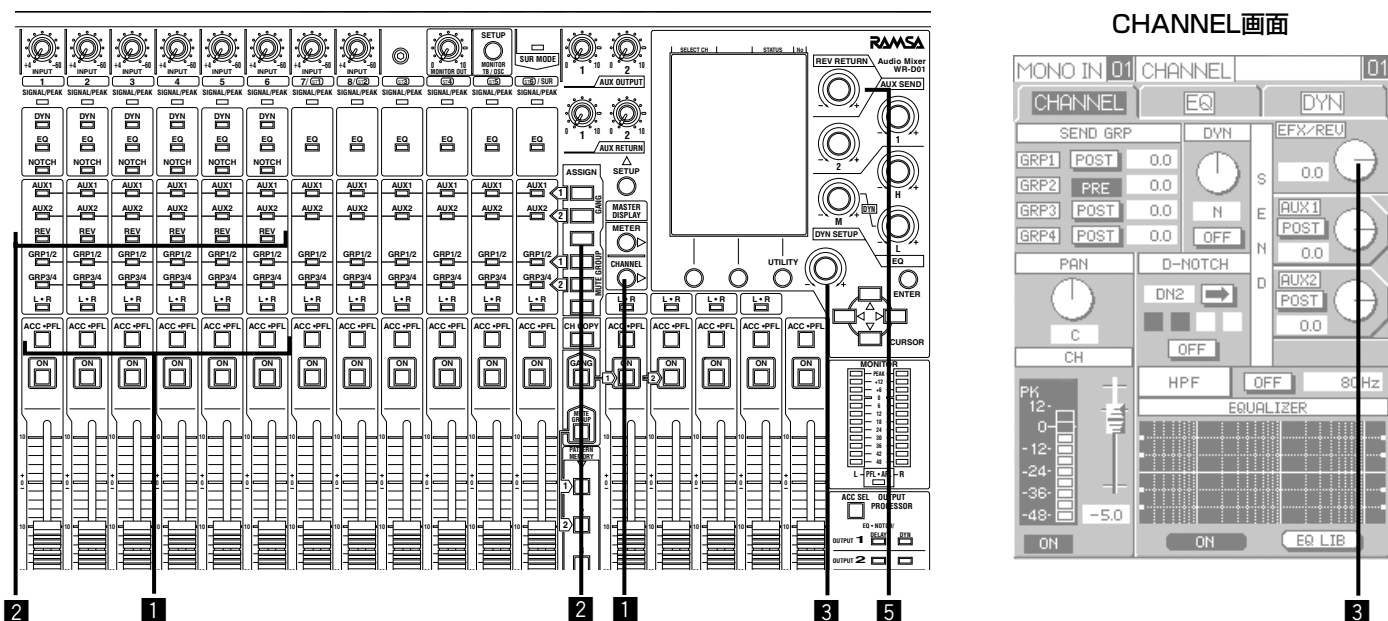
リバーブを使う (REVERB, REV)

リバーブを使用して、入力した音声に残響効果を与えることができます。リバーブはモノラル入力チャンネルに設定できます (MONO7~8チャンネルを除く)。

ここでは、メインLRバスに出力されているマイクの音声にリバーブをかける方法を例にとって説明します。

重要

本機のリバーブはボーカルなどの音声を主用途として調整されています。ドラム等、声以外の音声に適用した場合、不自然な音になる場合があります。



- 1 設定したい入力チャンネルのACC・PFLキーを押して選択する。
→液晶にそのチャンネルのCHANNEL画面が表示されます。METER画面などCHANNEL画面以外が表示されている場合は、CHANNELキーを押してCHANNEL画面に切り換えてください。

補足

動作モードがADMINの場合、CHANNELキーはCHANNEL画面、EQ画面、DYN画面の切り換えにも使われます。CHANNEL画面が表示されていない場合は、液晶左下のCHANNELキーをさらに数回押してください。

- 2 REVアサインキーを押す。
REVアサインキーを押すたびに、選択した入力チャンネルのREVランプの点灯/消灯が切り換わります。REVバスに送出する場合は点灯状態にします。

音を加工する（つづき）

- 3 CHANNEL画面のEFX/REVセンドノブにカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回す。パラメーター調整つまみで、リバーブへの送出レベルを調節します。はじめは中央付近に合わせ、手順5まで行った後で微調整してください。
- 4 その他のチャンネルにリバーブを設定したいときは、手順1～3の操作を繰り返してください。
- 5 液晶画面右上のREV RETURNつまみを回す。残響音の全体レベルを調節することができます。適当な残響音がかかるように調整してください。チャンネル間で残響音のバランスが悪いときは、チャンネルごとにEFX/REVセンドノブ（手順3）を調節します。

補足

- 工場出荷時、リバーブの残響音はメインLRバスに送出されます。残響音には「原音」が含まれていません。リバーブの対象となっているチャンネルの音声も必ずメインLRバスに送出してください。（バスに信号を送出する→32ページ）
- メインLR以外のバスにリバーブの残響音を出力させたり、残響のパターンを変更したりすることもできます。詳しくはREVERB画面（→91ページ）をお読みください。
- リバーブへの送出用バス（これをREVバスと言います）は、EFXバスと共用です。リバーブを使用する場合は、EFXバスを使用しないでください。EFXバスの使いかた→37ページ

アウトプットプロセッサーを使う

本機は8チャンネルのアウトプットプロセッサーを装備しています。アウトプットプロセッサーで、以下の効果を設定できます。

- 出力レベル、ファインレベル（レベルの微調整）
- 3バンドPEQ（プリノッチを使用しない場合は8バンドPEQとして使用可能）
- プリノッチ
- ディレイ
- ダイナミクス（コンプレッサー、1、2チャンネルのみ）

イコライザー・プリノッチ・ディレイ・ダイナミクスの設定状態・動作状態は、OUTPUT部各チャンネルのランプで確認できます。

○：設定 ×：未設定

EQ・NOTCH/DELAYランプの色	イコライザーまたはプリノッチ※	ディレイ
消灯	×	×
緑	○	×
赤	×	○
橙	○	○

※イコライザーまたはプリノッチのいずれか（または両方）が設定されている場合です。

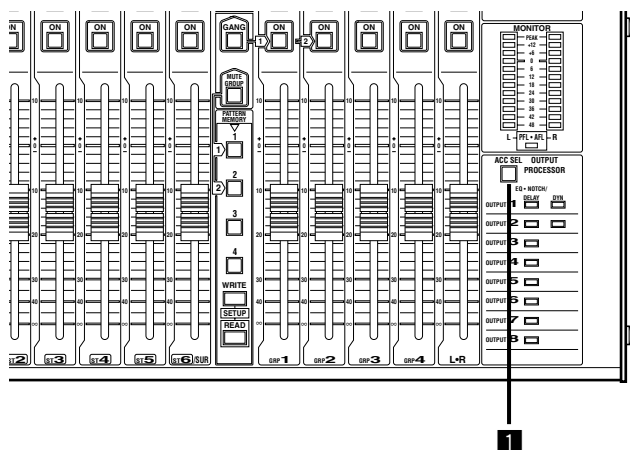
DYNランプの色	ダイナミクス（コンプレッサー）
消灯	未設定
緑	設定されているが、動作していない
赤	動作中

補足

工場出荷時、アウトプットプロセッサと出力バス、出力端子の関係は以下のように設定されています。アウトプットプロセッサが使用する出力端子は、必要に応じて変更できます。(UTILITY画面No.003→107ページ)

アウトプットプロセッサ	割り当てられているバス	使用する出力端子
OUTPUT1	メインL	OUTPUT1 (MAIN L)
OUTPUT2	メインR	OUTPUT2 (MAN R)
OUTPUT3~OUTPUT6	GRP1~4	OUTPUT3 (GRP1) ~OUTPUT6 (GRP4)
OUTPUT7	AUX1	OUTPUT7 (AUX OUT1)
OUTPUT8	AUX2	OUTPUT8 (AUX OUT2)

アウトプットプロセッサの設定は、CHANNEL-OUTPUT画面で行います。この画面は、以下の手順で表示できます。画面の詳細は77ページをお読みください。



- 1 アウトプットプロセッサ部のACC SELキーを押す。
 →CHANNEL-OUTPUT画面が表示されます。液晶にそのチャンネルのCHANNEL画面が表示されます。METER画面などCHANNEL画面以外が表示されている場合は、CHANNELキーを押してCHANNEL画面に切り換えてください。
 ACC SELキーを押すたびに、設定するチャンネルをOUTPUT1 → OUTPUT2 → … → OUTPUT8 → OUTPUT1の順に選択できます。

補足

動作モードがADMINの場合、CHANNELキーはCHANNEL画面、EQ画面、DYN画面の切り換えにも使われます。CHANNEL画面が表示されていない場合は、液晶左下のCHANNELキーをさらに数回押してください。

その他の機能

本機には、この他にも以下のような機能があります。ここでは以下の機能について説明します。

- ギャンググループ (GANG、GANG GROUP) →本ページ
- ミュートグループ (MUTE GROUP) →57ページ
- チャンネルコピー (CH COPY) →59ページ
- パターンメモリー (PATTERN MEMORY、PTN) →60ページ
- EQライブラリ (EQ LIB) →61ページ
- DYNライブラリ (DYN LIB) →61ページ
- RS-422端子を使用した外部制御→62ページ
- REMOTE端子を使用した外部制御→63ページ

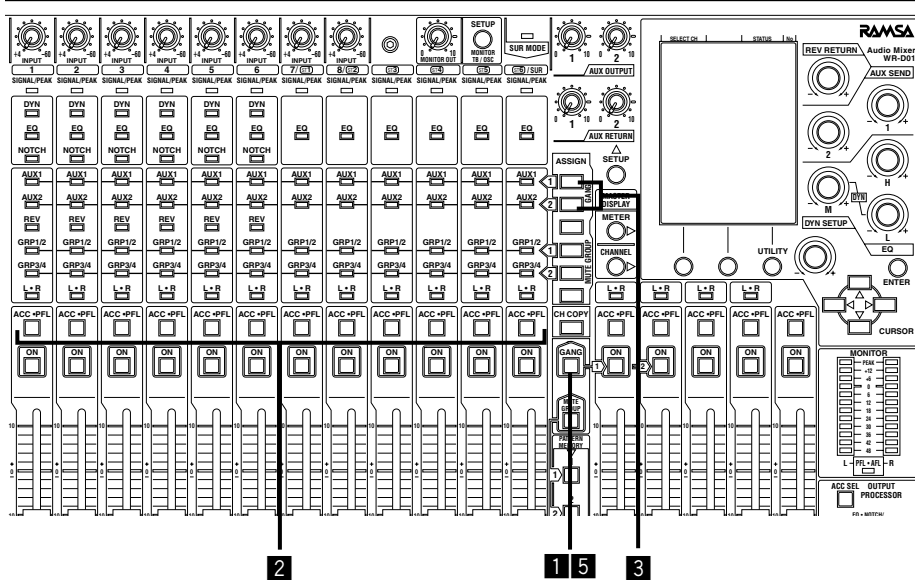
ギャンググループを使う (GANG)

ギャンググループを使用すると、1つのフェーダーで複数の入力チャンネルの入力レベルを同時に変更することができます。2種類のギャンググループを登録し、実行させることができます。

登録のしかた

補足

ギャンググループの登録中 (GANGキー点滅中) は、ギャンググループへの登録/解除以外の操作はできません。



- 1** GANGキーを、ランプが点滅するまで押し続ける (2秒程度)。→ギャンググループへの登録が可能になります。
- 2** ギャンググループに登録する入力チャンネルのACC・PFLキーを押す。→入力チャンネルが選択され、ACC・PFLキーが点滅します。
- 3** GANGアサインキー1または2を押す。
ギャンググループ1に登録するときはGANG1アサインキーを押します。ギャンググループ2に登録するときはGANG2アサインキーを押します。キーを押すたびに選択したチャンネルのAUX1 (またはAUX2) ランプが点滅/消灯します。登録するときは点滅、登録を解除するときは消灯にします。

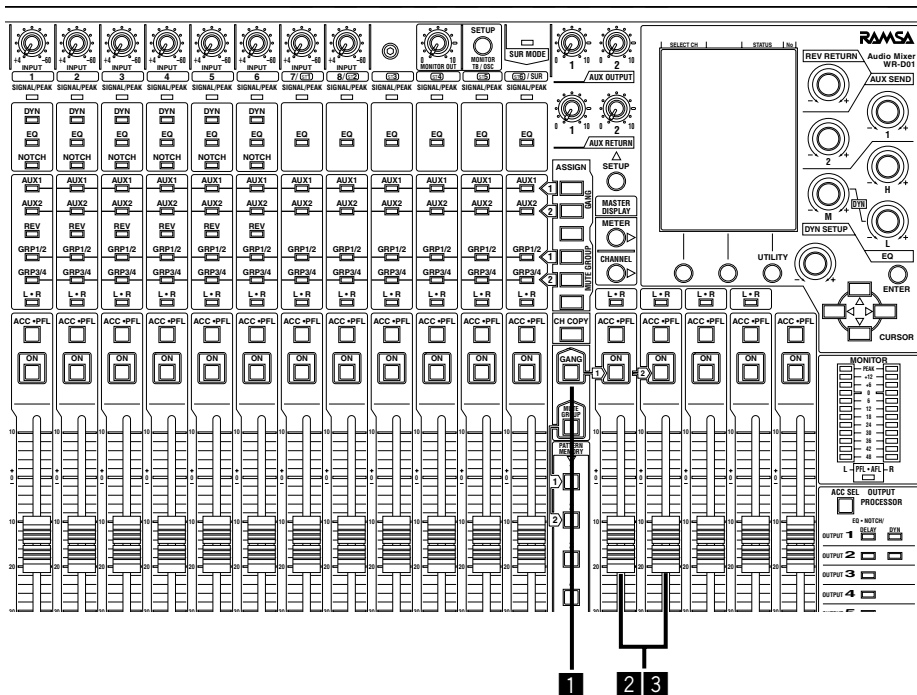
- 4 その他のチャンネルを登録したいときは、手順2~3の操作を繰り返してください。
- 5 GANGキーを押し、ランプを消す。
→AUX1ランプまたはAUX2ランプの点滅しているチャンネルがギャンググループに登録され、通常の操作が行えるようになります。

補足

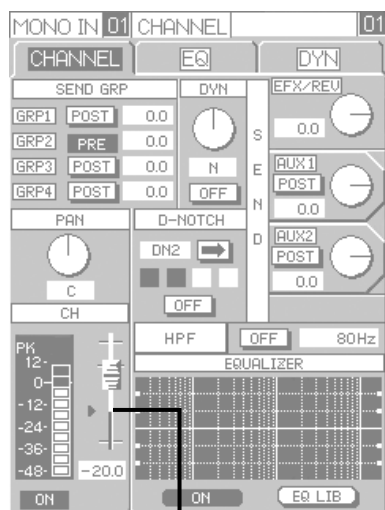
モノラル入力・ステレオ入力の各チャンネルをギャンググループに登録できます。出力フェーダー部の各チャンネルは登録できません。サラウンドモードの場合はサラウンドチャンネルも登録できます。

操作のしかた

ギャンググループ1はGRP1、ギャンググループ2はGRP2のフェーダーとONキーを使用します。これらをギャングマスターフェーダーおよびギャングONキーと呼びます。



MONO1のCHANNEL画面を表示したときの画面例



合致点 (点滅)

- 1 GANGキーを短く押し、ランプを点灯させる。
→ギャングONキー1および2が点滅します。
- 2 ギャングマスターフェーダーを0 dBの位置に合わせる。
0 dBの位置に移動されるまではギャングマスターフェーダーは動作しません。0 dBの位置に来た時点でギャングONキーの点滅が停止し、以降の操作でギャングマスターフェーダーが有効になります。
- 3 ギャングマスターフェーダーを操作して、入力レベルを調節する。
ギャンググループに登録したチャンネルの入力レベルが同時に変化します。

その他の機能（つづき）

補足

● ギャンググループに登録されているチャンネルの音声出力を同時にON/OFFにする

ギャングON 1または2キーを押してOFF(ランプ消灯)にすると、OFFにしたギャンググループに登録されているチャンネルの音声出力を停止することができます。再度押してON(ランプ点灯)にすると、ギャンググループに登録されているチャンネルの音声を出力させることができます。

● 各チャンネルのONキーで個別に音声出力をON/OFFすることもできますが、ギャングONキーの点灯状態は変化しません。

・個別のONキー操作が行われた場合でも、ギャングONキーを操作すると、すべてのチャンネルの音声出力が一括でON/OFFされます。

● ONキーの点滅について

ギャンググループの実行中、下記の操作でONキーが点滅します。これはフェーダー位置が実際のレベルと合っていないことを示しています。

・手順1でギャンググループの実行を開始したとき（特別な場合を除き、GANG ONキーが点滅します）

突然の音量変化を防ぐため、ギャンググループの実行はギャングマスターフェーダーが0 dBの位置にある状態からスタートします。したがってギャンググループの実行開始時点でギャングマスターフェーダーが厳密に0 dBの位置にない限り、ここでフェーダーの位置が実際のレベル（0 dB）と合わなくなります。

・ギャングマスターフェーダーを操作したとき（ギャンググループに属するチャンネルのONキーが点滅します）

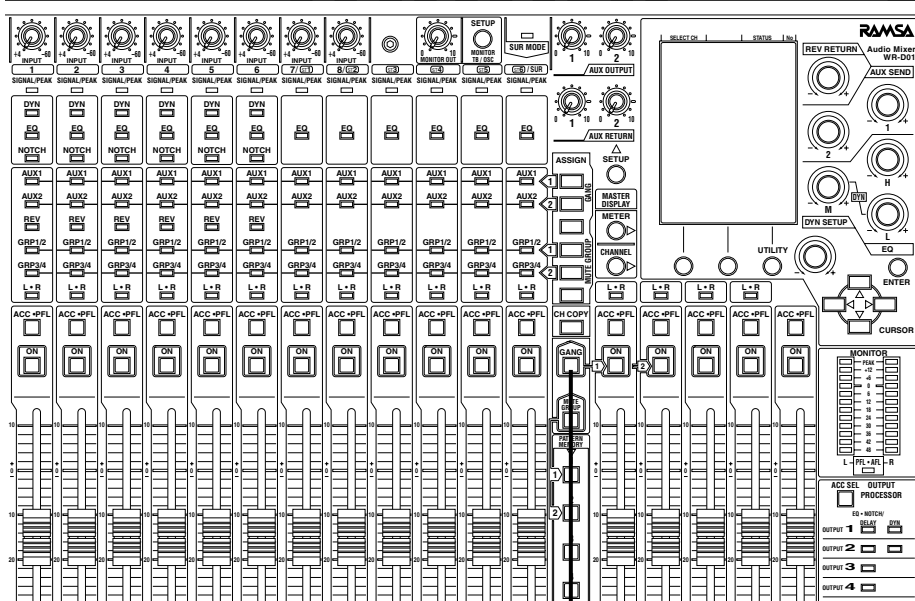
ギャングマスターフェーダーの操作量だけ各入力チャンネルのレベルが変化するため、フェーダー位置と送出レベルにズレが生じます。

● ONキーが点滅している場合

前ページの画面例のようにそのチャンネルのCHANNEL画面（ギャングマスターフェーダーはGRP1または2のCHANNEL画面）のフェーダーに合致点が表示され、点滅します。合致点の位置が、実際に送出されているレベルを表しています。合致点を通過するように各フェーダーを操作すると、合致点を通過した瞬間にONキーが消灯（または点灯）し、フェーダーが有効になります。合致点を通過するまで、フェーダーの操作は送出レベルに反映されません。ONキーの点滅は、この他にも電源OFF時にフェーダーが操作された場合やパターンメモリの読み込み、本機を外部から制御された場合などに発生します。

● ギャンググループ実行中（GANGキー点灯中）もグループ1および2バスの設定は有効ですが、ON/OFFとフェーダー操作、PFL操作（→45ページ）はできません。

終了のしかた



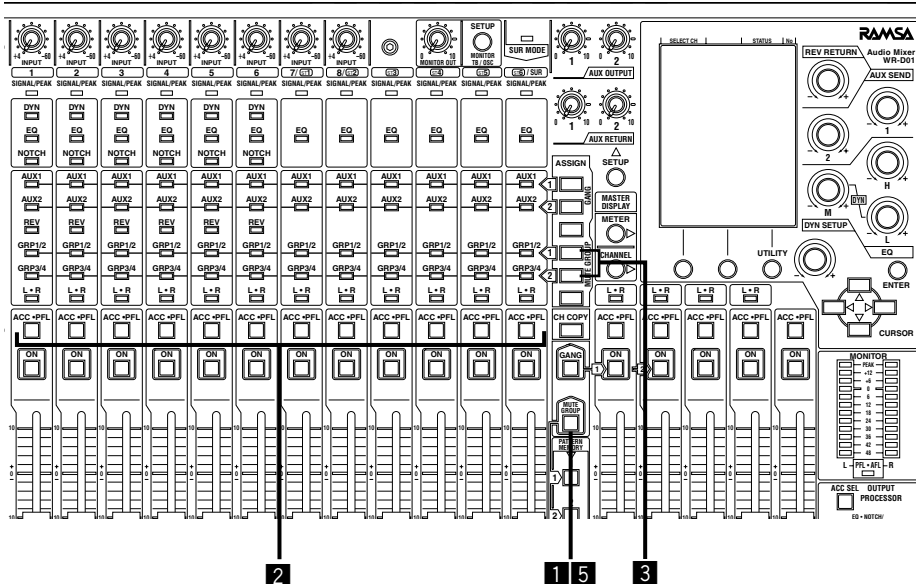
1 GANGキーを短く押す。

→GANGキーが消灯し、ギャンググループの実行が終了します。

ミュートグループを使う (MUTE GROUP)

ミュートグループは、複数の入力チャンネルの音声出力 (ONキー) を1つのグループにまとめて同時にON/OFFする機能です。2種類のミュートグループを登録し、実行することができます。

登録のしかた



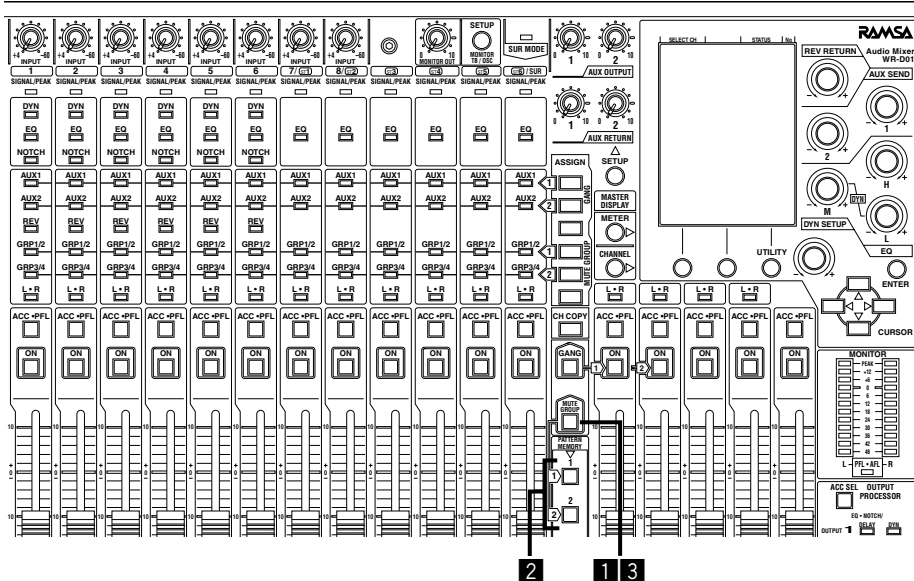
- 1 MUTE GROUPキーを、ランプが点滅するまで押し続ける (2秒程度)。→ミュートグループへの登録が可能になります。
- 2 ミュートグループに登録する入力チャンネルのACC・PFLキーを押す。→入力チャンネルが選択され、ACC・PFLキーが点滅します。
- 3 MUTE GROUPアサインキー1または2を押し、登録するミュートグループを選択する。ミュートグループ1に登録するときはMUTE GROUP1アサインキーを押します。ミュートグループ2に登録するときは、MUTE GROUP2アサインキーを押します。キーを押すたびに選択したチャンネルのGRP1/2 (またはGRP3/4) ランプが点滅/消灯します。登録するときは点滅、登録を解除するときは消灯にします。
- 4 その他のチャンネルを登録したいときは、手順2~3の操作を繰り返してください。
- 5 MUTE GROUPキーを押し、ランプを消す。GRP1/2またはGRP3/4ランプの点滅しているチャンネルがミュートグループに登録され、通常の操作が行えるようになります。

補足

- ミュートグループの登録中 (MUTE GROUPキー点滅中) は、ミュートグループへの登録/解除以外の操作は行うことができません。
- 1つのチャンネルを同時に2つのミュートグループへ登録することはできません。

その他の機能（つづき）

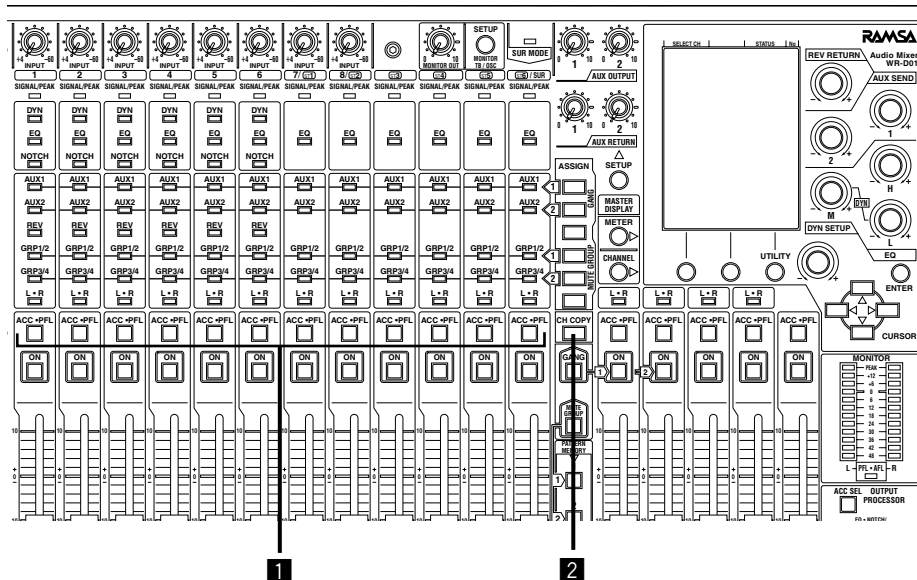
操作のしかた



- 1 MUTE GROUPキーを短く押し、ランプを点灯させる。
- 2 MUTE GROUP実行1または2キーを押す。
→押したMUTE GROUPキーが点灯し、そのミュートグループに登録されているチャンネルの音声出力（ONキー）がすべてOFFになります。再度MUTE GROUP実行キーを押して消灯させると、今度はすべてONになります。
- 3 ミュートグループの使用を終了する場合は、MUTE GROUPキーを短く押ししてランプを消す。

設定情報を他のチャンネルにコピーする (CH COPY)

入力チャンネルの設定情報（バスへの送出、イコライザーやダイナミクスの設定など）を、同じ種類の他のチャンネルにコピーすることができます。



- 1** コピー元となるチャンネルのACC・PFLキーを押して選択する。
→ACC・PFLキーが点灯します。
- 2** CH COPYキーを押しながら、コピー先となるチャンネルのACC・PFLキーを押す。
→コピーが成功すると、コピー先のACC・PFLキーが約1秒間点滅します。点滅しなかった場合、コピーは失敗しています。以下の「補足」の内容を確認してください。

補足

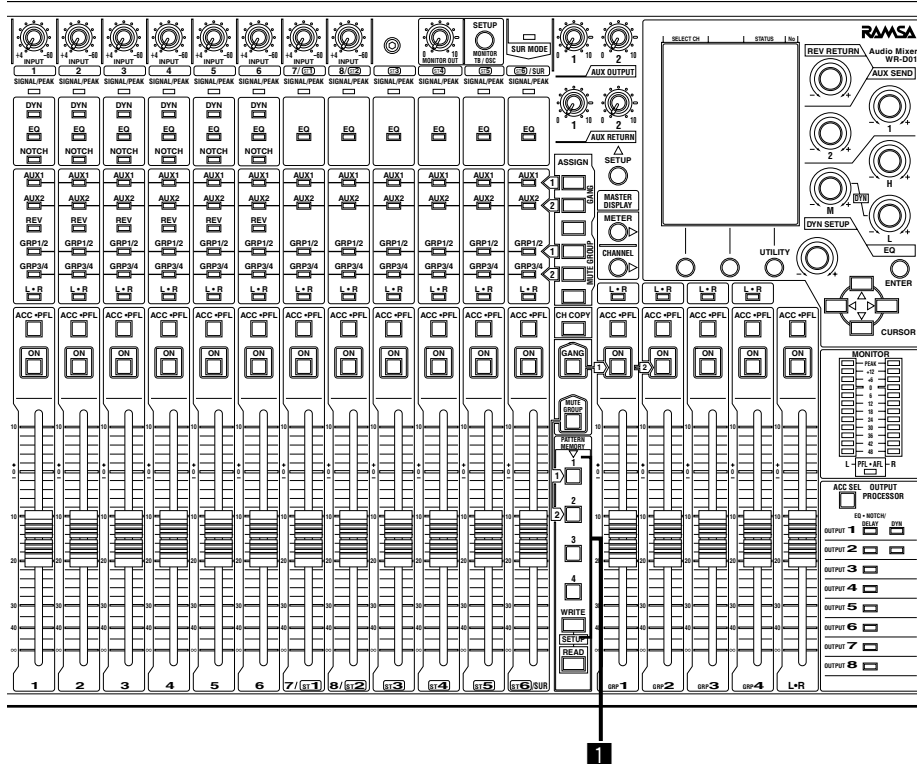
- 以下に示すチャンネル間で設定情報をコピーすることはできません。
 - ・モノラル入力チャンネルとステレオ入力チャンネル間のコピー
 - ・入力チャンネルと出力チャンネル（グループバス、メインLRバス）間のコピー（MONO7および8チャンネルを除く）
 - ・出力チャンネル同士のコピー
 - ・MONO7および8チャンネルと他のモノラル入力チャンネル間のコピー。代わりに、MONO7またはMONO8チャンネルはステレオ入力チャンネルとの間でコピーできます。
 - ・サラウンドモード（サラウンド入力を使用する→34ページ）のとき、サラウンドチャンネルと他のチャンネルとの間のコピー
- INPUTつまみの位置、フェーダーのレベル、ONキーの状態、ダイナミックノッチの設定状態、ミュートグループ、およびギャンググループの登録状態はコピーされません。
- MONO5～6チャンネルでダイナミクスにオートマイクレベルコントローラーが設定されている場合、MONO5～6チャンネルを他のモノラル入力チャンネルへコピーすると、オートマイクレベルコントローラーの情報はコピーされず、代わりにコンプレッサーの情報がコピーされます。
逆に他のモノラルチャンネルから、オートマイクレベルコントローラーが設定されているMONO5～6チャンネルへコピーした場合、ダイナミクスの種類がコンプレッサーに変更されたうえでコンプレッサーの情報がコピーされます。
MONO5～6チャンネル間のコピーでは、オートマイクレベルコントローラーの選択状態を含め、ダイナミクスの全設定がコピーされます（ダイナミクス、コンプレッサー、オートマイクレベルコントローラー→48ページ）

パターンメモリーを活用する (PATTERN MEMORY、PTN)

カラオケ用、講演会用など、ある程度決まった設定パターンをメモリーに登録しておくことができます。パターンメモリーに登録した情報は、電源をOFFにしても消去されません。登録したパターンメモリーは簡単な操作で呼び出すことができます。

ここでは、PATTERN MEMORY1~4キーを使用した登録/呼び出し方法について説明します。画面を使って設定する場合、パターンメモリー1~8に登録することができます。(PTN R/W画面→97ページ)

パターンメモリーに登録する

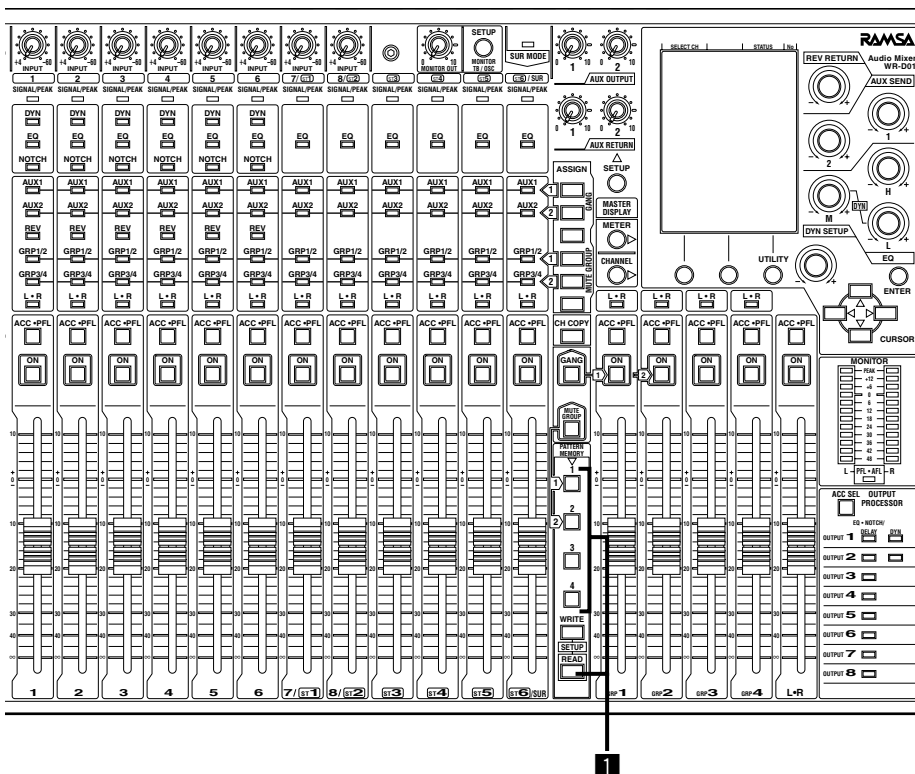


- 1 WRITEキーを押しながらPATTERN MEMORY1~4キーのいずれか一つを押し続ける。
→2秒ほど押し続けると、液晶右上のパターンメモリー番号が点滅し、押したPATTERN MEMORYキーが点灯します。パターンメモリー番号の点滅が止まったら登録完了です。誤操作防止のため登録禁止が設定されている場合、そのパターンメモリー番号には登録できません (パターンメモリー番号、PATTERN MEMORYキーは点滅、点灯しません)。

補足

- すでに登録済みの番号に上記操作を行うと、以前のパターンメモリーの内容は新しい設定状態に上書きされます。古い情報は消去されます。
- 誤消去を防止するため、任意のパターンメモリーを登録禁止に設定することができます。詳細はPTN R/W画面 (→97ページ) をお読みください。
- 各チャンネルのINPUTつまみのレベル、AUX OUTPUTおよびAUX RETURNの各レベル、液晶に表示している画面の種類およびカーソル位置、ミュートグループの設定等は登録できません。詳細はパターンメモリーに記録されるデータ (→100ページ) をお読みください。
- 点灯したPATTERN MEMORYキーは、フェーダーなどの操作により登録した内容と異なる状態になると消灯します。
- ミュートグループ (→57ページ) の実行中、PATTERN MEMORY1~2キーは登録を行っても点灯しません。ミュートグループの状態表示が優先されます。

パターンメモリーを呼び出す



- 1** READキーを押しながら、PATTERN MEMORY 1～4キーのいずれか1つを押す。
→押したPATTERN MEMORYキーが点灯します。点灯したら呼び出し完了です。点灯したPATTERN MEMORYキーは、フェーダーなどの操作により登録した内容と異なる状態になると消灯します。

補足

- パターンメモリーの呼び出し処理中、設定内容と異なる音声が一瞬出力される場合があります。
- 工場出荷時、すべてのパターンメモリーには本機の工場出荷状態の設定が登録されています。
- パターンメモリーを読み込んだ結果、フェーダー位置と実際のレベルが異なった場合はONキーが点滅し、CHANNEL画面上のフェーダーに合致点マークが表示されます。(ONキーの点滅について→56ページ)
- ミュートグループ (→57ページ) の実行中、PATTERN MEMORY 1～2キーは呼び出しを行っても点灯しません。ミュートグループの状態表示が優先されます。

ライブラリを活用する (EQ LIB、DYN LIB)

動作モード

ADMIN

イコライザーやダイナミクスを設定を8個まで登録し、ライブラリとして蓄えておくことができます。ライブラリに登録された設定は、好きなときに呼び出すことができます。ライブラリの登録、呼び出しはEQ LIB画面 (→101ページ)、DYN LIB画面 (→102ページ) を使用して行います。

本機を外部から制御する

RS-422端子またはREMOTE端子を使用し、本機を外部から制御することができます。

RS-422を使用した外部制御

RS-422のシリアル回線を使い、以下の操作を行うことができます。

- 本機設定データのバックアップ／リストア（→130ページ）
- 本機のリモコン制御
- 本機操作状況の出力

また、本機を複数台接続して一括制御したり、ある機器の設定データを他へコピーすることも可能です。RS-422端子の様子は157ページをお読みください。

接続方法や制御方法などの詳細は販売店へお問い合わせください。

補足

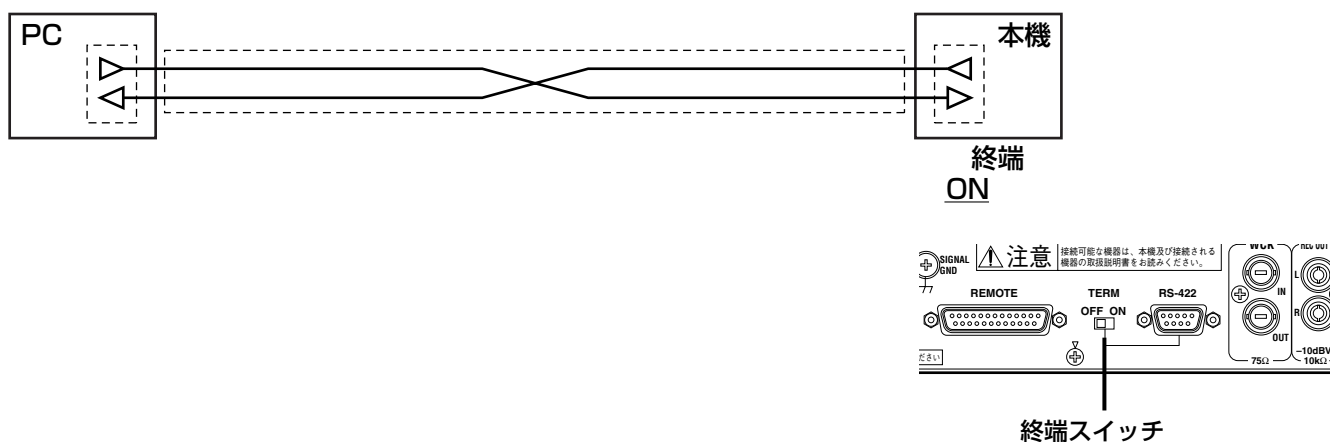
- RS-422端子を使用する場合、UTILITY画面でNo.009 CTRL CONFのRS422、No.010 RS422 SETおよびNo.011 RS422 BULKを正しく設定する必要があります。（→110ページ）
- 本機をパーソナルコンピューターなどでリモートコントロールしたり、本機の動作状況をモニターしたりするためには、本機の通信データフォーマットに基づいて専用の制御ソフトウェアを別途作成する必要があります。通信データフォーマットの仕様については販売店へお問い合わせください。

1対1接続の場合の接続方法

クロスケーブルを使用します。本機後面の終端スイッチをONにします。

重要

電源ONの状態ですべてのスイッチを切り換えると、シリアル通信が正常に行えなくなる場合があります。終端スイッチの切り換えは、必ず電源OFFの状態で行ってください。

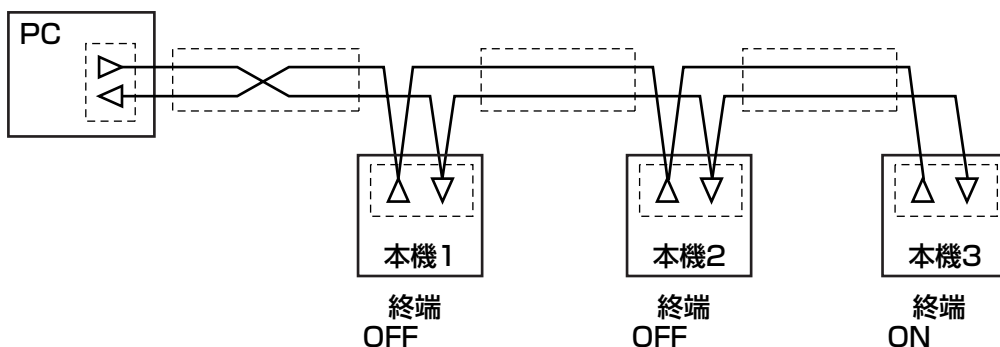


本機を複数台接続して、パソコンなどで一括制御する場合の接続方法

複数台に同じ設定を行う場合に便利です。また、シリアル制御で、複数の機器のパターンを同時に切り換えることができます。最大8台までの機器（本機8台またはパソコン1台+本機7台）を接続することができます。接続には、マルチドロップケーブルを使用します。また、最後につながる機器の終端スイッチをONにします。

重要

電源ONの状態ですべての終端スイッチを切り換えると、シリアル通信が正常に行えなくなる場合があります。終端スイッチの切り換えは、必ず電源OFFの状態で行ってください。



REMOTE端子を使用した外部制御

REMOTE端子に別途用意したスイッチやボリュームを接続して、以下のような制御を行うことができます。

- パターンメモリの呼び出し（CONT1-IN～CONT8-IN、最大8系統）
- フェーダーまたはアウトプットプロセッサの音量制御（CONT1-IN～CONT8-IN（スイッチを押すごとに1ステップ増加または減少を指定可能、最大8系統）、VCA1～4（ボリュームによる多段階制御、最大4系統））
- フェーダースタート信号出力※（CONT1-OUT～CONT8-OUT、最大8系統）
- パターンメモリの呼び出し通知（CONT1-OUT～CONT8-OUT、最大8系統）
- 本機の状態出力（STATUS、本機が正常動作しているときはLOWが出力される）

※フェーダーが最小位置から上げられたとき、フェーダー操作と同期してVTR等の機器をスタートさせる等の用途で出力される信号です。

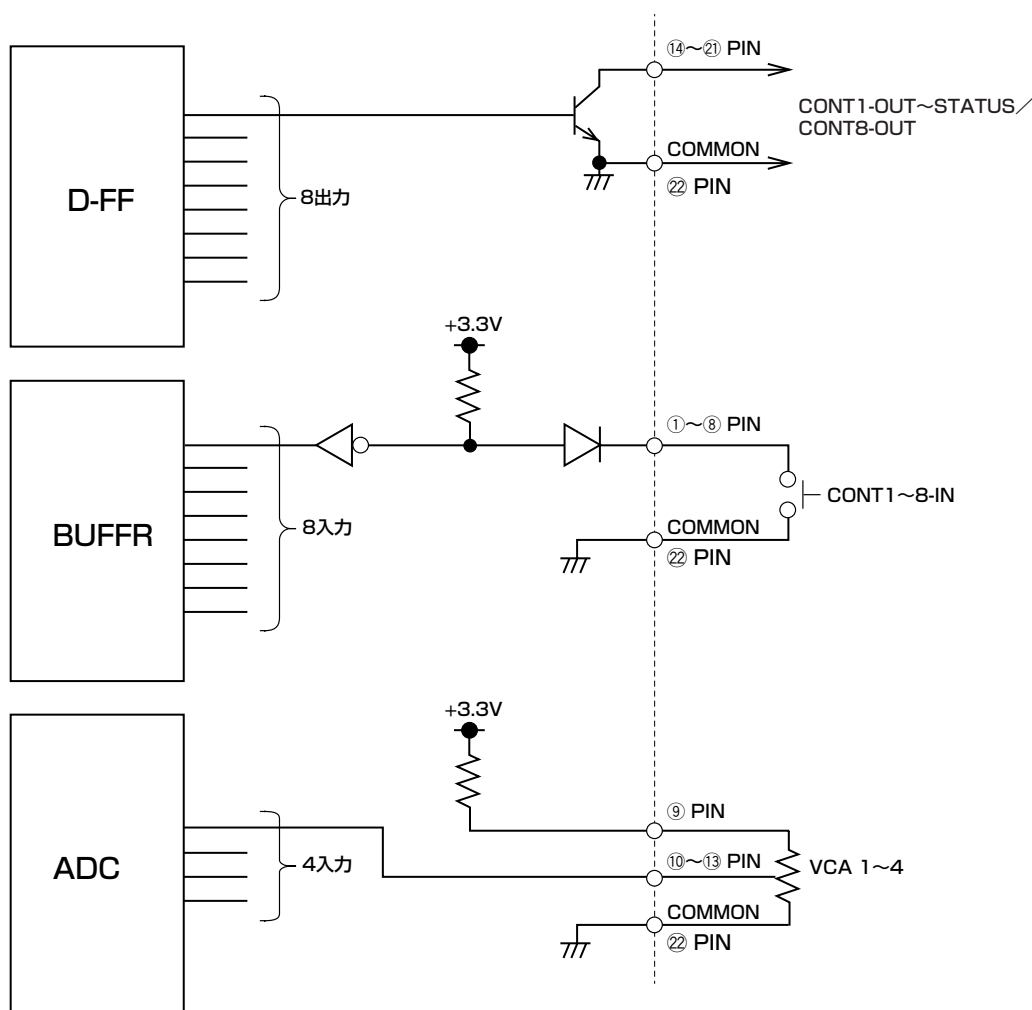
詳しくは販売店へお問い合わせください。

補足

- CONT8-OUTは、STATUS信号とピンを共有しているため、同時に使用することはできません。
- REMOTE端子を使用する場合、UTILITY画面でNo.009 CTRL CONFのRMT IN、RMT OUT、VCA INおよびNo.012～019 RMT IN1～8、No.020～023 RMT VCA1～4、No.024～031 RMT OUT1～8の各項目を正しく設定する必要があります。（→110、113ページ）
- REMOTE端子に接続する機器は別途製作する必要があります。ピン配置などの詳細は157ページをお読みください。
- VCA1-4端子にボリュームを接続して音量制御を行うと、本体のフェーダーはONキーが点滅してレベル不一致の状態になります。しかし、本体のフェーダーを操作して音量制御を行うと、外部ボリュームはレベル不一致の状態にはなりません。従って、この後、外部ボリュームを操作すると、音が突然大きくなったり、小さくなったりすることがあります。（ONキーの点滅について→56ページ）

REMOTE端子に接続する接続機器の等価回路、接続方法および各端子の定格、条件等について次ページに示します。ピン配置については、158ページを参照してください。

その他の機能（つづき）



CONT1~8-IN（接点入力）

【機能】 外部SWによるパターンメモリの呼び出し
任意のフェーダー（最大4系統）の音量UP/
DOWN（トリガエッジ/レベルセンスの切り
換え可能）

【仕様】 回路形式 : CMOS
内部プルアップ : 10k Ω / 3.3 V
最大入力電圧 : +24 V
推奨ケーブル : 一括シールド多芯ケーブル
カナレ製D202-12P相当品

CONT1-OUT~STATUS/CONT8-OUT（接点出力）

【機能】 卓上パターン制御に連動したパターン制御出力
任意の入出力chのフェーダースタート出力
（パルス出力/レベル出力の切り換え可能）

【仕様】 回路形式 : オープンコレクタ
内部プルアップ : 10 mA
最大入力電圧 : +24 V
推奨ケーブル : 一括シールド多芯ケーブル
カナレ製D202-12P相当品

VCA1~4（VCA入力）

【機能】 外部VRによる任意の入出力chフェーダー
（最大4系統）の音量制御

【仕様】 推奨ボリューム : 10k Ω Bカーブ
推奨ケーブル : 一括シールド多芯ケーブル
カナレ製D102-6ALV相当品

※VRの3ピンにはREMOTE端子9ピンの+3.3 Vを
接続してください。

※REMOTE端子9ピンからVR以外に電源を供給し
ないでください。

補足

- 全システムともに、往復の線路抵抗が100 Ω以内となる長さでお使いください。
- D202-12P、D102-6ALVをご使用の場合、ケーブルの半導体抵抗値=11.2 Ω / 100 mですので、最大延長距離は446 mとなります。

各機能をご使用になる場合は、それぞれを個別の多芯シールドとし、長方形クランプタイプのDSUBソケット（日本航空電子製DB24659相当品）をご使用ください。

画面説明

ここでは、本機の液晶に表示される各画面の機能について説明します。画面の基本的な操作のしかたは29ページをお読みください。

METER画面

この画面で、各種信号のレベルをレベルメーターで確認できます。

表示のしかた

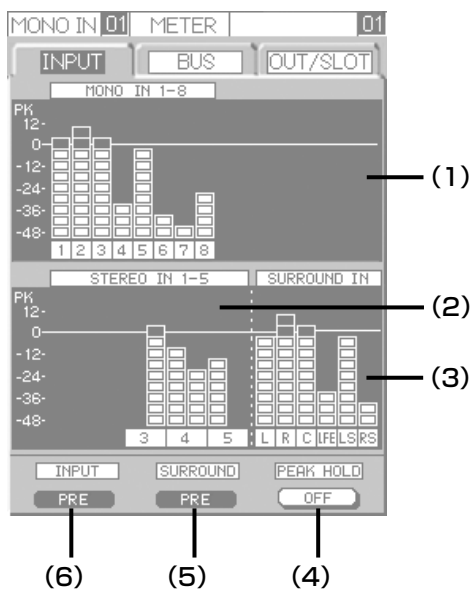
METERキーを押して行います。

METER画面には、METER-INPUT、METER-BUS、METER-OUT/SLOTの3種類があります。METERキーを押すたびにこの順序で画面が切り換わります。他の画面が表示されているときにMETERキーを押すと、最後に表示したMETER画面が表示されます。

補足

本機をしばらく操作しなかった場合、自動的に最後に表示していたMETER画面を表示するように、UTILITY画面で設定できます。(No.101→116ページ)

METER-INPUT画面



補足

左の画面はUTILITY画面により、下記の設定が行われた状態を示しています。

- MONO INPUT7または8端子を使用する
- サラウンドモード：ON

UTILITY画面の設定によっては、以下のように異なる画面が表示されます。

- STEREO INPUT1、2端子を使う設定にすると、STEREO INメーターに1、2チャンネルのレベルメーターが追加されます。また、MONO INメーターの7、8チャンネルは表示されません。
- サラウンドモードがOFFの場合、SURROUND INのレベルメーターは表示されません。代わりにSTEREO INメーターに6チャンネルのレベルメーターが表示されます。

レベルメーターの表示単位 (dB/dBFS) はUTILITY画面 (No.102→117ページ) で切り換え可能です。

(1) MONO INメーター

モノラル入力チャンネルの入力レベルを表示します。

(2) STEREO INメーター

ステレオ入力チャンネルの入力レベルを表示します。

(3) SURROUND INメーター

サラウンド音声の入力レベルが表示されます。本機をサラウンドモードで使用しているときだけ表示されます。

画面説明 (つづき)

(4) INPUT (PRE/POST) ボタン

MONO IN、STEREO INのメーターにプリフェーダーのレベルを表示しているときはPRE、ポストフェーダーのレベルを表示しているときはPOSTが表示されます。

設定1キーを押して、PREまたはPOSTに切り換えることができます。

(5) SURROUND (PRE/POST) ボタン

SURROUNDのメーターにプリフェーダーのレベルを表示しているときはPRE、ポストフェーダーのレベルを表示しているときはPOSTと表示されます。

設定2キーを押して、PREまたはPOSTに切り換えることができます。

UTILITY画面でサラウンドモードがOFFに設定されている場合、本ボタンは表示されません。

補足

メーターごとに、PRE、POSTを切り換えることはできません。

(6) PEAK HOLD (ON/OFF) ボタン

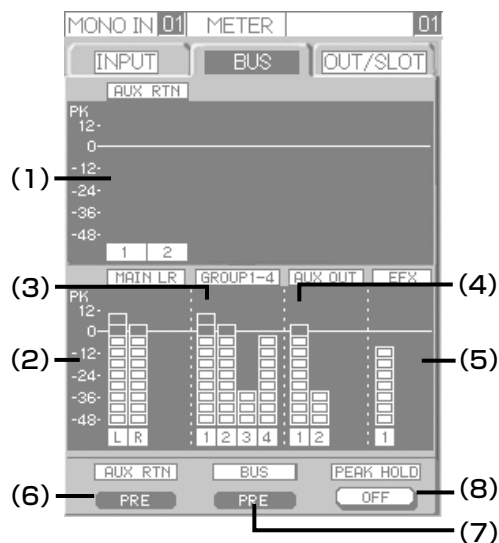
ピークホールドを行っているときはONが、ピークホールドを行っていないときはOFFが表示されます。

設定3キーを押して、ON/OFFを切り換えることができます。工場出荷時、ピークレベルの保持時間は2秒に設定されています。この時間は、UTILITY画面で変更できます。(No.102→117ページ)

補足

ピークホールドON/OFFを切り換えると、操作パネルのレベルメーターを含めたすべてのメーターの表示が一括で切り換わります。

METER-BUS画面



(1) AUX RTNメーター

AUX RETURN端子の入力レベルが表示されます。本機をサラウンドモードで使用しているときは表示されません。

(2) MAIN LRメーター

MAIN LおよびRバスの信号レベルが表示されます。

(3) GROUPメーター

グループ1～4バスの信号レベルが表示されます。

(4) AUX OUTメーター

AUXバス1～2の信号レベルが表示されます。

(5) EFXメーター

EFXバスの信号レベルが表示されます。

(6) AUX RTN (PRE/POST) ボタン

AUX RTNのメーターにプリフェーダーのレベルを表示しているときはPRE、ポストフェーダーのレベルを表示しているときはPOSTと表示されます。

設定1キーを押して、PREまたはPOSTに切り換えることができます。

(7) BUS (PRE/POST) ボタン

MAIN LR、GROUP、AUX OUT、EFXのメーターにプリフェーダーのレベルを表示しているときはPRE、ポストフェーダーのレベルを表示しているときはPOSTが表示されます。

設定2キーを押して、PRE/POSTを切り換えることができます。

補足

メーターごとに、PRE、POSTを切り換えることはできません。

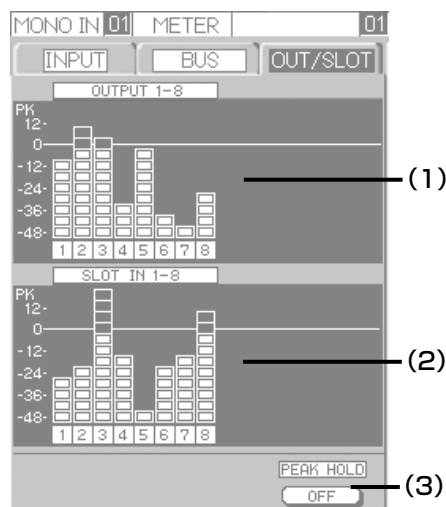
(8) PEAK HOLD (ON/OFF) ボタン

ピークホールドを行っているときはONが、ピークホールドを行っていないときはOFFが表示されます。

設定3キーを押して、ON/OFFを切り換えることができます。工場出荷時、ピークレベルの保持時間は2秒に設定されています。この時間は、UTILITY画面で変更できます。(No.102→117ページ)

補足

ピークホールドON/OFFを切り換えると、操作パネルのレベルメーターを含めたすべてのメーターの表示が一括で切り換わります。

METER-OUT/SLOT画面**(1) OUTPUTメーター**

各OUTPUT端子に出力している信号の出力レベルが表示されます。

(2) SLOT INメーター

拡張カードの各チャンネルに入力している信号のレベルが表示されます。別売りの拡張カードをスロットに増設したときにだけ表示されます。

(3) PEAK HOLD (ON/OFF) ボタン

ピークホールドを行っているときはONが、ピークホールドを行っていないときはOFFが表示されます。

設定3キーを押して、ON/OFFを切り換えることができます。工場出荷時、ピークレベルの保持時間は2秒に設定されています。この時間は、UTILITY画面で変更できます。(No.102→117ページ)

補足

ピークホールドON/OFFを切り換えると、操作パネルのレベルメーターを含めたすべてのメーターの表示が一括で切り換わります。

CHANNEL画面

イコライザーやダイナミクスなどの機能をチャンネルごとに設定することができます。画面はチャンネルの入力種別などによって異なります。

表示のしかた

ACC・PFLキーを押すと、操作したチャンネルの画面が液晶に表示されます。表示される画面はCHANNEL画面、EQ画面、DYN画面のいずれかで、前回の画面を表示していたかにより変わります。

CHANNEL画面は、選択しているチャンネルごとに設定内容が異なります（下表）。表示するチャンネルはACC・PFLキー（アウトプットプロセッサ—ACC SELキー）で選択します。画面の切り換えはCHANNELキーで行います。

チャンネルの種類	対応するCHANNEL画面	CHANNELキーで切り換わる画面※3
モノラル入力（MONO7およびMONO8は除く※1）	CHANNEL-MONO IN	CHANNEL→EQ→DYN
ステレオ入力（MONO7およびMONO8※1）	CHANNEL-ST IN	CHANNEL→EQ
サラウンド入力（ST6/SUR）※2	CHANNEL-SUR IN	
グループバス	CHANNEL-GRP	
メインL・Rバス	CHANNEL-LR	
アウトプットプロセッサ（1-2チャンネル）	CHANNEL-OUTPUT	CHANNEL→EQ→DYN
アウトプットプロセッサ（3-8チャンネル）	CHANNEL-OUTPUT	CHANNEL→EQ

※1：UTILITY画面でMONO7～8チャンネルを使う設定にした場合のみ。なお、MONO7および8の設定はCHANNEL-ST IN画面で行います。

※2：本機がサラウンドモードで動作している場合のみ。

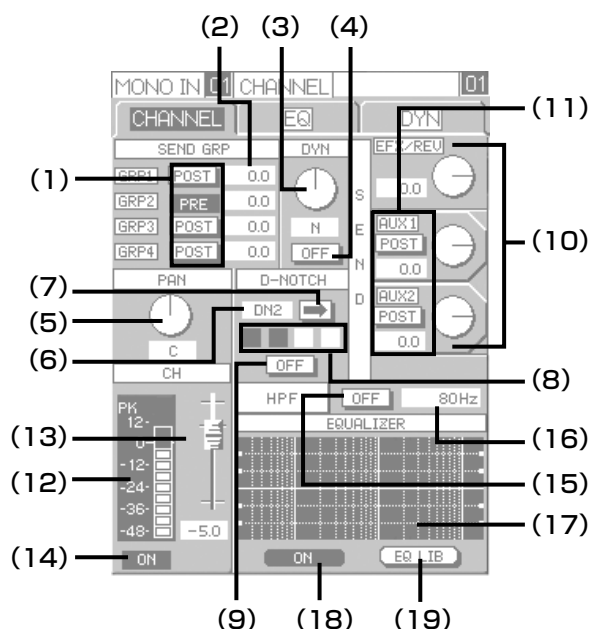
※3：ユーザーモードの場合は、すべてのチャンネルでCHANNEL画面だけが表示されます。

補足

本機をしばらく操作しなかった場合、自動的にCHANNEL画面（ACC・PFLキーが点灯しているチャンネル）を表示するように、UTILITY画面で設定できます（No.101→116ページ）。また、フェーダーを操作したときに、該当チャンネルのCHANNEL画面を表示するように設定することもできます。（No.101→116ページ）

CHANNEL-MONO IN画面

MONO7~8チャンネルを除くモノラル入力チャンネルに関する設定を行うことができます。MONO7~8チャンネルの設定は、CHANNEL-ST IN画面（→71ページ）で行います。



SEND GRPボックス

このボックスでは、グループバスをAUXバスとして使うときの送出に関する設定を行います。UTILITY画面でGRP/AUXパラメーターをAUXに変更したときだけ表示されます。(No.001→105ページ)

(1) GRP1~GRP4 (PRE/POST) ボタン

グループバスにプリフェーダーの信号を送出しているときはPRE、ポストフェーダーの信号を送出しているときはPOSTが表示されます。PRE/POSTの切り換えは、PRE/POSTにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

(2) GRP1~GRP4送出レベル

グループバスに送出するときのレベルをバスごとに調節します。レベルの調節は、数値の上にカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回して行います。調節範囲：-∞、-90.0 dB~+10.0 dB

DYNボックス

ダイナミクスのON/OFFとDEPTH（効果のかかりかた）を調節できます。

補足

モノラル5・6チャンネルは、DYN画面でダイナミクスの種類（コンプレッサー/A-MLC）を選択できます（→83ページ）。そのほかのチャンネルは、コンプレッサー固定です。

(3) DYN DEPTHノブ

ダイナミクス効果のかかり具合を調節できます。設定値はノブの下に数値で表示されます。

レベルの調節は、ノブにカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回して行います。

DEPTHの詳細は49ページをお読みください。

調節範囲：S10~N~H10

補足

DYN画面でパラメーターを変更すると、DEPTH値と実際の効果とが異なる場合があります。

(4) DYN (ON/OFF) ボタン

ダイナミクスが有効のときはON、無効のときはOFFが表示されます。

ON/OFFの切り換えは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

ONにすると、操作パネルのDYNランプが点灯（緑）します（ダイナミクス動作中は赤）。OFFにするとDYNランプは消灯します。

PANボックス

メインLRバス、グループ1/2バスなどのステレオバスに送出するときの定位を調節します。

(5) PANノブ

ステレオバスに送出するときの定位を調節します。

調節するときは、ノブにカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回して行います。

調節範囲：L16~C~R16

D-NOTCH (ダイナミックノッチ) ボックス

D-NOTCH画面（→86ページ）を表示してダイナミックノッチの各種設定を行ったり、ダイナミックノッチの有効/無効を切り換えることができます。

(6) D-NOTCHアサイン表示

ダイナミックノッチが設定されている場合はDN1~4のいずれかが表示されます。

(7) D-NOTCH詳細設定ボタン

ダイナミックノッチの動作を細かく設定するときに使います。このボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押すとD-NOTCH画面が表示され、ダイナミックノッチの割り当て状態の確認や各種パラメーターを設定することができます。（→86ページ）動作モードがユーザーモードのときは、このボタンは操作できません。

画面説明 (つづき)

(8) D-NOTCH検出ポイント表示

ダイナミックノッチで検出したハウリング周波数の数と動作状況を確認できます。

黒：検出済み（動作中） 点滅：検出中 白：未検出

(9) D-NOTCH動作 (ON/OFF) ボタン

ダイナミックノッチが有効の場合ON、無効の場合OFFが表示されます。

ON/OFFの切り換えは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。ONにすると、操作パネルのNOTCHランプが点灯します。

SENDボックス

AUX1～2バス、EFX/REVバスに送出する信号の取り出し位置 (PRE/POST) と、送出レベルを設定します。

(10) EFX/REV、AUX1、AUX2送出レベル調節ノブ

EFX/REV、AUX1、AUX2バスへの送出レベルを調節します。EFX/REVバスへの送出レベルは、REV SENDノブにカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回して調節できます。

AUX1バスへの送出レベルはAUX SEND1つまみで調節できます。AUX2バスへの送出レベルはAUX SEND2つまみで調節できます。

調節範囲（共通）： $-\infty$ 、 -90.0 dB \sim $+10.0$ dB

補足

AUX1、2バスへの送出レベルは、EFX/REVバスと同様に画面上のノブで調節することもできます。

(11) AUX1 (PRE/POST)、AUX2 (PRE/POST) ボタン

AUXバスに、プリフェーダーの信号を送出しているときはPRE、ポストフェーダーの信号を送出しているときはPOSTが表示されます。

PRE/POSTの切り換えは、設定したいバスのPRE/POSTにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。バスごとに切り換えることができます。

補足

EFX/REVバスに送出される信号はポストフェーダーです。プリフェーダーの信号を送出することはできません。

CHボックス

現在の入力レベル、フェーダー位置、チャンネルのON/OFF (ONキー) の状態が表示されます。画面上で変更することはできません。

(12) レベルメーター

入力レベルを確認できます。

補足

ピークホールドとメーターに表示する信号の取り出し位置はMETER画面の設定に従います。レベルメーターの表示単位 (dB/dBFS) はUTILITY画面の設定に従います。(No.102→117ページ)

(13) フェーダー、合致点マーク

現在のフェーダーの位置が表示されます (フェーダーの操作に連動)。この画面で変更することはできません。フェーダーの位置が実際のレベルと異なる場合、画面に合致点マーク (右向きの三角) が表示され、点滅します。合致点マークは、画面に表示しているチャンネルのフェーダーを操作し、合致点マークと画面上のフェーダーの位置を一致させると消えます。(ONキーの点滅について→56ページ)

(14) ONキー状態

チャンネルのON/OFFの状態 (ONキーの状態) が表示されます。チャンネルがON (ONキーが点灯) のときONが、OFF (ONキー消灯) のときはOFFが表示されます。

HPFボックス

HPF (ハイパスフィルター) のON/OFFとカットオフ周波数を調節できます。

(15) HPF (ON/OFF) ボタン

HPFが有効のときはON、無効のときはOFFが表示されます。

ON/OFFの切り換えは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。ONにすると、HPF FREQ調節エリアに設定した周波数に従ってカットオフを行います。

(16) HPF FREQ調節エリア

HPFのカットオフ周波数を調節できます。現在の設定が数値で表示されます。

カットオフ周波数の調節は、数値の上にカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回して行います。HPFボタンがONの場合、パラメーター調整つまみに連動して、EQUALIZERボックスの周波数特性グラフが変化します。

調節範囲：20 Hz～400 Hz (1/12 oct単位)

(17) EQUALIZERボックス

現在のイコライザー (PEQ) の状態が周波数特性グラフで表示されます。HPFがONのときはハイパスフィルターの周波数特性もグラフ表示されます。

PEQのゲインの調節は、EQ H、M、Lの各つまみを回して行います。各つまみに連動して周波数特性グラフが変化します。

PEQの周波数の設定は、EQ H、M、Lの各つまみを押しながら回して行います。各つまみに連動して周波数特性グラフが変化します。

補足

EQ画面で各パラメーターを細かく設定することができます。(→80ページ)

ダイレクトキー

(18) EQ (ON/OFF) ボタン

イコライザー (PEQ) が有効のときON、無効のときOFFが表示されます。

ON/OFFの切り換えは、設定2キーを押して行います。

(19) EQ LIB画面ボタン

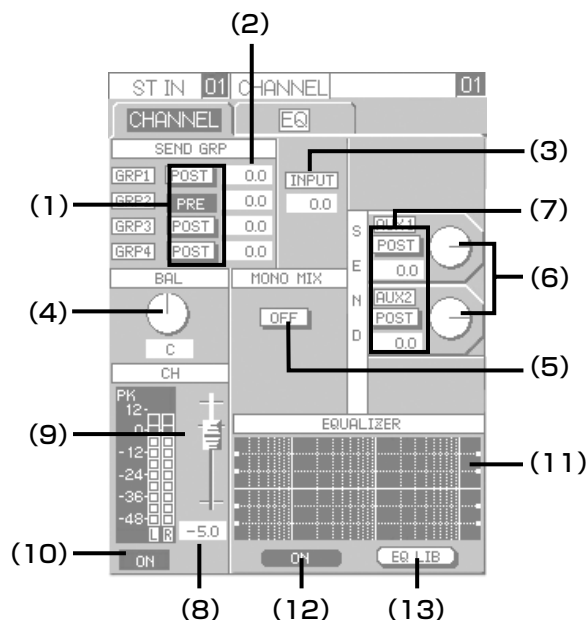
設定3キーで操作します。設定3キーを押すと、EQ LIB画面が表示されます。

EQ LIB画面で、現在のイコライザーの設定をライブラリに登録されている設定に切り換えたり、現在の設定をライブラリに登録したりすることができます。(→101ページ)

動作モードがユーザーモードのときは、このボタンは操作できません。

CHANNEL-ST IN画面

ステレオ入力チャンネルに関する設定を行うことができます。MONO7～8チャンネルの設定も本画面を使用します。



SEND GRPボックス

このボックスでは、グループバスをAUXバスとして使うときの送出に関する設定を行います。UTILITY画面でGRP/AUXパラメーターをAUXに変更したときにだけ表示されます。(No.001→105ページ)

(1) GRP1～GRP4 (PRE/POST) ボタン

グループバスに、プリフェーダーの信号を送出しているときはPRE、ポストフェーダーの信号を送出しているときはPOSTが表示されます。PRE/POSTの切り換えは、PRE/POSTにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

(2) GRP1～GRP4送出レベル

グループバスに送出するときのレベルをバスごとに調節することができます。

レベルの調節は、数値の上にカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回して行います。

調節範囲：-∞、-90.0 dB～+10.0 dB

画面説明 (つづき)

INPUTボックス

入力ゲインを調節します。

(3) INPUTゲイン

入力ゲインを0.5 dB単位で調節できます。現在の設定が数値で表示されます。

入力ゲインの調節は、数値の上にカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回して行います。

調節範囲：-12.0 dB～+12.0 dB

補足

STEREO1～2入力フェーダー部にINPUTつまみがついていますが、これはMONO7～8として使用したときのみ有効です。STEREO1～2として使用する場合は本エリアで入力ゲイン値を設定します。(UTILITY画面No.001→105ページ)

BALボックス

メインLRバス、ステレオ設定されたグループ1/2バスなどのステレオバスに送出するとき、左右の音のバランスを調節します。MONO7～8チャンネルでは表示がPANに変わり、定位の調節となります。

(4) BALノブ

左右の音のバランスを調節します。MONO7～8チャンネルでは表示がPANに変わり、定位の調節となります。

調節するときは、ノブにカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回して行います。

調節範囲：L16～C～R16

MONO MIXボックス

ステレオL・Rの音声信号をミックスしてモノラル信号にします(モノミックス)。

(5) MONO MIX (ON/OFF) ボタン

L・Rの信号をモノミックスして送出しているときはON、ステレオのまま送出しているときはOFFが表示されます。

ON/OFFの切り換えは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

補足

●OFFにすると、本機はステレオLRの音声を以下のように各バスに振り分けて送出します。

ONにすると、ステレオ入力チャンネルの音声をモノミックスした信号が、送出先として設定したバスに送出されます。

ステレオ入力Lの音声の送出先

メインL・Rバス : メインL側のバスに送出
グループバス : MONO/STボタンがMONO
→モノミックスされた音声が送出
MONO/STボタンがST
→奇数番号のグループバスに送出
AUXバス : 常にモノミックスされた音声が送出

ステレオ入力Rの音声の送出先

メインL・Rバス : メインR側のバスに送出
グループバス : MONO/STボタンがMONO
→モノミックスされた音声が送出
MONO/STボタンがST
→偶数番号のグループバスに送出
AUXバス : 常にモノミックスされた音声が送出
MONO/STボタンについてはCHANNEL-GRP画面(→76ページ)をお読みください。

●MONO7-8チャンネルでは、本ボタンは操作できません。

SENDボックス

AUX1～2バスに送出する信号の取り出し位置(PRE/POST)と、送出レベルを設定します。

STEREO入力チャンネルの信号は、EFX/REVバスに送出できません。

(6) AUX1、AUX2送出レベル調節ノブ

AUX1、AUX2バスへの送出レベルを調節します。AUX1バスへの送出レベルはAUX SEND1つまみで調節できます。

AUX2バスへの送出レベルはAUX SEND2つまみで調節できます。

調節範囲(共通)：-∞、-90.0 dB～+10.0 dB

補足

送出レベルは画面上のノブにカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回して調節することもできます。

(7) AUX1 (PRE/POST)、AUX2 (PRE/POST) ボタン

AUXバスに、プリフェーダーの信号を送出しているときはPRE、ポストフェーダーの信号を送出しているときはPOSTが表示されます。
PRE/POSTの切り換えは、設定したいバスのPRE/POSTにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

CHボックス

現在の入力レベル、フェーダー位置、チャンネルのON/OFF (ONキー) の状態が表示されます。画面上で変更することはできません。

(8) レベルメーター

入力レベルを確認できます。

補足

ピークホールドとメーターに表示する信号の取り出し位置はMETER画面の設定に従います。レベルメーターの表示単位 (dB/dBFS) はUTILITY画面の設定に従います。(No.102→117ページ)

(9) フェーダー、合致点マーク

現在のフェーダーの位置が表示されます (フェーダーの操作に連動)。この画面で変更することはできません。フェーダーの位置が実際のレベルと異なる場合、画面に合致点マーク (右向きの三角) が表示され、点滅します。合致点マークは、画面に表示しているチャンネルのフェーダーを操作し、合致点マークと画面上のフェーダーの位置を一致させると消えます。(ONキーの点滅について→56ページ)

(10) ONキー状態

チャンネルのON/OFFの状態 (ONキーの状態) が表示されます。

チャンネルがON (ONキーが点灯) のときはONが、OFF (ONキー消灯) のときはOFFが表示されます。

(11) EQUALIZERボックス

現在のイコライザー (PEQ) の状態が周波数特性グラフで表示されます。

PEQのゲインの調節は、EQ H、Lの各つまみを回して行います。各つまみに連動して周波数特性グラフが変化します。

PEQの周波数の設定は、EQ H、Lの各つまみを押しながらか回して行います。各つまみに連動して周波数特性グラフが変化します。

補足

- EQ画面で各パラメーターを細かく設定することができます。(→80ページ)
- ステレオ入力チャンネル、MONO7~8チャンネルに内蔵されているPEQはH、Lの2バンドです。EQ Mのつまみは無効です。

ダイレクトキー

(12) EQ (ON/OFF) ボタン

イコライザー (PEQ) が有効のときはONが、無効のときはOFFが表示されます。

設定2キーを押して、ON/OFFを切り換えることができます。

(13) EQ LIB画面ボタン

設定3キーで操作します。設定3キーを押すと、EQ LIB画面が表示されます。

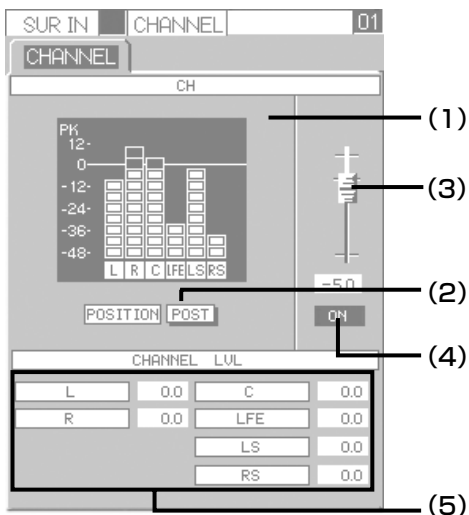
EQ LIB画面で、現在のイコライザーの設定をライブラリに登録されている設定に切り換えたり、現在の設定をライブラリに登録したりすることができます。(→101ページ)

動作モードがユーザーモードのときは、このボタンは操作できません。

画面説明 (つづき)

CHANNEL-SUR IN画面

サラウンド入力に関する設定を行うことができます。この画面は、本機がサラウンドモードで動作しているときにのみ表示されます。



CHボックス

現在の入力レベル、フェーダー位置、チャンネルのON/OFF (ONキー) の状態が表示されます。画面上で設定は変更できません。また、メーターに表示する信号の位置 (PRE/POST) も表示されます。この設定は切り換えることができます。

(1) レベルメーター

サラウンド入力に入力されている信号の入力レベルを確認できます。

補足

ピークホールドの有無はMETER画面の設定に従います。レベルメーターの表示単位 (dB/dBFS) はUTILITY画面の設定に従います。(No.102→117ページ)

(2) POSITION (PRE/POST) ボタン

メーターにプリフェーダーのレベルを表示しているときはPRE、ポストフェーダーのレベルを表示しているときはPOSTが表示されます。

PRE/POSTの切り換えは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

(3) フェーダー、合致点マーク

現在のフェーダー (ST6/SUR) の位置が表示されず (フェーダーの操作に連動)。この画面で変更することはできません。

フェーダーの位置が実際のレベルと異なる場合、画面に合致点マーク (右向き三角) が表示され、点滅します。合致点マークは、画面に表示しているチャンネルのフェーダーを操作し、合致点マークと画面上のフェーダーの位置を一致させると消えます。(ONキーの点滅について→56ページ)

(4) ONキー状態

チャンネルのON/OFFの状態 (ONキーの状態) が表示されます。チャンネルがON (ONキーが点灯) のときはONが、OFF (ONキー消灯) のときはOFFが表示されます。

CHANNEL LVLボックス

サラウンド入力に入力されている音声の入力レベルをチャンネルごとに調節できます。

(5) チャンネル個別レベル調節エリア (L、R、C、LFE、LS、RS)

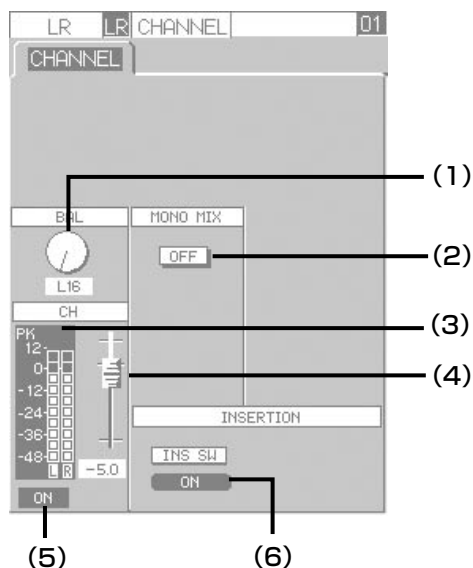
サラウンド音声の入力レベルをチャンネルごとに調節できます。現在の設定が数値で表示されます。

入力レベルの調節は、調節したいチャンネルの数値の上にカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回して行います。

調節範囲：-∞、-90.0 dB～+10.0 dB

CHANNEL-LR画面

メインLRバスに関する設定を行うことができます。



BALボックス

出力時の左右の音のバランスを調節します。

(1) BALノブ

アウトプットプロセッサ等へ送出すときの左右の音のバランスを調節します。

調節するときは、ノブにカーソルを移動し、パラメータ調整つまみを回して行います。

調節範囲：L16～C～R16

MONO MIXボックス

ステレオL・Rの音声信号をモノミックスし、アウトプットプロセッサ等に出力します。

(2) MONO MIX (ON/OFF) ボタン

L・Rの信号をモノミックスして送出しているときはONが、ステレオのまま送出しているときはOFFが表示されます。ON/OFFの切り換えは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

CHボックス

現在の信号レベル、フェーダー位置、チャンネルのON/OFF (ONキー) の状態が表示されます。画面上で変更することはできません。

(3) レベルメーター

信号レベルを確認できます。

補足

ピークホールドとメーターに表示する信号の取り出し位置はMETER画面の設定に従います。レベルメーターの表示単位 (dB/dBFS) はUTILITY画面の設定に従います。(No.102→117ページ)

(4) フェーダー、合致点マーク

現在のフェーダーの位置が表示されます (フェーダーの操作に連動)。この画面で変更することはできません。フェーダーの位置が実際のレベルと異なる場合、画面に合致点マーク (右向きの三角) が表示され、点滅します。合致点マークは、画面に表示しているチャンネルのフェーダーを操作し、合致点マークと画面上のフェーダーの位置を一致させると消えます。(ONキーの点滅について→56ページ)

(5) ONキー状態

チャンネルのON/OFFの状態 (ONキーの状態) が表示されます。チャンネルがON (ONキーが点灯) のときはONが、OFF (ONキー消灯) のときはOFFが表示されます。

INSERTIONボックス

この項目は、スロットに拡張カードが装着されており、UTILITY画面でNo.004 SLOT MODEがINSに設定されているときにのみ使用してください(→108ページ)。これ以外の場合にONにすると、音声が出られなくなります。

拡張カードのOUTPUT1、2チャンネルにメインLRバスの音声 (プリフェーダー) を出力し、外部エフェクターなどを経由して拡張カードのINPUT1、2チャンネルに戻す場合に設定します (インサージョン機能)。

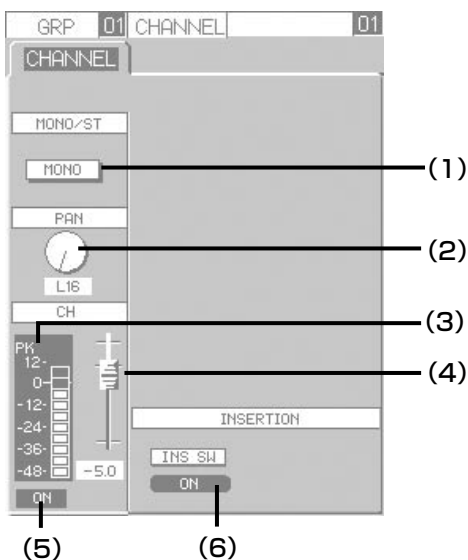
(6) INS (ON/OFF) ボタン

インサージョンが有効のときはON、無効のときはOFFが表示されます。

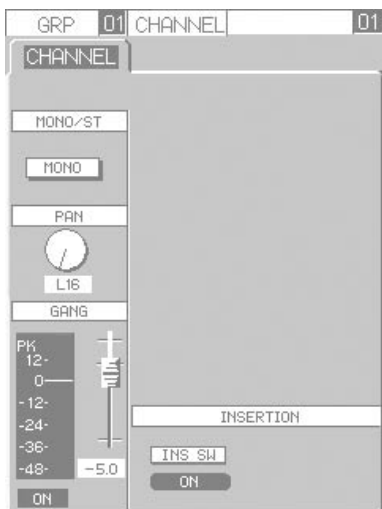
設定2キーを押してON/OFFを切り換えることができます。

CHANNEL-GRP画面

グループバスに関する設定を行うことができます。



ギャンググループ実行中、GRP1およびGRP2では下図のように、左下部にギャングマスターフェーダーとギャングONキーの状態が表示されます。この場合レベルメーターは動作しません。



(1) MONO/STボタン

グループバスをメインLRバスに送出するとき、ステレオとして処理するか、またはモノラルとして処理するかを設定します。

ステレオとして処理しているときはST、モノラルとして処理しているときはMONOが表示されます。

MONO/STの切り換えは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

補足

- STに設定した場合、モノラル、ステレオ、AUX RETURN各入力からそのグループバスへの送出方法もステレオに設定されます。MONOに設定した場合は、送出方法がモノラルに設定されます。
- この設定は、グループバスの音声をPFLするときにも適用されます。
- STに設定したグループバスをメインLRバスに送出すると、グループバス1と2、またはグループバス3と4をペアとしたステレオ信号としてメインLRバスに送出されます (PFL時も同様)。このとき、グループバス1または3はL側にのみ送出され、グループバス2または4はR側にのみ送出されます。
- MONOに設定したグループバスをメインLRバスに送出すると、メインLRバスのLとRに同じ信号が送出されます (PFL時も同様)。
- UTILITY画面で、No.001 I/O SETのGRP/AUX 1/2または3/4をAUX BUSに設定した場合 (→106ページ)、設定するGRPチャンネルのMONO/STボタンは操作できません (MONO固定)。

(2) PANノブ

メインLRバスに送出する音の定位を調節します。調節は、ノブにカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回して行います。

調節範囲：L16～C～R16

補足

MONO/STボタンがSTの場合、PANノブは操作できません (グループバス1および3はL16に固定、グループバス2および4はR16に固定)。

(3) レベルメーター

信号レベルを確認できます。

ギャンググループ実行中のGRP1およびGRP2では動作しません。

補足

ピークホールドとメーターに表示する信号の取り出し位置はMETER画面の設定に従います。レベルメーターの表示単位 (dB/dBFS) はUTILITY画面の設定に従います。(No.102→117ページ)

(4) フェーダー、合致点マーク

現在のフェーダーの位置が表示されます（フェーダーの操作に連動）。この画面で変更することはできません。フェーダーの位置が実際のレベルと異なる場合、画面に合致点マーク（右向きの三角）が表示され、点滅します。合致点マークは、画面に表示しているチャンネルのフェーダーを操作し、合致点マークと画面上のフェーダーの位置を一致させると消えます。（ONキーの点滅について→56ページ）

ギャンググループ実行中のGRP1およびGRP2では、ギャングマスターフェーダーの位置や合致点が表示されます。

(5) ONキー状態

チャンネルのON/OFFの状態（ONキーの状態）が表示されます。この画面で変更することはできません。チャンネルがON（ONキーが点灯）のときはONが、OFF（ONキー消灯）のときはOFFが表示されます。ギャンググループ実行中のGRP1およびGRP2では、ギャングONキーの状態が表示されます。

INSERTIONボックス（ダイレクトキー）

この項目は、スロットに拡張カードが装着されており、UTILITY画面でNo.004 SLOT MODEがINSIに設定されているときにのみ使用してください（→108ページ）。これ以外の場合にONにすると、音声が出力されなくなります。

拡張カードのOUTPUT3～6チャンネルにグループバス1～4の音声（プリフェーダー）を出力し、外部エフェクターなどを経由して拡張カードのINPUT3～6チャンネルに戻す場合に設定します（インサージョン機能）。

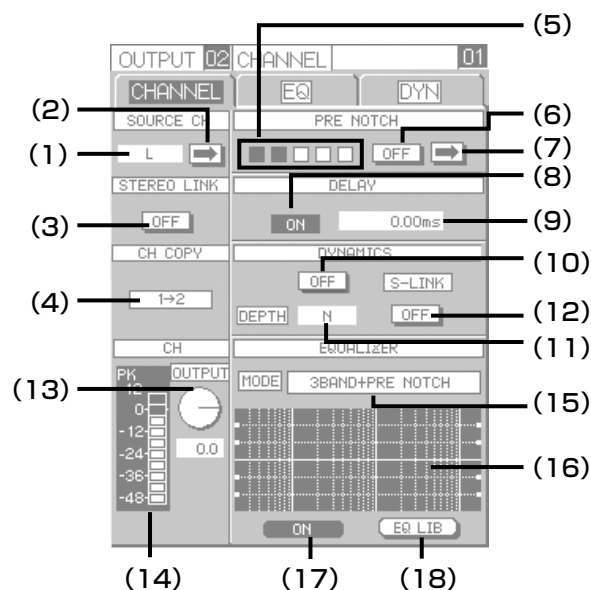
(6) INS (ON/OFF) ボタン

インサージョンが有効のときはON、無効のときはOFFが表示されます。設定2キーを押してON/OFFを切り換えることができます。

CHANNEL-OUTPUT画面

アウトプットプロセッサに関する設定を行うことができます。

チャンネルの切り換えは、OUTPUT PROCESSOR部のACC SELキーを押して行います。押すたびにOUTPUT1→OUTPUT2→…→OUTPUT8→OUTPUT1…の順番に切り換わります。



SOURCE CHボックス

選択したチャンネルへ入力されている信号を確認することができます。必要に応じて入力信号を変更するための画面（UTILITY画面No.003→107ページ）を呼び出すことができます。

(1) SOURCE CH表示

アウトプットプロセッサに入力されているバス（L（メインL）、R（メインR）、GRP1～GRP4、AUX1、AUX2）が表示されます。

(2) SOURCE画面ボタン

アウトプットプロセッサに入力されているバスを変更するときに使います。ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押すと、UTILITY画面のNo.003 OUTPUT SELが表示されます。（→107ページ）

動作モードがユーザーモードのときはこのボタンは操作できません。

STEREO LINKボックス

この項目は、OUTPUT1またはOUTPUT2チャンネルを選択したときにのみ表示されます。

OUTPUT1とOUTPUT2チャンネルを同期制御するときに設定します。

画面説明 (つづき)

(3) STEREO LINK (ON/OFF) ボタン

OUTPUT1とOUTPUT2チャンネルを同期させているときはON、個別に制御しているときはOFFが表示されます。ON/OFFの切り換えは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。ONのときに、OUTPUT1またはOUTPUT2チャンネルどちらかの設定を変更すると、自動的に同期しているチャンネルの設定も変更されます。

補足

LINK ONの状態でも、ライブラリの呼び出し(→101、102ページ)や、A/Bバンク切り換え(→81、84、89ページ)については、同期変更は行われません。

(4) CH COPY (1→2/2→1) ボタン

OUTPUT1とOUTPUT2チャンネル間で設定(PEQ、ディレイ、ダイナミクス、プリノッチ、レベル)をコピーすることができます。チャンネル間のコピーは以下の手順で行います。

- ①1→2/2→1ボタンにカーソルを移動し、パラメータ調整つまみを回してコピー方向を選択する。
- ②ENTERキーを押してコピーを実行する。
→選択した方向に現在の設定がコピーされます。

補足

コピー実行後に設定(PEQ、ディレイ、ダイナミクス、プリノッチ、レベル)を変更した場合、変更内容はコピー先に反映されません。コピー実行後にSTEREO LINK (ON/OFF) ボタンをONにするか、再度コピーを実行してください。

PRE NOTCH (PN) ボックス

プリノッチの各種設定を行います。(15) EQ MODE 選択エリアが3BAND+PRE NOTCHに設定されている場合に表示されます。

(5) NOTCH検出ポイント表示

プリノッチで検出しているハウリング周波数の数と動作状況を確認できます。
黒：検出済み、白：未検出

(6) PRE NOTCH (ON/OFF) ボタン

プリノッチが有効のときはON、無効のときはOFFが表示されます。ON/OFFの切り換えは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。ONにすると、該当するチャンネルのEQ・NOTCH/DELAYランプが点灯(緑)します(ディレイも有効の場合は橙)。

(7) PRE NOTCH詳細設定ボタン

プリノッチの動作を設定するP-NOTCH画面(→88ページ)を表示するときに使います。P-NOTCH画面を表示するときは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押します。動作モードがユーザーモードのときはこのボタンは操作できません。

DELAYボックス

信号出力を一定時間遅延させ、スピーカー間の位相調節などを行うことができます。

(8) DELAY (ON/OFF) ボタン

ディレイが有効のときはONが、無効のときはOFFが表示されます。ON/OFFの切り換えは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。ONにすると、該当するチャンネルのEQ・NOTCH/DELAYランプが点灯(赤)します(プリノッチまたはイコライザーも有効の場合は橙)。遅延時間は、DELAY TIME調節エリアで設定します。

(9) DELAY TIME調節エリア

遅延時間を調節します。調節は、数値の上にカーソルを移動し、パラメータ調整つまみを回して行います。押しながら回すと1 ms(=0.34 m)単位で調整できます。設定範囲：0.00 ms (0.000 m) ~300.00 ms (102.000 m) (20.8 μ s step)

補足

遅延時間の単位(ミリ秒/メートル/フィート)は、UTILITY画面で変更することができます。(No.102→117ページ)

DYNAMICSボックス

この項目は、OUTPUT1またはOUTPUT2チャンネルを選択したときにのみ表示されます。

ダイナミクス（コンプレッサー）のON/OFFとDEPTH（効果のかかり具合）を調節できます。

補足

コンプレッサーの詳細は、DYN画面で設定することができます。

(10) DYN (ON/OFF) ボタン

ダイナミクスが有効のときはONが、無効のときはOFFが表示されます。

ON/OFFの切り換えは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

ONにすると、操作パネルのDYNランプが点灯（緑）します（ダイナミクス動作中は赤）。

(11) DYN DEPTH

ダイナミクス効果のかかり具合が数値で表示されます。レベルの調節は、数値にカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回して行います。DEPTHの詳細については、49ページをお読みください。

調節範囲：S10～N～H10

補足

- 効果のかかり具合は、操作パネルのDYNランプを確認しながら調節してください。
- DYN画面でパラメーターを変更すると、DEPTH値と実際の効果とが異なる場合があります。

(12) S-LINK (ON/OFF) ボタン

ステレオチャンネルの片方のチャンネルだけに大きな入力があった場合、もう片方のチャンネルの入力が小さい場合でも強制的に両チャンネルでコンプレッサーを動作させることができます（この機能をシグナルリンク：S-LINKと呼びます）。

S-LINKが有効のときはONが、無効のときはOFFが表示されます。

ON/OFFの切り換えは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

補足

S-LINKの設定（ON/OFF）は、OUTPUT1と2のチャンネル間で連動します。

CHボックス

現在の出力レベルの確認や調節をすることができます。

(13) OUTPUTノブ

チャンネルの出力レベルを調節できます。設定値はノブの下に数値で表示されます。

出力レベルの調節は、ノブにカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回して行います。

調節範囲：-∞、-90.0 dB～+10.0 dB

(14) レベルメーター

信号の出力レベル（ポストフェーダー）が表示されません。

補足

ピークホールドの有無はMETER画面の設定に従います。レベルメーターの表示単位（dB/dBFS）はUTILITY画面の設定に従います。（No.102→117ページ）

EQUALIZERボックス

現在のイコライザー（PEQ/HPF/LPF）の状態を確認することができます。

(15) EQ MODE (3BAND+PRE NOTCH/8BAND) 選択エリア

イコライザーの種類（周波数バンド数）が表示されません。

イコライザーを8バンドPEQとして使用しているときは8BAND、3バンドPEQとして使用しているときは3BAND+PRE NOTCHが表示されます。

切り換えは、エリアにカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回して行います。

(16) 周波数特性グラフ

PEQの設定状態が周波数特性グラフで表示されます。

PEQのゲインの調節は、EQ H、M、Lの各つまみを回して行います。

PEQの周波数の設定は、EQ H、M、Lの各つまみを押しながら回して行います。各つまみの操作に連動して周波数特性グラフが変化します。EQ画面で各パラメーターを細かく設定することができます。（→80ページ）

補足

- PEQのバンド数が3バンド、8バンドのいずれの場合も、EQ H、M、Lで調節できるのは、PEQ1、2、3です。また、工場出荷状態では、PEQ1が最も低い周波数、PEQ3(8)が最も高い周波数になるよう、各バンドが設定されています。H、M、Lの表記と逆になりますので注意してください。
- 特定のバンドをLPFやHPFに設定することができます。設定は次のEQ画面で行います。
- LPFまたはHPFに設定したバンドのゲインはEQ H、Lのつまみで変更することはできません。押しながら回すと、カットオフ周波数の設定になります。

ダイレクトキー

(17) EQ (ON/OFF) ボタン

イコライザー (PEQ) が有効のときはON、無効のときはOFFが表示されます。設定2キーを押して、ON/OFFを切り換えることができます。ONにすると、設定しているチャンネルのEQ・NOTCH/DELAYランプが点灯 (緑) します (ディレイも有効の場合は橙)。

(18) EQ LIB画面ボタン

設定3キーで操作します。設定3キーを押すと、EQ LIB画面が表示されます。EQ LIB画面で、現在のイコライザーの設定をライブラリに登録されている設定に切り換えたり、現在の設定をライブラリに登録したりすることができます。(→ 101ページ)
動作モードがユーザーモードのときは、このボタンは操作できません。

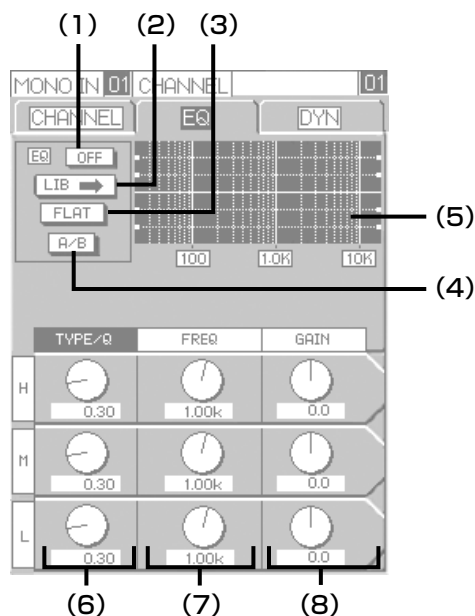
EQ画面

動作モード

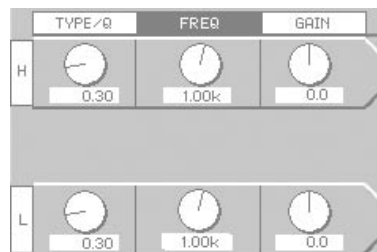
ADMIN

チャンネルごとにイコライザーの詳細動作を設定できます。この画面を表示するには、CHANNEL-MONO IN、CHANNEL-ST IN、CHANNEL-OUTPUTのいずれかの画面を表示しているときにCHANNELキーを押します。または、DYN画面を表示しているときにCHANNELキーを2回押します。ACC・PFLキー (OUTPUTチャンネルはACC SELキー) でチャンネルを選択したあと、EQ Hつまみを押ししてもEQ画面を表示できます。

モノラル入力チャンネルの場合 (MONO7~8は除く)



ステレオ入力チャンネルまたはMONO7~8チャンネルの場合



補足

ステレオ入力チャンネル、およびMONO7~8チャンネルに内蔵されているPEQは2バンドPEQのため、Mのバンドが表示されません。

OUTPUTチャンネル (8バンド PEQ) の場合



補足

- 8バンドPEQのタブ切換はカーソルキーで行います。例えば上の図でP1～P3いずれかのGAINの位置にカーソルがある場合、右カーソルキーで画面外にカーソルを移動させようとするするとPEQ4～PEQ6のタブに移動します。逆にTYPE/Qの位置にカーソルを移動させ、更に左カーソルキーを押すとPEQ7～PEQ8のタブに移動します。
- 本画面を表示中、他のチャンネルのACC・PFL (ACC SEL) キーを押すと、そのチャンネルのEQ画面に変わります。選択したチャンネルにイコライザーが装備されていない場合、EQ画面は表示されません。代わりに、CHANNEL画面が表示されます。

(1) EQ (ON/OFF) ボタン

イコライザーが有効のときはONが、無効のときはOFFが表示されます。
ON/OFFの切り換えは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

(2) EQ LIB画面ボタン

EQ LIB画面を表示するときに使います。
表示するときは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押します。
EQ LIB画面で、現在のイコライザーの設定をライブラリに登録されている設定に切り換えたり、現在の設定をライブラリに登録したりすることができます。(→ 101ページ)

(3) FLATボタン

全バンドのゲインをフラット (0 dB) にすることができます。

フラットにするときは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押します。確認のため、パネルが表示されます。実行する場合はOKに、中止する場合はCANCELにカーソルを合わせ、ENTERキーを押してください。

補足

- OUTPUTチャンネルでHPFまたはLPFが選択されているバンドは、FLATボタンが押されると、PEQに変更された上でゲインが0に設定されます。
- モノラル入力チャンネルでHPFが設定されている場合、FLATボタンを押しても、HPFの効果が残り、グラフ上はフラットな特性にはなりません。

(4) A/Bバンク切り換えボタン

本機のイコライザーは、画面に表示されている設定 (Aバンク) の他に、実際の周波数特性には影響しないもう1種類の設定 (Bバンク) があります。2種類の設定を比較するなどの場合にAバンクとBバンクの設定を切り換えることができます。OFF (正転表示) のときはAバンク、ON (反転表示) のときはBバンクの設定が画面に表示され、有効な設定になります。

AバンクとBバンクの設定を入れ換えるときは、このボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押します。他のチャンネルや他の画面に切り換えを行うと、そのとき画面に表示されていた設定がAバンク、もう1種類の設定がBバンクとして登録されます。

補足

- Bバンクの設定は電源を入れ直すたびに工場出荷時の設定に初期化されます。
- Bバンクの設定は、「モノラル入力」、「ステレオ入力」、「OUTPUT」の各グループごとに共有されます。なお、UTILITY画面でモノラル7・8チャンネルを使う設定に変更した場合 (→ 128ページ)、MONO7～8チャンネルのBバンクはステレオ入力と共有されます。

画面説明 (つづき)

(5) EQ周波数特性グラフ

イコライザーの設定状況を周波数特性グラフで確認できます。このグラフは、イコライザーの調節に連動して変化します。

補足

モノラル入力チャンネルでは、CHANNEL画面で設定されるHPFの効果もグラフ上に反映されます。

(6) TYPE/Qノブ

帯域幅を調節します。現在の設定がノブの下に数値で表示されます。

調節は、設定1キーを押してTYPE/Qを選択後、EQ H、M、Lつまみで行います。EQ Hつまみで上段、EQ Mつまみで中段、EQ Lつまみで下段の帯域幅を調節できます。

また、下記の操作でイコライザーの種類を変更することができます。

モノラル、ステレオ入力チャンネル

- 帯域幅0.3の状態EQ Hつまみを更に左に回す
：SHH (シェルビング・ハイ) を選択できます。
- 帯域幅0.3の状態EQ Lつまみを更に左に回す
：SHL (シェルビング・ロー) を選択できます。

OUTPUTチャンネル

- 帯域幅0.3の状態で更に左に回す
：SHL、SHHを選択できます。さらにPEQ1では2種類のHPF (ハイパスフィルター -6 dB/oct、-12 dB/oct) を、PEQ3 (3バンド時) またはPEQ8 (8バンド時) では2種類のLPF (ローパスフィルター -6 dB/oct、-12 dB/oct) を選択できます。

各ノブにカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回して調節することもできます。

調節範囲

モノラル、ステレオ入力チャンネル：

- <PEQ H>SHH、0.3~30
- <PEQ M (モノラルのみ) >0.3~30
- <PEQ L>SHL、0.3~30

OUTPUTチャンネル：

- <PEQ1>HPF 6 dB、HPF 12 dB、SHL、SHH、0.3~30
- <PEQ3または8>LPF 6 dB、LPF 12 dB、SHL、SHH、0.3~30
- <上記バンド以外>SHL、SHH、0.3~30

(7) FREQノブ

中心周波数 (またはHPF、LPFのカットオフ周波数) を調節します。現在の設定がノブの下に数値で表示されます。

調節は、設定2キーを押してFREQを選択後、EQ H、M、Lつまみで行います。EQ Hつまみで上段、EQ Mつまみで中段、EQ Lつまみで下段の周波数を調節できます。各ノブにカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回して調節することもできます。

調節範囲

モノラル、ステレオ入力チャンネル：

- <PEQ>20 Hz~20 kHz、1/12 oct
- <SHL>20 Hz~1.6kHz
- <SHH>1.0 kHz~20 kHz

OUTPUTチャンネル：

- すべての種類で20 Hz~20 kHz、1/48 oct

(8) GAINノブ

ゲイン値 (GAIN) を変更します。設定の値はノブの下のエリアに数値で表示されます。

調節は、設定3キーを押してGAINを選択後、EQ H、M、Lつまみで行います。EQ Hつまみで上段、EQ Mつまみで中段、EQ Lつまみで下段のゲイン値を調節できます。各ノブにカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回して調節することもできます。OUTPUTチャンネルでQ/TYPEがHPFまたはLPFの場合は、本設定は無効です。

調節範囲：-15 dB~+15 dB、0.5 dB step

DYN画面

動作モード

ADMIN

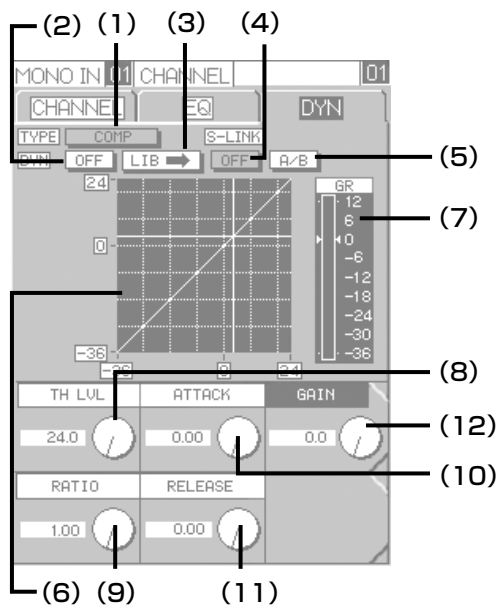
チャンネルごとにダイナミクスを設定できます。この画面を表示するには、CHANNEL-MONO IN、CHANNEL-OUTPUT（1～2チャンネル）のいずれかの画面を表示しているときにCHANNELキーを2回押します。EQ画面を表示しているときにCHANNELキーを1回押すか、ACC・PFLキー（OUTPUTチャンネルはACC SELキー）でチャンネルを選択したあと、EQ MつまみとEQ Lつまみを同時に押してもDYN画面を表示できます。

補足

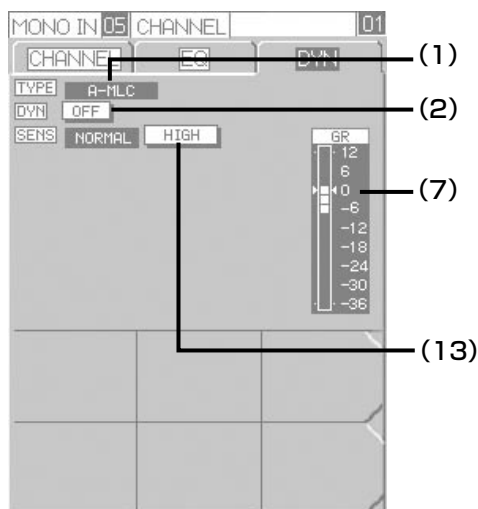
モノラル7・8チャンネルを使う設定に変更した場合、これらのチャンネルにダイナミクスは設定できません。

DYN画面は（1）TYPE（COMP/A-MLC）ボタンの状態により、表示内容が変化します。

TYPEがCOMPの場合



TYPEがA-MLCの場合



補足

本画面を表示中、他のチャンネルのACC・PFL（ACC SEL）キーを押すと、そのチャンネルのDYN画面に変わります。選択したチャンネルにダイナミクスが装備されていない場合、DYN画面は表示されません。代わりにCHANNEL画面が表示されます。

(1) TYPE（COMP/A-MLC）ボタン

ダイナミクスの種類を選択します。コンプレッサーを選択しているときはCOMP、オートマイクレベルコントローラーを選択しているときはA-MLCが表示されます。

COMP/A-MLCの切り換えは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。設定により、画面の構成が変わります。上記画面例を参照してください。

補足

ダイナミクスの種類は、モノラル5または6チャンネルのDYN画面でのみ選択できます。その他のINPUTチャンネルおよびOUTPUT1～2チャンネルではCOMPに固定され、変更できません。

(2) DYN（ON/OFF）ボタン

ダイナミクスが有効のときはONが、無効のときはOFFが表示されます。

ON/OFFの切り換えはボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

ONにすると、操作パネルのDYNランプが点灯（緑）します（ダイナミクス動作中は赤）。OFFにするとDYNランプは消灯します。

画面説明 (つづき)

補足

このボタンは、CHANNEL画面のDYNボタンと連動します。

(3) DYN LIB画面ボタン (COMPのみ)

ボタンにカーソルを合わせ、ENTERキーを押すとDYN LIB画面が表示されます。

DYN LIB画面で、現在のダイナミクスを設定をライブラリに登録されている設定に切り換えたり、現在の設定をライブラリに登録したりすることができます。(→102ページ)

(4) S-LINK (ON/OFF) ボタン (COMPのみ)

ステレオチャンネルの片方のチャンネルだけに大きな入力があった場合、もう片方のチャンネルの入力が小さい場合でも強制的に両チャンネルでコンプレッサーを動作させることができます(この機能をシグナルリンク：S-LINKと呼びます)。

S-LINKが有効のときはON、無効のときはOFFが表示されます。

ON/OFFの切り換えは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

補足

- S-LINKは、OUTPUT1と2のチャンネルでのみ設定できます。またOUTPUT1、2チャンネル間で連動します。
- このボタンは、CHANNEL-OUTPUT画面のS-LINKボタンと連動します。

(5) A/Bバンク切り換えボタン (COMPのみ)

本機のコンプレッサーには、画面に表示されている設定(Aバンク)の他に、実際のダイナミクス特性には影響しないもう1種類の設定(Bバンク)があります。この2種類の設定を比較するなどの場合にAバンクとBバンクの設定を切り換えることができます。AバンクとBバンクの設定を入れ換えるときは、このボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押します。OFF(正転表示)のときはAバンク、ON(反転表示)のときはBバンクの設定が画面に表示され、有効な設定になります。他のチャンネルや他の画面に切り換えると、そのときに画面に表示されていた設定がAバンク、もう一方の設定がBバンクとして登録されます。

補足

- Bバンクの設定は電源を入れ直すたびに工場出荷時の設定に初期化されます。
- Bバンクの設定は全チャンネルのダイナミクスで共通です。

(6) ダイナミクス特性グラフ (COMPのみ)

ダイナミクスの特性をグラフ(横軸：入力レベル、縦軸：出力レベル)で表示します。このグラフは画面上のTH LVLノブ、RATIOノブ、GAINノブの操作に連動します。

補足

本グラフは静特性(ダイナミクス動作開始後十分な時間が経過したときの特性)を示します。ATTACKおよびRELEASEは、グラフには反映されません。

(7) GRメーター

コンプレッサーまたはオートマイクレベルコントローラーの効果により減衰した音量(これをGR(Gain Reduction)と呼びます)を表示します。

コンプレッサーの場合、このメーターはGAINノブで調節した値から下に向かって表示されます。GAINの設定値はメーターの左右に三角形のマークで表示されます。オートマイクレベルコントローラーの場合は、常時0dBの位置から下に向かって表示されます。

(8) TH LVLノブ (COMPのみ)

コンプレッサーのスレッシュホールド値を調節できます。現在の設定がノブの左に数値で表示されます。

調節は、設定1キーを押した後、EQ Mつまみを回して行います。ノブにカーソルを合わせ、パラメーター調整つまみを回して行うこともできます。

調節範囲：+24 dB~-36 dB、61段階

(9) RATIOノブ (COMPのみ)

コンプレッサーのレシオを調節できます。現在の設定がノブの左に数値で表示されます。

調節は、設定1キーを押した後、EQ Lつまみを回して行います。ノブにカーソルを合わせ、パラメーター調整つまみを回して行うこともできます。

調節範囲：1.0~∞(1:1~∞:1)、31段階

(10) ATTACKノブ (COMPのみ)

コンプレッサーのアタックタイムを調節できます。現在の設定がノブの左に数値で表示されます。
調節は、設定2キーを押した後、EQ Mつまみを回して行います。ノブにカーソルを合わせ、パラメーター調整つまみを回して行うこともできます。
調節範囲：0 ms～2 000 ms、31段階

(11) RELEASEノブ (COMPのみ)

コンプレッサーのリリースタイムを調節できます。現在の設定がノブの左に数値で表示されます。
調節は、設定2キーを押した後、EQ Lつまみを回して行います。ノブにカーソルを合わせ、パラメーター調整つまみを回して行うこともできます。
調節範囲：0 ms～2 000 ms、31段階

補足

リリースタイムが200 msより短い場合、音声がひずむことがあります。特殊な効果を与える場合以外は、200 msより長めに設定してください。

(12) GAINノブ (COMPのみ)

コンプレッサーのゲイン値を調節できます。現在の設定がノブの左に数値で表示されます。
調節は、設定3キーを押した後、EQ Mつまみを回して行います。ノブにカーソルを合わせ、パラメーター調整つまみを回して行うこともできます。
調節範囲：0 dB～12 dB、25段階

**(13) SENS (NORMAL/HIGH) ボタン
(A-MLCのみ)**

オートマイクレベルコントローラーの感度を調節できます。通常はNORMALで使用します。効果が不足する場合はHIGHに設定してください。
感度の切り換えは、設定したい感度のボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押します。

NOTCH画面

動作モード

ADMIN

NOTCH画面でオートノッチの詳細動作設定を行うことができます。

表示のしかた

オートノッチの設定画面は、ダイナミックノッチ（D-NOTCH画面）とプリノッチ（P-NOTCH画面）で異なります。

●D-NOTCH画面

ダイナミックノッチの詳細動作を設定する画面です。

D-NOTCH画面を表示するときは、モノラル入力1～6チャンネルのCHANNEL画面でD-NOTCH詳細設定ボタンを押します。

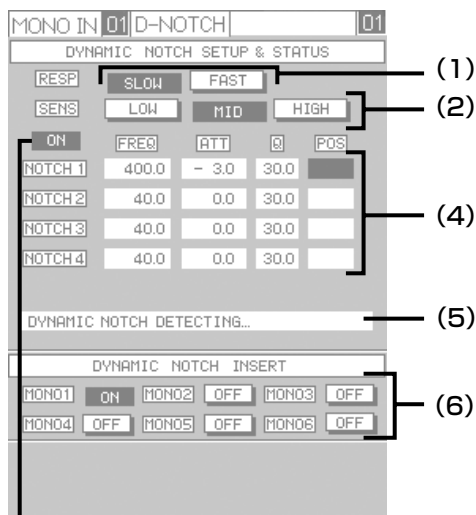
●P-NOTCH画面

プリノッチの事前設定（ハウリング検出）を行う画面です。

P-NOTCH画面を表示するときは、OUTPUT1～8チャンネルのCHANNEL画面でPRE NOTCH詳細設定ボタンを押します。

D-NOTCH画面

ダイナミックノッチの詳細動作を設定できます。モノラル入力1～6チャンネルのうち4チャンネルに設定できます。



(3)

補足

本画面を表示中、他のチャンネルのACC・PFL（ACC SEL）キーを押すと、選択したチャンネルのD-NOTCH画面に変わります。ただしそのチャンネルにダイナミックノッチが設定できない場合、選択したチャンネルのCHANNEL画面が表示されます。

DYNAMIC NOTCH SETUP & STATUSボックス

(1) RESP (SLOW/FAST) ボタン

ハウリングを検出するまでの速度を選択します。速度の切り換えは、設定したい速度のボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押します。通常はFASTに設定してください。

SLOW：ハウリングを検出する場所の暗騒音（BGMや人の声など）が比較的大きな場合、検出精度の向上に効果があります（FASTより若干検出速度は遅くなります）。

FAST：暗騒音が低い場合には、検出速度が上がります。

(2) SENS (LOW/MID/HIGH) ボタン

ハウリングを検出する感度を選択します。
感度の切り換えは、設定したい感度のボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押します。通常はHIGHに設定してください。

LOW：場内の暗騒音（BGMや人の声など）が比較的大きく、ハウリング周波数を誤検出するような場合に設定してください。ハウリングが大きくなってから検出するようになります。

MID：LOWとHIGHの中間の感度です。

HIGH：場内が十分静かな場合、ハウリングが大きくなる前に除去できます。

(3) NOTCH (ON/OFF) ボタン

ダイナミックノッチが有効のときはONが、無効のときはOFFが表示されます。

ON/OFFの切り換えは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

補足

NOTCHボタンをOFFにすると、ハウリング周波数の検出動作も停止します。検出済みのハウリング周波数がある場合、ONにした直後に有効となります。

(4) ハウリング検出状況

本機のダイナミックノッチは4バンドのノッチフィルター（NOTCH1～4）を搭載しています。本エリアで各ノッチフィルターの現在の動作状況の詳細を確認できます。変更することはできません。

- FREQ欄：ハウリング周波数を表示します。
定格：40 Hz～18 kHz（1/48 oct単位）
- ATT欄：検出したハウリング周波数の減衰量を表示します。未検出のノッチフィルターは0 dBと表示されます。
定格：-15 dB～0 dB（3 dB単位）
- Q欄：検出したハウリング周波数のQ値を表示します。
定格：30、60（2段階）
- POS欄：ハウリング検出済みのノッチフィルターは黒、未検出は白、検出中は点滅します。

(5) ステータス表示

現在のダイナミックノッチの動作状況がリアルタイム表示されます。表示されるメッセージは以下のとおりです。

「DYNAMIC NOTCH DETECTING...」

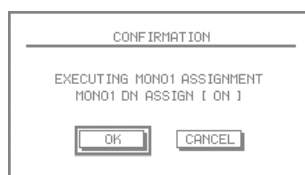
：ハウリング周波数を検出しています。

「DYNAMIC NOTCH MONO n STOP!」

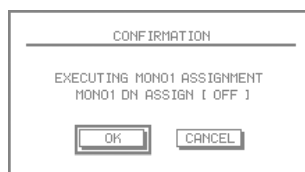
：MONOnチャンネルのハウリング検出動作が停止または中断しました。

DYNAMIC NOTCH INSERTボックス**(6) INSERT (MONO1 (ON/OFF) ~MONO6 (ON/OFF)) ボタン**

ダイナミックノッチを使用するチャンネルを設定します。最大4チャンネルまで設定可能です。設定したいチャンネルのON/OFFボタンにカーソルを合わせENTERキーを押します。ON/OFFを切り換えると、下記の確認パネルが表示されます。



(OFF→ONの場合)

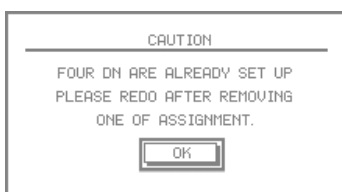


(ON→OFFの場合)

ON/OFFを切り換えてもよいときは、OKにカーソルを合わせてENTERキーを押してください。ON/OFFを切り換えないときは、CANCELにカーソルを合わせてENTERキーを押してください。

補足

- INSERTボタンをONからOFFに変更すると、それまで検出されていたハウリング周波数に関するすべての情報が消去されます。再度ONにしたときは、ハウリング周波数の検出は最初からやり直しになります。
- 5つ目のチャンネルをONにすると、確認メッセージが表示されます。確認後、ENTERキーを押して画面を閉じてください（ボタンの状態はOFFのままです）。



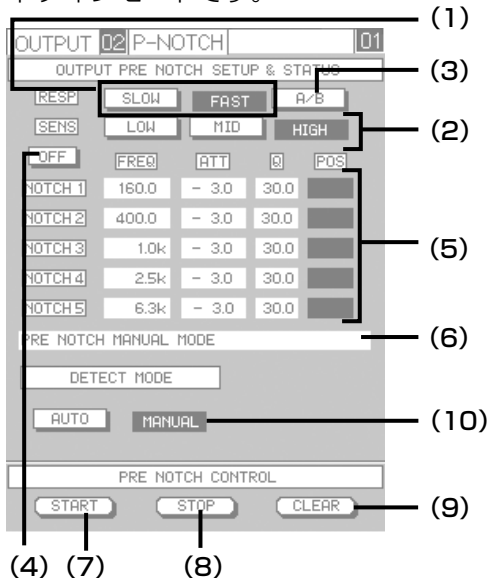
P-NOTCH画面

プリノッチの事前設定（ハウリング検出）を行う画面です。OUTPUT1～8チャンネルに設定できます。

ハウリングの検出方法について

プリノッチのハウリング検出方法にはオートゲインモードとマニュアルゲインモードの2種類があります。モードの選択は、(10) DETECT MODEボタンで設定します。

どちらのモードも拡声ゲインを少しずつ上げていくことにより意図的にハウリングを発生させ、ハウリングが発生した周波数にノッチフィルターをかける動作を繰り返します。拡声ゲインを上げる操作を手動で行うのがマニュアルゲインモード、自動的に行うのがオートゲインモードです。



プリノッチの設定手順は以下のとおりです。

オートゲインモードの場合：

- ① 設定3キーを押し、現在の設定をクリアする。
- ② 設定1キーを押し、ハウリング検出をスタートする。
- ③ ハウリング検出が終わるまでしばらく待つ。検出を中断する場合は設定2キーを押す。

マニュアルゲインモードの場合：

- ① 設定3キーを押し、現在の設定をクリアする。
- ② 設定1キーを押し、ハウリング検出をスタートする。
- ③ その出力に関係するフェーダーのレベルを少しずつ上げる。
- ④ ハウリングが発生したらそのレベルを保持し、フィルターが設定されてハウリングが消えるのを確認する。
- ⑤ ③、④の操作を、ハウリング検出が行われなくなるまで繰り返す。

⑥設定2キーを押し、ハウリング検出を終了する。

補足

- ハウリングがまったく発生しないように調節できた場合も、イコライザーやダイナミクスなどの設定を変更すると、ハウリングが発生する場合があります。
- ハウリング周波数の検出中は、フェーダー、ONキー、および上記で指定した以外の操作を行うことはできません。

P-NOTCH画面の各機能について以下に示します。

OUTPUT PRE NOTCH SETUP & STATUSボックス

プリノッチの各種設定を行います。また、現在のノッチフィルター設定状況の確認やマニュアル設定を行うことができます。

(1) RESP (SLOW/FAST) ボタン

ハウリングを検出するまでの速度を選択します。

速度の切り換えは、設定したい速度のボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押します。通常はFASTに設定してください。

SLOW : ハウリングを検出する場所の暗騒音 (BGMや人の声など) が比較的大きな場合、検出精度の向上に効果があります (FASTより若干検出速度は遅くなります)。

FAST : 暗騒音が低い場合には、検出速度が上がります。

(2) SENS (LOW/MID/HIGH) ボタン

ハウリングを検出する感度を選択します。

感度の切り換えは、設定したい感度のボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押します。通常はHIGHに設定してください。

LOW : 場内の暗騒音 (BGMや人の声など) が比較的大きく、ハウリング周波数を誤検出するような場合に設定してください。ハウリングが大きくなってから検出するようになります。

MID : LOWとHIGHの中間の感度です。

HIGH : 場内が十分静かな場合、ハウリングが大きくなる前に除去できます。

(3) A/Bバンク切り換えボタン

本機のプリノッチは、画面に表示されている設定 (Aバンク) の他に、動作に影響しないもう1種類の設定 (Bバンク) があります。この2種類の設定を必要比較するなどの場合にAバンクとBバンクの設定を切り替えることができます。OFF (正転表示) のときはAバンク、ON (反転表示) のときはBバンクの設定が画面に表示され、有効な設定になります。

AバンクとBバンクの設定を入れ換えるときは、このボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押します。他のチャンネルや他の画面に切り換えを行うと、そのとき画面に表示されていた設定がAバンク、もう1種類の設定がBバンクとして登録されます。

補足

- Bバンクの設定は電源を入れ直すたびに工場出荷時の設定に初期化されます。
- Bバンクの設定は全チャンネルのプリノッチで共通です。

(4) NOTCH (ON/OFF) ボタン

プリノッチが有効のときはONが、無効のときはOFFが表示されます。

ON/OFFの切り換えは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

(5) ハウリング検出状況/マニュアル設定

本機のプリノッチは5バンドのノッチフィルター (NOTCH1~5) を搭載しています。バンドごとにハウリング周波数、減衰量、Q値の現在の設定状況が数値で表示されます。

各設定値は、本機が検出動作を行っていない場合、変更したい数値にカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回して手動で変更することができます。

- FREQ欄: 検出したハウリング周波数を表示します。
定格: 40 Hz~18 kHz (1/48 oct単位)
- ATT欄: 検出したハウリング周波数の減衰量を表示します。未検出のノッチフィルターは0 dBと表示されます。
定格: -15 dB~0 dB (3 dB単位)
- Q欄: 検出したハウリング周波数のQ値を表示します。
定格: 30、60 (2段階)
- POS欄: ハウリング検出済みのノッチフィルターは黒、未検出は白、検出中は点滅します。手動で数値を変更した場合、減衰量が0 dBならば白、0 dBでなければ黒になります。この欄は変更できません。

画面説明（つづき）

(6) ステータス表示

現在のプリノッチの動作状況がリアルタイム表示されます。表示されるメッセージは以下のとおりです。

動作状態	メッセージ	内容
ハウリング検出動作していない	PRE NOTCH AUTO MODE	オートゲインモードでハウリングを検出可能な状態です。
	PRE NOTCH MANUAL MODE	マニュアルゲインモードでハウリングを検出可能な状態です。
ハウリング検出動作中	MEASURING（点滅表示）	オートゲインモードで、ハウリングを自動検出中です。
	MEASUREING／ MANUAL MODE （点滅表示）	マニュアルゲインモードで、ハウリングの検出中です。
	GAIN=+1.0 dB（数値は状況により変わります）	オートゲインモードでハウリングを検出中、出力ゲインが上がるたびに表示されます。
ハウリング検出動作終了	MEASUREMENT STOP	ハウリングが検出されなくなったか、5バンドすべてのノッチフィルターが検出済みとなった場合に表示されます。
	MEASUREMENT FAILURE	1バンドも検出が行われなかった場合に表示されます。
	OUT OF RANGE	本機の対応範囲（40 Hz～18 kHz）を超えた周波数でハウリングが発生しているなど、本機の制限を越えた場合に表示されます。

PRE NOTCH CONTROLボックス（ダイレクトキー）

プリノッチのハウリング検出動作を開始／終了／リセットします。

(7) STARTボタン

設定1キーを押すと、ハウリング検出動作を開始します。

(8) STOPボタン

設定2キーを押すと、ハウリング検出動作を終了します。それまでに設定されたノッチフィルターは有効となります。

(9) CLEARボタン

設定3キーを押すと、各ノッチフィルターの周波数特性がクリアーされ、フラットな特性になります。ハウリング検出の動作中は、本ボタンは無効です。

(10) DETECT MODE (AUTO/MANUAL) ボタン

ハウリング検出モードを選択します。モードの切り換えは、設定したいモードのボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押します。

AUTO：オートゲインモードでハウリング検出します。

MANUAL：マニュアルゲインモードでハウリング検出します。

REVERB画面

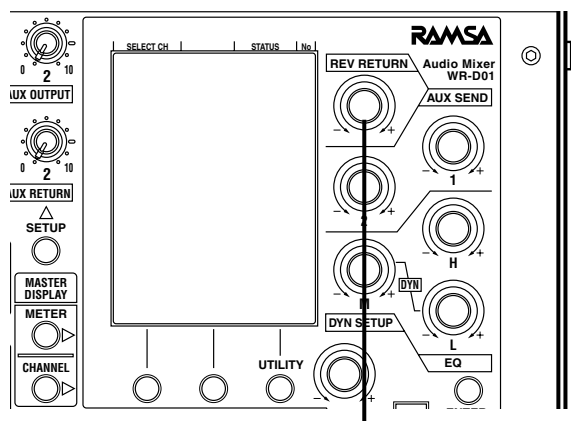
動作モード

ADMIN

内蔵リバーブの詳細動作を設定できます。リバーブバスに送出する方法は51ページをお読みください。

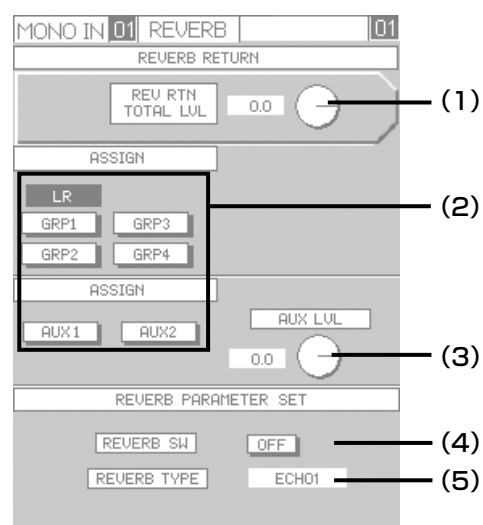
表示のしかた

REV RETURNつまみを押します。



REV RETURNつまみ

画面説明



REVERB RTNボックス

内蔵リバーブから戻される残響音のマスターレベルを調節できます。

(1) REV RTN TOTAL LVLノブ

内蔵リバーブから戻される残響音のマスターレベルを調節できます。設定値はノブの左のエリアに数値表示されます。

残響音のレベルは、REV RETURNつまみを回して行います。画面上のノブにカーソルを合わせ、パラメーター調整つまみを回して調節することもできます。

調節範囲： $-\infty$ 、 -90.0 dB \sim $+10.0$ dB

ASSIGNボックス

リバーブ残響音の送出先の選択や、送出レベルを調節できます。

(2) LR、GRP1～GRP4、AUX1、AUX2 (ON/OFF) ボタン

リバーブの残響音の送出先を設定します。送出先の設定は、送出したいバスにカーソルを合わせ、ENTERキーを押して行います。送出したいバスのボタンをON（反転表示）にします。

補足

メインLRバスへはステレオで、グループバスおよびAUXバスへはモノラルで残響音が送出されます。

(3) AUX LVLノブ

AUX1およびAUX2バスに残響音を送出するときのレベルを調節できます。設定値はノブの左に数値で表示されます。

残響音の送出レベルは、ノブにカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回して行います。

調節範囲： $-\infty$ 、 -90.0 dB \sim $+10.0$ dB

補足

送出レベルをバスごとに調節することはできません。

REVERB PARAMETER SETボックス

内蔵リバーブのON/OFFの設定や、リバーブの種類を選択できます。

(4) REVERB (ON/OFF) ボタン

内蔵リバーブが有効のときはONが、無効のときはOFFが表示されます。

ON/OFFの切り換えは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

画面説明（つづき）

(5) REVERB TYPE選択エリア

リバーブの残響音の種類を選択できます。設定されている種類が表示されます。

種類の選択は、エリアにカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回して行います。表示が反転するので、ENTERキーを押して確定します。

残響音には以下の5種類があります。

ECHO1：ディレイ音が繰り返される、いわゆる「やまびこエコー」です。

ECHO2：ECHO1に残響感を加えています。

HALL：ホールのような大きな空間の残響感です。

ROOM：部屋の中のような残響感で、HALLより短めの残響時間です。

PLATE：鉄板リバーブのようなブライتنا残響感です。

重要

本機のリバーブはボーカルなどの音声を主用途として調整されています。ドラムなど、声以外の音声に適用した場合、不自然な音になる場合があります。

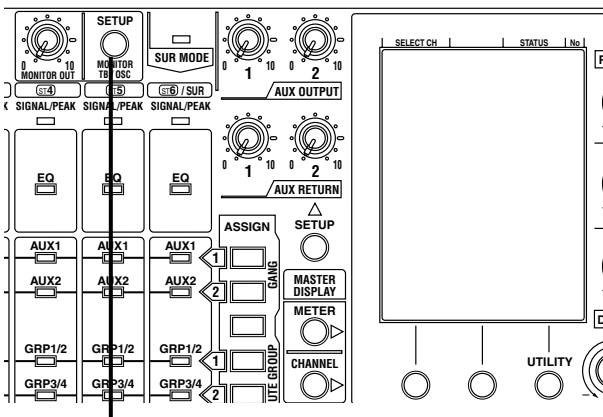
MONITOR画面

動作モード
ADMIN

モニター出力、トークバックまたはオシレーターの設定を行うことができます。

表示のしかた

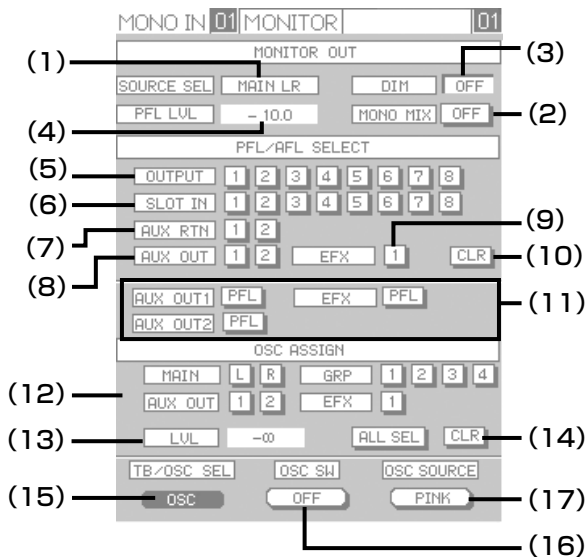
MONITOR TB/OSC SETUPキーを押します。



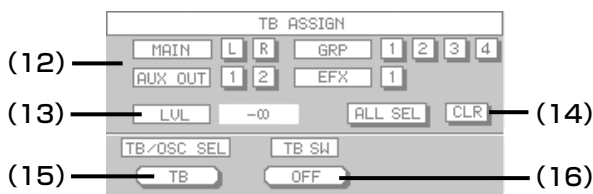
MONITOR TB/OSC SETUPキー

画面説明

TB/OSC SELボタンがOSCの場合



TB/OSC SELボタンがTBの場合
(画面下半分の設定内容が異なります)



MONITOR OUTボックス

モニター出力に関する設定を行うことができます。

(1) SOURCE (MAIN LR/SUR 2CH MIX/OFF) 設定エリア

モニター出力されている信号が表示されます。モニター信号は、MAIN LRまたはSUR 2CH MIX (5.1チャンネルサラウンドのダウンミックス) から選択できます。OFFを選択した場合は、モニター出力がOFFになります。信号の切り換えは、エリアにカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回して行います。

補足

- 入出力フェーダー部のACC・PFLキーまたは本画面でPFL/AFL信号をモニターしているとき、SOURCEエリアは操作できません。
- SUR 2CH MIXを選択した場合、MAIN LRおよびGRP1、3、4の各バスの信号を2チャンネルにダウンミックスした信号がモニター出力されます。従って、これらのバスにサラウンド音声以外の信号を送出している場合、この信号もミキシングされてモニター出力されます。なお、GRP2バスへ送出されるLFE信号は出力されません。

(2) MONO MIX (ON/OFF) ボタン

左右の信号をモノミックスしてモニター出力しているときはON、ステレオのまま出力しているときはOFFが表示されます。

ON/OFFの切り換えは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

(3) ディーマー表示 (ON/OFF) エリア

トークバックマイク使用中、本機はモニター出力を25dB強制的に下げ減音 (ディーマー機能) します。ディーマー機能が動作している間、ディーマー表示エリアにONが表示されます。変更することはできません。

画面説明 (つづき)

(4) PFL LVL設定エリア

PFL/AFL信号をモニター出力するときのレベルが数値で表示されます。

主にSOURCEボタンで選択した信号とPFL/AFLとの音量のバランスをとるときに使います。

レベルの調節は、数値にカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回して行います。

調節範囲： $-\infty$ 、-90 dB~+10 dB

PFL/AFL SELECTボックス

PFLまたはAFLを行うチャンネルを選択できます。

補足

- 工場出荷時、本機は単一のチャンネルごとにモニターするSOLOモードに設定されています。UTILITY画面 (No.002→107ページ) でPFL/AFLモードをMIXモードに変更すると、画面上のボタンまたは入出力フェーダー部のACC・PFLキーで複数のチャンネルを選択し、選択した信号をミックス出力してモニターすることができるようになります。
- PFL/AFLモードがSOLOの場合、画面上のボタンまたは入出力フェーダー部のACC・PFLキーをONにすると、それまでONだったボタンまたはキーはOFFになります。

(5) OUTPUT1~8 (ON/OFF) 選択ボタン

OUTPUT1~8端子に出力されている信号をモニターするときON (反転表示) にします。AFL信号がモニター出力されます。

ON/OFFの切り換えは、番号にカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

(6) SLOT1~8 (ON/OFF) ボタン

スロットに拡張カードを装着している場合にのみ設定できます。

拡張カードから入力している信号をモニターするときON (反転表示) にします。

ON/OFFの切り換えは、番号にカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

(7) AUX RTN1、2 (ON/OFF) ボタン

AUX RETURN1、2端子から入力した信号をモニターするときON (反転表示) にします。PFL信号がモニター出力されます。

ON/OFFの切り換えは、番号にカーソルを移動し、

ENTERキーを押して行います。

(8) AUX OUT1、2 (ON/OFF) ボタン

AUX1、2バスの信号をモニターするときON (反転表示) にします。モニター出力する信号の位置は (11) ポジション選択ボタンで選択することができます。

ON/OFFの切り換えは、番号にカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

(9) EFX (ON/OFF) ボタン

REV/EFXバス (EFX) の信号をモニターするときON (反転表示) にします。モニター出力する信号の位置は (11) ポジション選択ボタンで選択することができます。

ON/OFFの切り換えは、番号にカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

(10) CLRボタン

PFL/AFL SELECTボックスおよび入出力フェーダー部のACC・PFLキーでONにしたPFL音声をすべてOFF (反転解除) にし、SOURCE設定エリアに表示されている信号のモニターに戻ります。

PFL/AFLをクリアーするときは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押してください。

(11) ポジション選択 (PFL/AFL) ボタン

AUX1~2バス、REV/EFXはモニター出力する信号の位置 (PFLまたはAFL) を選択することができます。PFL/AFLの切り換えは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

TB ASSIGNボックス/OSC ASSIGNボックス

TB/OSC SELボタンの表示がTBのときはトークバックの動作を設定できます。OSCのときはオシレーターの動作を設定できます。

(12) LR (L、R)、GRP (1~4)、AUX (1、2)、EFX、ALL SELボタン

トークバックまたはオシレーターの信号を送出したいバスをON (反転表示) にします。ALL SELを押すと、ボックス内に表示されているすべてのバスが反転表示し、送対象になります。

ON/OFFの切り換えは、送りたいバスの番号にカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

(13) LVL設定エリア

トークバックまたはオシレーターの出力レベルが数値で表示されます。

出力レベルの調節は、数値にカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回して行います。

調節範囲： $-\infty$ 、-90 dB～+10 dB

(14) CLRボタン

トークバックまたはオシレーターの送出先に設定されているバスをすべて解除します。

すべて解除するときは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押してください。

ダイレクトキー

(15) TB/OSC SELボタン

トークバックとオシレーターのどちらを設定するか選択します。

トークバックの設定画面を表示しているときはTB、オシレーターの設定画面を表示しているときはOSCが表示されます。

TB/OSCの切り換えは、設定1キーを押して行います。

補足

トークバックやオシレーターを使用中にTB/OSC SELボタンが押された場合、(16)のTB/OSCボタンが強制的にOFFになって出力が停止します。

(16) TB/OSC (ON/OFF) ボタン

トークバックまたはオシレーターの信号を、TB/OSC ASSIGNボックスで設定したバスに送出する (ON) か、送出しない (OFF) かを設定します。

ON/OFFの切り換えは、設定2キーを押して行います。

(17) OSC SOURCE (PINK/1k) ボタン

このボタンは、TB/OSC SELボタンがOSCのときに表示されます。

このボタンで、オシレーターの音源をPINK (ピンクノイズ) または1k (1 kHz正弦波) から選択できます。

現在の設定がボタンに表示されます。

音源の選択は、設定3キーを押して行います。

AUX/EFX画面

動作モード

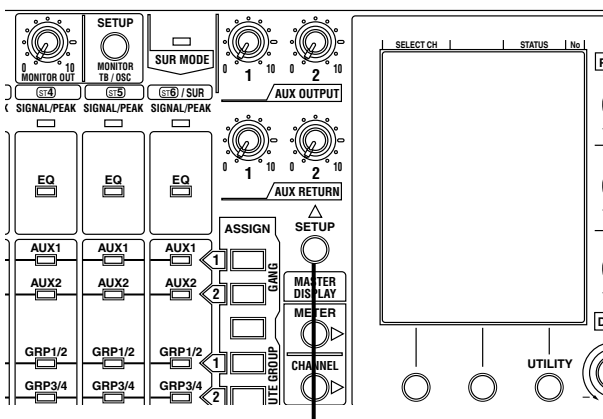
ADMIN

以下のバスや入力に対する設定を行うことができます。

- AUX1～2バス
- EFXバス
- AUX RETURN端子からの入力

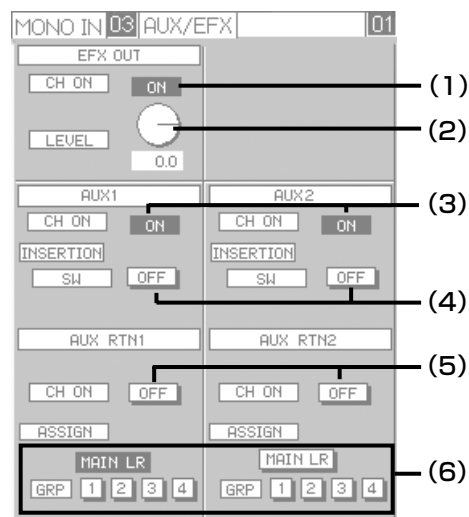
表示のしかた

AUX SETUPキーを押します。



AUX SETUPキー

画面説明



EFX OUTボックス

(1) CH ON (ON/OFF) ボタン

バスの信号を拡張カードに送出しているときはON、送出していないときはOFFが表示されます。

ON/OFFの切り換えは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

(2) LEVELノブ

バスの信号を拡張カードに送出するときのレベルを調節できます。設定値はノブの下に数値で表示されます。送出レベルの調節は、ノブにカーソルを移動し、パラメーター調節つまみを回して行います。

調節範囲：-∞、-90 dB～+10 dB

AUX1/AUX2ボックス

(3) CH ON (ON/OFF) ボタン

各バスの信号をアウトプロセッサ等に送出しているときはONが、送出していないときはOFFが表示されます。ON/OFFの切り換えは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

(4) INSERTION (ON/OFF) ボタン

この項目は、スロット部に拡張カードが装着されており、UTILITY画面でNo.004 SLOT MODEがINSに設定されているときにのみ使用してください(→108ページ)。これ以外の場合にONにすると、音声が出られなくなります。

拡張カードのOUTPUT7、8チャンネルにAUX1～2バスの音声を出し、外部エフェクターなどを經由して拡張カードのINPUT7、8チャンネルに戻す場合に設定します(インサージョン機能)。インサージョンが有効のときはON、無効のときはOFFが表示されます。ON/OFFの切り換えは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

AUX RTN1/AUX RTN2ボックス

(5) CH ON (ON/OFF) ボタン

入力信号をASSIGNボタンでONにしたバスに送出しているときはON、送出していないときはOFFが表示されます。ON/OFFの切り換えは、ボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

(6) ASSIGN (MAIN LR、GRP1～4) ボタン

AUX RETURN端子に入力した音声を送出したいバスをON(反転表示)にします。

ON/OFFの切り換えは、送りたいバスにカーソルを移動し、ENTERキーを押して行います。

PTN R/W画面

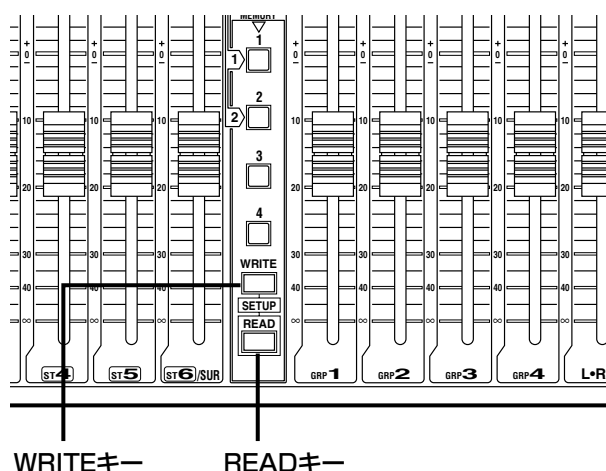
動作モード

ADMIN

各種画面や操作パネルで設定した内容をパターンメモリに登録したり、パターンメモリに登録されている設定を呼び出したりできます。8種類のパターンメモリに登録または呼び出しを行うことができます。一部はこの画面を使わずに登録または呼び出しを行うこともできます。(パターンメモリを活用する→60ページ)

表示のしかた

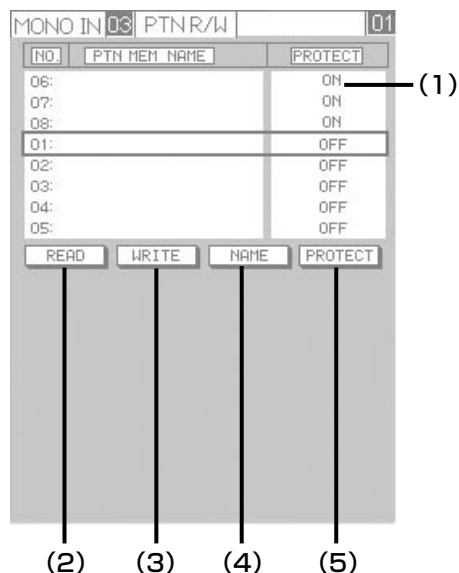
WRITEキーとREADキーを同時に押します。



WRITEキー

READキー

画面説明



(1) パターン選択エリア

パターンメモリの名称や登録禁止状態を確認できます。パラメーター調整つまみで、登録または呼び出したいパターンメモリを選択することができます。

NO. : パターンメモリ番号 (01~08) が表示されます。

PTN MEM NAME : パターンメモリの名称が表示されます。

PROTECT : 登録禁止が設定されているときはON、登録可能なときはOFFが表示されます。

補足

パターンメモリNo.01~04は操作パネルのPATTERN MEMORY1~4と共通です。

(2) READボタン

パターンメモリの呼び出しを行うためのボタンです。呼び出しを行うときは、以下の手順で操作します。

- ①パラメーター調整つまみで呼び出すパターンを選択する。
- ②カーソルキーでREADボタンにカーソルを移動する。
- ③ENTERキーを押す。
→確認メッセージが表示されます。



- ④呼び出しを行うときはOKボタンに、呼び出しを中止するときはCANCELボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押す。

重要

パターンの呼び出しを行った後、呼び出し前の状態に戻すことはできません。

(3) WRITEボタン

本機の設定をパターンメモリに登録するためのボタンです。

登録するときは、以下の手順で操作します。

- ①パラメーター調整つまみで登録するパターンを選択する。

画面説明 (つづき)

- ②カーソルキーでWRITEボタンにカーソルを移動する。
- ③ENTERキーを押す。
 - 画面の下半分に名称編集エリアが表示されます。このエリアに入力した名前で設定内容がパターンメモリに登録されます。名前の登録のしかたは右の「名前の登録のしかた」をお読みください。
- ④名前を入力したら、名称編集エリアのOKボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押す。

補足

登録禁止が設定されているパターンメモリを選択した場合、WRITEボタンは押せません。

(4) NAMEボタン

パターンメモリの名前を変更するときに使います。パラメーター調整つまみで名前を編集するパターンメモリを選択し、左右のカーソルキーでボタンにカーソルを移動してENTERキーを押すと、右の名称編集エリアが表示されます。

補足

登録禁止が設定されているパターンメモリの名前は変更できません (NAMEボタンが押せません)。

(5) PROTECTボタン

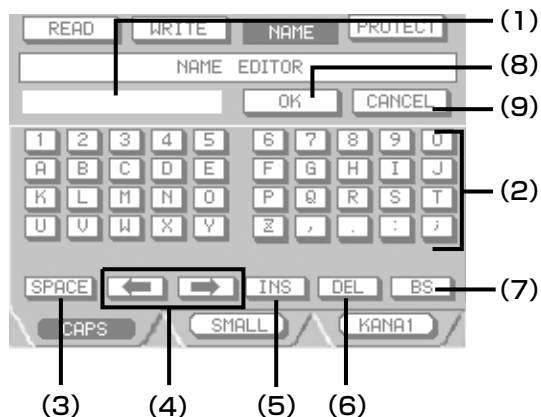
登録禁止を設定または解除するときに使います。パラメーター調整つまみで登録禁止 (ON) または解除 (OFF) するパターンメモリを選択し、左右のカーソルキーでこのボタンにカーソルを移動してENTERキーを押します。登録禁止が設定されるとPROTECT欄にONが表示されます (解除時はOFFが表示されます)。

補足

登録禁止を設定すると、登録 (WRITE) ・名称変更 (NAME) ができません。

名前の登録のしかた

左右のカーソルキーでWRITEボタン、またはNAMEボタンにカーソルを移動してENTERキーを押すと、画面下側に名称編集エリアが表示されます。入力文字の種類は、設定1から設定3キーを押して切り換えることができます。



設定1キー：英大文字モード



設定2キー：英小文字モード



設定3キー：カナ大文字モード (再度設定3キーを押すとカナ小文字モード)



設定3キー：カナ小文字モード

画面説明

(1) 名称表示エリア

現在のパターン名称が表示されます。点滅している文字が上書きされます。

(2) 文字選択ボタン

カーソルキーまたはパラメーター調整つまみで入力する文字にカーソルを移動し、ENTERキーを押します。

(3) SPACEボタン

空白文字を入力します。カーソルキーでこのボタンにカーソルを移動し、ENTERキーを押します。点滅している文字が空白文字になります。

(4) 入力位置移動ボタン

文字の入力位置を移動するためのボタンです。←または→ボタンにカーソルを移動しENTERキーを押すと、入力位置を移動できます。

(5) INSボタン

このボタンがONの時は、文字と文字の間に縦線が表示され、入力した文字がこの位置に挿入されます。ON/OFFの切り換えは、このボタンにカーソルを移動しENTERキーを押して行います。

(6) DELボタン

本ボタンにカーソルを移動しENTERキーを押すと、点滅している文字（縦線の右側の文字）を削除できます。

(7) BSボタン

本ボタンにカーソルを移動しENTERキーを押すと、点滅している文字（縦線）の左側を1文字削除できます。

(8) OKボタン

本ボタンにカーソルを移動しENTERキーを押すと、名称表示エリアに表示されている名前で登録します。

(9) CANCELボタン

本ボタンにカーソルを移動しENTERキーを押すと、名前の編集を中止します。登録処理や名称変更処理もキャンセルされます。

画面説明 (つづき)

パターンメモリーに記録されるデータ

(*) : 一部のチャンネルや設定では機能が存在しないため、無効です。

入力系

MONO INPUT

ONキー状態

フェーダー位置

各バスのアサイン状態、送出レベル、送出位置

PAN値

HPFの設定 (*)

イコライザーの設定

ダイナミクス種別 (*)

コンプレッサーの設定

オートマイクレベルコントローラーの設定 (*)

STEREO INPUT

ONキー状態

フェーダー位置

BAL値

各バスのアサイン状態、送出レベル、送出位置

INPUTレベル

イコライザーの設定

モノミックスの設定

SURROUND

サラウンド/STEREO6選択状態

ONキー状態

サラウンド入力選択 (*)

フェーダー位置

各チャンネルの個別レベル

AUX RETURN

ONボタン状態

入力レベル

各バスのアサイン状態

BUS系

MAIN LR BUS

ONキー状態

フェーダー位置

BAL値

モノミックスの設定

インサージョン状態 (*)

GROUP BUS

ONキー状態

フェーダー位置

PAN値 (*)

LRバスアサイン状態

インサージョン状態 (*)

MONO/STEREO設定

AUX BUS

ONボタン状態

出力レベル

インサージョン状態 (*)

EFX BUS

ONボタン状態

出力レベル

出力系、その他

OUTPUT PROCESSOR

各チャンネルへの入力信号

出力レベル

ディレイ設定

イコライザー設定

プリノッチ設定 (*) (RESP、SENS、MODEを除く)

コンプレッサー設定 (*)

ステレオリンク設定 (*)

チャンネルコピー方向 (*)

GANG

ギャンググループ登録状態、実行状態

ギャングマスターフェーダーのレベル

ギャングONキーの状態

拡張カード入出力

拡張カード8チャンネルへの出力設定 (*)

EQ LIB画面

動作モード

ADMIN

イコライザーの設定を8パターンまでライブラリに登録したり、ライブラリに登録されている設定を呼び出したりできます。

本機はバンド数や分解能の異なる4種類のイコライザーを装備しています。イコライザーの種類ごとに、8種類のイコライザー設定をライブラリに登録できます。ライブラリに登録した設定は、同じ種類のイコライザーに呼び出して使用することができます。

- (1) 3バンドPEQ、分解能1/12 oct (MONO1-6チャンネルに装備)
- (2) 2バンドPEQ、分解能1/12 oct (MONO7~8、STEREO1-6チャンネルに装備)
- (3) 8バンドPEQ、分解能1/48 oct (OUTPUT1-8チャンネルに装備)
- (4) 3バンドPEQ、分解能1/48 oct (OUTPUT1-8チャンネルでプリノッチを使用するとき)

EQ LIB画面は、CHANNEL画面で設定3キーを押すか、EQ画面でEQ LIB画面ボタンを押して表示します。



画面構成・各ボタン類の機能や操作方法はPTN R/W画面と同じです。97ページをお読みください。

DYN LIB画面

動作モード

ADMIN

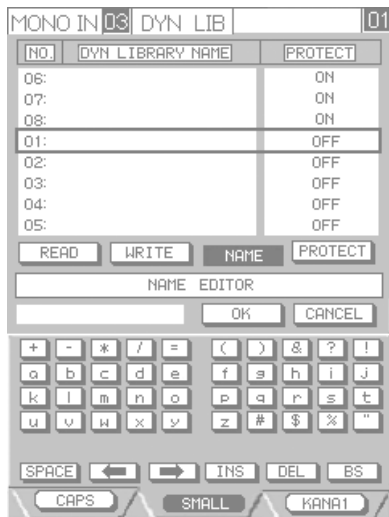
ダイナミクス（コンプレッサー）の設定を8パターンまでライブラリに登録したり、ライブラリに登録されている設定を呼び出したりできます。

本機のコンプレッサーはMONO1-6チャンネルとOUTPUT1-2チャンネルに装備されており、すべてのコンプレッサーで同じライブラリに登録したり、呼び出したりすることができます。

DYN LIB画面は、DYN画面でDYN LIB画面ボタンを押して表示します。

補足

MONO5-6チャンネルでオートマイクレベルコントローラーが選択されているときは本画面を表示することはできません。



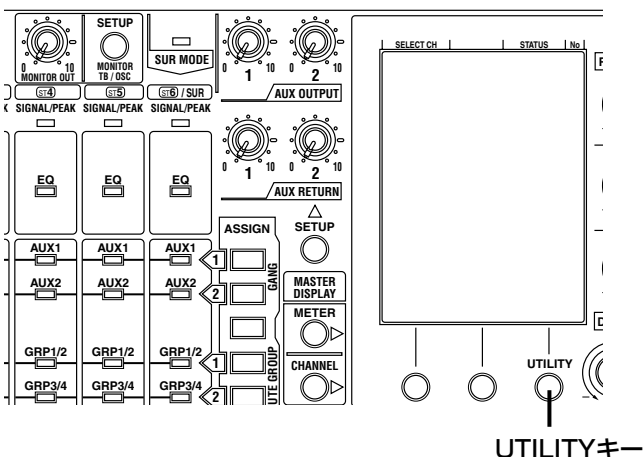
画面構成・各ボタン類の機能や操作方法はPTN R/W画面と同じです。97ページをお読みください。

UTILITY画面

本機の動作モードや、運用方法を設定することができます。

表示のしかた

UTILITYキーを2秒以上押します。



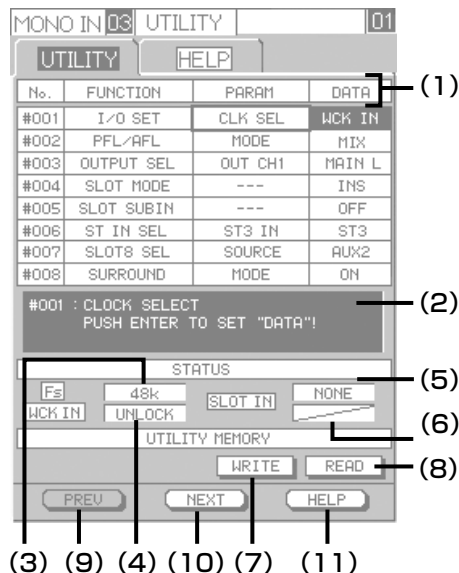
③DATA (設定値) の変更

AUX SEND2つまみを回して選択する。

補足

- システム全体に影響を及ぼす項目や、注意を要する項目を変更すると、DATA欄の設定値が反転表示されます。反転表示された設定を有効にする場合、ENTERキーを押します。ENTERキーを押さずにほかの操作を行うと、変更内容はキャンセルされ変更前の設定に戻ります。
- PARAMの項目またはDATAの項目にカーソルを移動し、パラメーター調整つまみを回して変更することもできます。
- 設定1キーで前ページを、設定2キーで次ページを表示できます。

画面説明



(1) No.、FUNCTION、PARAM、DATA

No.に設定項目の番号が、FUNCTION欄に機能名、PARAM欄に設定項目、DATAに設定内容が表示されます。機能や項目の選択、設定値の変更は以下の手順で行います。

- ①FUNCTION (機能大分類) の選択
REV RETURNつまみを回して選択する。
- ②PARAM (設定項目中分類) の選択
AUX SEND1つまみを回して選択する。

(2) メッセージ表示エリア

選択しているFUNCTIONまたはPARAMの説明が表示されます。

STATUSボックス

システムのクロックに関する状態を確認することができます。

(3) Fs表示エリア

現在使用しているクロックの周波数が表示されます。

(4) WCK IN表示エリア

WCK IN端子からのクロックに同期している場合、LOCKと表示されます。UNLOCKと表示される場合は、WCK IN端子からのクロックに同期していません。

(5) SLOT IN STATUS表示エリア

スロット部に拡張カードが挿入されている場合、挿入されているカードの種類が表示されます。カードが挿入されていない場合はNONEと表示されます。

画面説明（つづき）

(6) SLOT LOCK STATUS表示エリア

スロットに挿入されているカードからのクロックに同期している場合、LOCKと表示されます。UNLOCKと表示される場合は、カードからのクロックに同期していません。カードが挿入されていないか、8ch AD/DAカードが挿入されている場合は斜線表示されます。

UTILITY MEMORYボックス

本機はユーティリティの設定をメモリーに登録し、後で呼び出すことができます。メモリーに登録した設定は、電源切断後も有効です。

(7) WRITEボタン

現在のユーティリティの設定をメモリーに登録します。登録するときは、カーソルをPARAMの最終項目に移動し、下カーソルキーを押します。カーソルがWRITEボタンに移動します。その後、ENTERキーを押すと登録することができます。

(8) READボタン

メモリーからユーティリティの設定を呼び出します。呼び出すときは、カーソルをDATAの最終項目に移動し、下カーソルキーを押します。カーソルがREADボタンに移動します。その後、ENTERキーを押すと呼び出すことができます。

ダイレクトキー

(9) PREVボタン

設定1キーを押すと、一つ前のページに戻ります。

(10) NEXTボタン

設定2キーを押すと、一つ後のページに進みます。

(11) HELPボタン

設定3キーを押すと、ヘルプが表示されます。再度設定3キーを押すとUTILITY画面に戻ります。

補足

設定3キーを2秒以上押し続けると、UTILITY画面を終了し、UTILITY画面を表示する前の画面に戻ります。

重要

- 現在のユーティリティに関する設定がメモリーに登録されている設定に変更されます。呼び出し実行後、現在の設定を復元することはできません。
 - 呼び出しを行う際、すべての出力端子からの出力が一瞬ミュートされます。
 - No.003 OUTPUT SEL、No.007 SLOT8 SEL、No.008 SURROUNDの各設定は、本画面での呼び出し／登録の対象外です。代わりに、これらの設定はパターンメモリー（→60ページ）で呼び出し／登録が行われます。
-

設定項目

UTILITY画面で設定できる各機能を、FUNCTION単位で解説します。
変更不要な項目は工場出荷時の設定のままお使いください。

No.001 I/O SET (入出力設定)

本機の入出力に関する各種設定を行います。

重要

一部の設定を変更すると、切り換え時に本機の全出力端子の信号が一瞬ミュートされます。

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説
001	I/O SET	CLK SEL	*INT48K、 WCK IN SLOT IN	<p>システムの基準となるクロック（ワードクロック）をどこから供給するのか設定します。</p> <p>INT48K：本機内部のクロックを使用する WCK IN：WCK IN端子に入力されるクロック（48 kHz／44.1 kHz）を使用する SLOT IN：拡張カードのチャンネル1／2から入力される信号から抽出したクロック（48 kHz／44.1 kHz）を使用する</p> <p>※この設定を切り換えると、全出力端子の信号が一瞬ミュートされますので十分注意してください。</p>
		ST1／2SET	*ST1／2、 MONO7／8	<p>本機のSTEREO1～2チャンネルはMONO7～8チャンネルとして使用することができます。このパラメーターでステレオ・モノラルどちらで使用するのかを設定します。</p> <p>ST1／2：ステレオ入力として使用する MONO7／8：モノラル入力として使用する</p> <p>※ST1／2を選択した場合とMONO7／8を選択した場合では、入力する端子が異なります。設定に合わせて正しい端子に接続してください。異なる端子に接続した場合、一部の機能が正常に動作しなくなります。</p> <p>※STEREO1とMONO8など、ステレオ・モノラルを混在させて使用することはできません。</p>

*：工場出荷設定

画面説明 (つづき)

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説
		GRP/AUX 1/2 GRP/AUX 3/4	*GRP BUS、 AUX BUS	<p>GRP1-4のバスはAUXバスとして使用することが可能です。AUXバスとして使用する場合、各入力のCHANNEL画面からGRPバスへの送出位置 (PRE/POST) および送出レベルを設定することができるようになります。また、すべてモノラルのバスとなり、ステレオ入力はモノミックスされてGRP1-4の各バスへ送出されるようになります。設定は2チャンネル単位で行います。GRP/AUX 1/2ではGRP1-2バスについて、GRP/AUX 3/4ではGRP3-4バスについて設定します。</p> <p>GRP BUS : グループバスとして使用する AUX BUS : AUXバスとして使用する</p>
		REC SEL	AUX2、 PRE LR、 *POST LR	<p>REC OUT端子に出力する信号を選択します。</p> <p>AUX2 : AUX2バスの信号を出力 PRE LR : メインLRバスのPRE信号を出力 POST LR : メインLRバスのPOST信号を出力</p>
		IN SWAP	ON、*OFF	<p>ONの場合、STEREO3-4とAUX RETURN1-2の入力が入れ換わり、AUX RETURNからの入力をST3-4のフェーダーで操作可能となります。</p> <p>この機能を使用することにより、最大4台までのステレオ機器についてバランス入力対応し、ステレオ3~6チャンネルのフェーダーで制御することができるようになります。</p> <p>※この機能は入力端子の切り換えです。入力部の各設定 (イコライザー・バスアサイン情報など) は切り換え前の設定がそのまま適用されますので注意してください。</p> <p>※この設定はNo.006 ST IN SELの設定にも影響を受けます。No.006の解説もお読みください。</p> <p>※トークバック (→39ページ) を使用する状態で本設定をONにした場合、STEREO4チャンネルのR側に音声は入力されません。</p>
		MONO8/TB	*MONO8、TB	<p>TBに設定した場合、MONO8端子の入力がトークバックマイクとして制御されます。このとき、MONO8チャンネルは使用できません。</p> <p>※切り換え時にノイズが発生する場合があります。TBボタン (MONITOR画面→95ページ)、MONO8/STEREO2のONキーをOFFにしてから切り換えを行ってください。</p>

* : 工場出荷設定

No.002 PFL/AFL (PFL/AFLの設定)

PFL/AFLに関する各種設定を行います。

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説
002	PFL/AFL	MODE	*SOLO、MIX	<p>PFL/AFLを行うチャンネルの選択方法を設定します。</p> <p>SOLO：チャンネルの選択は択一となり、PFL (AFL) 中に他のチャンネルのPFL (AFL) 操作を行うと新しいチャンネルの信号だけがモニターされます。</p> <p>MIX：複数のチャンネルを同時にPFL (AFL) 可能で、PFL (AFL) 中に他のチャンネルのPFL (AFL) 操作を行うと、両方のチャンネルの信号がミキシングされてモニターされます。</p>
		OUT1/2	MONO、*ST	OUTPUT 1-8チャンネルのAFL信号モニター時、信号をモノラル・ステレオのどちらで扱うのか設定します。
		OUT3/4 OUT5/6 OUT7/8	*MONO、ST	<p>MONO：モノラル信号として扱います。 MONITOR OUTPUTのL、R両チャンネルに指定したAFL信号が出力されます。</p> <p>ST：1-2、3-4、5-6、7-8の各チャンネルが組となったステレオ信号として扱います。たとえばOUTPUT 1チャンネルをモニター指定するとMONITOR OUTPUTのL側に、2チャンネルをモニター指定するとR側に出力されます。</p>

*：工場出荷設定

No.003 OUTPUT SEL (アウトプットプロセッサへの入力選択)

アウトプットプロセッサの各チャンネルへの入力信号を設定します。

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説
003	OUTPUT SEL	OUT CH1 OUT CH2 OUT CH3 OUT CH4 OUT CH5 OUT CH6 OUT CH7 OUT CH8	MAIN L、 MAIN R、 GRP1-4、 AUX1-2	<p>アウトプットプロセッサ各チャンネルへ入力する信号を選択します。</p> <p>工場出荷設定： CH1：MAIN L、CH2：MAIN R、 CH3：GRP1、CH4：GRP2、 CH5：GRP3、CH6：GRP4、 CH7：AUX1、CH8：AUX2</p>

画面説明（つづき）

No.004 SLOT MODE（拡張カードの動作モード設定）

本機は拡張カードを使用してインサクションを行うことができます。この機能では拡張カードでインサクションを使用するか、通常の入出力端子として使用するかを設定します。

インサクションを使用する設定の時は、各バスのCHANNEL画面の設定2キー、およびAUX/EFX画面のAUX INSボタンによりインサクションのON/OFFを設定することができます。

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説
004	SLOT MODE	---	*NORMAL、INS	拡張カードのインサクションに関する設定を行います。 <ul style="list-style-type: none">●NORMAL：拡張カードは通常の入出力端子として使用する●INS：拡張カードをインサクションカードとして使用する ※拡張カードの一部のチャンネルだけでインサクションを使用することはできません。

*：工場出荷設定

補足

インサクションを使用する設定の場合、拡張カードはインサクションカードとして機能し、通常の入力端子としての運用は行えなくなります。インサクションを使用する設定のままNo.008 SURROUNDのSLOT INで拡張カードからサラウンド音声を入力させることはできません。また、インサクションを使用する設定ではNo.005 SLOT SUBINおよびNo.006 ST IN SELの設定、およびMONITOR画面でのSLOT IN1～8のPFLは無効となります。

No.005 SLOT SUBIN（拡張カード入力のサブイン設定）

拡張カードからの入力信号をメインLR・グループ・AUXの各バスに送出することができます（ただし送出可能なバスは各チャンネルごとに決まっており、変更することはできません）。拡張カード各チャンネルからの入力をバスに送出するか否かを設定します。

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説
005	SLOT SUBIN	---	ON、*OFF	ONに設定した場合、拡張カード各チャンネルの入力が、以下のバスへ送出されます。 <ul style="list-style-type: none">1チャンネル：メインLRバス（L側）2チャンネル：メインLRバス（R側）3チャンネル：GRP1バス：：6チャンネル：GRP4バス7チャンネル：AUX1バス8チャンネル：AUX2バス OFFに設定した場合、拡張カードの入力は、バスへは送出されません。

*：工場出荷設定

補足

●No.004 SLOT MODEがINSに設定されている場合、この設定は無効です（拡張カードはインサクションカードとして機能します）。

108 ●拡張カードを使用しない場合、この設定は無効です。

No.006 ST IN SEL (ステレオ3~6チャンネルの入力選択)

拡張カードからの入力信号を、ステレオ3~6チャンネルへの入力として使用することができます。各チャンネルに対し、STEREO3~6端子からの入力を使用するか拡張カードからの入力を使用するかを設定します。

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説
006	ST IN SEL	ST3 IN	*ST3、SLOT	ST3：STEREO3端子の入力がステレオ3チャンネルへ入力されます。 SLOT：拡張カードの1チャンネルがステレオ3チャンネルのL側へ、2チャンネルがR側へ入力されます。
		ST4 IN	*ST4、SLOT	ST4：STEREO4端子の入力がステレオ4チャンネルへ入力されます。 SLOT：拡張カードの3チャンネルがステレオ4チャンネルのL側へ、4チャンネルがR側へ入力されます。
		ST5 IN	*ST5、SLOT	ST5：STEREO5端子の入力がステレオ5チャンネルへ入力されます。 SLOT：拡張カードの5チャンネルがステレオ5チャンネルのL側へ、6チャンネルがR側へ入力されます。
		ST6 IN	*ST6、SLOT	ST6：STEREO6端子の入力がステレオ6チャンネルへ入力されます。 SLOT：拡張カードの7チャンネルがステレオ6チャンネルのL側へ、8チャンネルがR側へ入力されます。

*：工場出荷設定

補足

- No.004 SLOT MODEがINSに設定されている場合、この設定は無効です（拡張カードはインサージョンカードとして機能します）。
- No.008 SORROUNDのMODEがONの場合、ST6 INの設定は無効です。
- 拡張カードを使用しない場合、この設定は無効です。
- ST3（4）INがSLOTに設定されている場合、No.001 I/O SETのIN SWAPをONにしてもステレオ3（4）チャンネルへは拡張カード1-2（3-4）チャンネルの信号が入力されます。STEREO3（4）端子からの入力はAUX RETURN1（2）チャンネルの入力として処理され、AUX RETURN1（2）端子からの入力は無効となります。

No.007 SLOT8 SEL (拡張カード8チャンネルの出力選択)

拡張カードの8チャンネルへ送出する信号をAUX2バスにするかEFXバスにするかを選択します。拡張カードのその他のチャンネルへの送出は以下ようになっており、変更することはできません。

- 1チャンネル：メインLRバス（L側）
- 2チャンネル：メインLRバス（R側）
- 3チャンネル：グループ1バス
- 4チャンネル：グループ2バス
- 5チャンネル：グループ3バス
- 6チャンネル：グループ4バス
- 7チャンネル：AUX1バス

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説
007	SLOT8 SEL	SOURCE	*AUX2、EFX	拡張カード8チャンネルへAUX2バスの信号を送出するか、EFXバスの信号を送出するかを設定します。

*：工場出荷設定

画面説明 (つづき)

No.008 SURROUND (サラウンド入力の設定)

サラウンド入力に関する各種設定を行います。

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説
008	SURROUND	MODE	ON、*OFF	<p>サラウンド入力の使用有無を設定します。 ON：サラウンドモードの設定となり、ST6/SURフェーダー部でサラウンド入力の調節をすることができます。またSUR MODEランプが点灯します。</p> <p>OFF：ST6/SURフェーダー部でステレオ6チャンネルの調節をすることができます。またSUR MODEランプが消灯します。</p>
		SLOT IN	*INPUT SLOT IN	<p>上記MODEがONの場合、サラウンド音声の信号をどこから入力するかを設定します。 INPUT：本体背面の端子からサラウンド音声を入力</p> <p>SLOT IN：拡張カードからサラウンド音声を入力。拡張カードの1チャンネルから順にL、R、C、LEF、LS、RSの信号として処理が行われます。拡張カード7、8チャンネルはサラウンド信号として処理されません。</p> <p>※この設定をSLOT INにする場合、必ず上記MODEをON、No.004 SLOT MODEをNORMALに設定してください。いずれかが違う場合、サラウンド音声の信号は入力されません。</p> <p>※この設定がSLOT INの場合も、No.006 ST IN SELの設定は有効で、サラウンド各チャンネルの信号がステレオ各チャンネルへも入力されます。</p>

*：工場出荷設定

No.009 CTRL CONF (外部制御の有効/無効設定)

外部制御の各種機能の有効/無効を設定します。(本機を外部から制御する→62ページ)

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説
009	CTRL CONF	RS422	*ON、OFF	RS-422端子でデータをバックアップしたり、パソコン等によるリモートコントロールを行う場合ONにします。
		RMT IN	*ON、OFF	REMOTE端子 (CONT1-IN~CONT8-IN) に接続されたボタンでパターンメモリーの呼び出しやボリューム制御を行う場合ONにします。
		RMT OUT	*ON、OFF	REMOTE端子 (CONT1-OUT~CONT7-OUT) にパターンメモリーの呼び出し通知やフェーダースタート信号を出力する場合ONにします。
		VCA IN	*ON、OFF	REMOTE端子 (VCA1~4) に接続されたボリュームで音量制御を行う場合ONにします。

*：工場出荷設定

No.010 RS422 SET (RS422の各種設定)

RS-422端子を使用した外部制御に関する各種設定を行います。(本機を外部から制御する→62ページ)
通常のバックアップ/リストアを行う場合は、このFUNCTIONのSYSEX ENをONにする必要があります。

重要

リモートコントロールに関するパラメーター（解説欄に[RMT]と記載されているもの）については通信データフォーマット（本機を外部から制御する→62ページ）に関する知識が必要です。リモートコントロールを行う場合に限り、通信データフォーマットに関して十分理解した上でONに設定してください。

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説
010	RS422 SET	RATE	31.25 k、*38.4 k、 57.6 k	RS-422のビットレートを設定します。通信先の機器の設定と合わせてください。 ※31.25 kに設定した場合、システムエクスクルーシブメッセージを使用した通信はできません（PARAM：SYSEX EN→次ページ）
		CH TX	*1-16	本機からRS-422へ出力するときの送信チャンネルを指定します。受信側の機器の設定と合わせてください。
		CH RX	*1-16、OMNI	RS-422から受信するときの本機の受信チャンネルを指定します。指定されたチャンネルへ送信されたデータだけが本機への入力対象となります。OMNIに設定した場合、すべてのチャンネルのデータを受信します（システムエクスクルーシブメッセージを除く）。送信側の機器の設定と合わせてください。
		P CHG TX	ON、*OFF	[RMT] ONにした場合、本機のパターンメモリー操作が行われるたびにプログラムチェンジのデータがRS-422へ送信されます。
		P CHG RX	ON、*OFF	[RMT] ONにした場合、プログラムチェンジにより本機のパターンメモリーをリモートコントロールすることができます。
		C CHG TX	ON、*OFF	[RMT] ONにした場合、本機各種操作が行われるたびにコントロールチェンジのデータがRS-422へ送信されます。
		C CHG RX	ON、*OFF	[RMT] ONにした場合、コントロールチェンジにより本機の各種操作をリモートコントロールすることができます。
		RPN EN	ON、*OFF	[RMT] ONにした場合、コントロールチェンジのデータフォーマットでRPNが有効となります。

*：工場出荷設定

画面説明 (つづき)

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説
		NRPN EN	ON、*OFF	[RMT] ONにした場合、コントロールチェンジのデータフォーマットでNRPNが有効となります。 上記RPN ENもONの場合、本機からはNRPNのフォーマットで送信が行われます。
		SYSEX EN	ON、*OFF	本機設定データのバックアップ/リストアを行う場合、この設定をONにしてください。 [RMT] その他、システムエクスクルーシブメッセージを使用して本機と通信・リモートコントロール等を行う場合にもONにします。 ※RATEが31.25 kに設定されている場合、本設定をONにしても通信はできません。 ※CH RXがOMNIに設定されている場合、システムエクスクルーシブメッセージは受信されません。

No.011 RS422 BULK (RS-422によるバルクアウト通信の設定)

RS-422端子でデータバックアップ/リストア等のバルクアウト通信を行う場合に関する各種設定を行います (本機を外部から制御する→62ページ)。また、ご使用になるソフトウェアの仕様にも合わせる必要があります。ご使用になるソフトウェアの説明書等もお読みください。

重要

EXECおよびCANCELは受信側ソフトウェアの制御を行いません。使用するには本機通信データフォーマットおよびシリアル通信についての十分な知識が必要ですので、通常はOFFの状態で使用してください。

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説
011	RS422 BULK	CURRENT	ON、*OFF	カレントパターン (現在運用中の設定) のデータを送信するときONにします。
		PTN MEM	ON、*OFF	パターンメモリーのデータを送信するときONにします。
		EQ LIB	ON、*OFF	イコライザーのライブラリ (→101ページ) の設定を送信するときONにします。
		DYN LIB	ON、*OFF	ダイナミクスのライブラリ (→102ページ) の設定を送信するときONにします。
		SEL ALL	ON、*OFF	上記すべての設定を送信するときONにします。本パラメーターがONの場合、上記CURRENT~DYN LIBの各設定は無効となります。

* : 工場出荷設定

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説
		EXEC	ON、*OFF	市販の通信ソフトにより手動操作でバックアップを行う場合などに使用する機能です。ONにすると、上記CURRENT～SEL ALLで設定した内容のバルクアウト送信を開始します。 指定ホームページからダウンロードしたユーティリティソフトを使用する場合は、この設定はOFFのまま使用してください。
		CANCEL	ON、*OFF	バルクアウトの送信を途中で中断するときONにします。指定ホームページからダウンロードしたユーティリティソフトとの送受信を中断する場合この設定はOFFのままとし、ユーティリティソフトから中断処理を行ってください。
		INTERVAL	*40ms-200ms (40ms刻み)	項目ごとのバルクアウト送信の間隔を指定します。受信側機器が十分な性能を持たない場合、性能に応じて設定してください。

No.012-019 RMT IN-1～8 (REMOTE端子CONT1-IN～CONT8-INの設定)

REMOTE端子のCONT1-IN～CONT8-INを使用したリモコン制御に関する各種設定を行います。(本機を外部から制御する→62ページ)

このFUNCTIONは、PARAMとDATAの組み合わせで機能が確定します。他のFUNCTIONのように各PARAMについてDATAを設定する方式と異なりますので注意してください。

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説
012	RMT IN-1		*LVL、	それぞれの端子で制御する機能をPARAMで選び、DATAで制御の方法を指定します。 PARAM (機能の選択) : ● PTN1-8 : 指定した番号のパターンメモリの呼び出し ● MO1/+ (-) ~GANG2/+ (-) : 指定したフェーダー (つまみ) の音量増加 (+) / 減少 (-) DATA (制御方法) : ● LVL : ON (メーク) / OFF (ブレーク) による制御 (PARAMがPTN1-8のときのみ選択可能) ● SHORT : 200 msのパルス検出による制御 ● LONG : 600 msのパルス検出による制御 ※PARAM欄で使用されている略語は以下のとおりです。
013	RMT IN-2	*PTN1-8、	SHORT、	
014	RMT IN-3	MO1/+、 /-、	LONG	
015	RMT IN-4	...		
016	RMT IN-5	MO8/+、 /-、		
017	RMT IN-6	ST1/+、 /-、		
018	RMT IN-7	...		
019	RMT IN-8	ST6/+、 /-、		
		SUR/+、 /-、		
		GRP1/+、 /-、		
		...		
		GRP4/+、 /-、		
		EFX/+、 /-、		
		MAIN LR/+、 /-、		
		OUT1/+、 /-、		
		...		
		OUT8/+、 /-、		

* : 工場出荷設定

画面説明 (つづき)

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説
		GANG1 / +, / -, GANG2 / +, / -		MO1-8 : モノラル入力 ST1-6 : ステレオ入力 SUR : サラウンド入力 GRP1~4 : グループバス EFX : EFXバス MAIN LR : メインLRバス OUT1-8 : アウトプットプロセッサ GANG1-2 : ギャングマスターフェーダー ※No.001 1 / 0 SETのST1 / 2 SETが ST1 / 2のときはMO7-8の設定が、 MONO7 / 8のときはST1-2の設定がそ れぞれ無効となります。 ※No.008 SURROUNDのMODEがONの ときはST6の設定が、OFFのときはSUR の設定がそれぞれ無効となります。

No.020-023 RMT VCAI-1~4 (REMOTE端子VCA1~VCA4の設定)

REMOTE端子のVCA1~VCA4を使用したりリモコン制御に関する各種設定を行います。(本機を外部から制御する→62ページ)

このFUNCTIONに、DATAはありません。各FUNCTIONに対し、PARAMを設定します。他のFUNCTIONのように各PARAMについてDATAを設定する方式とは異なりますので、注意してください。

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説
020	RMT VCAI-1	*OFF、	---	それぞれの端子でボリューム制御するチャンネルをDATAで指定します。DATA欄の略語についてはNo.012-019 RMT IN-1~8をお読みください。
021	RMT VCAI-2	MONO1-8、		
022	RMT VCAI-3	ST1-6、		
023	RMT VCAI-4	SUR、 GRP1-4、 EFX、 MAIN LR、 OUT1-8、 GANG1-2		

* : 工場出荷設定

No.024-031 RMT OUT-1~8 (REMOTE端子CONT1-OUT~CONT8-OUTの設定)

REMOTE端子のCONT1-OUT~CONT8-OUTを使用したりリモコン制御に関する各種設定を行います。(本機を外部から制御する→62ページ)

このFUNCTIONは、PARAMとDATAの組み合わせで機能が確定します。他のFUNCTIONのように各PARAMについてDATAを設定する方式と異なりますので注意してください。

補足

No.031 RMT OUT-8はSTATUS信号とピンを共有しているため、通常の状態では使用できません。

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説
024	RMT OUT-1	*PTN1-8、	*LVL、SHORT、	<p>それぞれの端子で制御する機能をPARAMで選び、DATAで出力の方法を指定します。PARAM（機能の選択）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ●PTN1-8：指定した番号のパターンメモリの呼び出しで信号発生 ●MONO1～MAIN LR ：指定したフェーダーのフェーダースタート機能として使用。DATAはLVLのみ有効で、フェーダーを下げ切ったときOFF、少しでも上げるとONが出力されます。略語についてはNo.012-019 RMT IN-1～8をお読みください。 <p>DATA（制御方法）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ●LVL：ON（メイク）／OFF（ブレーク）の出力 ●SHORT：200 msのパルス検出による制御 ●LONG：600 msのパルス検出による制御 <p>※同一の機能を2つ以上の端子に設定しないでください。正しく動作しないことがあります。</p> <p>※フェーダースタート機能は物理的なフェーダーに対応するため、PARAMでMONO7、MONO8、SUR、GANG1、GANG2は選択できません。これらのチャンネルでフェーダースタート機能を使用する場合は、それぞれST1、ST2、ST6、GRP1、GRP2に設定してください。</p>
025	RMT OUT-2	MONO1-6、	LONG	
026	RMT OUT-3	ST1-6、		
027	RMT OUT-4	GRP1-4、		
028	RMT OUT-5	MAIN LR		
029	RMT OUT-6			
030	RMT OUT-7			
031	RMT OUT-8			

*：工場出荷設定

No.100 KEY LOCK（キーロックの設定）

本機運用中の誤操作防止等のため、特定の機能をロックして変更できないようにすることができます。本FUNCTIONではこのキーロックに関する各種設定を行います。

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説
100	KEY LOCK	FADER	ON、*OFF	<p>本設定がONの場合、モノラル・ステレオ・サラウンド・GRP・LRの各フェーダーレベルとONキーおよびPFLが変更できなくなります。また、ASSIGN部によるパターンメモリの呼び出し、登録（→60ページ）も、本設定がONの場合、操作できなくなります。</p> <p>（PTN R/W画面による呼び出し、登録（→97ページ）は本設定がONの場合も有効です。）</p>

*：工場出荷設定

画面説明 (つづき)

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説
		OTHERS	ON、*OFF	本設定がONの場合、フェーダー、ONキー、PFLおよびパターンメモリーの呼び出し、登録以外のすべての設定が変更できなくなります。ただしUTILITY画面の本FUNCTIONおよびNo.107 ADMINに関しては、本設定がONの時も変更することができます。

補足

- キーロックONの状態でも、RS-422やREMOTE端子による外部からの制御は有効です。
- フェーダーがキーロックされているときにフェーダーを操作して実際の音声レベルと合わなくなった場合、ONキーが点滅してCHANNEL画面のフェーダーに合致点マーク（右向きの三角）が表示され、点滅します。（ONキーの点滅について→56ページ）

No.101 AUTO DISP (画面表示の自動制御設定)

フェーダーを操作したとき、そのチャンネルのCHANNEL画面を自動的に表示することができます。また、しばらく本機の操作が行われなかった場合に、自動的にMETER画面またはCHANNEL画面に表示を切り換えることも可能です。本FUNCTIONでは、これら画面の自動制御に関する設定を行います。

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説
101	AUTO DISP	CH SEL	ON、*OFF	ONの場合、フェーダーを操作したときにそのチャンネルのCHANNEL画面が自動的に液晶に表示されます。
		TO HOME	*OFF、3MIN、5MIN	しばらく本機の操作が行われなかった場合の画面自動制御の有無、および画面自動制御が行われるまでの時間を設定します。画面自動制御の内容は、次のHOME DISPで設定します。 OFF：画面自動制御は行われません。 3MIN：3分経過後に画面自動制御が行われます。 5MIN：5分経過後に画面自動制御が行われます。
		HOME DISP	*METER、CH	しばらく本機の操作が行われなかった場合の画面自動制御で表示する画面の種類を設定します。上記TO HOMEがOFFの場合は、この設定は無効になります。 METER：METER画面を表示します。 CH：操作対象となっている（ACC・PFLキ一点灯）チャンネルのCHANNEL画面を表示します。

*：工場出荷設定

No.102 DISP UTIL (表示関係の設定)

各種表示に関する設定を行います。

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説
* : 工場出荷設定	DISP UTIL	LCD CONT	0~10 工場出荷設定 : 5	液晶のコントラストを調節できます。 0が最低、10が最高です。
		LCD BL	-5~2 工場出荷設定 : 0	液晶バックライトの明るさを調節できます。 -5が最低、2が最高です。
		PK THL	0 dBFS~-6.0 dBFS (8階調) 工場出荷設定 : -3.0 dBFS	レベルメーターでPEAK (赤) 表示を行う 最低しきい値を設定します。
		PK HOLD	∞、*2s	METER画面でPEAK HOLDをONにした ときにピーク値を保持している時間を選択 します。 ∞ : 電源が切られるまでの間ずっと保持さ れます。(本画面の一部の設定が変更さ れたときを除く) 2s : 2秒間保持されます。
		LED DIM	-7~0 工場出荷設定 : 0	ランプの明るさを調節できます。 -7が最小輝度、0が最大輝度です。
		LVL UNIT	*dB、dBFS	レベルメーターなどの単位系をdB、dBFS から選択します。
		DLY UNIT	*METER、SECOND、 FEET	ディレイの遅延量表示の単位系を設定しま す。 METER : メートル単位 SECOND : 秒 (ミリ秒) 単位 FEET : フィート単位 ※本機では、基本的な単位としてミリ秒 [ms] を使用し、他の単位への変換は以下 の式により簡易的に行っています。 [メートル (m)] =0.34 (m/ms) × [ミリ秒 (ms)] [フィート (ft)] =1.12 (ft/ms) × [ミリ秒 (ms)]

画面説明（つづき）

No.103 RD PROTECT（リードプロテクトの設定）

パターンメモリーの呼び出しの際、特定の機能に関する設定だけを対象から外し、現在の設定のまま保持することができます。

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説
103	RD PROTECT	FADER	ON、*OFF	ONに設定した場合フェーダー、ONキー（モノラル・ステレオ各入力チャンネル、SUR、GRP1-4、LR）に関するデータがパターンメモリーの呼び出し対象外となります。
		OUTPUT	ON、*OFF	ONに設定した場合、アウトプットプロセッサの設定に関するデータがパターンメモリーの呼び出し対象外となります。 ※No.003 OUTPUT SELで設定されたアウトプットプロセッサ各チャンネルへの入力信号の設定も本PARAMをONにするとプロテクトされます。

*：工場出荷設定

No.104 CH PROTECT（チャンネル単位のプロテクト設定）

パターンメモリーの呼び出しの際、特定のチャンネルの設定だけを対象から外し、現在の設定のまま保持することができます。各チャンネル個別にプロテクトON/OFFが切り換えられます。複数のチャンネルにプロテクトをかけることもできます。

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説
104	CH PROTECT	MONO1-8	ON、*OFF	ONに設定した場合、そのチャンネルに関するデータがパターンメモリーの呼び出し対象外となります。

*：工場出荷設定

No.105 FINE LEVEL (出力レベルの微調整)

OUTPUT1-8チャンネルおよび拡張カード1-8チャンネルの出力レベルの微調整を行います。

補足

拡張カードにWR-AESCのカードが装着されている場合、SLOT CH1-8の設定はできません。

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説
105	FINE LEVEL	OUTPUT 1-8	-6.0 dB~6.0 dB (0.1 dB刻み) 工場出荷設定：0 dB	OUTPUT1-8チャンネルの出力レベルの微調整を行います。
		SLOT CH 1-8	-6.0 dB~6.0 dB (0.1 dB刻み) 工場出荷設定：0 dB	拡張カード1-8チャンネルの出力レベルの微調整を行います。

No.106 PAD (PADの設定)

STEREO5~6チャンネル、AUX RETURN1~2チャンネル各端子の定格入力レベルを切り換えます。

重要

PADの設定を切り換えるときにノイズが発生する場合があります。切り換える前に、必ず対象となるチャンネルの入力フェーダーまたはAUX RETURN1~2つまみを絞りにした状態にしてください。

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説	
106	PAD	ST5	ON、*OFF	各端子の定格入力レベルを切り換えます。 ON時：+4 dBu OFF時：-10 dBV	
		ST6			
		AUX RTN1	*ON、OFF		各端子の定格入力レベルを切り換えます。 ON時：+4 dBu OFF時：-10 dBV
		AUX RTN2			

No.107 ADMIN (動作モードの設定)

ユーザーモードとアドミニストレーターモード (→127ページ) の設定を切り換えます。

No.	FUNCTION	PARAM	DATA	解説
107	ADMIN	--	USER、*ADMIN	USER：ユーザーモードに設定します。 METER画面とCHANNEL画面、およびUTILITY画面の本FUNCTIONだけが画面上で操作可能です。 ADMIN：アドミニストレーターモードに設定します。本機のすべての機能を操作することができます。

*：工場出荷設定

設置上のお願い



警告

- 工事は販売店にご依頼ください。
- 工事を行う前に主電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本機の質量に耐える場所に取り付けてください。

雑音源は避ける

電灯線など雑音源にケーブルを近づけるとノイズが発生する場合があります。そのときは、雑音源からできるだけ離すように配線するか、本機の位置を変えてください。

以下の場所には設置しない

- 直射日光の当たる場所
- 振動の多い場所や衝撃が加わる場所
- スピーカーやテレビ、磁石など、強い磁力を発生するものの近く
- 結露しやすい場所、温度差の激しい場所、水気（湿気）の多い場所
- 厨房など蒸気や油分の多い場所
- 傾斜のある場所

アース接続

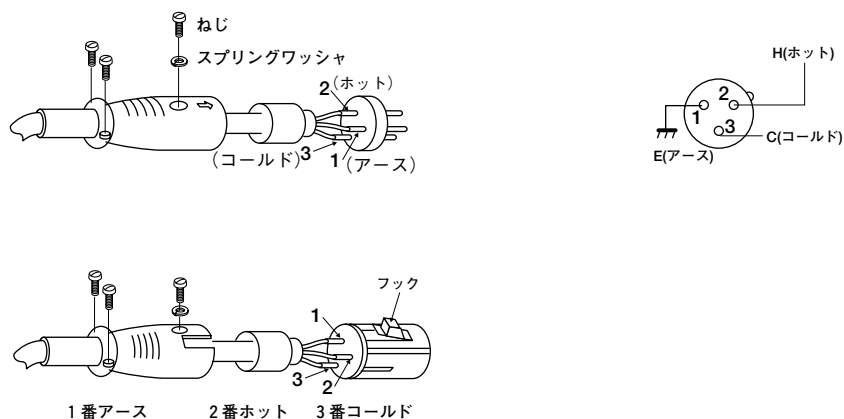
アース接続は、必ず主電源プラグを主電源につなぐ前に行ってください。また、アース接続を外す場合は、必ず主電源プラグを主電源より切り離してから行ってください。

ケーブルについて

本機とアンプなどの周辺機器との接続には、以下のケーブルを使用します。必要に応じて別途ご用意ください。

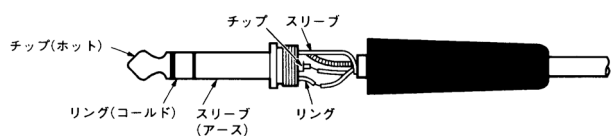
XLR-3コネクター付きケーブル

MONO INPUT 1～6端子やOUTPUT 1～6端子との接続に使用します。



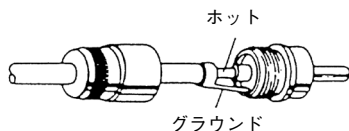
大型複式プラグ付きケーブル

MONO INPUT 7～8、STEREO INPUT 5～6、OUTPUT 7～8、AUX RETURN 1～2、MONITOR OUTの各端子との接続に使用します。



RCAピンプラグケーブル

STEREO INPUT 1～4端子やREC OUT端子との接続に使用します。

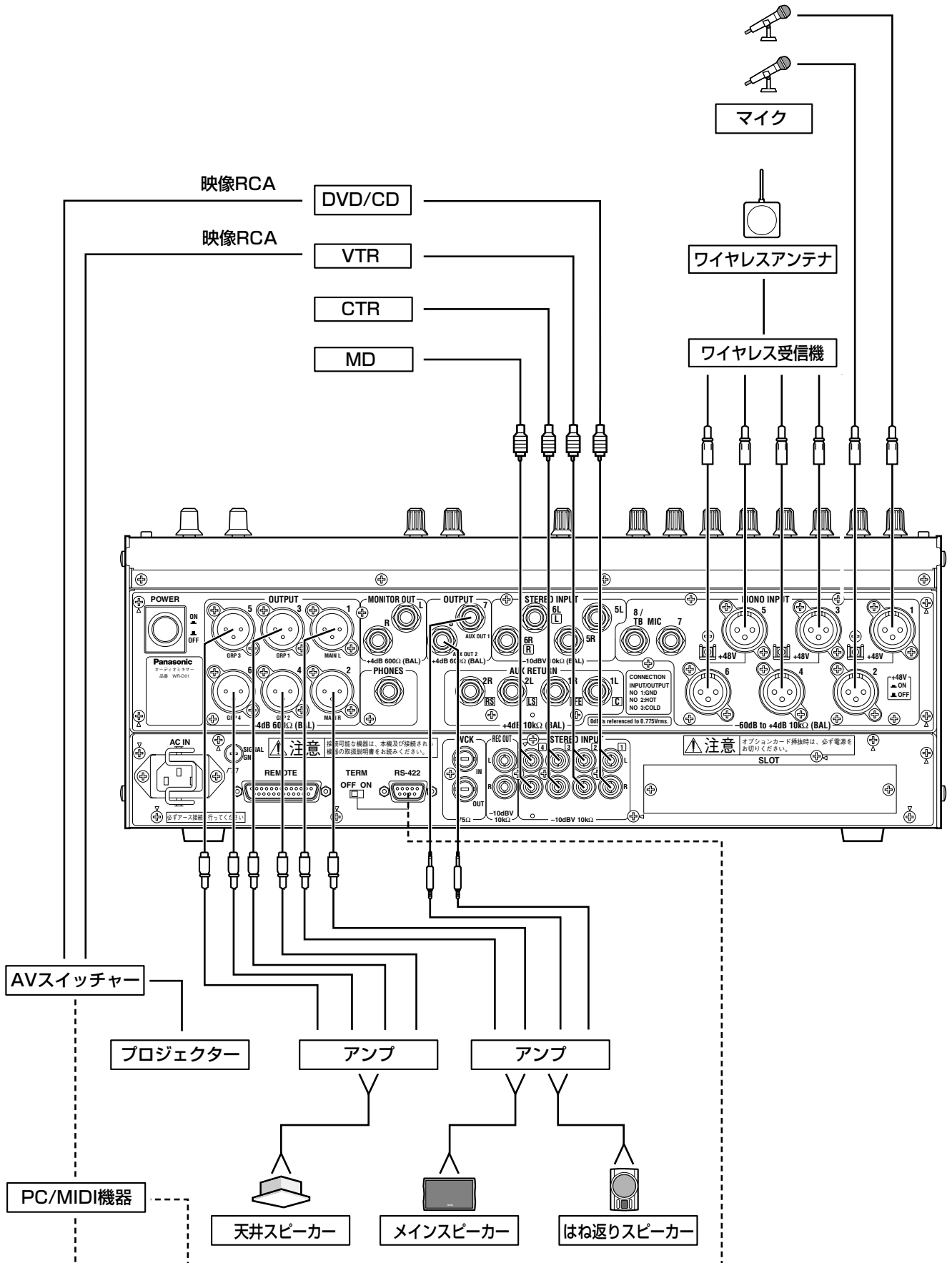


BNCケーブル

WCK信号で機器間の同期を合わせる場合に使用します。

接続例

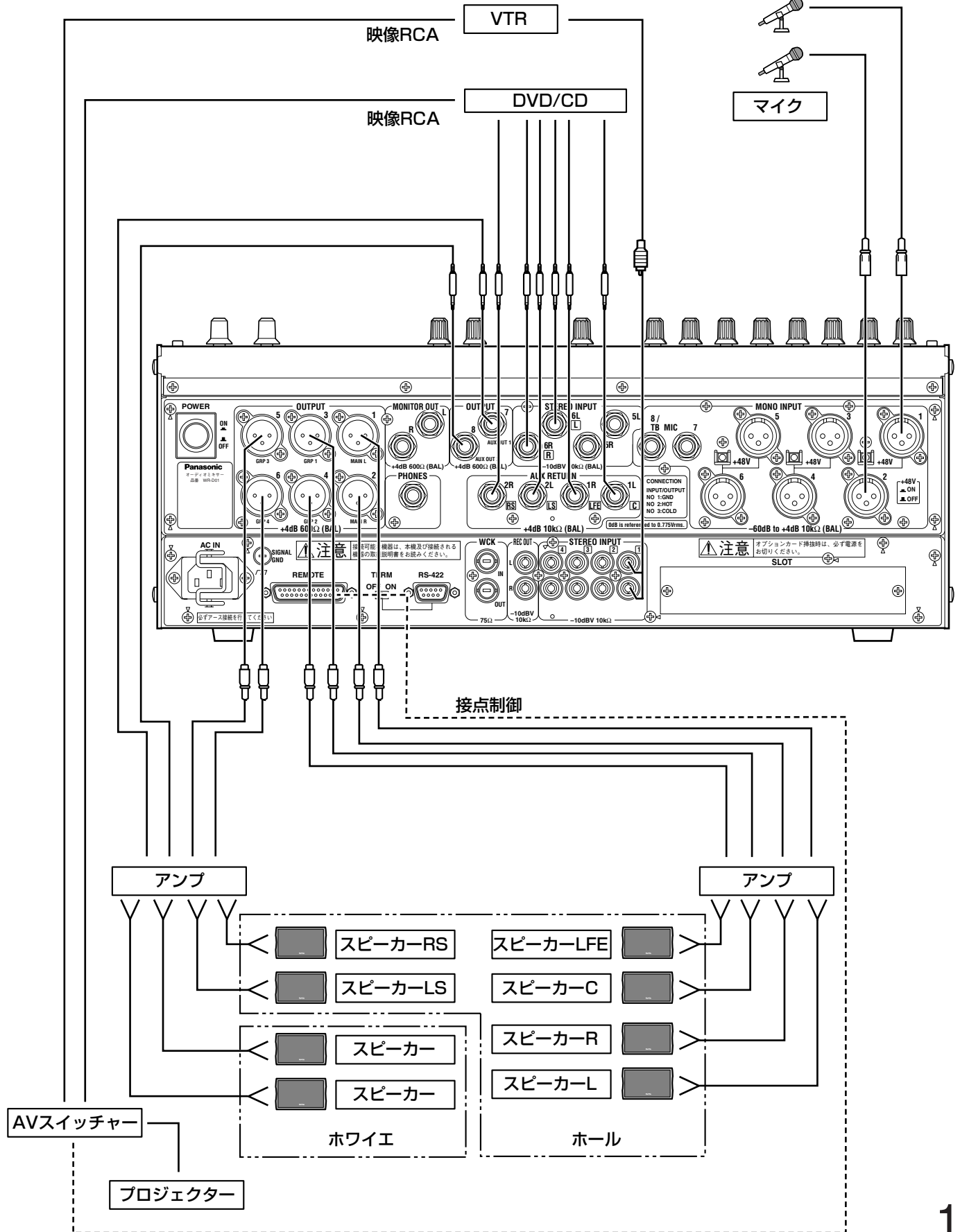
会議室／講堂で使用する場合（基本接続例）



工事

AVホールで使用する場合（サラウンド入力例）

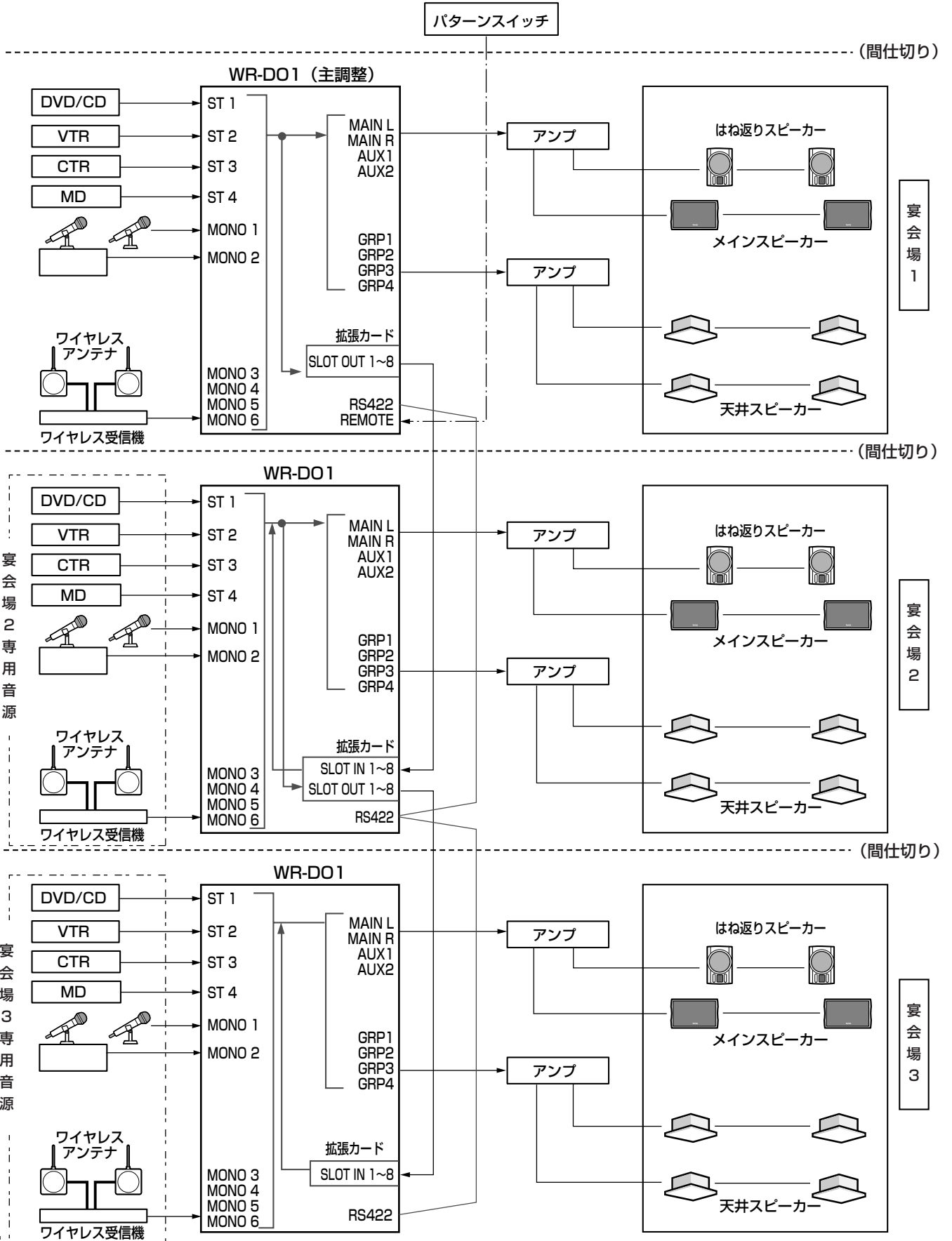
※ステレオ6チャンネルをサラウンドチャンネルに切り換える必要があります。129ページをお読みください。



接続例（つづき）

宴会場で使用する場合（間仕切り変更に対応した複数台使用の場合）

※接続の詳細は122ページの基本接続例をご覧ください。
 拡張カードについては、125ページをお読みください。



工事

カードの増設について

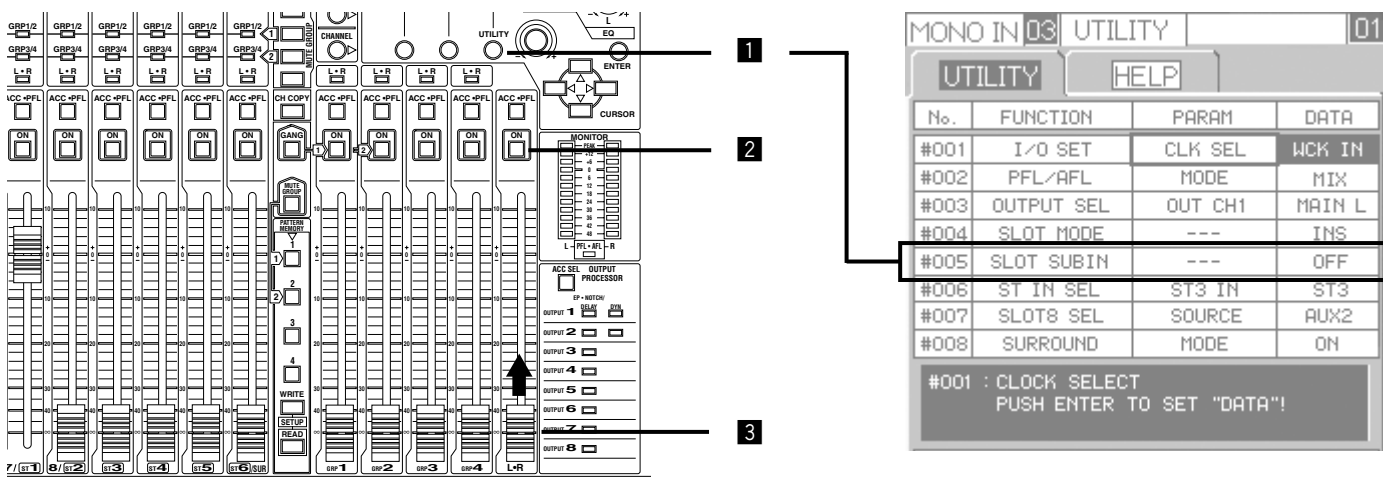
警告 感電や故障の原因となりますので、カードの装着は販売店に必ず依頼してください。

本機の後面に別売のオプションカードを1個取り付け、機能を拡張できます。
装着できるカードは下表のとおりです。

品名	品番	機能	備考
8ch AES/EBU用入出力カード	WR-AESC	AES/EBUフォーマットでのデジタルオーディオ信号の送受信を行うカードです	本カードにサンプリングレートが異なる（または本機のクロックと同期していない）信号を入力する場合には、装着前に、2ch単位でサンプリングレートコンバーターの機能のON/OFFをディップスイッチ（カード側）で設定してください。
8ch AD/DAカード	WR-ADDAV	8chのアナログ入出力を行うカードです	

オプションカードの基本的な使いかた

カードからの入力信号をバスに送出し、バス信号をカードから出力します。



- UTILITY画面でSLOT SUBINをONにする。（UTILITY画面→103ページ、No.005→108ページ）
- L・RチャンネルのONキーが点灯していることを確認する。
点灯していないときは、ONキーを押してランプを点灯させてください。
- 音量を確認しながらL・Rチャンネルのフェーダーを少しずつ上げる。
→スピーカーからバスにミキシングされた音声が入力されます。

補足

- GRP1～4、AUX1～2バスからも同様に出力可能です。（音を出す→33ページ）
- WR-AESCを使用する場合には必ず、UTILITY画面でクロックの設定を行ってください。（No.001→105ページ）
- その他の入出力としても使用可能です。（拡張カード入出力を使う→38ページ）

設置のしかた

取付金具を使用すれば、本機をラックに取り付けて使用できます。

本機をラックに取り付けて使用する場合、取付金具は以下の図を参考にしてください。

取り付け時の注意事項

ラックに取り付けて使用する場合は、以下のことに注意してください。

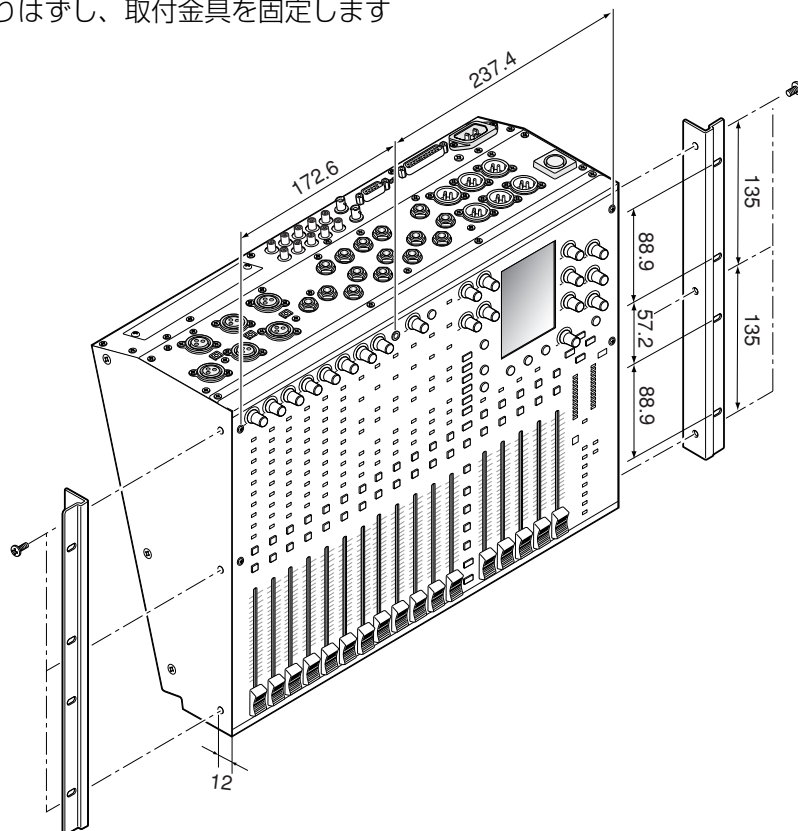
- 本機をラックマウントする場合は、必ずEIA規格相当のラック（奥行450 mm以上）をお使いください。
- 本機をラックマウントする場合は、必ず電源制御ユニット（WU-L61、WU-L67）に電源を接続し、電源制御ユニット側で電源を入/切してください。
- 本機は電力消費ユニットなど発熱する機器よりもできるだけ下に設置してください。
- ラックアングルで取り付ける場合、ケーブル配線用のスペースとして、本機の上に2 U以上の空きスペースを確保してください。
- ラック内の温度は40℃以上にならないようにしてください。
- 振動の多い場所には設置しないでください。

ラック取付金具について

本機側面のねじ（M4×10）3本を一度取りはずし、取付金具を固定します（反対側も同様）。

⚠ 警告

- 本体の不良による脱落・転倒事故以外の取付方法不備などによる脱落・転倒事故に対しては、弊社は一切責任を負いかねますので、取付場所や取付方法の設計は十分な注意をお願いします。
強度が不足の場合は十分な補強をし、安全を確認してから取り付けてください。
- 安全のため十分な脱落・転倒防止対策を施し、必ず定期的に保守点検を実施してください。



ラックについて

本機を取り付けるラックは次のいずれかをご使用ください。

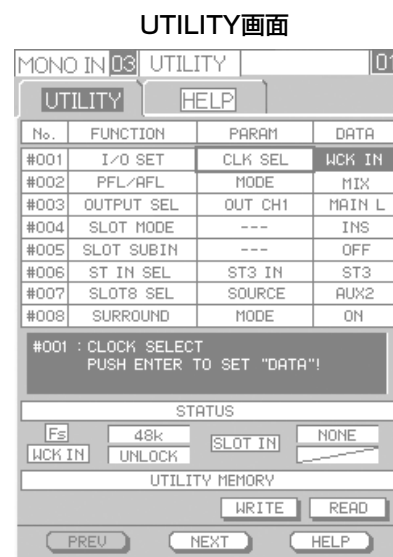
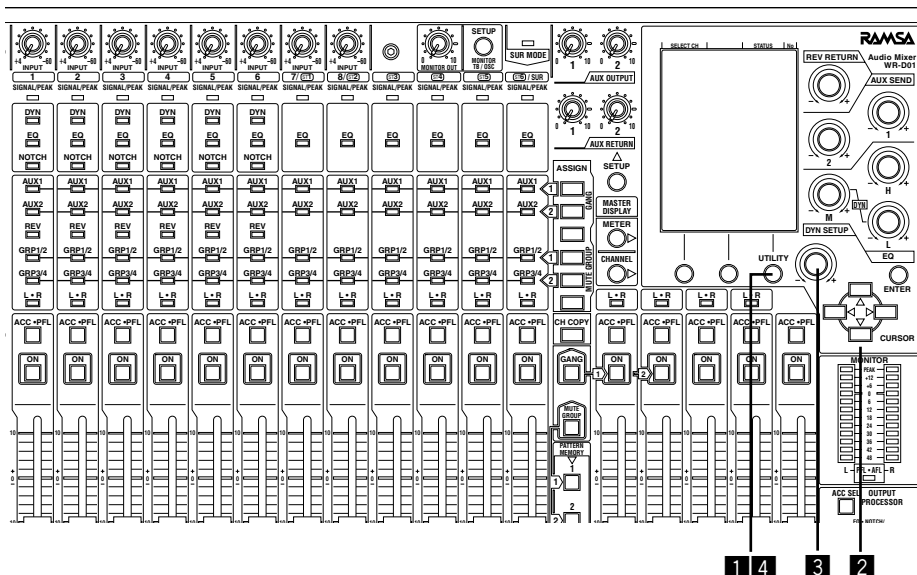
- | | |
|-----------|-------------------------|
| スタンダードラック | ： WU-RS71（収納ユニット数 29 U） |
| ロングラック | ： WU-RL76（収納ユニット数 41 U） |
| システムラック | ： WL-RO2（収納ユニット数 20 U） |
| EIA規格相当品 | ： EIA19型 奥行450 mm以上 |

機器の内部設定

本機はソフトウェアでさまざまな設定を行うことができます。ここでは設置の際に事前設定しておくのが望ましい最低限の設定について説明します。その他の設定についてはUTILITY画面（→103ページ）をお読みください。

ユーザーモードとアドミニストレーターモード

本機には、通常の運用を行うための「ユーザーモード (USER)」と、各種設定や高度な運用を行うための「アドミニストレーターモード (ADMIN)」の2つのモードがあります。ユーザーモードでは、メーター表示と各チャンネルの設定以外の操作を液晶上で行うことができません。アドミニストレーターモードでは、本機が提供するすべての機能を操作することができます。工場出荷状態ではアドミニストレーターモードに設定されています。ユーザーモードとアドミニストレーターモードの切り換え方法は以下のとおりです。

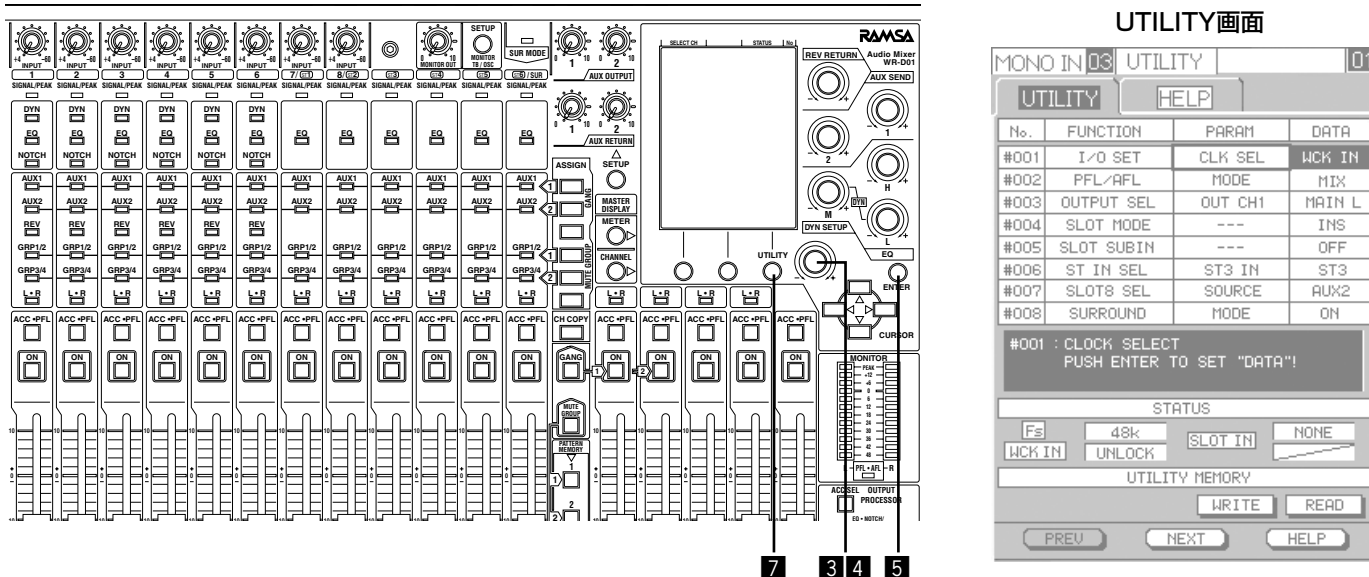


- 1** UTILITYキーを押し続ける。
→2秒ほど押し続けると、液晶にUTILITY画面が表示されます。
- 2** カーソルをFUNCTION欄がADMINの行のDATA欄に移動する。
画面上に表示されていない場合は設定1、設定2キーを押すか、カーソルキーを上下に押し続けてFUNCTION欄にNo.107のADMINが表示されているページを表示してください。
- 3** パラメーター調整つまみを回す。
→DATA欄の表示がUSERとADMINで切り換わります。設定したいモードの方を表示させてください。
- 4** UTILITYキーを押し続ける。
→2秒ほど押し続けると、液晶の表示がUTILITY画面から元の画面に戻ります。

工事

ステレオ1・2/モノラル7・8のチャンネル切り換え

ステレオ1・2チャンネルをモノラル7・8チャンネルに切り換え、モノラル入力として使用することができます。切り換え方法は以下のとおりです。



- 1 アドミニストレーターモードにする。
操作の詳細は、「ユーザーモードとアドミニストレーターモード」(→127ページ)をお読みください。
UTILITY画面を表示させたままの状態以降の操作を行います。
- 2 カーソルをFUNCTION欄がI/O SETの行のPARAM欄に移動する。
画面上に表示されていない場合は設定1、設定2キーを押すか、カーソルキーを上下に押し続けてFUNCTION欄にNo.001のI/O SETが表示されているページを表示してください。
- 3 パラメーター調整つまみを回す。
→PARAM欄の表示が切り換わります。
ST1/2 SETを表示させてください。
- 4 カーソルをDATA欄に移動させ、パラメーター調整つまみを回す。
→DATA欄の表示がST1/2とMONO7/8で切り換わります。設定したい方を表示させてください。
- 5 ENTERキーを押す。
→設定が確定します。
- 6 ユーザーモードに戻す。
- 7 UTILITYキーを押し続ける。
→2秒ほど押し続けると、液晶の表示がUTILITY画面から元の画面に戻ります。

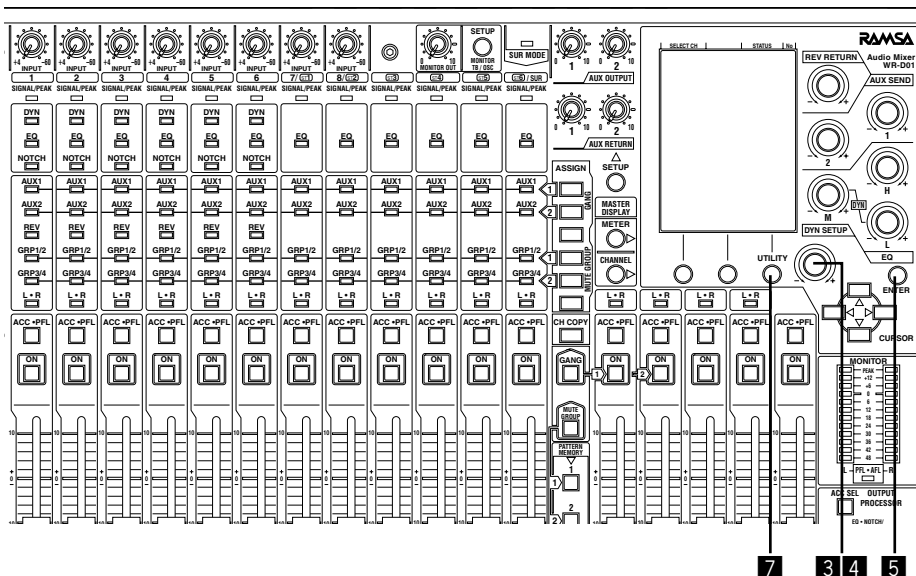
補足

モノラル7・8チャンネルには他のモノラルチャンネルと比較して以下の制限があります。

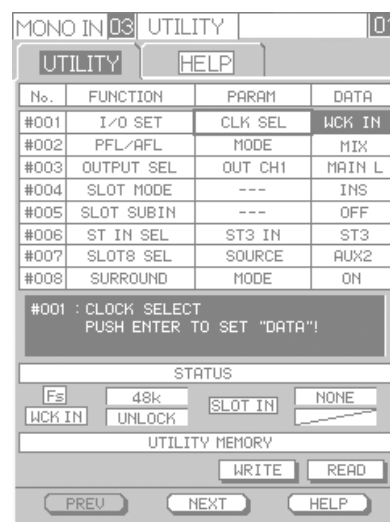
- ダイナミクス(コンプレッサー・オートマイクレベルコントローラー)の設定はできません。
- イコライザーは2バンドPEQとなり、EQ Mノブでのゲイン/周波数調整はできません。またHPFは使用できません。
- ダイナミックノッチは使用できません。
- EFXバスへの送出はできません。また、リバーブも使用できません。

ステレオ6／サラウンドのチャンネル切り換え

ステレオ6チャンネルはサラウンドチャンネルに切り換えることができます。切り換え方法は以下のとおりです。
(サラウンド入力を使う→34ページ)



UTILITY画面



- 1 アドミニストレーターモードにする。
操作の詳細は、「ユーザーモードとアドミニストレーターモード」(→127ページ)をお読みください。
UTILITY画面を表示させたままの状態での操作を行います。
- 2 カーソルをFUNCTION欄がSURROUNDの行のPARAM欄に移動する。
画面上に表示されていない場合は設定1、設定2キーを押すかカーソルキーを上下に押し続けてFUNCTION欄にNo.008のSURROUNDが表示されているページを表示してください。
- 3 パラメーター調整つまみを回す
→PARAM欄の表示が切り換わります。MODEを表示させてください。
- 4 カーソルをDATA欄に移動させ、パラメーター調整つまみを回す
→DATA欄の表示がONとOFFで切り換わります。設定したい方を表示させてください。
- 5 ENTERキーを押す。
→設定が確定します。
- 6 ユーザーモードに戻す。
- 7 UTILITYキーを押し続ける。
→2秒ほど押し続けると、液晶の表示がUTILITY画面から元の画面に戻ります。

設定データのバックアップ

本機設定データのバックアップ／リストア用のソフトウェア（ユーティリティソフト）を、ネットワーク経由でダウンロードできます。ダウンロードの方法については、販売店へお問い合わせください。

なお、ユーティリティソフトを使用するためにはWindows®2000（Professional）、Windows®XP（Professional／Home Edition）またはWindows®98のOSがインストールされたパソコンとRS-422通信用のインターフェースカードおよびRS-422ケーブルが必要です。RS-422ケーブルは本機の規格、ピン配置と適合していることを必ず確認してください（→62ページ、156ページ）。ユーティリティソフトの使用方法については、ダウンロードファイルに含まれる説明書をお読みください。

補足

下記のとつまみやスイッチ類の設定は、固定ボリューム（固定スイッチ）のためバックアップ／リストアされません。ボリューム用セッティングマーカー（→131ページ）をご利用ください。

- INPUTつまみ（インプット部→12ページ）
 - MONITOR OUTつまみ（MONITOR／TB／OSC部→15ページ）
 - AUX OUTPUT1、2つまみ、AUX RETURN1、2つまみ（AUX部→16ページ）
 - 後面MONO INPUT端子の+48 Vスイッチ（音声入力部→18ページ）
 - 後面RS-422端子の終端スイッチ（制御端子部→20ページ）
-

設置後の確認

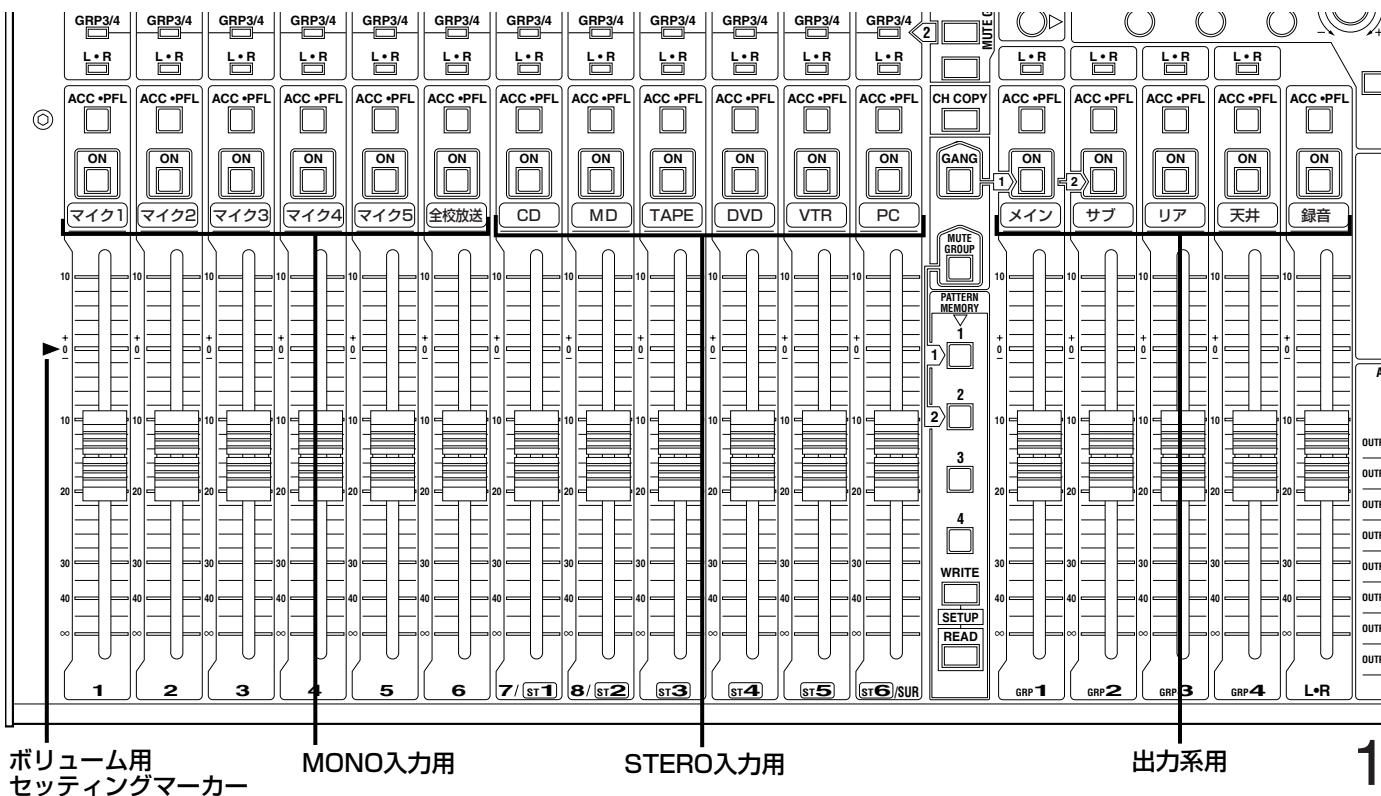
設置、配線が完了したら、必ず以下の項目を確認してください。

- ①電源コードが保護ピンで固定されていること (→17ページ)
- ②+48 Vスイッチが正しく設定されていること (→18ページ)
- ③RS-422端子を使用する場合、後面の終端スイッチが正しく設定されていること (→62ページ)
- ④REMOTE端子、RS-422端子を使用する場合、端子とコネクタがねじでしっかりと固定されていること (→20ページ)
- ⑤すべての入力機器から適正レベルで音声が入力され、特定のスピーカーへ出力されること
 - 入力のレベル確認→SIGNAL/PEAKランプの点灯状態で確認できます。
(「操作の流れ」の「入力レベルを調節する」→31ページ)
 - スピーカーへの出力→メインLRバスを出力する設定の出力端子(工場出荷状態ではOUTPUT1,2)に接続されたスピーカーへは、「操作の流れ」(→31ページ)に示した手順で出力させることができます。
 - トークバックマイクを使用する場合は、「本機の入出力に関する操作」の「トークバックマイクを使う」(→39ページ)をお読みください。
- ⑥特定の入力機器音声スピーカー、ヘッドホンなどのすべての出力機器へ出力されること
 - 各OUTPUT端子への出力信号は、CHANNEL-OUTPUT画面(→77ページ)で確認することができます。
 - メインLRバス、GROUPバスを通して音を出す方法は、「操作の流れ」(→31ページ)をお読みください。
 - AUXバス、EFXバスを通して音を出す方法は、「操作の流れ」および「本機の入出力に関する操作」の「補助入出力、エフェクト出力を使う」(→35ページ)をお読みください。
 - モニタースピーカーおよびヘッドホンへ音を出す方法は、「音声信号を確認する」の「実際に音を出して確認する」(→45ページ)をお読みください。

接続機器ラベルについて

接続機器ラベルの「MONO入力用」、「STEREO入力用」、「出力系用」から該当する名称のラベルを以下のようにはり付けます。

「ボリューム用セッティングマーカー」は、下記のようにはり付け、適切な音量位置を表示したいときなどに使います。



メッセージ一覧

メッセージ内容	表示場面	原因	対策
INITIAL TEST :NG <ROM ERROR> SYSTEM IS DAMAGED. PLEASE TURN OFF THE POWER AND REPAIR ME!	電源ON時	本機は不揮発性メモリーを使用しており、電源OFF時に次回起動時のデータ復元のため書き込みを行います。寿命（10万回以上書き込み）や故障等の理由により、システムを正常に立ち上げられないときに本メッセージが表示されます。	販売店へ修理を依頼してください。
INITIAL TEST :NG <FLASH BACKUP ERROR 1> SYSTEM IS DAMAGED. PLEASE TURN OFF THE POWER AND REPAIR ME!	電源ON時	メモリーから前回の復元データが正常に読み込めず、スペアのデータでシステムを起動したときに本メッセージが表示されます。不揮発性メモリーの寿命が近づいている可能性があります。	販売店へ修理を依頼してください。
EXECUTING READ PTN NO.n "xxxxxx" (n：パターン番号、xxxxx：パターン名称)	PTN R/W画面 操作時	パターンの読み込み確認です。	本当に読み込んでよいかを再確認し、良ければOKにカーソルを移動させてENTERキーを押してください。
EXECUTING MONOx ASSIGN- MENT MONOx DN ASSIGN [ON] (x：チャンネル番号)	D-NOTCH画面操 作時	ダイナミックノッチを指定チャンネルで本当に使用するかどうかの確認です。	良ければOKにカーソルを移動させてENTERキーを押してください。
EXECUTING MONOx ASSIGN- MENT MONOx DN ASSIGN [OFF] (x：チャンネル番号)		ダイナミックノッチを指定チャンネルで解除するかどうかの確認です。	ダイナミックノッチに関するすべての設定が消去されます。本当に解除してよいかを再確認し、よければOKにカーソルを移動させてENTERキーを押してください。
FOUR DN ARE ALREADY SET UP. PLEASE REDO AFTER REMOV- ING ONE OF ASSINGNMENT.		ダイナミックノッチを5つ以上のチャンネルで使用しようとしているときに本メッセージが表示されます。	ダイナミックノッチで利用できるチャンネルは最大4チャンネルまでです。5つ以上のチャンネルで使用する場合は、まず他のチャンネルでダイナミックノッチの使用を解除してください。

用語集

5.1チャンネルサラウンド

5チャンネルの音声信号（フロント2チャンネル（L、R）、センター1チャンネル（C）、リア2チャンネル（LS、RS））と1チャンネルの低域専用の音声信号（LFE）で再生する方式。

本機は、5.1チャンネルサラウンド音声を入力し、1つのフェーダーで入力レベルを調節することができる。

ACC

ACCessの略語。操作（アクセス）するチャンネル等を選択すること。

A/Dコンバーター

アナログ信号をデジタル信号に変換する素子。本機では、拡張カードからの入力を除く全入力端子に搭載されている。

AES/EBU (Audio Engineering Society / European Broadcasting Union)

AESとEBUで定められた、プロ用オーディオ機器間でデジタルデータをやりとりする業務用の規格。民生用の規格と互換性はない。

AFL

After Fader Listenの略語。ポストフェーダーレベル（フェーダー等によるレベル制御後の入力音声やバス音声）をモニターするときを選択する。

A-MLC (Auto Mic Level Controller)

オートマイクレベルコントローラー参照。

ASSIGN

アサイン参照。

ATT

アッテネータの略語。

ATTACK

ATTACK timeの略語で、ダイナミクス効果がかり始めるまでの時間。本機は、コンプレッサーで使用する。ダイナミクス、コンプレッサー参照。

AUX

AUXiliaryの略語。一般的には補助入出力のことを指す。本機には、AUXバス、AUX RETURN入力、AUX OUTPUTがある。

AUXバス

補助出力用のバス。

本機は、各入力からAUXバスに音声を出力できる。入力からの出力レベルをフェーダーとは別にバスごとに設定（このレベルをAUX SENDレベルという）できる。

AUX OUT、AUX OUTPUT

補助出力端子、または補助出力端子へ出力される音声信号。

AUX RETURN、AUX RETURN入力

補助入力端子、または補助入力端子から入力された音声信号。AUX OUTPUTから出力された音声に外部エフェクターを通して戻したり、INPUT端子の数が不足したときに入力端子として使用したりできる。

AUX RTN

AUX RETURN入力の略語。

AUX SND

AUX SENDレベルの略語。AUXバスを参照。

BAL/UNBAL

信号伝送の方式で平衡（BALance）と不平衡（UNBALance）の略語。

平衡伝送は主に業務用音響機器で用いられている方式で、正相（HOT）と逆相（COLD）の2本の信号ペアと基準GNDの3線（通常2本の信号はGNDシールドされる）で伝送される。受信側でHOTとCOLDを引き算することで、伝送路上で重畳される同相ノイズを除去できる。マイクなどの微小信号や建物内の長距離伝送などに適している。

一方、不平衡伝送は民生機器で用いられる方式で、1本の信号線と基準GNDの2本で伝送される。

BUS

バス参照。

CH

チャンネルの略語。

COMP

COMPressorの略語。ダイナミクス的一种であるコンプレッサーを指す。

D/Aコンバーター

デジタル信号をアナログ信号に変換する素子。本機では、拡張カードへの出力を除く全出力端子に搭載されている。

用語集 (つづき)

DELAY

ディレイ参照。

DEPTH

ダイナミクス効果のかかりかたを制御するパラメーター。

DN、D-NOTCH

Dynamic Notch (ダイナミックノッチ) の略語。

DYN

DYNamicsの略語。

DYNAMIC NOTCH

ダイナミックノッチ参照。

DYNAMICS

ダイナミクス参照。

EFX、EFXバス

エフェクター等の外部機器に出力するためのバス。

EQ

EQualizer (イコライザー) の略語。

EQUALIZER

イコライザー参照。

FREQ

FREQuencyの略語。周波数のこと。

Fs

Sampling Frequency (サンプリング周波数) の略語。本機は、ワードクロック (ワードクロック参照) の周波数を示す。

GAIN

ゲイン参照。

GAIN REDUCTION

ダイナミクスの効果により音量が変化すること。またその変化の表示。

GANG

ギャング参照。

GR

Gain Reductionの略語。

GROUP

グループバスのこと。バスについてはバスを参照。

GRP

GRouPの略語。

HPF

High Pass Filter (ハイパスフィルター) の略語。イコライザーの一種で、高域の周波数を通し、低域の周波数をカットする。カットする周波数 (これを「カットオフ周波数」と呼ぶ) の上限はFREQのパラメーターで変更する。

HS

Howling Suppressorの略語。ハウリングを抑制するための機能。オートノッチ参照。

INPUT

本機では音声信号の定格レベルを調整するためのつまみ等を表す。入力感度参照。

INS

INSertionの略語。

INSERTION

エフェクターなどを使用する際の機能。エフェクトをかけるチャンネルからいったん外部へ出力してエフェクターに入力し、エフェクターからの出力を本機に入力して元のチャンネルに戻すことで、内蔵エフェクターのような系統を実現することができる。

LPF

Low Pass Filterの略語。イコライザーの一種で、低域の周波数を通し、高域の周波数をカットする。カットする周波数の下限 (これを「カットオフ周波数」と呼ぶ) はFREQのパラメーターで変更する。

LR

MAIN LR参照。

MAIN LR

メインLRバスのこと。バスについてはバスを参照。本機は、各入力からメインLRバスに音声を出力することができる。AUXバスと異なり、入力からの出力レベルをフェーダーとは別に調節することはできない。

MIDI (Musical Instrument Digital Interface)

オーディオ機器やシンセサイザーなどの電子楽器などを制御するためのプロトコル（通信規約）。MIDI端子を装備した機器間で、音色や音程などの情報をやりとりすることができる。

本機は、RS-422端子にて、MIDIフォーマットに準拠したコマンドを使用することができる。

MONITOR

モニター出力のこと。拡声用途ではなく、オーディオミキサーの操作者が信号チェック等の目的で聞くための出力のことを指す。

MONO IN

MONO INPUTの略語。

MONO INPUT

モノラル入力の端子、またはモノラル入力端子から入力された音声信号。

MONO MIX

MONO MIXINGの略語。

本機は、ステレオ音源をモノラルにミキシングする機能、もしくは行為を指す。

MUTE GROUP

ミュートグループ参照。

NOTCH

オートノッチ参照。

OSC

OSCillator（オシレーター）の略語。

OUTPUT PROCESSOR

出力処理部。本機はOUTPUT1-8の8系統の出力を持ち、それぞれにディレイ・プリノッチ・PEQなどのエフェクトをかけることができる。

PAD

音声を減衰させるアッテネータのこと。

本機は、STEREO5～6チャンネルとAUX RETURN1～2チャンネルに搭載されている。

PAN/BAL

入力音声をステレオの左右チャンネルに分配するボリュームのこと。これを使って音像の定位を決める。モノラルインプットでは、一つの音を分配するPAN（パンポット）を使用する。

ステレオインプットでは、左右の入力に対して片方の

入力を固定したままもう片方の入力を減衰させるBAL（バランス）を使用する。

PATTERN MEMORY

パターンメモリー参照。

PEQ

パラメトリックイコライザーの略語で、広帯域の周波数をカットまたはブーストするイコライザー機能。任意の周波数帯域のレベルを上下させることができる。一般にひとつのPEQで複数の周波数帯域（band、バンド）を同時に制御でき、その数を付与して呼ぶ場合もある。例えば本機MONO1-6チャンネルに装備されているのは3バンドPEQである。

PEQ（の各バンド）では以下の3つのパラメーターで周波数特性を指定する。

FREQ：（制御の中心となる）周波数。

Q：中心周波数からの帯域幅。この値が大きいくほど狭い周波数帯に鋭く効果がかかり、小さいほど広い周波数帯になだらかに効果がかかる。

GAIN：上下させる音量。

PFL

Pre Fader Listenの略語。プリフェーダーレベル（ミキサーに入力された直後の音声や、バスのレベル調整前の音声）をモニターするときに選択する。

PHANTOM

ファンタム電源参照。

PKG

PeaKinGの略語。イコライザーの一種で、特定周波数を中心とした音量を上下させる。以下の3つのパラメーターで周波数特性を指定する。

FREQ：（制御の中心となる）周波数。

GAIN：上下させる音量。

Q：帯域幅。

PN、P-NOTCH、PRE NOTCH

プリノッチ参照。

PRE

オーディオミキサーでは主にモニターやメーター表示を行うときの信号取り出し位置を示すのに使い、「フェーダー等によるレベル調整の前」（PreFader、プリフェーダー）のことを指す。PFL参照。

用語集 (つづき)

POST

オーディオミキサーでは主にモニターやメーター表示を行うときの信号取り出し位置を示すのに使い、「フェーダー等によるレベル調整の後」(PostFader/AfterFader、ポストフェーダー/アフターフェーダー)のことを指す。AFL参照。

PTN

PaTterN memoryの略語。パターンメモリー参照。

Q

PEQの帯域幅。PEQ参照。

RATIO

ダイナミクス (本機ではコンプレッサー) の圧縮比。コンプレッサー参照。

RELEASE

RELEASE timeの略語。ダイナミクス (本機ではコンプレッサー) の効果を終わらせるまでの時間。コンプレッサー参照。

RESP

RESPonseの略語。本機では、オートノッチのハウリングを検出するまでの速度を示す。

REV

REVerbの略語。

REVERB

リバーブ参照。

RMT

ReMoTeの略語。

RS-422

データ通信の国際標準規格であり、特性インピーダンス110 Ωのツイストペアケーブルを用いる平衡伝送方式。外来ノイズに強く長距離伝送が可能であり、業務用機器に広く用いられている。

1台のマスター機に対し15台 (本機では7台) までのスレーブ機を繋ぐマルチドロップ接続が可能である。RS422を使用して本機を複数台連動させたり、PCから外部制御することができる。

SEL

SElectの略語。本機ではACC SELキーで出力チャンネルを選択する。

SENS

SENSitivityの略語。本機ではオートノッチのハウリング検出やオートマイクレベルコントローラーのレベル変動検出の感度を示す。

SHH

SHelving Highの略語。イコライザーの一種で、特定周波数以上の音量を上下させる。以下の2つのパラメーターで周波数特性を指定する。

FREQ: (制御の中心となる) 周波数。

GAIN: 上下させる音量。

SIGNAL/PEAK

音声の入力レベルを何段階かの色で表示する機能またはその表示器。本機では無入力時消灯、定格入力時は緑または橙、過大入力時は赤に点灯する。

SHL

SHelving Lowの略語。イコライザーの一種で、特定周波数以下の音量を上下させる。以下の2つのパラメーターで周波数特性を指定する。

FREQ: (制御の中心となる) 周波数。

GAIN: 上下させる音量。

S-LINK

Signal LINKの略語。ステレオチャンネルにダイナミクス (本機ではコンプレッサー) がかかっているとき、片方のチャンネルのレベルでスレッシュホールド値を超えていれば両方のチャンネルにダイナミクス効果がかかるようにすること。

S/N比 (S/N)

信号レベルと雑音との差で明瞭度に関する機器の性能を示す指標。通常定格出力レベルと残留雑音の電圧比をデシベル (dB) で表す。

STEREO INPUT

ステレオ入力の端子、またはステレオ入力端子から入力された音声信号。

SUR

SURroundの略。

SURROUND

「囲まれる」の意。4個・6個・8個等多数のスピーカーで聴者を囲むことによって音場を自由に制御すること。本機では、5.1チャンネルサラウンドの入力を制御できる。

TB

トークバックの略語。トークバックを参照。

TH LVL

THreshold LeVeLの略語。スレッシュホールド値、しきい値。
ダイナミクス（本機ではコンプレッサー）などの効果がかかり始める音量を示す。

UNBAL

BAL／UNBAL参照。

VCA

Voltage Controlled Amplifierの略語。電圧制御型増幅器のことで制御入力電圧に応じて音声信号のゲインを調節できる回路。アナログミキサーではフェーダーの代わりにこの回路を用いて外部からの音量調節を実現していた。本機は外付けのボリュームの電圧を入力するVCA入力端子をREMOTE端子内に装備しており、従来のVCAミキサーと同様に外部からの音量調節が可能。

WCK

外部同期のためのワードクロック信号を入出力する端子。

bps (bit/s)

Bit Per Secondの略語。1秒間に通信するビット数のこと。

dB/dBFS/dBu

デシベル参照。

アウトプットプロセッサ

OUTPUT PROCESSOR参照。

アサイン

入力系統から特定の出力系統（バスを含む）に音声信号を送出可能に設定する（割り当てる）こと。

アッテネータ (ATT)

減衰器のこと。音声信号レベルを一定量減衰させる装置または回路。緩衝器（PAD）と呼ばれる場合もある。

アフターフェーダー

POST、AFL参照。

イコライザー

周波数特性を操作するエフェクターの総称。本機では、PEQ・SHH・SHL・HPF・LPF・オートノッチの各イコライザーを内蔵。

エフェクター

音質調節／残響付加などの音響効果を加える機器のこと。本機は各種イコライザー・ダイナミクス・リバーブ・ディレイ等を内蔵している。

オートノッチ

ハウリングサプレッサー（HS）の一種。ハウリング周波数周辺のごく狭い周波数帯域のレベルを下げてハウリングを防ぐ機能。

本機では、ハウリング周波数をリアルタイムに追尾するダイナミックノッチ（DN、D-NOTCH、MONO1-6の任意の4チャンネルまで）と、事前のシステム調整時にハウリング周波数を検出し、固定的に制御するプリノッチ（PN、P-NOTCH、OUTPUT1-8チャンネル）の2種類のオートノッチを装備している。

本機のダイナミックノッチは、4つの異なる周波数を同時に制御可能（これを4バンドDNと呼ぶ）、プリノッチは、5つの異なる周波数を同時に制御可能（5バンドPN）。

オートノッチは以下の2種類のパラメーターにより、効果のかかり具合を設定する。

RESP：ハウリングを検出するまでの速度。

SENS：ハウリング検出の感度。

また、以下の3種類のパラメーターが各バンドに自動的に設定される。

FREQ：ハウリング周波数。

ATT：音量の減衰量。

Q：帯域幅。

オートマイクレベルコントローラー

ダイナミクスの一種。音声の入力レベルに応じてゲインを自動的に調整する機能。声の大きい人と小さい人が同じマイクで話すとき、拡声レベルを均一に保つなどの目的で使用される。SENSで効果のかかる感度を調整できる。

オシレーター

発振器のこと。オーディオミキサーでは出力チェック用のテスト信号（本機では1 kHz正弦波またはピンクノイズ）、あるいはその信号の生成機能をいう。

カットオフ周波数

LPF・HPF参照。

ギャング

任意の複数チャンネルの音量を1本のフェーダーで調節する機能。そのフェーダーをギャングマスターフェーダー、調節されるチャンネル群をギャンググループと呼ぶ。

用語集 (つづき)

クリップ

過大な入力信号によって機器内の信号レベルが電源電圧を超え信号のピークが飽和した状態。

グループバス

バス的一种。本機は、各入力からグループバスに音声を送出することができる。AUXバスと異なり入力からの出力レベルをフェーダーとは別に調節することはできない。グループバスの音声はメインLRバスへ再送することもできる。

ゲイン

増幅器における増幅度。

コントロールチェンジ

機器を制御するためのMIDIコマンド。本機は、RS-422端子により本コマンドを送受信できる。MIDI参照。

コンプレッサー

ダイナミクス的一种で、一定レベル以上のダイナミックレンジを圧縮する機能。クリップの防止等に使用する。コンプレッサーでは以下の5つのパラメーターで音響特性を指定する。
TH LVL：スレッシュホールド値、圧縮効果がかかり始める音量。
ATTACK：圧縮効果がかかるまでの時間。
RATIO：圧縮比。例えば0.5の場合、スレッシュホールド値（TH LVL）以上のレベルのダイナミックレンジが半分になる。
RELEASE：圧縮効果が消えるまでの時間。
GAIN：音量の増分。
なお、本機は上記パラメーターを個別に設定できるほか、DEPTHというパラメーターでコンプレッサー効果のかかり具合（深さ）を指定することができる。DEPTH値を変更した場合は、その値に合わせて上記パラメーターが自動的に設定される。

サラウンド

SORROUND、5.1チャンネルサラウンド参照。

シェルビング

SHL、SHH参照。

システムエクスクルーシブ

機器固有の情報を送受信するためのMIDIコマンド。本機はRS-422端子により本コマンドを送受信できる。MIDI参照。

ダイナミクス

ダイナミックレンジ（音量レベルの幅）を操作するエフェクターの総称。本機ではコンプレッサー（MONO 1~6およびOUTPUT1~2）とオートマイクレベルコントローラー（MONO5~6）を装備している。

ダイナミックノッチ

ハウリング周波数をリアルタイムに追従し、その周波数にノッチフィルターをかけることでハウリングを防止する機能。

ダイナミックレンジ

オーディオシステムが損失やノイズを発生させずに処理できる最小信号と最大信号の比。デシベル(dB)で表示される。

ディレイ

出力を一定時間遅延させるエフェクター。

デシベル (dB)

音の強さを基準値との比の対数で表す単位。ポリウムレベルの測定に使用される。dB後に各種の記号を付け、さまざまな基準電圧に対する音量を示す。本機ではdBu表示とdBV表示を用いている。（それぞれの基準値は0 dBu=0.775 Vrms、0 dBV=1.0 Vrms）またデジタルでは数値表現可能な最大値、すなわちフルスケールを基準としたdBFS表示が用いられる。アナログレベルとの関係は機器の設計によって異なり、本機は、モノインプットの最大入力レベルおよびメインアウトの最大出力レベルである+24 dBuが0 dBFSに相当する。また単にdBと表記する場合には相対値を示す場合もあり、2倍で+6 dB、10倍で+20 dB、100倍で+40 dBとなり反対に1/2で-6 dB、1/10で-20 dB、1/100で-40 dBとなる

トークバック

オペレーターからステージ等に返す音声のこと。また、そのような用途に用いられる音声信号。

入力感度

インプット端子に入力される音声信号の定格レベル。一般的な音声信号の定格レベルは以下のように異なる。本機は、NONOチャンネルのINPUTつまみで調節可能。
マイク（スピーチ）-50~-40 dBu
マイク（ボーカル）-40~-30 dBu
ライン（民生VTR）-10dBV（-7.8 dBu）
ライン（民生CD）0 dBV（+2.2 dBu）
ライン（業務用音響機器）+4 dBu

ノッチフィルター

ごく狭い周波数帯域のレベルを下げるフィルター。

ハイパスフィルター

HPF参照。

バス

本機に入力された音声を集めて分配するための経路。本機は入力系統ごとに、音声を出力するための経路（バス）を設定できる。

パターンメモリー

ある程度決まった設定パターンをメモリーに登録しておき、必要な時に呼び出す機能。また、登録されたパターン。

パラメトリックイコライザー

PEQ参照。

バルクアウト

システムの特定のデータをまとめて転送する機能、または行為。本機は、RS-422端子により、MIDIエクスクルーシブメッセージを用いてパターンメモリー等をバルクダンプで送受信できる。

ピンクノイズ

オーディオのテストに使用する信号音（ノイズ）で、オクターブごとに同量のエネルギーを含むのが特徴。これに対し、周波数帯域ごとに同量のエネルギーを含むノイズをホワイトノイズと呼ぶ。

ファンタム電源

コンデンサーマイクロホンなどのように外部からの電源を必要とする機器に供給する、+48 Vの電源。コンデンサーマイクの場合、マイクケーブル（平衡型配線）で電源を供給する。

フィルター

イコライザーの一種で、一定帯域の周波数を除去するもの。ハイパスフィルター（HPF）、ローパスフィルター（LPF）、ノッチフィルター等がある。

ブリノッチ

事前のシステム調整時にハウリング周波数を検出し、その周波数に固定的にノッチフィルターをかけることでハウリングを防止する機能。

プリフェーダー

PRE、PFL参照。

ヘッドアンプ（HA）

一般的に微小信号を扱う機器の入力部の高ゲインアンプのこと。オーディオミキサーではマイク入力部のアンプのことを指し、この回路設計の良し悪しでミキサーの基本性能や音質が左右される。マイクプリアンプなどと呼ばれる場合もある。

本機は、ローノイズトランジスタを用いたディスクリット構成のヘッドアンプを搭載しており、S/N比の悪化を招くPAD回路の排除により、ワンボリュームでマイクレベルからラインレベルまでの連続した入力感度調節が可能。

ポストフェーダー

POST、AFL参照。

ミュートグループ

複数のチャンネルの音声を一括して消音（ミュート）する機能。

メインLR

MAIN LR参照。

モニター

MONITOR参照。

モノミックス

MONO MIX参照。

リバーブ

残響装置、残響効果。エコー（こだま）やホールの残響音のような効果を擬似的に作ることで、あるいはそのための装置・機能。

ローパスフィルター

LPF参照。

ワードクロック

機器間の同期を取るためのクロック信号。

故障かな?!

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。

これらの処置をしても直らないときやわからないとき、この表以外の症状のときまたは工事に関係する内容のときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
音が出ない、または小さい	▶ INPUTつまみ、またはフェーダーが最小になっていませんか？ 適切なレベルに調節してください。	31
	▶ 本機と入力機器（マイク・CDプレーヤーなど）は正しく接続されていますか？入力機器から音声は出力されていますか？ 本機と入力機器を正しく接続してください。また、入力機器から音声が出力されているか確認してください。	27
	▶ 本機とアンプ、アンプとスピーカーは正しく接続されていますか？ 正しく接続してください。	27
	▶ アンプのボリュームを最小にしていませんか？ 適切なレベルに調節してください。	-
	▶ 正しいバスに送出されていますか？ 正しく送出してください。	32 36 37
	▶ 接続した出力端子とバスとの関係は正しいですか？ 正しく接続設定を行ってください。	53
キー操作ができない	▶ キーロック機能が設定されていませんか？ 本機は、誤操作を防止するためキーロックを設定することができます。キーロックを解除してください。	115
	▶ 一部登録操作中は関連するキー以外を受け付けなくなります。登録操作を完了してから本来の操作を行ってください。	54 57 89

症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
フェーダー操作ができない	<p>次のような状況が発生すると、実際の音声レベルとフェーダーの位置が合わなくなる場合があります。このときONキーが点滅します（故障ではありません）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●電源OFF中にフェーダーが動いた ●ギャンググループを使用した ●パターンメモリーを読み込んだ ●外部からリモコン制御が行われた <p>この状態の場合、音量の急激な変化を防止するため、合致するまでのフェーダー操作は無効となります。実際の音声レベルとフェーダーの位置を合致させるとこの状態を解除することができます。「ONキーが点滅している場合」（→56ページ）をお読みください。</p>	-
ONキーが点滅している		
チャンネルの設定情報をコピーできない	<p>異なる種類のチャンネルにコピーしませんでしたか？ 同じ種類（モノラル、ステレオなど）のチャンネルにコピーしてください。</p>	59
画面が見づらい	<p>UTILITY画面のNo.102 DISP UTILで液晶のコントラストやバックライトの明るさ、ランプの明るさなどを調節できます。見やすくなるように設定を変更してください。</p> <p>※上記設定はユーザーモードでは行うことができません。アドミニストレーターモードへ切り換えて操作を行ってください。（→127ページ）</p>	117

その他

索引

<数字・記号>

+48 Vスイッチ	18
+48 Vスイッチ工場出荷時設定	154
5.1チャンネルサラウンド	133

<A>

A-MLC	83, 133
ACC SELキー	14, 53
ACC・PFLキー	12, 14, 45
ADMIN	119
AES/EBU	133
AFL	133
ALL SELボタン	94
ASSIGN	133
ASSIGN部	13
ASSIGNボタン	96
ASSIGNボックス	91
ATT	133
ATTACK	133
ATTACKノブ	85
AUTO DISP	116
AUX	35, 96, 133
AUX LVLノブ	91
AUX OUT	133
AUX OUTPUT	133
AUX OUTPUT1つまみ	16
AUX OUTPUT2つまみ	16
AUX OUTボタン	94
AUX OUTメーター	66
AUX RETURN	38, 133
AUX RETURN1つまみ	16
AUX RETURN2つまみ	16
AUX RETURN端子	18
AUX RETURN入力	133
AUX RETURN入力工場出荷時設定	151
AUX RTN	133
AUX RTN1ボックス	96
AUX RTN2ボックス	96
AUX RTNボタン	66, 94
AUX RTNメーター	66
AUX SEND1つまみ	15, 36
AUX SEND2つまみ	15, 36
AUX SETUPキー	16, 36, 37, 38
AUX SND	133
AUX1バスアサインキー	13
AUX1ボタン	70, 73

AUX1ボックス	96
AUX1ランプ	12
AUX2バスアサインキー	13
AUX2ボタン	70, 73
AUX2ボックス	96
AUX2ランプ	12
AUX/EFX画面	25, 36, 96
AUX/EFX画面の表示	96
AUXセンドレベル	36
AUXバス	133
AUXバスから音声を出力する	36
AUXバス送出レベル調節ノブ	70, 72
AUXバスボタン	91, 94
AUX部	16
AVホールで使用する場合	123
A/Bバンク切り換えボタン	81, 84, 89
A/Dコンバーター	133

BAL/UNBAL	133
BALノブ	72, 75
BALボックス	72, 75
bit/s	137
BNCケーブル	121
bps	137
BSボタン	99
BUS	133
BUSボタン	66

<C>

CANCELボタン	99
CH	133
CH COPY	59
CH COPYキー	13
CH COPYボタン	78
CH ONボタン	96
CH PROTECT	118
CHANNEL LVLボックス	74
CHANNEL-GRP画面	23, 76
CHANNEL-LR画面	23, 75
CHANNEL-MONO IN画面	23, 69
CHANNEL-OUTPUT画面	23, 77
CHANNEL-ST IN画面	23, 31, 71
CHANNEL-SUR IN画面	23, 74
CHANNEL画面	23, 29, 68
CHANNEL画面の表示	68
CHANNELキー	16, 29

CHボックス	70, 73, 74, 75, 79
CLEARボタン	90
COMP	48, 83, 133
CLRボタン	94, 95
CONT1-OUT~STATUS/CONT8-OUT	64
CONT1~8-IN	64
CTRL CONF	110

<D>

D-NOTCH	134
D-NOTCHアサイン表示	69
D-NOTCH画面	24, 86
D-NOTCH検出ポイント表示	70
D-NOTCH詳細設定ボタン	69
D-NOTCH動作ボタン	70
D-NOTCHボックス	69
DATAの変更	103
dB	137
dBFS	137
dBu	137
DELAY	134
DELAY TIME調節エリア	78
DELAYボタン	78
DELAYボックス	78
DELボタン	99
DEPTH	134
DETECT MODEボタン	90
DISP UTIL	117
DN	134
DYN	48, 134
DYN DEPTH	79
DYN DEPTHノブ	69
DYN LIB	61
DYN LIB画面	25, 102
DYN LIB画面ボタン	84
DYNAMIC NOTCH	134
DYNAMIC NOTCH INSERTボックス	87
DYNAMIC NOTCH SETUP & STATUSボックス	86
DYNAMICSボックス	79
DYN画面	24, 83
DYNボタン	69, 79, 83
DYNボックス	69
DYNライブラリー工場出荷時設定	154
DYNランプ	12, 14
D/Aコンバーター	133

<E>

EFX	35, 96, 134
EFX OUTボックス	96
EFX/REV送出レベル調節ノブ	70
EFXバス	134
EFXバスから音声を出力する	37
EFXボタン	94
EFXメーター	66
ENTERキー	16, 30
EQ	47, 134
EQ Hつまみ	15, 47
EQ LIB	61
EQ LIB画面	25, 101
EQ LIB画面ボタン	71, 73, 80, 81
EQ Lつまみ	15, 47
EQ MODE選択エリア	79
EQ Mつまみ	15, 47
EQUALIZER	134
EQUALIZERボックス	71, 73, 79
EQ・NOTCH/DELAYランプ	14
EQ画面	24, 80
EQ周波数特性グラフ	82
EQ操作部	15
EQボタン	71, 73, 80, 81
EQライブラリー工場出荷時設定	154
EQランプ	12

<F>

FINE LEVEL	119
FLATボタン	81
FREQ	134
FREQノブ	82
Fs	134
Fs表示エリア	103
FUNCTIONの選択	103

<G>

GAIN	134
GAIN REDUCTION	134
GAINノブ	82, 85
GANG	54, 134
GANG1アサインキー	13
GANG2アサインキー	13
GANGキー	13
GANGグループ工場出荷時設定	154
GR	134

索引 (つづき)

GROUP	134
GROUPメーター	66
GRP	134
GRP1/2バスアサインキー	13
GRP1/2ランプ	12
GRP3/4バスアサインキー	13
GRP3/4ランプ	12
GRPバス送出レベル	69, 71
GRPバスへのアサイン	32
GRPバスボタン	69, 71, 91
GRメーター	84

<H>

HA	139
HELPボタン	104
HPF	47, 82, 134
HPF FREQ調節エリア	71
HPFボタン	70
HPFボックス	70
HS	134

<I>

INPUT	134
INPUTゲイン	31, 72
INPUTつまみ	12
INPUTボタン	66
INPUTボックス	72
INS	134
INSERTION	134
INSERTIONボタン	96
INSERTIONボックス	75, 77
INSERTボタン	87
INSボタン	75, 77, 99
I/O SET	105

<K>

KEY LOCK	115
----------------	-----

<L>

LEDディマー	161
LEVELノブ	96
LPF	82, 134
LR	134
LRボタン	91, 94
LVL設定エリア	95
L・Rアサインキー	13, 32

L・Rランプ	12, 14
--------------	--------

<M>

MAIN LR	134
MAIN LRメーター	66
METER	43
METER-BUS画面	23, 43, 66
METER-INPUT画面	23, 43, 65
METER-OUT/SLOT画面	23, 43, 67
METER画面	23, 29, 65
METER画面の表示	65
METERキー	16, 29, 44
MIDI	135
MONITOR	45, 135
MONITOR OUT端子	19
MONITOR OUTつまみ	15, 45
MONITOR OUTボックス	93
MONITOR SETUPキー	15, 40, 41
MONITOR画面	25, 39, 41, 93
MONITOR画面の表示	93
MONITOR部	15
MONO IN	135
MONO INPUT	135
MONO INPUT端子	18
MONO INメーター	65
MONO MIX	135
MONO MIXボタン	72, 75, 93
MONO MIXボックス	72, 75
MONO/STボタン	76
MUTE GROUP	57
MUTE GROUP1アサインキー	13
MUTE GROUP2アサインキー	13
MUTE GROUPキー	13
MUTE GROUP実行キー	13
MUTEグループ工場出荷時設定	154

<N>

NAMEボタン	98
NEXTボタン	104
NOTCH	50, 135
NOTCH画面	24, 86
NOTCH画面の表示	86
NOTCHボタン	87, 89
NOTCHランプ	12

<O>

OKボタン	99
-------------	----

ONキー	12, 14, 33
ONキー状態	70, 73, 74, 75, 77
ONキーの点滅	56
OSC	41, 93, 135
OSC ASSIGNボックス	94
OSC SOURCEボタン	95
OSC部	15
OUTPUT PRE NOTCH SETUP & STATUSボックス	89
OUTPUT PROCESSOR	135
OUTPUT PROCESSOR部	14
OUTPUT SEL	107
OUTPUT選択ボタン	94
OUTPUT端子	19
OUTPUTノブ	79
OUTPUTメーター	67

<P>

P-NOTCH	135
P-NOTCH画面	24, 86, 88
PAD	135
PADの設定	119
PAN/BAL	135
PANノブ	69, 76
PANボックス	69
PARAMの選択	103
PATTERN MEMORY	60, 135
PATTERN MEMORYキー	13
PEAK HOLD	44
PEAK HOLDボタン	66, 67
PEQ	47, 135
PFL	135
PFL LVL設定エリア	94
PFL・AFLランプ	15
PFL/AFL SELECTボックス	94
PFL/AFLの設定	107
PHANTOM	135
PHONES端子	19
PN	135
POSITIONボタン	74
POST	136
PRE	135
PRE NOTCH	135
PRE NOTCH CONTROLボックス	90
PRE NOTCH詳細設定ボタン	78
PRE NOTCHボタン	78

PRE NOTCHボックス	78
PREVボタン	104
PROTECTボタン	98
PTN	60, 136
PTN R/W画面	25, 97
PTN R/W画面の表示	97

<Q>

Q	136
---	-----

<R>

RATIO	136
RATIOノブ	84
RCAピンプラグケーブル	121
RD PROTECT	118
READキー	13
READボタン	97, 104
REC OUT	42
REC OUT端子	19
REC信号を出力する	42
RELEASE	136
RELEASEノブ	85
REMOTE端子	20
REMOTE端子CONT1-IN~CONT8-INの設定	113
REMOTE端子CONT1-OUT~CONT8-OUTの設定	114
REMOTE端子VCA1~VCA4の設定	114
REMOTE端子のコネクタピン配置	158
REMOTE端子の仕様	158
REMOTE端子を使用した外部制御	63
RESP	136
RESPボタン	86, 89
REV	51, 136
REV RETURNつまみ	15
REV RTN TOTAL LVLノブ	91
REVERB	51, 136
REVERB RTNボックス	91
REVERB TYPE選択エリア	92
REVERB画面	25, 91
REVERB画面の表示	91
REVERBボタン	91
REVアサインキー	13, 37, 51
REV操作部	15
REVランプ	12
RMT	26, 136
RMT IN-1~8	113
RMT OUT-1~8	114

索引 (つづき)

RMT VCAI-1~4	114
RS-422	136
RS-422端子	20
RS-422端子のコネクタピン配置	157
RS-422端子の終端スイッチ工場出荷時設定	154
RS-422端子の仕様	157
RS-422端子の通信ケーブル仕様	157
RS-422によるバルクアウト通信の設定	112
RS-422を使用した外部制御	62
RS422 BULK	112
RS422 SET	111
RS422の各種設定	111

<S>

S-LINK	136
S-LINKボタン	79, 84
SEL	136
SEND GRPボックス	69, 71
SEND操作部	15
SENDボックス	70, 72
SENS	136
SENSボタン	85, 87, 89
SHH	82, 136
SHL	136
SIGNAL/PEAKランプ	12
SIGNAL/PEAK	136
SIGNAL/PEAK仕様	161
SIGNAL/PEAKランプ	31
SIO	26
SLOT	38
SLOT IN STATUS表示エリア	103
SLOT INメーター	67
SLOT LOCK STATUS表示エリア	104
SLOT MODE	108
SLOT SUBIN	108
SLOT8 SEL	109
SLOTボタン	94
SOURCE CH表示	77
SOURCE CHボックス	77
SOURCE画面ボタン	77
SOURCE設定エリア	93
SPACEボタン	99
ST IN SEL	109
ST6/SURチャンネルフェーダー	34
STARTボタン	90
STATUSボックス	103

STEREO INPUT	136
STEREO INPUT端子	18
STEREO INメーター	65
STEREO LINKボタン	78
STEREO LINKボックス	77
STOPボタン	90
SUR	136
SUR MODEランプ	12, 34
SURROUND	110, 136
SURROUND INメーター	65
SURROUNDボタン	66
S/N比	136

<T>

TB	15, 39, 93, 136
TB ASSIGNボックス	94
TB/OSC SELボタン	95
TB/OSCボタン	95
TH LVL	137
TH LVLノブ	84
TYPE/Qノブ	82
TYPEボタン	83

<U>

UNBAL	137
UTILITY MEMORYボックス	104
UTILITY画面	25, 29, 103
UTILITY画面の設定項目	105
UTILITY画面の表示	103
UTILITYキー	16, 29, 30

<V>

VCA	137
VCA1~4	64
VCA制御状態	26
VCA入力	64

<W>

WCK	137
WCK IN端子	20
WCK IN表示エリア	103
WCK OUT端子	20
WRITEキー	13
WRITEボタン	97, 104

<X>

XLR-3コネクタ付きケーブル121

<あ>

アウトプットプロセッサ137
 アウトプットプロセッサ工場出荷時設定152
 アウトプットプロセッサの基本仕様161
 アウトプットプロセッサへの入力選択107
 アウトプットプロセッサを使う52
 アサイン137
 アッテネータ137
 アドミニストレーターモード127
 アナログ出力仕様159
 アナログ入力仕様159
 アフターフェーダー137
 安全上のご注意8
 イコライザー137
 イコライザーを使う47
 インサクション75, 77, 96, 108
 インプット部12
 英大文字モード98
 英小文字モード98
 液晶29
 液晶画面16
 液晶仕様161
 エフェクター137
 エフェクターからの戻り进行处理する38
 エフェクト出力を使う35
 宴会場で使用する場合124
 大型複式プラグ付きケーブル121
 オートゲインモード88
 オートノッチ137
 オートマイクレベルコントローラー ...48, 83, 137
 オシレーター93, 137
 オシレーター工場出荷時設定146
 オシレーター信号を出力する41
 音を加工する47
 音を出す33
 主な特長2
 音声出力部19
 音声信号を確認する43
 音声入力部18

<か>

カーソルキー16
 カーソルの移動29

カードの増設125
 外観図162
 会議室／講堂で使用する場合122
 外部から制御する62
 外部制御の有効／無効設定110
 拡張カード8チャンネルの出力選択109
 拡張カード入出力を使う38
 拡張カード入力のサブイン設定108
 拡張カードの動作モード設定108
 各部の名前とはたらき11
 合致点マーク56, 70, 73, 74, 75, 77
 カットオフ周波数137
 カナ大文字モード98
 カナ小文字モード98
 画面21
 画面一覧23
 画面遷移21
 画面の基本構成26
 画面の基本操作29
 画面名26
 画面を表示する29
 キーロックの設定115
 機能大分類の選択103
 基本仕様158
 基本接続例122
 基本的な使いかた27
 ギャング137
 ギャンググループの終了56
 ギャンググループの操作55
 ギャンググループの登録54
 ギャンググループを使う54
 クリップ138
 グループバス138
 系統図155
 ゲイン138
 ケーブル121
 工場出荷時設定一覧150
 後面17
 故障かな140
 誤操作防止用カバー固定ねじ11
 コントロールチェンジ138
 コンプレッサー48, 83, 138

<さ>

サラウンド138
 サラウンド入力工場出荷設定151

索引 (つづき)

サラウンド入力の設定	110
サラウンド入力例	123
サラウンド入力を使う	34
サラウンドモード	34
シェルビング	138
シグナルリンク	79
システムエクスクルーシブ	138
実際に音を出して確認する	45
周波数特性グラフ	79
出力フェーダー	14, 33
出力フェーダー部	14
出力レベルの微調整	119
仕様	150
商標および登録商標	3
商品概要	2
シリアル制御状態	26
数値の変更	30
ステータス表示	87, 90
ステレオ1・2/モノラル7・8のチャンネル切り換え	128
ステレオ3~6チャンネルの入力選択	109
ステレオ6/サラウンドのチャンネル切り換え	129
ステレオ入力工場出荷時設定	150
スロット部	20
制御端子部	20
製品仕様	158
接続機器ラベル	131
接続例	122
設置後の確認	131
設置上のお願い	120
設置のしかた	126
設定1キー	16, 30
設定2キー	16, 30
設定3キー	16, 30
設定項目中分類の選択	103
設定情報のコピー	59
設定値の変更	103
接点出力	64
接点入力	64
前面	11
操作キー	16
操作の流れ	31
操作パネル	11

<た>

ダイナミクス	138
ダイナミクス特性グラフ	84
ダイナミクスを使う	48
ダイナミックノッチ	50, 86, 138
ダイナミックノッチボックス	69
ダイナミックレンジ	138
チャンネル個別レベル調節エリア	74
チャンネル単位のプロテクト設定	118
チャンネルのコピー	59
チャンネル番号	26
ディマー表示エリア	93
ディレイ	138
デジタル入出力仕様	160
デシベル	138
電源ON時の動作	28
電源差し込み口	17
電源スイッチ	17, 28
電源の入れかた	28
電源の切りかた	28
電源部	17
動作モードの設定	119
トークバック	93, 138
トークバック工場出荷時設定	154
トークバックマイクを使う	39
取り扱い上のお願い	10
取り付け時の注意事項	126

<な>

内部設定	127
名前の登録	98
入出力に関する操作	34
入力位置移動ボタン	99
入力感度	138
入力フェーダー	12, 33
入力部仕様	160
入力レベルを調節する	31
ノッチフィルター	139

<は>

ハイパスフィルター	82, 139
ハウリング検出状況	87, 89
ハウリングの検出	88
ハウリングを抑制する	50
初めて電源を入れるとき	28
バス	139

バス工場出荷時設定	152
バスに信号を送出する	32
パターン選択エリア	97
パターンメモリー	97, 139
パターンメモリー工場出荷時設定	154
パターンメモリーに記録されるデータ	100
パターンメモリーの登録	60
パターンメモリーの呼び出し	61
パターンメモリー番号	26
パターンメモリーを活用する	60
バックアップ	130
パラメーター調整つまみ	16
パラメトリックイコライザー	139
バルクアウト	139
ピークホールド工場出荷時設定	154
表示関係の設定	117
ピンクノイズ	139
ファンタム電源	139
フィルター	139
フェーダー	70, 73, 74, 75, 77
フェーダーギャング機能仕様	161
フェーダー仕様	161
付属品	3
プリノッチ	50, 88, 139
プリフェーダー	139
ヘッドアンプ	139
保護ピン	17
ポジション選択ボタン	94
保証とアフターサービス	167
補助入出力を使う	35
ポストフェーダー	139
ボタン	30
本書について	3

<ま>

間仕切り変更に対応した複数台使用の場合	124
マニュアルゲインモード	88
マニュアル設定	89
ミュートグループ	139
ミュートグループ機能仕様	161
ミュートグループの操作	58
ミュートグループの登録	57
ミュートグループを使う	57
名称表示エリア	99
メインLR	139
メーターPRE/POSTボタン工場出荷時設定	154

メーター仕様	161
メッセージ一覧	132
メッセージ表示エリア	103
メモリー仕様	161
免責について	3
文字選択ボタン	99
モニター	45, 93, 139
モニター工場出荷時設定	153
モノミックス	139
モノラル入力工場出荷時設定	150

<や>

ユーザーモード	127
用語集	133

<ら>

ライブラリ	101, 102
ライブラリを活用する	61
ラック取付金具	126
ラックについて	126
リードプロテクトの設定	118
リセット	154
リバーブ	91, 139
リバーブ工場出荷時設定	154
リバーブ仕様	161
リバーブを使う	51
リモート制御状態	26
レベルダイヤグラム	156
レベルメーター	15, 70, 73, 74, 75, 76, 79
レベルメーターでレベルを確認する	43
ローパスフィルター	82, 139

<わ>

ワードクロック	139
---------	-----

仕様

工場出荷時設定一覧

モノラル／ステレオ入力

項目	対象チャンネル	設定値	設定を変更する際の参照ページ
INPUTつまみ	MONO1～6 MONO7～8 (*1)	+4 dBu	操作パネル (インプット部) →12ページ
ONキー	全チャンネル	ON	
フェーダーレベル	全チャンネル	-∞	
バスアサイン	全チャンネル	メインLRのみON、 その他はOFF	操作パネル (インプット部) →12ページ 操作パネル (ASSIGN部) →13ページ
INPUTゲイン	STEREO1～6	0.0 dB	モノラル入力：
PANノブ	MONO1～6 MONO7～8 (*1)	C (センター)	CHANNEL-MONO IN画面、 →69ページ
BALノブ	STEREO1～6	C (センター)	ステレオ入力：
AUX/EFX送出 レベルノブ	全チャンネル	すべて0.0 dB	CHANNEL-ST IN画面 →71ページ
AUX PRE/POST ボタン	全チャンネル	すべてPOST	
HPF	MONO1～6	ON/OFFボタン：OFF、 FREQ：80 Hz	
PEQ	MONO1～6	ON/OFFボタン：OFF PEQH：TYPE：SHH、 FREQ：12.5 kHz、 GAIN：0 dB PEQM：Q：0.75、 FREQ：1 kHz、 GAIN：0 dB PEQL：Q：0.75、 FREQ：100 Hz、 GAIN：0 dB	CHANNEL-MONO IN画面 →69ページ EQ画面→80ページ
	STEREO1～6、 MONO7～8 (*1)	ON/OFFボタン：OFF PEQH：TYPE：SHH、 FREQ：12.5 kHz、 GAIN：0 dB PEQL：TYPE：SHL FREQ：100 Hz、 GAIN：0 dB	CHANNEL-ST IN画面 →71ページ EQ画面→80ページ
ダイナミクス種別 (TYPEボタン)	MONO1～4 MONO5～6	コンプレッサー オートマイクレベル コントローラー	DYN画面→83ページ

項目	対象チャンネル	設定値	設定を変更する際の参照ページ
ダイナミクス (コンプレッサー)	MONO1~4 MONO5~6 (*2)	ON/OFFボタン : OFF DEPTH : N (ニュートラル) TH LVL : -2.0 dB RATIO : 4.17 ATTACK : 100 ms RELEASE : 1 000 ms GAIN : 3.0 dB	CHANNEL-MONO IN画面 →69ページ DYN画面→83ページ
ダイナミクス (オートマイクレベル コントローラー)	MONO5~6	ON/OFFボタン : OFF DEPTH、SENS : NORMAL	
ダイナミックノッチ	MONO1~6	ON/OFFボタン : OFF RESP : FAST SENS : HIGH INSERT : OFF	CHANNEL-MONO IN画面 →69ページ D-NOTCH画面→86ページ
MONO MIXボタン GRP1~GRP4 (PRE/POST) ボタン	STEREO1~6 全チャンネル (*3)	OFF POST	モノラル入力 : CHANNEL-MONO IN画面 →69ページ ステレオ入力 :
GRP1~GRP4送出 レベル	全チャンネル (*3)	0.0 dB	CHANNEL-ST IN画面 →71ページ

(*1) 工場出荷状態ではMONO7~8は使用できません。表はUTILITY画面でNo.001 I/O SETのST1/2 SETをMONO7/8に初めて設定した時の設定を示します。

(*2) 工場出荷状態では、MONO5~6でコンプレッサーは使用できません。表はDYN画面のTYPEボタンでCOMPに初めて設定したときの設定を示します。

(*3) 工場出荷状態では、この設定は無効です (表示されません)。表はUTILITY画面でNo.001 I/O SETのGRP/AUX1および2をAUX BUSに初めて設定したときの設定を示します。

サラウンド入力 (*1)

項目	設定値	設定を変更する際の参照ページ
ONキー	ON	操作パネル (インプット部)
フェーダーレベル	-∞	→12ページ
チャンネル個別レベル	すべて0 dB	CHANNEL-SUR IN画面
レベルメーターPOSITION	PRE	→74ページ

(*1) 上記の設定は、サラウンドモードを初めてONに設定したときの設定を示します。

AUX RETURN入力

項目	対象チャンネル	設定値	設定を変更する際の参照ページ
AUX RETURN つまみ	全チャンネル	-∞	操作パネル (AUX部) →16ページ
CH ONボタン	全チャンネル	OFF	AUX/EFX画面→96ページ
バスアサイン	全チャンネル	全バスOFF	

仕様 (つづき)

バス

項目	対象バス	設定値	設定を変更する際の参照ページ
ONキー	LR、GRP	ON	操作パネル (出力フェーダー部) →14ページ
フェーダーレベル	LR、GRP	-∞	
LRへのバスアサイン	GRP	OFF	操作パネル (ASSIGN部) →13ページ 操作パネル (出力フェーダー部) →14ページ
AUX OUTPUT つまみ	AUX	-∞	操作パネル (AUX部) →16ページ
レベルノブ	EFX	0.0 dB	LR :
CH ONボタン	AUX、EFX	ON	CHANNEL-LR画面→75ページ
BALノブ	LR	C (センター)	GRP :
PANノブ	GRP	C (センター)	CHANNEL-GRP画面 →76ページ
MONO MIXボタン	LR	OFF	AUX、EFX :
INSERTION ON/OFF ボタン	LR、GRP、AUX	OFF	AUX/EFX画面→96ページ
MONO/STボタン	GRP	MONO	

アウトプットプロセッサ

項目	対象チャンネル	設定値	設定を変更する際の参照ページ
OUTPUTノブ	全チャンネル	0 dB	CHANNEL-OUTPUT画面
ディレイ	全チャンネル	ON/OFFボタン : ON DELAY TIME : 0.000 m	→77ページ
イコライザー	全チャンネル	MODE : 3BAND+PRE NOTCH ON/OFFボタン : OFF (PEQ3バンドのパラメーター) PEQ1 : TYPE : SHL、 FREQ : 100 Hz、 GAIN : 0 dB PEQ2 : Q : 0.75、 FREQ : 1 kHz、 GAIN : 0 dB PEQ3 : TYPE : SHH、 FREQ : 12.5 kHz、 GAIN : 0 dB (PEQ8バンドのパラメーター (*1)) PEQ1 : Q : 3、 FREQ : 25.5 Hz、 GAIN : 0 dB PEQ2 : Q : 3、 FREQ : 64 Hz、 GAIN : 0 dB PEQ3 : Q : 3、 FREQ : 160 Hz、 GAIN : 0 dB PEQ4 : Q : 3、 FREQ : 400 Hz、 GAIN : 0 dB	

項目	対象チャンネル	設定値	設定を変更する際の参照ページ
		PEQ5 : Q : 3、 FREQ : 1.00kHz、 GAIN : 0 dB PEQ6 : Q : 3、 FREQ : 2.50 kHz、 GAIN : 0 dB PEQ7 : Q : 3、 FREQ : 6.30 kHz、 GAIN : 0 dB PEQ8 : Q : 3、 FREQ : 16.0 kHz、 GAIN : 0 dB	
プリノッチ	全チャンネル	ON/OFFボタン : OFF RESP : FAST SENS : HIGH DETECT MODE : MANUAL ハウリング検出状況 : 未検出	CHANNEL-OUTPUT画面 →77ページ P-NOTCH画面→88ページ
ダイナミクス (コンプレッサー)	OUTPUT1~2	ON/OFFボタン : OFF DEPTH : N (ニュートラル) S-LINK : OFF TH LVL : -2.0 dB RATIO : 4.17 ATTACK : 100 ms RELEASE : 100 ms GAIN : 1.0 dB	CHANNEL-OUTPUT画面 →77ページ DYN画面→83ページ
STEREO LINKボタン	OUTPUT1~2	OFF	CHANNEL-OUTPUT画面
CH COPYボタン (コピー方向)	OUTPUT1~2	1→2	→77ページ

(*1) 工場出荷状態ではMODEが3BAND+PRE NOTCHのため、この設定は適用されません。表はMODEを8BANDに初めて設定した時の設定を示します。

モニター

項目	設定値	設定を変更する際の参照ページ
MONITOR OUTつまみ	-∞	MONITOR/TB/OSC部 →15ページ
SOURCE設定	MAIN LR	MONITOR画面→93ページ
MONO MIXボタン	OFF	
PFL LVL	-10.0 dB	
ACC・PFLキーによるPFL、 PFL/AFL SELECT	すべてOFF	操作パネル (インプット部) →12ページ 操作パネル (出力フェーダー部) →14ページ MONITOR画面→93ページ
ポジション選択	すべてAFL	MONITOR画面→93ページ

仕様（つづき）

トークバック・オシレーター

項目	設定値	設定を変更する際の参照ページ
TB/OSC SELボタン	TB	MONITOR画面→93ページ
TB/OSC (ON/OFF) ボタン	OFF	
TB/OSC LVL	-∞	
TB/OSC ASSIGN	すべてOFF	
OSC SOURCE (*1)	PINK	

(*1) 工場出荷状態では、この設定は表示されません。表はTB/OSC SELボタンを初めてOSCに設定した時の設定を示します。

リバーブ

項目	設定値	設定を変更する際の参照ページ
REVERB TYPE	ECHO1	REVERB画面→91ページ
REVERB (ON/OFF) ボタン	ON	
REV RTN TOTAL LVL	0.0 dB	
ASSIGN	LRのみON	
AUX LVLノブ	0.0 dB	

その他

項目	対象チャンネル	設定値	設定を変更する際の参照ページ
メーターPRE/POST ボタン	INPUT、SUR、 AUX RTN BUS	PRE POST	METER画面→65ページ
ピークホールド	INPUT、BUS、 OUT/SLOT	OFF	
パターンメモリー	1~8	すべて上記工場出荷設定の 状態	操作パネル (ASSIGN部) →13ページ PTN R/W画面→97ページ EQ LIB画面→101ページ
EQライブラリー	1~8	すべて上記工場出荷設定の EQ設定	EQ LIB画面→101ページ
DYNライブラリー	1~8	すべてモノラル入力のダイ ナミクス (コンプレッサー) の工場出荷設定	DYN LIB画面→102ページ
GANGグループ	1~2	すべて未登録	操作パネル (ASSIGN部) 他 →54ページ
MUTEグループ	1~2	すべて未登録	操作パネル (ASSIGN部) 他 →57ページ
RS-422端子の 終端スイッチ		OFF	後面 (制御端子部) →20ページ
+48 Vスイッチ	MONO INPUT1~6	OFF	後面 (音声入力部) →18ページ

UTILITY画面の工場出荷時の設定については、105ページをお読みください。

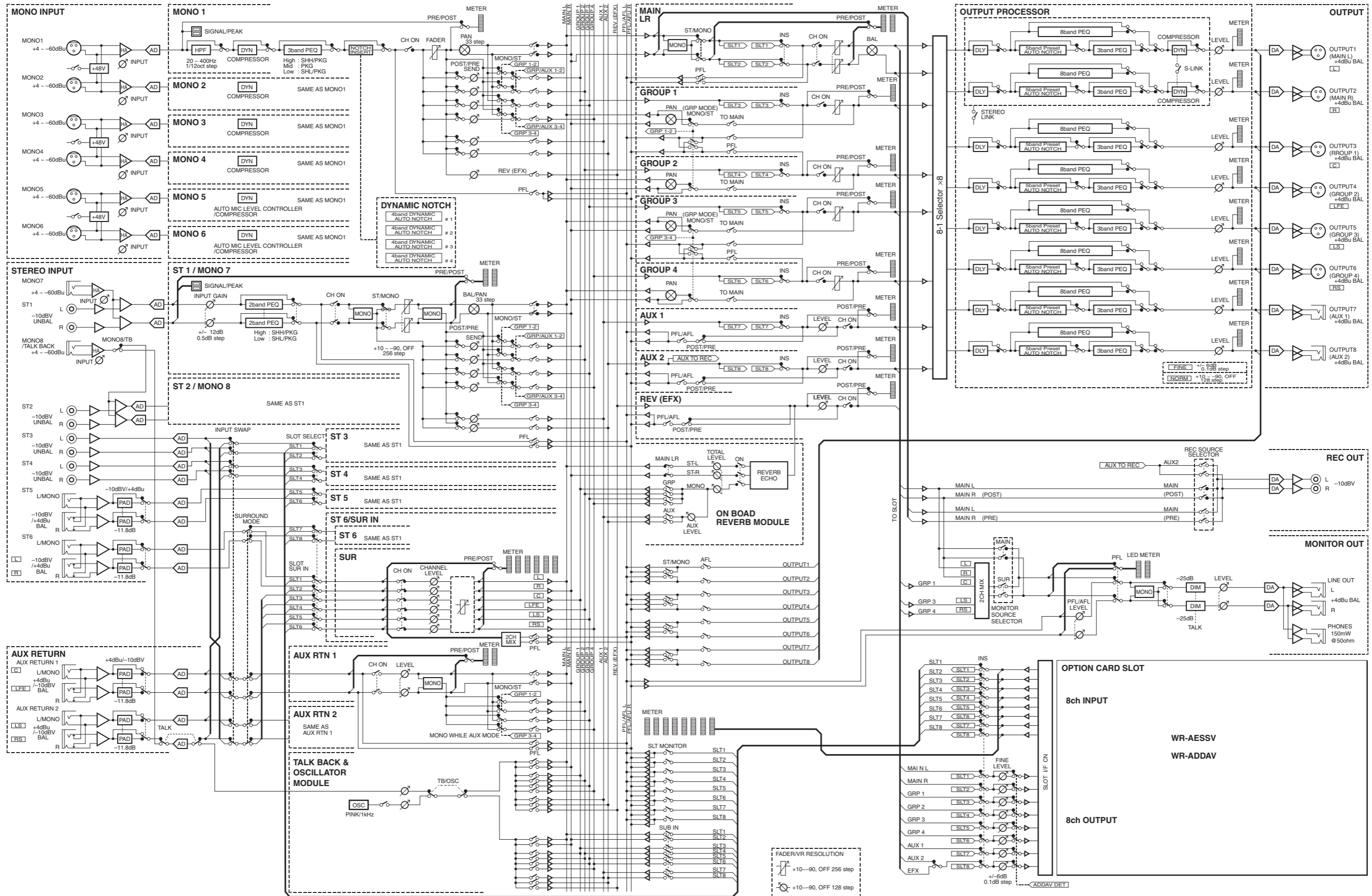
工場出荷時の設定状態にリセットするには

工場出荷時の設定にリセットしたいときは、METERキーとCHANNELキーを同時に押しながら、電源ボタンをONにしてください。確認のメッセージが表示されるので「OK」を押すと、工場出荷状態でシステムが起動します。

重要

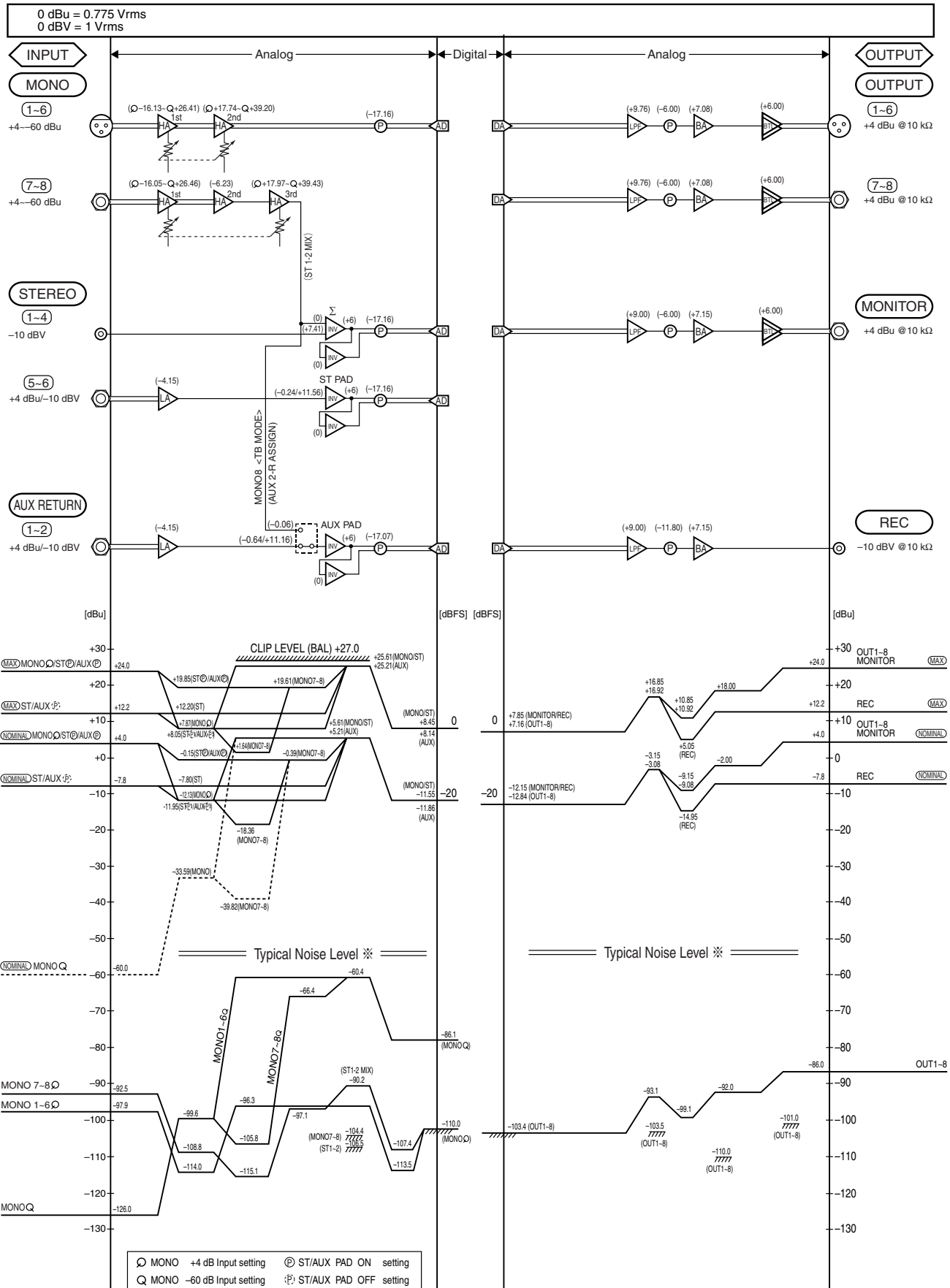
本操作を行うと、パターンメモリーを含めたすべてのデータが消去されます。ユーティリティソフトでバックアップを行う等、大事な設定データが消失しないようあらかじめ準備の上、本操作を行ってください。
(→62ページ)

系統図



その他

レベルダイアグラム



その他

※ オーディオバンドフィルタ および 聴感補正フィルタ (IHF-A) 使用

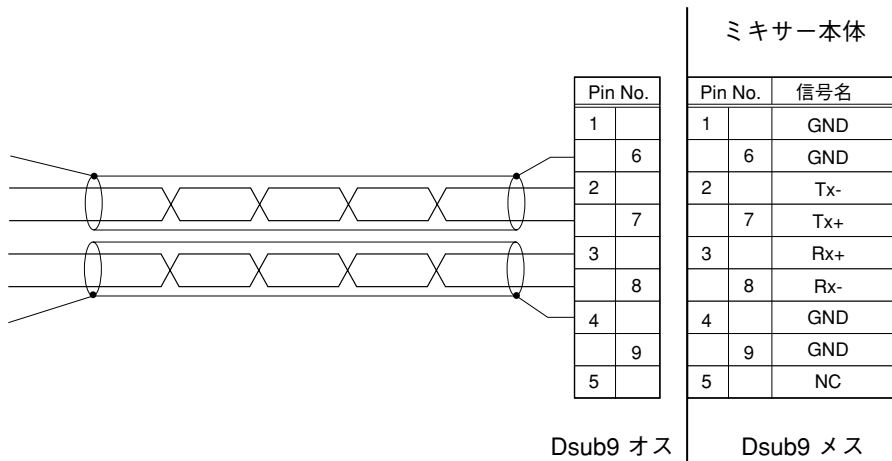
RS-422端子の仕様

コネクタピン配置 (DSUB9ピン メス、インチ規格固定具)

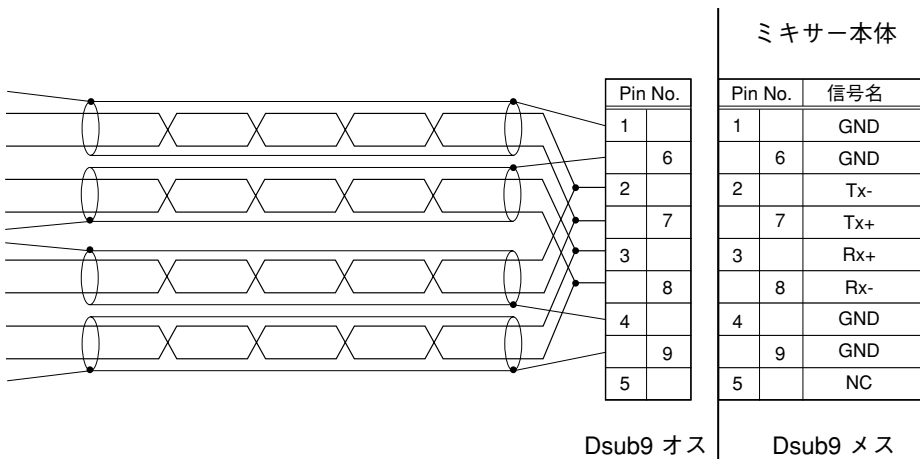
Pin No	信号名	I/O
1	GND	-
2	Tx-	OUT
3	Rx+	IN
4	GND	-
5	NC	-
6	GND	-
7	Tx+	OUT
8	Rx-	IN
9	GND	-

通信ケーブル仕様

1対1接続の場合



複数台接続の場合 (デ이지ーチェイン接続)



マスター ~ スレーブ間：クロスケーブル
 スレーブ ~ スレーブ間：ストレートケーブル
 推奨ケーブル：2芯シールド (A2C3等)

その他

REMOTE端子の仕様

コネクタピン配置 (DSUB25ピン メス、ミリ規格固定具)

Pin No	信号名	I/O	Pin No	信号名	I/O
1	CONT1-IN	IN	14	CONT1-OUT	OUT
2	CONT2-IN	IN	15	CONT2-OUT	OUT
3	CONT3-IN	IN	16	CONT3-OUT	OUT
4	CONT4-IN	IN	17	CONT4-OUT	OUT
5	CONT5-IN	IN	18	CONT5-OUT	OUT
6	CONT6-IN	IN	19	CONT6-OUT	OUT
7	CONT7-IN	IN	20	CONT7-OUT	OUT
8	CONT8-IN	IN	21	STATUS	OUT
9	+3.3 V	OUT	22	COMMON	GND
10	VCA-1	IN	23		
11	VCA-2	IN	24		
12	VCA-3	IN	25		
13	VCA-4	IN			

(*) 21番ピンは工場出荷状態では、STATUS信号が出力されます。CONT8-OUTの出力に変更するには、特別な設定が必要です。販売店に依頼してください。

製品仕様

基本仕様

電源電圧	AC100 V 50 Hz/60 Hz
消費電力	40 W (電気用品安全法に基づく)
周波数特性	20 Hz~20 kHz、+0.5~-1.0 dB (入力感度+4 dB) 20 Hz~20 kHz、+0.5~-2.0 dB (入力感度-60 dB)
全高調波歪率 (*1)	0.03 %以下 (20 Hz~20 kHz、MONO INPUT~OUTPUT 入力=+4 dBu、出力=+4 dBu/負荷インピーダンス10k Ω)
入力換算雑音 (*1)	-126 dBu以下 (MONO INPUT、ソースインピーダンス=150 Ω、入力感度-60 dB)
残留雑音 (*1)	-86 dBu Typ (OUTPUT)
最大電圧利得	84 dB (MONO INPUT~メインLRバス、GRPバス) 94 dB (MONO INPUT~AUXバス)
同相成分除去比	80 dB以上 (1 kHz、MONO INPUT、入力感度-60 dB)
クロストーク (*1)	-80 dB以下 (1 kHz)、-60 dB以下 (10 kHz)
ダイナミックレンジ (*1)	110 dB Typ A/Dコンバーター (MONO INPUT~拡張カードデジタル出力) (fs=48 kHz) 110 dB Typ D/Aコンバーター (拡張カードデジタル入力~OUTPUT) 107 dB Typ A/D+D/A (MONO INPUT~OUTPUT)
A/Dコンバーター	24 bitデルタシグマ変調方式
D/Aコンバーター	24 bitデルタシグマ変調方式
内部信号処理精度	32 bit浮動小数点

(*1) オーディオバンドフィルタおよび聴覚補正フィルタ (IHF-A) 使用

サンプリング周波数	内部：48 kHz 外部：44.1 kHz±1.0 % 48 kHz±1.0 %
信号遅延	1.8 ms以下 (MONO INPUT～メインLRバス、GRPバス～OUTPUT)
使用周囲温度	0℃～+40℃
寸法	幅430 mm×高さ159 mm×奥行き326 mm (突起部含まず) 縦型マウント時占有スペース：EIA-7U (結線部ブランク除く)
質量	約8.5 kg

アナログ入力

端子名	入力インピーダンス	入力レベル		端子形状
		定格	最大入力レベル	
MONO INPUT 1～6	10 kΩ (平衡)	-60 dBu～+4 dBu	-40 dBu～+24 dBu	XLR-3 (メス)
MONO INPUT 7、8	10 kΩ (平衡)	-60 dBu～+4 dBu	-40 dBu～+24 dBu	大型複式ジャック
STEREO INPUT 1～4	10 kΩ (不平衡)	-10 dBV±12 dB	+10 dBV	RCAピンジャック
STEREO INPUT 5、6 (*1)	10 kΩ (平衡)	+4 dBu	+24 dBu	大型複式ジャック
		-10 dBV	+10 dBV	
AUX RETURN (*1)	10 kΩ (平衡)	+4 dBu	+24 dBu	大型複式ジャック
		-10 dBV	+10 dBV	

0 dBu=0.775 Vrms 0 dBV=1 Vrms

(*1) 内蔵PAD機能により定格入力レベルの切り換えが可能です。

アナログ出力

端子名	出力インピーダンス	適合負荷インピーダンス	出力レベル		端子形状
			定格	最大出力レベル	
OUTPUT 1～6	150 Ω (平衡)	10 kΩ以上 ※1	+4 dBu	+24 dBu	XLR-3 (オス)
OUTPUT 7、8	150 Ω (平衡)	10 kΩ以上 ※1	+4 dBu	+24 dBu	大型複式ジャック
REC OUT L、R	150 Ω (不平衡)	10 kΩ以上	-10 dBV	+10 dBV	RCAピンジャック
MONITOR OUT L、R	150 Ω (平衡)	10 kΩ以上	+4 dBu	+24 dBu	大型複式ジャック
PHONES	33 Ω (不平衡)	16 Ω以上	—	150 mW/50 Ω	大型複式ジャック

0 dBu=0.775 Vrms 0 dBV=1 Vrms

※1 UTILITY画面のNo.105 FINE LVLで、±6 dBの範囲で出力レベルを調整することができます。この機能を使用して600 Ω負荷等の機器にも対応できます。(→119ページ)

仕様（つづき）

デジタル入出力

端子名	電氣的仕様	端子形状
WORD CLOCK IN	TTL2.5 V以上/75 Ω	BNC
WORD CLOCK OUT	4.0 Vpp/75 Ω	BNC

入力部仕様

ファンタム電源※1		+48 V DC (2系統単位ON/OFF) 1系統あたり最大10 mA
イコライザー	HPF	周波数帯：20 Hz～400 Hz (1/12 oct step) 12 dB/oct
	LOW : PKG	Q : 0.3～30 (31階調) 周波数帯：20 Hz～20 kHz (1/12 oct step) ゲイン：±15.0 dB (0.5 dB step)
	LOW : SHL	周波数帯：20 Hz～1.6 kHz (1/12 oct step) ゲイン：±15.0 dB (0.5 dB step)
	MID : PKG	Q : 0.3～30 (31階調) 周波数帯：20 Hz～20 kHz (1/12 oct step) ゲイン：±15.0 dB (0.5 dB step)
	HIGH : PKG	Q : 0.3～30 (31階調) 周波数帯：20 Hz～20 kHz (1/12 oct step) ゲイン：±15.0 dB (0.5 dB step)
コンプレッサー	HIGH : SHH	周波数帯：1 kHz～20 kHz (1/12 oct step) ゲイン：±15.0 dB (0.5 dB step)
	スレシヨルドレベル	-60 dBFS～0 dBFS (1dB step)
	レシオ	1～∞ (31階調)
	アタックタイム	0 ms～2 000 ms (31階調)
	リリースタイム	0 ms～2 000 ms (31階調)
	ゲイン	0 dB～+12 dB (0.5 dB step)
オートマイクレベル コントローラー	搭載チャンネル	MONO5～6
ハウリングサプレッサー (ダイナミックノッチ)		SENS (感度設定) : LOW、MID、HIGH RESP (検出速度設定) : SLOW、FAST 最大4チャンネルにアサイン可能。ハウリング検出により1チャンネルあたり最大4個のノッチフィルターが設定される。 ノッチフィルターの特性： 周波数帯：40 Hz～18 kHz (1/48oct step) 減衰量 : 0 dB～-15 dB (3 dB step) Q : 30/60

※1：MONO INPUT 7および8端子を除くMONO INPUT端子に供給可能。

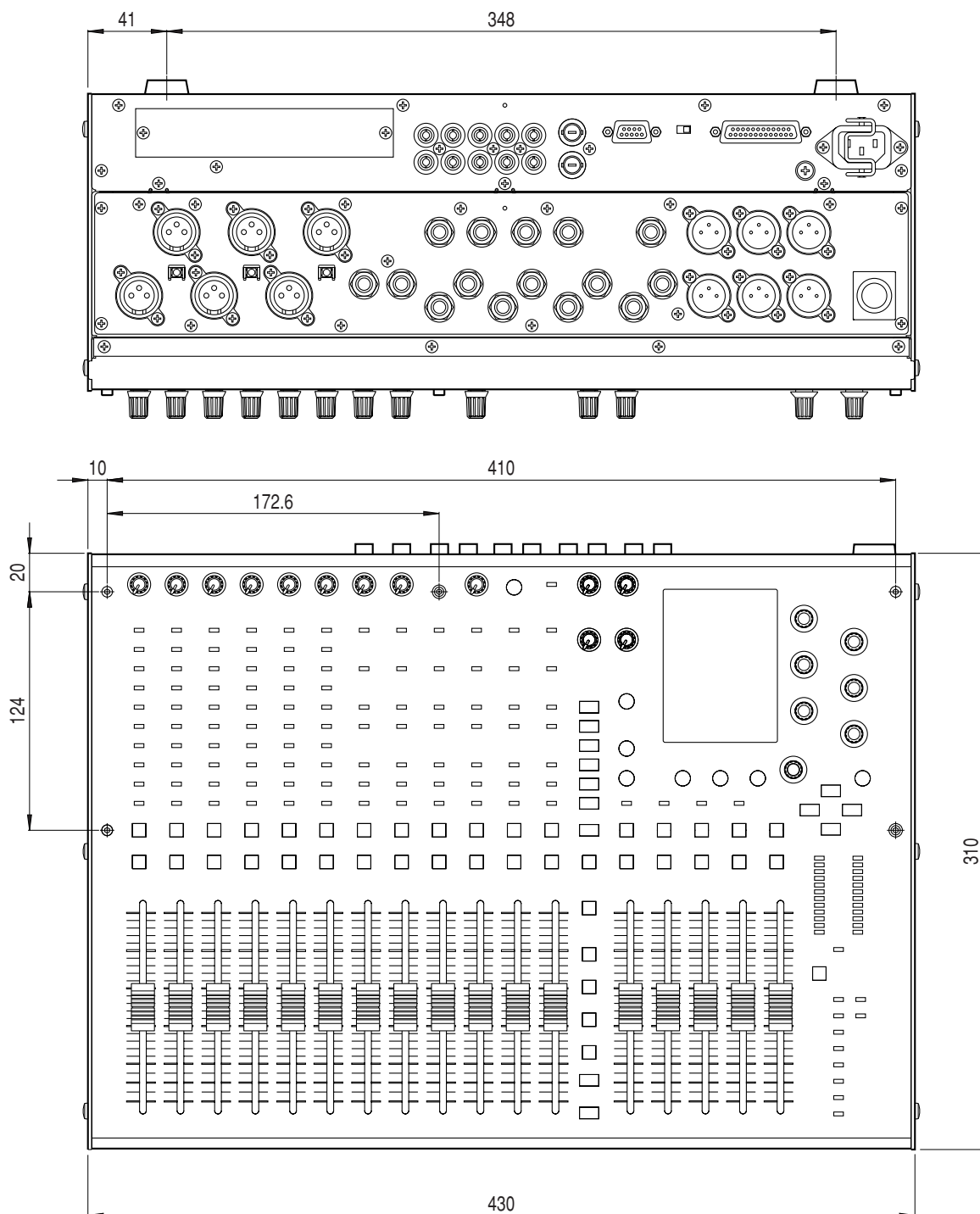
アウトプットプロセッサの基本仕様

出力ボリューム	-∞、-90 dB～+10 dB (128階調)
イコライザー	3Band PEQ/8Band PEQの切換え方式 (LPF (1Band)、HPF (1Band) へ切り換え可能) Q : 0.3～30 (31階調)、SHL/SHH 周波数帯 : 20 Hz～20 kHz (1/48oct step) ゲイン : ±15.0 dB (0.5 dB step) LPF/HPF : 6 dB/oct、12 dB/oct
コンプレッサー	OUTPUT1、2に装備 スレシヨルドレベル : -60 dBFS～0 dBFS (1.0 dB step) レシオ : 1～∞ (31階調) アタックタイム : 0 ms～2 000 ms (31階調) リリースタイム : 0 ms～2 000 ms (31階調) ゲイン : 0 dB～+12 dB (0.5 dB step)
ディレイ	0 ms～300 ms (Fs : 48 kHz、20.8 μs step (押し回し時1.0 ms step))
ハウリングサブレッサー (プリノッチ)	SENS (感度設定) : LOW、MID、HIGH RESP (検出速度設定) : SLOW、FAST
※イコライザーを3Band PEQに設定した時のみ有効	出力チャンネルごとに最大5バンドのノッチフィルター設定 ノッチフィルターの特性 : 周波数帯 : 40 Hz～18 kHz (1/48oct step) 減衰量 : 0 dB～-15 dB (3 dB step) Q : 30/60

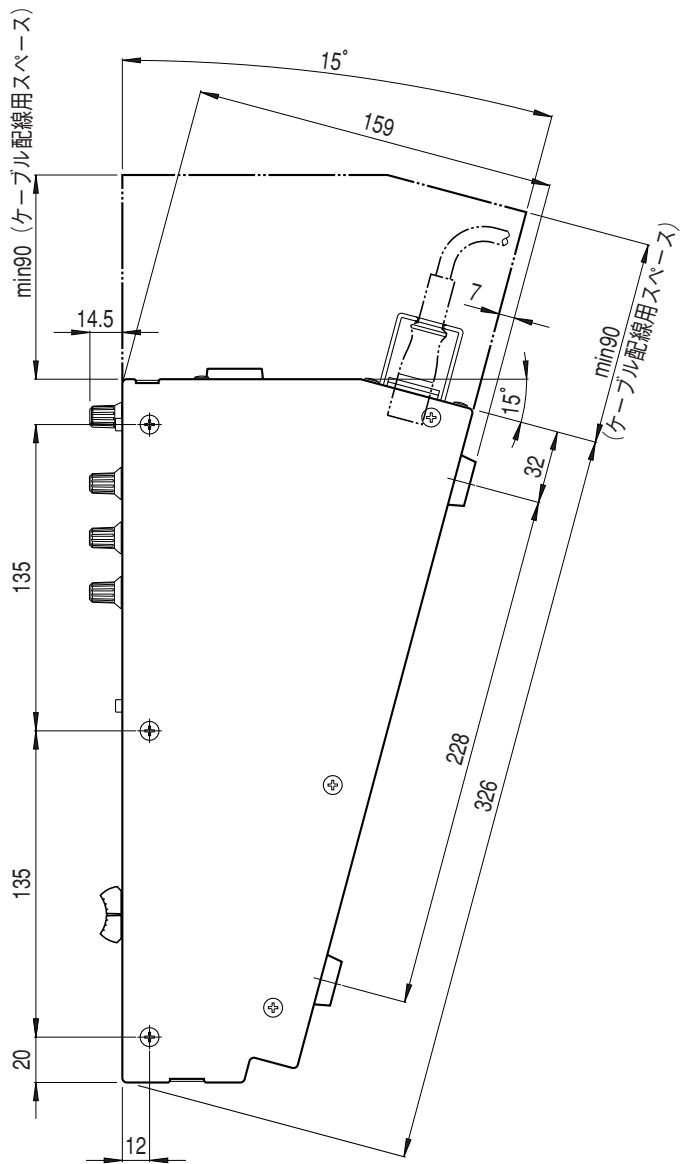
その他の仕様

リバーブ	リバーブタイプ : ECHO1、ECHO2、HALL、ROOM、PLATE
メーター	12ポイント×2 LEDバーグラフメーター、12ポイント×全チャンネル 液晶表示 精度 : ±0.06 dB (下2個は±0.8 dB) ピークホールド機能 : ON/OFF ピーク点灯レベル : 0～-6 dBFS (8階調) メーターレスポンス : PEAKレスポンス -38 dBFS未満 : 消灯、-38 dBFS以上-20 dBFS未満 : 緑点灯 -20 dBFS以上ピーク点灯レベル未満 : 橙点灯、ピーク点灯レベル以上 : 赤点灯、 (液晶表示のメーターはモノクロ表示)
SIGNAL/PEAK	-38 dBFS未満 : 消灯、-38 dBFS以上-20 dBFS未満 : 緑点灯 -20 dBFS以上-3 dBFS未満 : 橙点灯、-3 dBFS以上 : 赤点灯
液晶	3.8インチ320×240ドットグラフィックLCD (LEDバックライト) 表示領域 : 縦76.8 mm×横57.6 mm
LEDディマー	8段階
フェーダー	100 mmフェーダー×17本 (ノンモータータイプ) +10 dB～-90 dB、-∞ (256階調/100 mm)
フェーダーギャング機能	ギャングマスター×2 (GRP1～2フェーダーと切り換え) 任意の入力フェーダーを複数選択し、ギャングマスターに連動可能
ミュートグループ機能	2グループ
メモリー	パターンメモリー : 8個 (操作パネルからは4個) EQライブラリー : 8個 ダイナミクスライブラリー : 8個 バッテリーレシジウムメモリー (電池交換不要)

外觀図



その他



その他

保証とアフターサービス よくお読みください

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…

まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

■保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

■補修用性能部品の保有期間

当社は、このオーディオミキサーの補修用性能部品を、製造打ち切り後7年保有しています。

注) 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

140、141ページの表に従ってご確認のあと、なお異常のあるときは、電源スイッチを切ってから、電源プラグを抜き、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は

保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。

●保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。

下記修理料金の仕組みをご参照のうえ、ご相談ください。

●修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、お客様のご依頼により製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご連絡いただきたい内容

製品名	オーディオミキサー
品番	WR-D01
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に


その他

便利メモ おぼえのため 記入されると 便利です	お買い上げ日	年	月	日	品番	WR-D01
	販売店名	電話 ()	—			

■使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■その他ご不明な点は下記へご相談ください。

システムお客様ご相談センター

電話 フリーダイヤル  **0120-878-410** パナハ ヨイワ 受付：9時～17時30分（土・日・祝祭日は受付のみ）
※携帯電話・PHSからでもご利用になれます。

ホームページからのお問い合わせは https://biz.panasonic.com/jp-ja/support_cs-contact

ご使用の回線（IP電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック コネクト株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくための発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニック コネクト株式会社

〒812-8531 福岡県福岡市博多区美野島四丁目1番62号